

病
院
年
報

第五十二号(二〇一六年)

川
崎
市
立
川
崎
病
院



病院年報

第 52 号

平成 28 年度版

川 崎 市 立 川 崎 病 院

川崎市立川崎病院

基本理念

私たちは、地域の基幹病院として、他の医療機関と連携し、「病気」でなく「病人」を診る心を大切に、安全安心で質の高い医療を、患者の皆さまとともに考え、実践し、健康と福祉の向上を通じて地域社会の発展に貢献することを目指します。

病院運営方針

基本理念を踏まえ、自治体病院の使命と役割を果たし、市民に信頼される安全安心で質の高い医療を継続的かつ効率的に提供していくために、次の方針を定めます。

- 1 患者さんの声を尊重し、高い倫理観をもって医療にあたります。
- 2 地域の基幹病院として、地域の医療ニーズに迅速かつ柔軟に対応できる、良質な急性期医療および専門性の高い医療を提供します。
- 3 救急医療、がん診療、周産期医療、災害時医療の充実を図ります。
- 4 地域の医療機関との連携を大切にします。
- 5 教育、研修を推進し、職員の知識、技術の向上と人材育成に努めます。
- 6 安全管理の向上に努めます。
- 7 健全な経営基盤の確立に努めます。
- 8 職員の経営意識の高揚を図るとともに、働きがいのある職場づくりに努めます。

患者さんの権利

当院は、患者さんの医療にかかわる、次の権利を尊重します。

- 1 生命の尊厳と、人格を尊重した医療を受ける権利があります。
- 2 安全安心で質の高い医療を平等に受ける権利があります。
- 3 ご自身の病気や治療について知る権利を持ち、わかりやすく説明を受け、希望や意見を述べる権利があります。なお、病名や予後について知りたくない場合は、そのお気持ちを尊重します。
- 4 ご自身が受ける医療を自らの意思で選択あるいは拒否する権利があります。
- 5 ご希望により、診療のいかなる段階においても、他の医師および他の医療機関の医師の意見（セカンド・オピニオン）を求める権利があります。
- 6 診療上の個人情報 は 厳重に保護され、その秘密は守られます。

患者さんの責務

当院が安全安心で質の高い医療を提供するためには、患者さんご自身にも医療チームの一員として主体的に参加していただく必要があります。そこで、次のことについてご協力ください。

- 1 ご自身の健康に関する情報を、医療提供者にできるだけ詳しくお話してください。
- 2 診療に関し希望されること、またはされないことを、医療提供者にお話してください。
- 3 診療に関する説明がよく理解できない場合は、医療提供者に遠慮なくお聞きください。
- 4 ご自身および他の患者さんが適切な診療を受けるための妨げにならないよう、病院内の規則や社会的なルール、病院職員の指示をお守りください。お守りいただけない場合は、退去していただくことがあります。
- 5 診療に伴う医療費を適正にお支払いください。

患者さんへのお願い

当院は質の高い医療を提供するとともに、明日の医療を担う人材を育成しています。そこで、次のことについてご理解とご協力をお願いいたします。

- 1 医療の質の向上を目的として調査・臨床研究を行い、得られた結果は個人情報特定されないかたちで公表しています。
- 2 教育研修病院として、研修医、看護師をはじめとする医療従事者の研修、あるいは学生の臨床実習を行っています。

刊 行 の こ と ば

平成 28 年度版の川崎市立川崎病院年報を刊行するにあたり、ひと言御挨拶を申し上げます。

平成 28 年 4 月、病院長を拝命致しました。当院の地域医療支援病院の承認とほぼ同時であり、地域医療連携の強化を中心に、誰もが安心して暮らせる医療体制づくりを目指して、この年間職員とともに診療に励んでまいりました。医療費抑制の政策のもと、病院経営の面からは十分な成果をあげることが出来なかった部分もありますが、この年報には、職員 1 人ひとりが毎日積み重ねた努力の結果が数字になって表されています。職員の皆様は当院の置かれている現状を認識する材料として、この年報に目を通していただき、新年度に向けた病院の新たな発展と自己啓発の材料としていただきたいと思います。

また、平成 29 年 3 月には神奈川県がん診療連携指定病院の指定を受けることが出来ました。平成 28 年はこれを目標として、緩和ケア医療の充実、がん相談支援センター、患者会の設立、セカンドオピニオン、がんセンターボードの整備など、多くの課題に取り組んだ 1 年でした。担当していただいた職員の皆様の熱意と団結力に改めて敬意を表します。

平成 28 年の一番の出来事として、私はリオのオリンピック・パラリンピックを挙げたいと思います。日本は史上最多の 41 個のメダルを獲得したのですが、団体競技でのメダルがやや少ないような印象もありました。しかし、個人競技でもアスリートのコメントには常に周囲の人達への感謝の気持ちが表されており、個人・団体を問わず、日本を背負った一人ひとりの奮闘やメダル獲得が、常に「チーム日本」の団結力や一体感を感じさせる大会になりました。特に、400mリレーでのバトンリレーの見事さは、日本人的な緻密な技術の集大成であり、感動を禁じ得ませんでした。「チーム川崎病院」と重ねるのは我田引水かも知れませんね。

「川崎市立病院中期経営計画 2016-2020」には「信頼される市立病院の運営」を目指して、誰もが安心して暮らせる医療体制づくり、地域医療連携の強化、災害に強い病院づくりといった施策が示されています。5 年に渡る中期的な計画ではありますが、当院ではこれらの取組を着実に推進して、次の年報には数字の上でもより良い結果を示すことが出来るようにチームワークをもって努力してまいります。

改めて、過去の年報を読み直してみると、川崎病院の歴史と多くの諸先輩が川崎病院の発展のために残された数多くの足跡が目に見え込んでまいります。このような資料の保存が紙媒体からデータベース化されるのも時間の問題と思われませんが、一方では冊子での保存を出来るだけ長く続けたいという気持ちにもさせてくれる瞬間でした。

最後に、この年報の作成に御協力いただいた皆様と、編集に当たって尽力された委員の方々に心から敬意と感謝の念を表します。



平成 29 年 8 月

病院長 成松 芳明

目 次

基本理念・病院運営方針	1	16 放射線診断科・放射線治療科業務状況	101
患者さんの権利	2	17 リハビリテーション科業務状況	110
患者さんの責務・患者さんへのお願い	3	18 検査科業務状況	113
刊行のことば	5	19 給食業務状況	119
位置及び案内	8	20 栄養指導・NST業務状況	121
川崎市立川崎病院全景	9	IV 経理概要	123
I 沿革	10	1 年度別経営収支状況	123
1 沿革	10	2 収入・支出状況	124
2 人事の変遷	17	3 年度別一般会計繰入金及び出資金	126
II 概要	21	4 比較貸借対照表	126
1 施設	21	5 主な経営分析	128
2 病床数	21	V 研究・研修及び実習・講師派遣	130
3 機 構	22	1 診療関係研究	130
4 職員の状況	23	2 院内研究交流会	132
5 主要医療器械・備品	27	3 看護研究発表会	135
6 主な委託業務	44	4 研 修	138
7 図書室	45	5 院外看護活動	143
8 看護部の概況	50	6 各科別実習状況報告	144
9 地域医療部	54	7 講師派遣	146
10 医療安全管理室	61	VI 臨床研修概要	151
11 DMA T活動	63	1 経 緯	151
12 定例院内会議	64	2 初期臨床研修医プログラム	156
III 診療業務概要	66	VII 業績目録	161
1 平成28年度外来患者状況	66	科別業績統計	162
2 平成28年度入院患者状況	67	1 当院における学位取得者	164
3 病棟の利用状況	68	2 賞	164
4 科別収益状況	70	3 研究助成及び共同研究	164
5 地区別新患外来・入院患者数	71	4 書籍の章	165
6 救急患者取扱状況	72	5 論 文	166
7 救命救急センターの業務状況	73	6 学会・研究会	172
8 専門外来及び診療相談	74	7 講演会等	186
9 手術件数	75	8 その他	196
10 分娩件数	87	9 市民対象イベント（当院主催）	197
11 麻酔科及びMEセンター状況	88		
12 内視鏡センター利用状況	91		
13 クリニカルパス使用件数	92		
14 外来治療センター利用状況	92		
15 薬剤部業務状況	93		

位置及び案内

川崎市は、多摩丘陵の南端多摩川の河口に開けた平坦部にあります。東京と横浜の間に接している細長い形の都市で、東京駅へ18分、横浜駅へ7分の距離にあります。

川崎市は、平成29年4月現在で人口が150万人を超え、全国的に人口減少が続く中、自然増が全国でトップであり、特に若い世代に選ばれる都市として、「成長」と「成熟」の調和による持続可能な「最幸のまち」を目指して更なる発展を続けております。

川崎市立川崎病院は、少子・高齢化社会が進む中、高度化、情報化をキーワードに、救急医療（精神科救急を含む。）、総合診療体制、新生物疾患医療、循環器疾患医療、中枢神経疾患医療、感染症対策、健康相談・健康教育、在宅医療等の充実のため、21世紀の新しい医療を提供してまいります。



案内図



【交通機関】

J R川崎駅東口下車

バス

直通ワンコインバス（市バス・臨港バス）

③番のりば 川崎病院行き

市バス

⑪番のりば 市営埠頭行き

⑮番のりば 扇町行き

⑭番のりば 水江町行き

⑯番のりば 浮島バスターミナル行き

教育文化会館前下車
(徒歩5分)

臨港バス

⑤番のりば 鋼管循環

⑦番のりば 大師行き

⑧番のりば 三井埠頭行き

①番のりば 水江町・日立造船行き

②番のりば 塩浜営業所行き

さつき橋
下車
(徒歩3分)



川崎市立川崎病院全景

I 沿革

1 沿革

大正13年 7月 1日	川崎町、大師町及び御幸村の2町1村が合併（市制施行）
昭和 2年 4月30日	明治37年12月28日に設立された伝染病組合病院を川崎市立病院と改称
昭和11年12月16日	伝染病院として、川崎市立病院大規模改築整備の上、開院（院長以下21名、病床数96床）
昭和12年 3月15日	川崎市立新川病院と改称
昭和20年 6月 1日	総合病院に切替え（内科、外科、眼科、産婦人科、歯科及び耳鼻咽喉科の設置）、川崎市立川崎病院と改称
昭和22年 4月 1日	理学診療科の設置
昭和24年 1月 1日	皮膚泌尿器科の設置
昭和26年 7月 1日	小児科の設置
昭和26年11月 1日	婦人科病棟の完成（昭和42年11月北病棟完成に伴い撤去）
昭和27年 3月 1日	伝染病棟改築落成（昭和48年 5月東病棟建設に伴い撤去）
昭和28年 3月 1日	本館起工（第一期、第二期及び第三期工事に分けて施工）
昭和31年 5月 1日	整形外科の設置
昭和32年 8月 1日	総合病院の名称使用許可（昭和23年、法律第205号）
昭和32年12月 1日	厨房及び寄宿舍（第4号館）落成
昭和33年 4月 1日	神経科の設置
昭和33年10月 1日	基準看護（1類）の取得
昭和34年 6月 1日	本館の完成
昭和37年 5月 1日	厚生年金病棟（3号館）の完成
昭和39年 3月 1日	看護婦宿舎が完成
昭和39年 4月 1日	皮膚泌尿器科を皮膚科及び泌尿器科に分離 地方公営企業法の一部適用 川崎市立高等看護学院の実習病院
昭和40年 8月15日	救急病院に指定
昭和42年 4月 1日	研修医制度（3年制）の発足
昭和42年11月27日	北病棟（地下1階地上6階建及び旧2号館）が完成
昭和42年12月 2日	日本小児科学会認定の小児科専門医教育病院
昭和43年 2月 8日	日本内科学会認定の内科専門医教育病院
昭和43年 7月16日	厚生省指定の臨床研修病院
昭和44年 3月31日	放射線治療室の完成
昭和44年 5月15日	児童福祉施設第1種助産施設として認可
昭和45年 1月 1日	消化器科及び脳神経外科の設置
昭和45年 6月10日	日本脳神経外科学会認定の脳神経外科専門医教育病院
昭和45年11月19日	職員厚生会館の完成
昭和46年 4月 1日	麻酔科の設置、産婦人科を産科及び婦人科に分離
昭和46年11月 1日	特殊医療部及び教育指導部の設置

昭和47年 2月 1日	基準看護（特類）の実施
昭和48年 4月 1日	経理課の設置
昭和49年 4月 1日	食養科の設置
昭和49年10月 1日	基準看護（特2類）の実施
昭和50年10月14日	東病棟（旧1号館）の完成
昭和51年 4月 1日	精神科の設置 永年カルテ制度（1患者1病歴制度）の採用
昭和51年 5月 1日	血液センターの設置
昭和51年 6月 1日	中央採血室の設置 施設の名称を本館（旧本館）、1号館（旧東病棟）、2号館（旧北病棟）、 3号館（旧厚生年金病棟）及び4号館（旧教育指導棟）に変更
昭和52年 4月 1日	臨床研修医制度（2年制）の発足 医事課に入院用コンピュータの導入
昭和52年 5月 1日	1号館5階感染症病棟の開設
昭和52年10月 5日	I C U開設準備室の開設
昭和52年10月31日	腎センターの開設
昭和53年 4月 1日	病院事業部の設置に伴い経理課を廃止 看護師を初めて採用 病院群輪番制運営事業参加
昭和53年 6月28日	1号館3階総合病棟の開設
昭和53年 9月11日	I C U準備室をI C U病棟として開設
昭和53年11月 1日	医事課に外来用コンピュータの導入
昭和54年 3月31日	日本病理学会の認定病院
昭和54年 5月 2日	本館内科病棟の名称を内科西病棟及び内科東病棟に変更 3号館内科病棟を休床して本館内科東病棟に移転
昭和54年 5月15日	1号館4階総合病棟の開設
昭和54年10月 2日	日本外科学会の認定医修練施設
昭和55年 1月 1日	日本麻酔学会の認定指導病院
昭和55年 4月 1日	看護科病棟部門の週44時間体制
昭和56年 6月 1日	病床数を733床（一般683、伝染50）に変更
昭和58年 4月11日	日本整形外科学会の認定医制度研修施設
昭和58年10月 1日	日本眼科学会の専門医研修施設
昭和59年 4月 1日	食養科調理部門の週48時間体制
昭和60年 1月 1日	日本消化器外科学会の専門医修練施設
昭和60年 1月 1日	副院長2人制の導入
昭和60年 1月19日	日本耳鼻咽喉科学会の専門医研修施設
昭和61年 4月 1日	日本泌尿器科学会の専門医教育施設
昭和62年 4月 1日	日本皮膚科学会の認定医研修施設
昭和63年 3月29日	外国医師又は外国歯科医師の臨床修練指定病院
昭和63年 4月 1日	日本産婦人科学会の認定医制度卒後研修指導施設

昭和63年 6月 1日	基準看護（特3類）を小児科病棟で取得
昭和63年 9月 1日	基準看護（特3類）を産科及び分娩病棟で取得
平成元年 4月 1日	看護部制の実施 臨床クラーク業務の委託
平成 2年12月 1日	基準看護（特3類）を取得 本館総合病棟、1号館4階小児病棟、1号館4階未熟室、1号館4階総合病棟、2号館4階外科病棟、2号館5階病棟及び3号館婦人科病棟で取得
平成 3年 4月 1日	在宅ねたきり患者処置指導管理の取得 看護の日・看護週間の制定
平成 3年 5月 1日	在宅酸素療法指導管理の取得
平成 4年10月 1日	電動ギャッチベッド100台導入。その後順次導入
平成 5年 3月21日	完全週休2日制に伴い第2土曜日及び第4土曜日外来診療全科の休診
平成 5年 4月 1日	理学診療科を放射線科に変更
平成 6年 3月27日	完全週休2日制に伴い全土曜日外来診療全科の休診
平成 6年 4月 1日	心臓血管外科の設置
平成 6年10月 1日	新看護2対1（A）看護の取得（全病棟） 医事業務の全面委託
平成 6年11月 1日	夜間勤務看護（加算）の取得
平成 7年 3月 1日	新設された看護短大へ看護専門学校を移転
平成 7年 4月 1日	在宅医療部の設置 管理当直業務の委託
平成 7年 6月 1日	適時適温給食の開始
平成 7年 7月 1日	看護専門学校及び看護宿舍の解体開始
平成 7年 7月19日	新病院建設着工
平成 7年10月11日	自走式二階建駐車場の設置（収容62台）
平成 7年12月14日	新病院建設起工式
平成 8年 4月 1日	事務室から事務局に改変 助産師職認定
平成 9年 1月10日	新病院立柱式
平成 9年 3月 1日	リハビリテーション科の設置
平成 9年 3月31日	看護専門学校の閉校
平成 9年 4月 1日	リウマチ科及び歯科口腔外科の設置 副院長3人制に変更 移転準備担当の設置 衛生局から健康福祉局へ機構改革
平成 9年12月18日	新病院の上棟式
平成10年 3月20日	神奈川県知事から災害医療拠点病院の指定
平成10年 4月 1日	呼吸器科、呼吸器外科、総合診療科及び感染症科の設置 在宅医療部から地域医療部へ名称変更 特殊医療部が発展的解消

平成10年 4月 1日	食養科（特食以外）業務の委託 中央器材室滅菌消毒業務の委託 補修室縫製等業務の委託 中央監視室（受電・空調・ボイラー）業務の委託
平成10年 7月15日	日本プライマリ・ケア学会の認定医研修施設
平成10年10月21日	新病院病棟・中央診療棟完成
平成10年11月 1日	物流管理（SPD）・滅菌消毒・ME（医療器機中央管理）業務の委託 管理系施設管理業務の委託 ハウスキーパー業務の委託 検体系検査（医化学・血清・一般・血液）業務の委託
平成10年11月10日	病棟・中央診療棟竣工式
平成10年11月24日	病棟・中央診療棟開設 新棟にて病棟及び一部外来の運用開始 病床種別（一般683床、伝染30床、精神20床）を変更 医療情報システム（HUMAN）稼動 9階北病棟に精神科病棟（20床、新看護3対1（A）・6対1看護補助）の開設
平成10年12月25日	インターネット上に川崎病院ホームページ開設 (http://www.city.kawasaki.jp/35/35kawsyo/home/index.html)
平成11年 1月 1日	N I C U（新生児特定集中治療室）開設（平成13年 1月辞退）
平成11年 2月 1日	川崎南部訪問看護ステーション（川崎市看護協会）を院内に設置
平成11年 4月 1日	副院長 2人制に変更 標榜科目から神経科を削除 電話交換業務の委託
平成11年 5月 1日	リハビリテーション科で作業療法を開始
平成11年 6月 1日	9階精神科病棟20床から38床へ病床数の変更
平成11年 7月 1日	リハビリテーション科で言語療法を開始
平成11年10月26日	薬剤科で無菌製剤処理の実施
平成11年12月 1日	日本消化器内視鏡学会の認定指導施設
平成11年12月21日	遠隔医療協力モデル事業（川崎市及び慶應義塾大学医学部）の記者発表
平成12年 3月30日	川崎市立川崎病院外来病棟の竣工式
平成12年 3月31日	井田病院が研修指定病院となったため、川崎病院が従病院となる
平成12年 4月 1日	病院移転担当（庶務課主幹）の廃止 看護助手業務の委託 9階精神科病棟、精神保健及び精神障害福祉に関する法律第19条の8の規定に基づく指定病院（4床設置）
平成12年 4月24日	外来診療部門の全面オープン
平成12年 5月 1日	8階小児科病棟（小児科46床、未熟児室14床）の病床数変更
平成12年 5月 7日	14階南（内科）病棟のオープン
平成12年 6月 1日	神奈川県精神救急医療事業の基幹病院

平成13年 1月21日 脳死判定による臓器摘出手術の実施

平成13年 3月30日 外構工事完了

平成13年 3月30日 川崎市立川崎病院の基本理念建立除幕式

平成13年 4月 1日 新病院完成

平成13年 4月 1日 有料駐車場（駐車台数202台）のオープン

平成13年 4月 2日 川崎駅ー川崎病院間の直通ワンコインバスの運行開始

平成14年 3月 1日 産婦人科で体外受精による治療の開始

平成14年 4月 1日 川崎病院組織改革
内視鏡室、血液透析室、救急部及び小児急病センターを新設
地域医療部及び医療相談室が医事課へ移管
地域医療部及び訪問看護部門が看護部へ移管

平成14年 4月 9日 精神科救急24時間体制の開始

平成14年 4月15日 川崎病院内に小児急病センターの開設

平成14年12月 1日 院内駐車場保守業務の委託

平成15年 4月 1日 川崎病院の機構改革
院外処方開始
食養科調理業務の全面委託
看護助手業務の全面委託
ナースキャップの廃止

平成15年 4月 6日 薬剤師、臨床検査技師及び放射線技師の勤務が変則勤務体制に変更

平成15年 7月 1日 「患者さんの権利」及び「患者さんへのお願い」を制定

平成15年 8月 1日 受動喫煙を防止する法律（健康増進法）の施行に伴い、院内禁煙

平成15年10月20日 川崎病院通信「くすの木」創刊号発行

平成15年12月 2日 重症急性呼吸器症候群（SARS）搬送訓練

平成16年 2月17日 医療安全管理室の設置

平成16年 4月 1日 副院長3人制に変更

平成16年 9月 1日 1階外来飲食コーナーの設置

平成16年10月17日 病院機能評価受審
～19日

平成17年 3月23日 外来治療センターの開設

平成17年 4月 1日 病院局の設置
地方公営企業法の全部適用

平成17年 7月 1日 救急センターの開設

平成17年10月 3日 当院で日本初の西ナイル熱患者発生を届出

平成17年11月26日 川崎消防署と合同で災害時医療訓練を実施

平成18年 1月23日 (財)日本医療機能評価機構による病院機能評価の認定

平成18年 4月 1日 川崎病院組織改革
救命救急センターの開設

平成18年 4月 1日 放射線科から放射線診断科及び放射線治療科へ組織変更
薬剤科から薬剤部へ組織変更

	集中治療部新設
	診療部長制度新設
平成18年10月28日	神奈川県災害医療拠点病院合同災害医療対策訓練及び消防局航空隊ヘリコプターによる救急患者搬送等訓練
平成19年 2月 5日	ヘリポートに夜間照明を設置
平成19年 4月 1日	副院長4人制に変更
	消化器外科新設
	脳血管外科新設
	血管外科新設
	救急科新設
	アドボカシー相談員配置
平成19年11月 1日	CRC事務室設置
平成20年 4月 1日	院内感染対策担当新設
	肝臓内科新設
	冠疾患集中治療室新設
	婦人内視鏡科新設
平成20年 6月 2日	市内救急医療派遣事業（Kawasaki ONE PIECE）開始
平成20年10月 1日	日本口腔外科学会認定関連研修施設
平成21年 1月 1日	新総合医療情報システム（HOPE/EGMAIN-GX）稼働
平成21年 4月 1日	新生児集中治療管理室（NICU）再開
平成21年 4月 1日	新生児科新設
平成21年 7月 1日	DPC導入
平成21年 7月 7日	川崎DMAT（災害医療派遣チーム）設置病院として指定
平成21年11月12日	第48回全国自治体病院学会を川崎市（サンピアンかわさき）で開催
～19日	学会長 市立川崎病院長 長 秀男
平成22年 4月 1日	神奈川県周産期救急医療システム中核病院として指定
平成22年 4月 1日	神奈川県地域周産期母子医療センターとして認定
平成22年 4月 1日	臨床研究支援室の設置
平成22年12月 1日	卒後臨床研修評価機構による認定を受ける
平成23年 3月23日	神奈川DMAT指定病院として指定
平成24年 4月 1日	事務局担当部長配置
平成24年 4月 1日	医療相談室が地域医療部へ移管
平成24年 5月 1日	糖尿病内科新設
	内分泌内科新設
	腎臓内科新設
	小児外科新設
	乳腺外科新設
平成24年 5月 1日	循環器科、新生児科、耳鼻いんこう科及び感染症科から循環器内科、新生児内科、耳鼻咽喉科及び感染症内科へ組織名変更
平成24年 8月 7日	病床数を713床（一般663、精神38、感染12）に変更

平成24年10月20日	川崎市立3病院合同災害医療訓練及び消防局航空隊ヘリコプターによる重症患者等搬送訓練
平成24年11月1日	7:1看護配置の取得
平成24年11月26日	ER初療ベッドを10床に増設
平成24年12月1日	卒後臨床研修評価機構による認定を受ける (H24.12.1~H30.11.30)
平成25年3月1日	助産外来開設
平成25年4月1日	リウマチ科からリウマチ膠原病・痛風センターへ組織名変更 腫瘍内科新設 ペインクリニック内科新設 アレルギー科新設
平成26年4月1日	血液内科新設
平成27年4月1日	庶務課に企画調整担当を設置 内視鏡室から内視鏡センターへ組織名変更 医師及び歯科医師の給与制度改正
平成27年9月11日	神奈川DMAT (川崎病院隊) 茨城県常総市へ派遣
平成27年12月15日 ~16日	病院機能評価受診
平成28年1月1日	「病院の基本理念」「病院運営基本方針」「患者さんの権利」「臨床における倫理指針」を「川崎市立川崎病院基本理念」「病院運営方針」「患者さんの権利」「患者さんの責務」「患者さんへのお願い」に改定
平成28年1月23日	(公)日本医療機能評価機構による病院機能評価の認定
平成28年2月3日	救命救急センター10周年記念講演会開催
平成28年3月30日	地域医療支援病院の名称承認
平成28年4月18日	神奈川DMAT (川崎病院隊) 熊本県阿蘇市へ派遣
平成28年8月	緩和ケア内科外来 開設 がん相談支援センター 開設
平成29年3月23日	神奈川県がん診療連携指定病院の指定

2 人事の変遷（平成29年4月1日現在）

	歴代	氏名	在任期間
病院長	初代	竹山且子	昭和10年 9月 5日 ～ 昭和17年11月 9日
	2代	依田稔	昭和16年 7月18日 ～ 昭和18年 4月 2日
	3代	博田三雄治	昭和18年 4月 2日 ～ 昭和27年 7月24日
	4代	宮尾啓	昭和27年 7月25日 ～ 昭和39年 9月 1日
	5代	勝正孝	昭和39年 9月 1日 ～ 昭和50年 8月31日
	6代	山本浩	昭和50年 9月 1日 ～ 昭和53年 2月 1日
	7代	藤森一平	昭和53年 2月 1日 ～ 昭和61年11月30日
	8代	林茂	昭和61年12月 1日 ～ 平成 6年 3月31日
	9代	入交昭一郎	平成 6年 4月 1日 ～ 平成11年 3月31日
	10代	岩田嘉行	平成11年 4月 1日 ～ 平成12年 3月31日
	11代	武内可尚	平成12年 4月 1日 ～ 平成15年 3月31日
	12代	秋月哲史	平成15年 4月 1日 ～ 平成20年 3月31日
	13代	長秀男	平成20年 4月 1日 ～ 平成22年 3月31日
	14代	堀内行雄	平成22年 4月 1日 ～ 平成25年 3月31日
	15代	増田純一	平成25年 4月 1日 ～ 平成28年 3月31日
	16代	成松芳明	平成28年 4月 1日 ～ 現在に至る。
理事 担当理事		堀内行雄	平成21年 4月 1日 ～ 平成22年 3月31日
		増田純一	平成24年 4月 1日 ～ 平成25年 3月31日
		林保良	平成24年 4月 1日 ～ 平成29年 3月31日
		堀内行雄	平成25年 4月 1日 ～ 平成26年 3月31日
		番場正博	平成27年 4月 1日 ～ 現在に至る。
副院長	初代	宮尾啓	昭和26年 1月23日 ～ 昭和27年 7月24日
	2代	高村長治	昭和34年 8月 1日 ～ 昭和36年 9月 1日
	3代	勝正孝	昭和36年12月 1日 ～ 昭和39年 8月31日
	4代	石田堅一	昭和39年 9月 1日 ～ 昭和45年 3月31日
	5代	山本浩	昭和45年 4月 1日 ～ 昭和50年 8月31日
	6代	藤森一平	昭和50年 9月 1日 ～ 昭和53年 1月31日
	7代	菅野卓郎	昭和53年 2月 1日 ～ 昭和56年 3月31日
	8代	斉藤敏明	昭和56年 4月 1日 ～ 昭和62年 3月31日
	9代	鹿野達男	昭和60年 1月 1日 ～ 平成 6年 3月31日
	10代	入交昭一郎	昭和61年12月 1日 ～ 平成 6年 3月31日
	11代	山本泰秀	平成 6年 4月 1日 ～ 平成11年 3月31日
	12代	岩田嘉行	平成 6年 4月 1日 ～ 平成11年 3月31日
	13代	松岡康夫	平成 9年 4月 1日 ～ 平成15年 3月31日
	14代	武内可尚	平成11年 4月 1日 ～ 平成12年 3月31日
	15代	納賀克彦	平成12年 4月 1日 ～ 平成17年 3月31日

16代	堀内行雄	平成15年 4月 1日	～	平成21年 3月31日
17代	篠原弘子	平成16年 4月 1日	～	平成20年 3月31日
18代	関賢一	平成17年 4月 1日	～	平成21年 3月31日
19代	長秀男	平成19年 4月 1日	～	平成20年 3月31日
20代	成松芳明	平成20年 4月 1日	～	平成28年 3月31日
21代	齊田和子	平成20年 4月 1日	～	平成25年 3月31日
22代	久場川哲二	平成21年 4月 1日	～	平成22年 3月31日
23代	竹中信夫	平成21年 4月 1日	～	現在に至る。
24代	増田純一(兼)	平成22年 4月 1日	～	平成25年 3月31日
25代	番場正博	平成25年 4月 1日	～	平成27年 3月31日
26代	綱嶋たかえ	平成25年 4月 1日	～	現在に至る。
27代	宮川俊一	平成27年 4月 1日	～	現在に至る。
28代	大曾根康夫	平成28年 4月 1日	～	現在に至る。

事務長

初代	海野才知	昭和20年 6月 1日	～	昭和21年 8月23日
2代	白倉謙一	昭和21年 8月24日	～	昭和27年 7月24日
3代	宇田川政之	昭和27年 7月25日	～	昭和29年 8月27日
4代	石井一郎	昭和29年 8月28日	～	昭和30年 7月31日
5代	石井英夫	昭和30年 8月 1日	～	昭和37年 4月30日
6代	竹山忠雄	昭和37年 5月 1日	～	昭和40年 3月31日
7代	森己之松	昭和40年 4月 1日	～	昭和42年10月31日
8代	塚原重年	昭和42年11月 1日	～	昭和44年 3月31日
9代	小熊栄次	昭和44年 4月 1日	～	昭和47年10月 4日
10代	遠藤文郎	昭和47年10月 5日	～	昭和47年12月13日
11代	田代穆彦	昭和47年12月23日	～	昭和54年 4月30日
12代	重岡賢治	昭和54年 5月 1日	～	昭和57年 1月31日
13代	上野松治	昭和57年 2月 1日	～	昭和62年 3月31日
14代	岡庭英昭	昭和62年 5月 1日	～	平成元年 3月31日
15代	白鳥房夫	平成元年 4月 1日	～	平成 3年 3月31日
16代	藤井健司	平成 3年 4月 1日	～	平成 5年 3月31日
17代	鈴木嗣明	平成 5年 4月 1日	～	平成 6年 3月31日

事務局長

18代	斎藤至旦(経営担当理事)	平成6年4月1日	～	平成 8年 3月31日
19代	蟹江徹也(経営担当理事)	平成8年4月1日	～	平成10年 3月31日
20代	菊池敏彦(経営担当理事)	平成10年4月1日	～	平成11年 3月31日
21代	山本栄一(経営担当理事)	平成11年4月1日	～	平成13年 3月31日
22代	石井洋二郎(経営担当理事)	平成13年4月1日	～	平成14年 3月31日
23代	佐藤猛(経営担当理事)	平成14年4月1日	～	平成15年 3月31日
24代	添田真郷	平成15年 4月 1日	～	平成17年 3月31日
25代	鈴木康夫	平成17年 4月 1日	～	平成20年 3月31日
26代	佐々木元行	平成20年 4月 1日	～	平成21年 3月31日

	27代	高井敏雄	平成21年 4月 1日	～	平成26年 3月31日
	28代	柄崎智	平成26年 4月 1日	～	平成28年 3月31日
	29代	田邊雅史	平成28年 4月 1日	～	平成29年 3月31日
	30代	林徳厚	平成29年 4月 1日	～	現在に至る。
総 婦 長	初代	植田まき子	昭和20年 6月 1日	～	昭和39年 9月30日
	2代	船場宮子	昭和39年10月 1日	～	昭和53年 6月30日
	3代	久保田好實	昭和53年 7月 1日	～	昭和58年 9月30日
	4代	加治木ユリ	昭和58年10月 1日	～	昭和61年 3月31日
	5代	高木昌子	昭和61年 4月 1日	～	昭和62年 4月30日
看護部長	6代	久保田好實	昭和62年 5月 1日	～	平成 2年 3月31日
	7代	庄崎雅子	平成 2年 4月 1日	～	平成 7年 3月31日 ¹
	8代	高木サカエ	平成 7年 4月 1日	～	平成10年 3月31日
	9代	強矢智恵子	平成10年 4月 1日	～	平成13年 3月31日
	10代	釣巻慈子	平成13年 4月 1日	～	平成15年 3月31日
	11代	篠原弘子(兼)	平成15年 4月 1日	～	平成20年 3月31日
	12代	齊田和子(兼)	平成20年 4月 1日	～	平成25年 3月31日
	13代	網嶋たかえ(兼)	平成25年 4月 1日	～	現在に至る。
救命センター長	初代	石井誠一郎	平成17年 7月 1日	～	平成18年 3月31日
救命救急	初代	石井誠一郎	平成18年 4月 1日	～	平成21年 3月31日
センター所長	2代	堀内行雄(兼)	平成21年 4月 1日	～	平成22年 3月31日
	3代	竹中信夫(兼)	平成22年 4月 1日	～	平成27年 3月31日
	4代	田熊清継	平成27年 4月 1日	～	現在に至る。

Ⅱ 概 要

1 施 設

所在地 川崎市川崎区新川通12番1号

〒210-0013 TEL 044(233)5521 FAX 044(245)9600

敷地面積 19,813.32㎡

建物面積 6,325.94㎡

延床面積 49,890.18㎡

2 病 床 数

713床 内訳：一般 663床 感染 12床 精神 38床（平成29年3月31日現在）

へリポート

E L V機械室			
職員・一般レストラン		15	食 養 科 厨 房
内科（51床）	南 病 棟	14	内科（47床）・透析（5床）
内科・神経内科（53床）		13	北 心臓血管外科・循環器科（51床）
脳神経外科・皮膚科・放射線科・ リハビリテーション科・内科（53床）		12	耳鼻いんこう科・眼科・歯科口腔外科・ 泌尿器科・形成外科（51床）
外科（53床）		11	病 外科（53床）
婦人科・整形外科（52床）		10	整形外科・形成外科（53床）
感染症（12床）・救命救急センター（20床）		9	棟 精神科（38床）
小児科（41床）・GCU（18床）・ NICU（6床）		8	棟 分娩室・産科（44床）
講堂・会議室	電気室	7	リネン室・ベッドセンター 手術部空調機械室
	解剖室・霊安室	6	MEセンター
	ICU（8床） CCU（4床）	5	中央器材室 手術室（11室）
総合医局	正面入口 中央待合 ホール 初診受付 再診受付 会計 お薬渡し 総合案内 受付	4	医療安全管理室 看護部・地域連携室・会議室・検体検査・電話交換室 図書室・病理・管理部門
泌尿器科・皮膚科・ 産婦人科		3	診療録管理室・内視鏡室 小児科外来 生理・細菌検査・リハビリテーション・外来治療センター
循環器外来・整形外科・ 眼科・外来手術室・耳鼻咽喉科		2	採尿・採血室・薬剤部・臨床研究支援室 歯科・歯科口腔外科 精神科外来・血液センター CT・X線・放射線科 結石破碎室
内科・総合診療科・外科・脳 神経外科・救命救急センター		1	医事課・薬剤部 医療相談室 SPD・防災センター 入退院受付・売店・ATM 放射線治療・MR・核医学・廃棄物センター
		コジェネ室・ボイラー室	B1

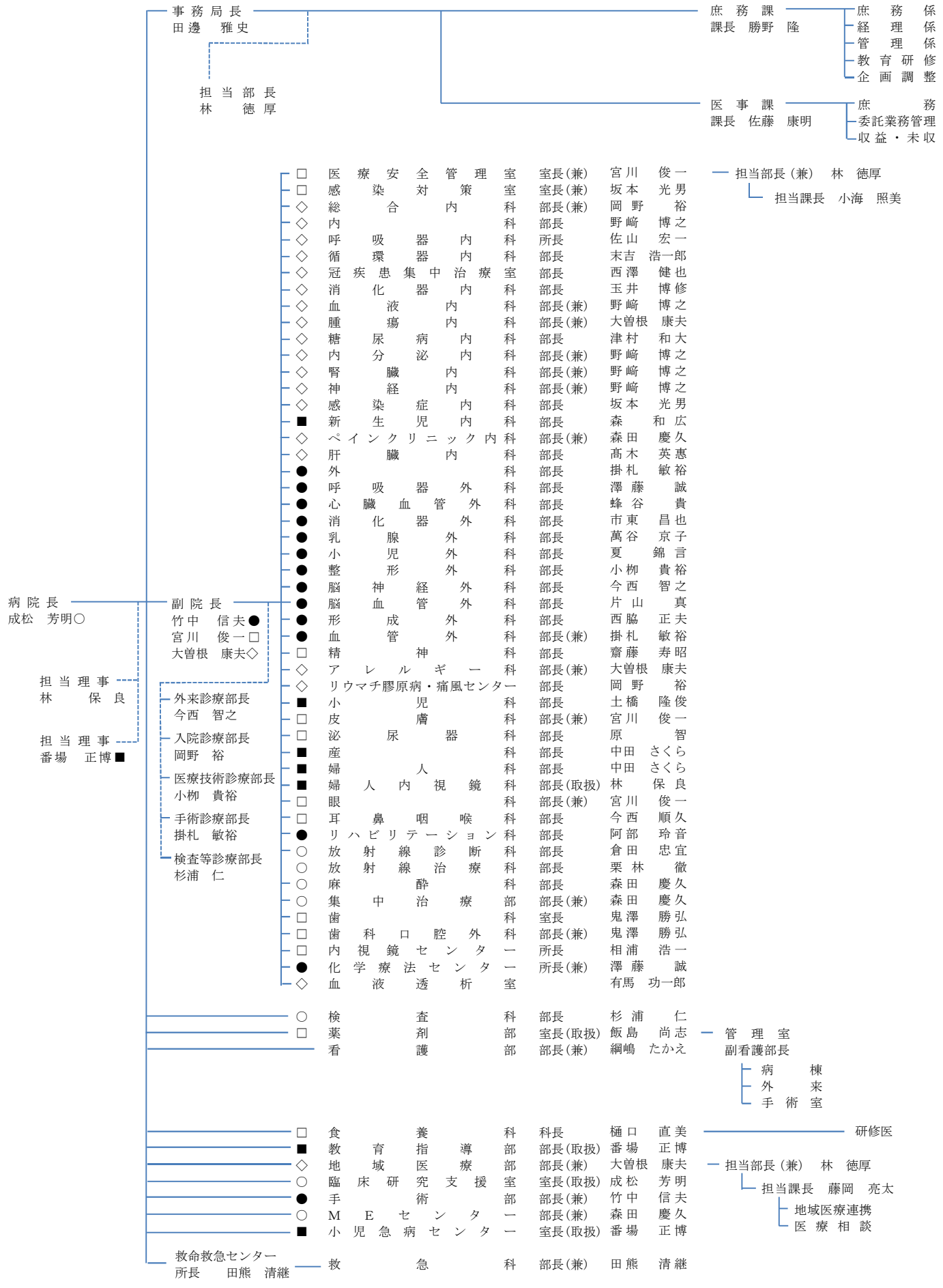
A 棟（外来棟）

B 棟

C 棟

3 機 構 (平成 28 年 6 月 1 日現在)

担当診療科
 ○成松 芳明 ■番場 正博 ●竹中 信夫 □宮川 俊一 ◇大曾根 康夫



4 職員の状況

(1) 職種別現員

職 種	平成28年 3月1日 現員数	平成28年度				平成29年 3月1日 現員数	平成29年 4月1日 現員数
		採 用	異動(入)等	退 職	異動(出)等		
医 師	127	30	1	23	2	131	125
歯 科 医 師	3					2	2
薬 剤 師	22	3	1		1	23	23
助 産 師	25	4		3		25	30
看 護 師	568	47	6	45	8	571	577
(准看護師)	4				1	4	3
歯 科 衛 生 士	2					2	2
栄 養 士	8			2	1	7	6
臨 床 検 査 技 師	21	3		3		22	23
診 療 放 射 線 技 師	29	2	1		1	30	30
理 学 療 法 士	7	1				6	9
作 業 療 法 士	3	1				4	4
言 語 聴 覚 士	3			1		3	3
視 能 訓 練 士	2			1		2	2
臨 床 工 学 技 士	6	1		1		6	8
一 般 事 務 職	28		6		8	28	28
医 療 事 務 職		2		1		1	2
社 会 福 祉 職	3				1	3	3
電 気 職	2				1	2	2
小 計	859	94	15	80	23	868	879
手 術 指 導 等 医 師	2					2	2
専 攻 医	52	36	1	38	1	50	61
臨 床 研 修 医	22	10		9		23	24
地 域 連 携 看 護 師	2	1				3	4
地 域 医 療 連 携 事 務	1					1	1
心 理 、 精 神 保 健	4	1		1		5	5
ア ド ボ カ シ ー 業 務	2	3		1		4	3
保 育 業 務	8			2		5	6
医 療 相 談 業 務	9	1		2		10	10
臨 床 検 査 専 門 員	1			1		1	1
診 療 報 酬 請 求 専 門 員	2			2		2	
主 任 診 療 報 酬 請 求 専 門 員	1			1		1	
臨 時 的 任 用 雇 用 事 務 嘱 託 員	1					1	1
医 療 福 祉 相 談 員	3	2		2		3	3
臨 床 研 究 支 援 業 務	2	2		1		3	3
安 全 衛 生 管 理 嘱 託 員	1					1	1
医 療 情 報 シ ス テ ム 管 理 専 門 員	1	1				2	2
各 種 委 員 会 書 記 業 務	2	1			1	2	1
診 療 情 報 管 理 業 務	3			1		3	1
周 産 期 心 理 相 談 業 務	1			1		1	1
救 急 業 務 嘱 託 員	1					1	1
診 療 報 酬 請 求 シ ス テ ム	1			1			
臨 床 研 究 支 援 室 事 務 補 助	1	1				1	1
退 院 支 援 ・ 相 談 業 務	2						
教 育 指 導 部 関 係 業 務	1					1	1
病 院 情 報 管 理 業 務							1
外 来 患 者 等 総 合 案 内 業 務		1				2	2
小 計	126	60	1	63	2	128	136
合 計	985	154	16	143	25	996	1,015

※ (准看護師)数は、看護師数の再掲の数字を示す。

※ 手術指導等医師以下、全て非常勤嘱託員

(2) 退職者及び院外異動者

*印は院外異動者

医師

* 林 保 良 昭和58年7月1日 ～ 平成29年3月31日
* 掛 札 敏 裕 平成8年5月1日 ～ 平成29年3月31日
* 小 柳 貴 裕 平成22年7月1日 ～ 平成29年3月31日
栗 原 伸 芳 平成27年4月1日 ～ 平成29年3月31日
石 田 治 平成24年9月1日 ～ 平成28年5月31日
船 尾 陽 生 平成26年7月1日 ～ 平成29年3月31日
東 野 俊 洋 平成26年4月1日 ～ 平成29年3月31日
高 木 優 樹 平成28年7月1日 ～ 平成29年3月31日
金 子 剛 平成25年4月1日 ～ 平成29年3月31日
武 田 利 和 平成28年10月1日 ～ 平成29年3月31日
千代田 達幸 平成28年4月1日 ～ 平成29年3月31日
丹羽 規久子 平成24年4月1日 ～ 平成29年3月31日
大 城 健 一 平成20年4月1日 ～ 平成28年9月30日
郷 内 志 朗 平成27年10月1日 ～ 平成29年3月31日
加 畑 宏 樹 平成26年4月1日 ～ 平成28年4月30日
稲 葉 尚 人 平成27年4月1日 ～ 平成28年6月30日
寺 坂 幸 倫 平成27年10月1日 ～ 平成28年9月30日
志 村 和 浩 平成27年4月1日 ～ 平成29年3月31日
鈴 木 亜 鶴 平成26年10月1日 ～ 平成28年12月31日
中 原 奈 々 平成27年4月1日 ～ 平成29年3月31日
權 守 智 平成22年4月1日 ～ 平成29年3月31日
野 口 啓 平成26年4月1日 ～ 平成28年8月31日
荒 木 一 兵 太 平成28年4月1日 ～ 平成29年3月31日
西 田 有 正 平成28年4月1日 ～ 平成29年3月31日
戸 塚 大 輔 平成27年4月1日 ～ 平成29年3月31日
竹 中 浩 二 平成28年9月1日 ～ 平成29年3月31日

荻 野 宏 行 平成29年1月1日 ～ 平成29年3月31日
長 田 枝 利 香 平成26年10月1日 ～ 平成28年6月30日
前 島 沙 織 平成28年4月1日 ～ 平成28年9月30日
佐々木 万里恵 平成28年4月1日 ～ 平成29年3月31日
早 乙 女 啓 子 平成28年4月1日 ～ 平成29年3月31日
生 駒 祐 介 平成27年1月1日 ～ 平成28年4月30日
柿 沼 勇 太 平成27年5月1日 ～ 平成28年6月30日
中 山 堯 振 平成28年4月1日 ～ 平成29年3月31日
太 田 琴 美 平成28年4月1日 ～ 平成29年3月31日
紅 林 泰 平成28年4月1日 ～ 平成28年9月30日
上 倉 英 恵 平成28年4月1日 ～ 平成29年3月31日

臨床研修医

中 屋 雅 人 平成27年4月1日 ～ 平成29年3月31日
石 川 隆 昭 平成27年4月1日 ～ 平成29年3月31日
大 崎 典 子 平成27年4月1日 ～ 平成29年3月31日
河 野 暉 平成27年4月1日 ～ 平成29年3月31日
清 河 駿 樹 平成27年4月1日 ～ 平成29年3月31日
崎 本 優 里 平成28年4月1日 ～ 平成29年3月31日
田 中 朋 陽 平成28年4月1日 ～ 平成29年3月31日
松 本 龍 門 平成28年4月1日 ～ 平成29年3月31日
山 野 邊 義 晴 平成28年4月1日 ～ 平成29年3月31日
森 田 佳 織 平成28年10月3日 ～ 平成29年3月31日
秋 山 友 紀 平成28年10月3日 ～ 平成29年3月31日
齊 藤 慧 平成28年11月28日 ～ 平成28年12月25日
黒 沢 拓 未 平成28年12月26日 ～ 平成29年1月29日

非常勤医師・歯科医師

* 前 田 麻 実 平成25年4月1日 ～ 平成29年3月31日
小 川 卓 範 平成26年4月1日 ～ 平成29年3月31日
平 本 和 音 平成27年4月1日 ～ 平成29年3月31日
横 山 裕 章 平成27年4月1日 ～ 平成29年3月31日
城 下 郊 平 平成27年4月1日 ～ 平成29年3月31日
的 場 健 太 平成27年4月1日 ～ 平成28年12月31日
萩 原 裕 也 平成27年4月1日 ～ 平成29年3月31日
鈴 木 啓 介 平成27年4月1日 ～ 平成29年3月31日
阿 部 麻 衣 平成28年4月1日 ～ 平成29年3月31日
楠 本 竜 也 平成28年4月1日 ～ 平成29年3月31日
稲 毛 純 平成28年4月1日 ～ 平成29年3月31日
鄭 瑞 雄 平成28年4月1日 ～ 平成29年3月31日
長 島 誠 平成28年4月1日 ～ 平成29年3月31日
木 村 文 将 平成28年4月1日 ～ 平成29年3月31日
菊 池 直 哉 平成28年4月1日 ～ 平成29年3月31日
岡 田 祐 輝 平成28年10月1日 ～ 平成29年3月31日
石 原 恵 理 子 平成28年4月1日 ～ 平成29年3月31日
加 茂 川 留 理 平成28年4月1日 ～ 平成29年3月31日
白 井 將 博 平成28年4月1日 ～ 平成29年3月31日
齋 藤 雄 太 平成28年4月1日 ～ 平成28年6月30日
南 房 香 平成28年7月1日 ～ 平成28年9月30日
八 木 俊 純 平成28年10月1日 ～ 平成28年12月31日

看護師・助産師

* 飯 塚 千 代 昭和62年4月1日 ～ 平成29年3月31日
* 古 山 美 佐 平成26年4月1日 ～ 平成29年3月31日
* 宗 像 弘 美 平成12年4月1日 ～ 平成29年3月31日
* 灰 原 瑞 江 昭和56年4月1日 ～ 平成29年3月31日
* 伊 東 かつえ 平成5年9月1日 ～ 平成29年3月31日
* 酒 井 裕 子 平成11年4月1日 ～ 平成29年3月31日
* 小 針 幸 子 平成13年7月1日 ～ 平成29年3月31日
* 松 本 彩 佳 平成25年4月1日 ～ 平成29年3月31日
駒 場 瑠 美 子 昭和53年4月1日 ～ 平成29年3月31日
岩 崎 明 美 平成23年4月1日 ～ 平成29年3月31日
永 堀 三 七 子 平成28年4月1日 ～ 平成29年3月31日
望 月 光 子 昭和53年4月1日 ～ 平成29年3月31日
佐 藤 真 喜 子 昭和60年10月1日 ～ 平成29年3月31日
原 田 寿 子 平成5年4月1日 ～ 平成28年6月30日
山 本 こ づ え 平成7年4月1日 ～ 平成28年6月30日
野 村 貴 子 平成8年4月1日 ～ 平成28年12月31日
遠 藤 靖 子 平成12年4月1日 ～ 平成28年6月30日
中 村 つ ゆ の 平成18年4月1日 ～ 平成28年6月30日
江 隈 妙 香 平成18年4月1日 ～ 平成29年3月31日
盛 永 紀 平成20年4月1日 ～ 平成29年3月31日
矢 嶋 晃 子 平成20年4月1日 ～ 平成28年12月31日
東 恵 美 平成21年2月1日 ～ 平成29年1月31日

森 沙 織 平成22年4月1日 ～ 平成29年3月31日
 星 野 夏 樹 平成22年4月1日 ～ 平成28年12月31日
 日 向 歩 平成23年4月1日 ～ 平成28年12月31日
 大野 祐 香子 平成23年4月1日 ～ 平成29年3月31日
 旭 真 央 平成24年4月1日 ～ 平成29年3月31日
 新 堀 彩 美 平成24年4月1日 ～ 平成29年3月31日
 大 平 麻 紀 平成24年4月1日 ～ 平成28年9月30日
 北 田 美 希 平成24年4月1日 ～ 平成29年3月31日
 印 南 靖 子 平成24年4月1日 ～ 平成29年3月31日
 榊 原 友 美 平成24年4月1日 ～ 平成29年3月31日
 吉 良 美 織 平成24年4月1日 ～ 平成29年3月31日
 松 本 志 保 平成24年4月1日 ～ 平成29年2月28日
 濱 地 亜 希 子 平成24年4月1日 ～ 平成29年3月31日
 三 塚 夏 美 平成25年4月1日 ～ 平成29年3月31日
 淺 水 亜 希 平成25年4月1日 ～ 平成29年3月31日
 高 瀬 瑤 子 平成25年4月1日 ～ 平成29年3月31日
 小 島 由 起 子 平成25年4月1日 ～ 平成28年12月31日
 中 村 華 子 平成26年4月1日 ～ 平成29年3月31日
 栗 林 ま り 平成26年4月1日 ～ 平成29年3月31日
 田 中 聡 美 平成26年4月1日 ～ 平成28年6月30日
 久 島 千 知 平成26年4月1日 ～ 平成29年3月31日
 蝦 名 千 尋 平成26年4月1日 ～ 平成29年3月31日
 後 藤 紗 織 平成26年4月1日 ～ 平成29年3月31日
 灰 原 雅 子 平成27年4月1日 ～ 平成29年3月31日
 山 口 侑 里 子 平成27年4月1日 ～ 平成28年8月31日
 菅 野 愛 平成27年4月1日 ～ 平成28年11月30日
 大 田 黎 奈 平成27年4月1日 ～ 平成28年4月30日
 吉 田 和 平成27年4月1日 ～ 平成28年11月30日
 岩 本 明 香 里 平成27年4月1日 ～ 平成29年3月31日
 安 永 旭 平成27年4月1日 ～ 平成29年3月31日
 引 地 春 菜 平成27年4月1日 ～ 平成29年3月31日
 渡 部 孝 太 郎 平成28年4月1日 ～ 平成28年9月30日
 須 山 文 惠 平成28年4月1日 ～ 平成28年11月30日
 三 橋 鈴 巳 平成28年7月1日 ～ 平成28年7月12日

事務

* 田 邊 雅 史 平成27年4月1日 ～ 平成29年3月31日
 * 藤 岡 亮 太 平成27年4月1日 ～ 平成29年3月31日
 * 赤 川 幸 誉 平成26年4月1日 ～ 平成29年3月31日
 * 尾 上 茂 樹 平成24年4月1日 ～ 平成29年3月31日
 * 佐 藤 誠 平成25年4月1日 ～ 平成29年3月31日
 * 柳 澤 俊 輔 平成26年4月1日 ～ 平成29年3月31日
 * 中 村 太 郎 平成26年4月1日 ～ 平成29年3月31日
 * 高 久 麻 衣 平成24年4月1日 ～ 平成29年3月31日

社会福祉職

* 錦 織 祥 子 平成23年4月1日 ～ 平成29年3月31日

医療事務職

上 原 建 範 平成28年4月1日 ～ 平成28年6月30日

電気職

* 毛 利 正 博 平成25年4月1日 ～ 平成29年3月31日

薬剤師

* 豊 田 恵 子 平成13年5月1日 ～ 平成29年3月31日

診療放射線技師

* 秋 山 剛 平成19年4月1日 ～ 平成29年3月31日

栄養士

* 亀 山 亜 希 夫 平成10年1月1日 ～ 平成29年3月31日
 樋 口 直 美 平成25年4月1日 ～ 平成29年3月31日
 高 野 直 子 平成27年10月1日 ～ 平成28年10月31日

臨床検査技師

鏑 木 友 子 平成19年4月1日 ～ 平成29年3月31日
 相 馬 響 子 平成13年5月1日 ～ 平成28年4月30日
 永 塚 育 江 平成20年4月1日 ～ 平成29年3月31日

視能訓練士

神 田 早 苗 昭和61年4月1日 ～ 平成29年3月31日

臨床工学技士

高 森 修 平 平成21年7月1日 ～ 平成28年9月30日

言語聴覚士

勝 又 恵 美 平成19年4月1日 ～ 平成29年3月31日

保育業務

鈴 木 杏 里 平成27年7月21日 ～ 平成28年6月30日
 石 川 倫 子 平成28年1月1日 ～ 平成28年11月10日

周産期心理相談業務

白 井 千 代 平成24年5月1日 ～ 平成29年3月31日

各種委員会書記業務

* 笥 亜 弥 平成28年4月1日 ～ 平成29年3月31日

医療相談業務

宮 前 勇 平成20年4月1日 ～ 平成29年3月31日
 堀 隆 介 平成24年4月1日 ～ 平成29年3月31日

診療報酬請求業務

中 嶋 孝 子 平成19年5月1日 ～ 平成29年3月31日
 田 中 千 帆 平成20年6月1日 ～ 平成29年3月31日
 吉 村 圭 子 平成20年6月1日 ～ 平成29年3月31日
 五 十 嵐 純 子 平成21年5月1日 ～ 平成28年9月30日

診療情報管理業務

玉 城 厚 子 平成24年4月1日 ～ 平成29年3月31日

アドボカシー業務

松 澤 洋 子 平成22年4月1日 ～ 平成29年3月31日

精神保健福祉業務

中 村 裕 紀 平成28年5月1日 ～ 平成29年3月31日

臨床検査業務

加藤 裕子 平成22年4月1日 ～ 平成29年3月31日

臨床研究支援業務

菅原 雅子 平成27年4月1日 ～ 平成28年4月24日

医療福祉業務

高江洲 美奈子 平成20年4月1日 ～ 平成28年7月31日

梅井 千妙子 平成28年4月1日 ～ 平成29年3月31日

5 主要医療器械・備品

所属別	品名	規格	数量	備考
手術室	弁手術用開胸器システム	St.Jude Medical KS-7002 他	1式	
〃	腹腔鏡下手術システム	カールストルツ エンドビジトリカム	1式	
〃	婦人科用腹腔鏡システム	オリンパス UHI-3 他	1式	
〃	膝関節鏡システム	0988-010-000-S2 他	1式	
〃	脳神経外科内視鏡セット	オリンパス工業 光学視管 (A7500A) 他	1式	
〃	脳外科用手術顕微鏡	OPMI CS-NC+NC2	1	
〃	尿管鏡	原田産業 M3 テレスコープ 他	1式	
〃	頭部固定装置 (バデーハローリトラクター)		1	
〃	電動手術台 (手術台テーブル)	マッケ・ジャパン 1150.15DO	1	
〃	電子内視鏡	フジノン EL2-TF410 TYPE41	1	
〃	電子スコープ	フジノン EL2-TF410	1	
〃	電気手術装置システム	エルベ VIO300D	1	
〃	電気手術装置	アムコ VIO300D	1式	
〃	電気メス装置	エルボトーム ICC350	1	
〃	電気メス	バリーラブ フォース FX 本体 他	3	
〃	超音波診断装置 (外科)	SSA-240A	1	
〃	超音波凝固切開装置	ジョンソン・エンド・ジョンソンハーモニックスカルペルⅡ	1	
〃	超音波画像診断装置		1	
〃	創外固定器システム		1	
〃	全身麻酔器	オメダ エクセル 210SE	1	
〃	心拍出量測定装置	日本光電 DDG-2001	1	
〃	手術用無菌水手洗装置	MRE-SR-3 型, 2 型	1	
〃	手術室無影灯 (4 脳外科用)	山田医療照明 U6160	1	
〃	手術室無影灯 (5 心外用)	山田医療照明 No11-4	1	
〃	自己血回収システム	セルセーバー 5 CS-2005	1式	
〃	耳鼻科用内視鏡手術装置	ストライカー MV-882TE 他	1	
〃	耳鼻科用ドリルシステム	ジンマー オステオンドリルシステム 5038-001	1式	
〃	耳鼻科内視鏡システム	カールストルツ IMAGE1	1式	
〃	耳鼻咽喉科用手術顕微鏡	ライカ M500-N/MS-1	1	
〃	子宮鏡セット	オリンパスヒステロスコープHYF-XP他	1式	
〃	高周波ラジオ波メス	エルマン・ジャパン サージマックス	1	
〃	血管内超音波診断装置	ボストン・サイエンティフィック GALAXY TM2	1	

◎印は平成28年度新規購入及び買換を示します。

(取得価格：160万円以上)

所属別	品名	規格	数量	備考
手術室	結石破碎装置	コントロールユニット840-100 他	1	
〃	経皮的循環補助システム	テルモ キャピオックスEBS	1式	
〃	経食道トランスジューサー	オムニプレーン2 21367A	1	
〃	関節鏡システム	ジンマー IM3300システム	1式	
〃	関節鏡システム	オリンパス	1式	
〃	患者監視装置	日本コーリン BP-508N	2	
〃	患者監視装置		1	
〃	外科用X線テレビ装置	日立メディコ Sirius Floating/C	1式	
〃	フレキシブルビデオラパロス コープセット	フジノン	1式	
〃	マイダレックスモーターシス テム	ムラナカ	1式	
〃	バリーラブフォースG S Uユ ニット	米国バリーラブ社	1	
〃	ハーモニックスカルペル	ジョンソン&ジョンソン GEN04	1	
〃	ナビゲーターGPSシステム	タイコヘルスケア 097010 他	1式	
〃	ナビゲーションシステム	メドトロニック TERON plusシステム	1式	
〃	ドリルシステム	日本メドトロニック マイダスレックス・ハイスピードドリ ル・レジェンド・システム	1式	
〃	鏡視下脊椎手術セット	メドトロニック ME T R x システム	1式	
〃	イリゲーション付バイポーラ セット	J & J CMC-3	1式	
〃	C T 定位脳手術装置	駒井式	1	
〃	腹腔鏡用カメラシステム	オリンパス VISERAProシステム	1	
〃	電気手術装置（4台）	バリーラブ ForceTriad	4	
〃	超音波血流計	Medi-Stim社 トランジットタイム血流計 VQ4122	1	
〃	全身麻酔器（2台）	GE横河メディカルシステム エスティバ 7900Pro、気化器Sevotec7	2	
〃	耳鼻科用シェーバー/ドリル システム	メドトロ・ソファモアダネック XPS3000	1	
〃	喉頭観察鏡システム	オリンパス PortaView-LF	1	
〃	急速輸液加温システム	スミスメディカル レベル1システム/レベ ル1ホットライン	1	
〃	マイクロサージェリー手術台	瑞穂医科 最低位41 c m以下	1	
〃	皮膚灌流圧測定器	カネカメディックス PAD3000	1	
〃	周術期患者情報システム	オムロンコーリン	1式	
〃	外科用手術顕微鏡システム	ライカ他M525-MS3/MKC-507	1式	
〃	電動マイクロドリル	ストライカーコアシステム	1	
〃	気道式ドリルシステム	エースクラップ他ハイランH S コンプリ トスペック他	1式	
〃	ラジオフリークエンシーシス テム	スミスアンドネフュー他ValcanEASSystem他	1式	

◎印は平成28年度新規購入及び買換を示します。

(取得価格：160万円以上)

所属別	品名	規格	数量	備考
手術室	外科用X線TV装置	東芝メディカルシステムズ	1	
〃	生体情報モニタ	オムロンコーリンソーラー8000i	1式	
〃	ハーモニックスカルペルⅡ	ジョンソン・エンド・ジョンソンGEN04他	1式	
〃	処置用ビデオスコープ	オリンパス ENF-VT2	1	
〃	腎盂/上下尿路観察鏡セット	オリンパス URF-V他	1式	
〃	整形外科用ドリルシステム	ストライカー コードレスドライバ-3	1	
〃	関節鏡カメラシステム	スミス・アンド・ネフュー 560シリーズ	1式	
〃	電気メス	東機質 ベサリウスMCM	1	
〃	電気けいれん治療器	光電メディカル サイマトロン	1	
〃	内視鏡手術カメラシステム	カールストルツ IMAGE1他	1	
〃	腹腔・胸腔用TVシステム	オリンパス OTV-S7PRO	1式	
〃	電解質TUR+内尿道切開システム	オリンパス WA22367A 他	1式	
〃	手術顕微鏡システム	ライカ OH4	1式	
〃	脊椎内視鏡 SPINAL ENDOSCOPES セット	カールストルツ spinal endoscopes セット	1式	
〃	腹腔鏡・胸腔鏡TVシステム	オリンパス VISERA ELITE 他	1式	
〃	超音波吸引システム	オリンパス SONOSURG-G2	1式	
〃	デュアルイメージングカラー	ライカ DIC500FL	1式	
〃	開胸器（一般）	日本ストライカー システム 7 胸骨鋸ハンドピース他	1式	
〃	眼科用冷凍手術システム	キラー・アント・ワイナー クライオマチック M-4100	1式	
〃	超音波診断装置	GEヘルスケアジャパン VIVIDi	1	
〃	バッテリーハンドピース	日本ストライカー システム 7 シングルトリガーローターハンドピース他	1式	
〃	下肢静脈瘤レーザー治療用超音波診断装置	GEヘルスケアジャパン LOGIQe Expert	1	
〃	内視鏡下手術用TVシステム	オリンパス VISERA ELITE OTV-S190 他	1式	
〃	眼底観察システム	カールツァイス Resight 他	1式	
〃	下肢静脈瘤レーザー治療器	インテグラル ELVeS レーザー	1	
〃	移動型外科用X線撮影装置	GEヘルスケア・ジャパン OEC9900 Elite Standard-C 12Inch	1	
〃	Force Triad	コグニティブエネキーププラットフォーム	1	
〃	手術用治療機器	オリンパス Surgical Tissue Management System	1	
〃	白内障・硝子体手術装置	日本アルコン コンステレーションビジョンシステム LXT	1	
〃	内視鏡システム	日本ストライカー 内視鏡 1488 カメラシステム	1	
〃	軟性尿管ビデオスコープ	オリンパス URF-V 他	1	
〃	手術用無影灯 STERIS LED 2	アムコ S27-0724 他	1	

◎印は平成28年度新規購入及び買換を示します。

(取得価格：160万円以上)

所属別	品名	規格	数量	備考
手術室	手術用ナビゲーションシステム	ブレインラボ KICKナビゲーションシステム	1	
	電動手術台	マクジヤパン	1	
	ハイスピードドリル	日本メドトロニック EM200 他	1	
	手術用カメラ・Iテレスコープ	カーlustルツ	1	
	超音波画像診断装置	LOGIQ S8	1	
	無影灯	STERIS LED 2灯式	2	
	無影灯	STERIS LED 2灯式 (カメラ非対応)	1	
	高周波電源焼灼装置灼装置	USG-400	1	
	無影灯	アムコ STERIS LED 2灯式	2	
	無影灯	アムコ STERIS vLED 2灯式 (カメラ非対応)	1	
	◎da Vinci Si	インテュイティブサージカル	1	
	◎エアシールインテリジェント	センチュリー AS-iFS1	1	
	◎耳鼻科手術用ナビゲーションシステム	日本メドトロニック 9733560	1	
	◎全身麻酔器	GE ヘルスケアジャパン アバンス CS2Pro	1	
	◎婦人科手術用HDカメラシステム	カーlustルツ	1	
	◎ヘッドレストシステム	ユフ精器 LUNA スタンダードドリトラクターシステムセット	1	
	◎腹腔・胸腔鏡用TVシステム	オリンパス OTV-S190	1	
	◎Q-SW ルビーレーザー	エムエムアンドニーク MODEL IB101	1	
	◎バーサパルスセレクト 30W	ボストンサイエンティフィックジャパン	1	
	◎無影灯	アムコ STERIS vLED	1	
◎モバイルCアームシステム	PHILIPS BV Vectra	1		
◎無影灯	アムコ STERIS LED	1		
◎手術麻酔記録支援システム ハードウェア	フクダコーリン CIS-OR	1		
◎腹腔・胸腔鏡用TVシステム関連	オリンパス VISERA ELITE システム	1		
器材室	滅菌コンテナ		1	
	中央器材室セット5	ムラナカ 113-002-03 他	1式	
	高圧蒸気滅菌装置	サクラ精機 FI-370E	1	
	システム乾燥機	サクラ精機 SNK-1152E	1	
	インテリジェントトレイシステム	自治体病院共済会	1式	
	スリッパ洗浄器	オカダ医材	1	
	酸化エチレンガス滅菌装置	サクラ精機他 SHE-G15W 型	1式	
	ジェット式超音波洗浄装置	シャープ MU5100	2	

◎印は平成28年度新規購入及び買換を示します。

(取得価格：160万円以上)

所属別	品名	規格	数量	備考	
器材室	ジェット式超音波洗浄装置	サクラ精機 WUS-3100	1		
	高圧蒸気滅菌装置	H S 6613 T D R 2 - S R - U L	1		
	◎超音波洗浄装置	モレーンコーポレーション MDE11132-5S	1		
	◎過酸化水素ガス滅菌器	キヤノンライフケアソリューションズ ES-700i	1		
	◎過酸化水素ガス滅菌器	キヤノンライフケアソリューションズ ES-1400S	1		
麻酔科	混合血酸素飽和度監視システム	日本光電 INVOS4000 他	1		
	超音波診断装置	GE 横河メディカル Vivid I	1		
	全身麻酔器	GE 横河メディカル エスティバ 7900	1		
	人工呼吸器解析装置システム	大正医科 VT-PLUS	1式		
	人工呼吸器	日本光電 ザビーナ	1		
	血液ガス分析装置	ノバ・メディカル スタットプロファイル C X 1	1		
	全身麻酔器	GEヘルスケア アバンスケアステーションPro	2		
	経皮的循環補助システム	テルモ キャピオックスEBS他	1式		
	全身麻酔器	GEヘルスケアジャパン アバンスケアステーションPro	2		
	超音波診断装置	富士フイルム S-Nerve	1		
	外来手術室	高周波ラジオ波メス	エルマン サージマックス	1	
		眼科用手術顕微鏡	カールツァイス OPMI Lumera T	1	
超音波白内障硝子体手術装置		アルコン インフィニティ・アキュラス4400	1		
眼科用ヤグレーザー手術装置		エレックス ウルトラQオフサルミックヤグレーザー	1		
ミニCアームX線診断装置		ホロジック	1		
MEセンター	保育器（超未熟児用）	アトム V-2100HL	2		
	体外循環用血液パラメーターモニターシステム	テルモ CDI500	1式		
	人工呼吸器	日本光電 ザビーナ	1		
	人工呼吸器	日本光電 Savina5380008 他	1		
	人工呼吸器	日本光電 EVT-4000 他	1		
	人工呼吸器	東機貿 ニューポート E100M	7		
	人工呼吸器	東機貿 E-100M	6		
	人工呼吸器	ニューポートベンチレーター	2		
	人工呼吸器	ドレーゲルメディカル ザビーナ	2		
	自動赤血球沈降速度測定器	TMR-6000	1		
	血液成分分離装置	スペクトラVer6	1		
	医用テレメーター	日本光電 WEP-8530	2		

◎印は平成28年度新規購入及び買換を示します。

(取得価格：160万円以上)

所属別	品名	規格	数量	備考
M E センター	医用テレメータ	日本光電 WEP-4202,4204,4208	1	
〃	医用テレメータ	日本光電 WEP-4204	1	
〃	医用テレメータ	日本光電 WEP-4204	1	
〃	ライフスコープ11	日本光電	1	
〃	ベッドサイドモニター	日本光電 BSM-7105,7106	5	
〃	ニューポートレスピレーター	東機質 E-100A	2	
〃	心筋保護液供給システム	泉医科 HCP-5000	1式	
〃	医用テレメータ	日本光電 WEP-5218	2	
〃	人工呼吸器	日本光電 HAMILTON-C2	3	
〃	人工呼吸器	ドレーゲル Savina300	2	
〃	人工呼吸器	ドレーゲル Savina300	2	
〃	心拍出量測定装置	エドワーズライフサイエンス Vigilance II	1	
〃	非侵襲的人工呼吸器	フィリップス・レスピロニクス V60	1	
〃	輸液ポンプテスター	フルーク・ハイトメディカル IDA-4Plus/4ch,データ解析用パソコン 東芝Dynabook T453/33JW	1	
〃	血液浄化装置	旭化成メディカル ACH-Σ,データ解析用パソコン 富士通LIFEBOOK P772/G	1	
〃	ビジランスハモダインミックモタ	エドワーズライフサイエンス VIG2	2	
〃	人工呼吸器	ドレーゲル Savina300	1	
〃	バイタルサインシュミレーター	大正医科 Prosim8SP	1	
〃	人工呼吸器	レスピロニクス Trilogy02Plus	1	
〃	人工呼吸器	コヴィディエン PB980	1	
〃	人工呼吸器	コヴィディエン PB840	1	
〃	バイタル連携対応機器	テルモ	1	
〃	◎閉鎖・開放両用保育器	アトムメディカル Dual Incu	1	
〃	◎人工呼吸器	COVIDIEN ベネットベンチレータ980TypeU	1	
〃	◎電気メス	エルベ VI0300Dベーシックバイクランプモデルプラス	1	
〃	◎バイタル連携対応機器	テルモ	1	
放射線科	乳房用X線撮影装置	インストルメンタリウムイメージング社 (diamond)	1	
〃	超音波画像診断装置・腹部検査用	東芝メディカルシステムズ	1	
〃	大容量冷却遠心機		1	
〃	体外式衝撃波結石破碎装置	ドルニエエドテックシステムズ Delta II	1	
〃	パノラマ撮影X線装置	モリタ X500CP-CR	1	
〃	治療計画用CT装置	東芝メディカルシステムズ AquilionLB TSX-201A/1A 16列	1	

◎印は平成28年度新規購入及び買換を示します。

(取得価格：160万円以上)

所属別	品名	規格	数量	備考
放射線科	腔内小線源治療装置	ニュークレトロン社マイクロセレクロンHDR	1	
〃	救急外来用一般X線撮影装置	島津製作所 UD150B-40 他	1式	
〃	救急室X線CT装置	東芝メディカルシステムズ Asteion	1式	
〃	移動型X線撮影装置	日立メディコ シリウス130H P	1	
〃	移動型X線撮影装置	島津製作所 モバイルアートルミナ	1	
〃	放射線治療システム	バリアン社 CLINACiX	1式	
〃	放射線監視システム		1式	
〃	ピクチャーテルメドリンク S	ピクチャーテル CP-1746	1	
〃	ハンドフットクロスモニター	アロカ MBR-201	1	
〃	ガンマカメラ	東芝メディカルシステムズGCA-7200A/DI	1	
〃	定位放射線治療システム	ユーロメディテック社スカルペル	1式	
〃	ガンマカメラ	東芝メディカルシステムズGCA-9300A/UI型	1	
〃	多軌道断層撮影装置	島津製作所 HLZ-110	1	
〃	X線骨塩定量装置	QDR-4500 A	1	
〃	X線C T装置	東芝メディカルシステムズ Aquilion64	1式	
〃	R I 遮蔽用鉛貯蔵庫	TH-J1331	1	
〃	R I フード	TH-F1602	1	
〃	MR造影剤自動注入装置	根本杏林堂 ソニックショット50 他	1	
〃	超電導磁気共鳴画像診断装置	フィリップス Achiva 1.5T NovaDual	2式	
〃	C Rシステム	FCR5000, FCR9501-HQ 他	1式	
〃	遠隔式X線透視撮影装置	島津製作所 Cvision Safire 17	1	
〃	X線C T装置	東芝メディカルシステムズ Aquilion64	1	
〃	ガンマカメラ	シーメンスジャパンSymbia E	1	
〃	医用画像作成装置及び外部データ取込み装置	コドニクス他 画像取込/書き込み一式	1式	
〃	アブレーションシステム	セントジュード CoolPathシステム一式	1式	
〃	心血管用アンギオ装置	フィリップス Allura Xper FD10	1	
〃	汎用アンギオ装置	フィリップス Allura Xper FD20	1	
〃	全身用X線コンピューター撮影装置	東芝メディカルシステムズ AquilionCX	1式	
〃	インバータ式回診用X線撮影装置	島津製作所 MobileArt Evolution	1	
〃	放射線読影レポート用音声入力システム	アドバンスト・メディア	1式	
〃	デジタル画像処理システム	富士フィルムメディカル CALNEO-C 他	1式	
〃	多目的デジタルX線TVシステム	島津製作所 SONIALVISION G4	1	

◎印は平成28年度新規購入及び買換を示します。

(取得価格：160万円以上)

所属別	品名	規格	数量	備考
放射線科	X線発生装置	東芝メディカルシステムズ RADREX MRAD-A80S/2G	4	
〃	X線発生装置	東芝メディカルシステムズ RADREX MRAD-A80S/BH	2	
〃	回診用X線撮影装置	FUJIFILM DR CALNEO Go	1	
検査科	誘発電位検査装置	日本光電 MEB-5508	1	
〃	病理検査支援システム	インテック Expath II	1式	
〃	脳波検査システム	日本光電 EEG-1514	1式	
〃	内視鏡画像ファイリングシステム	オリンパス光学 EVIS-NET	1式	
〃	電子顕微鏡	日本電子 JEM-1010	1	
〃	超音波診断装置（循環器）	GE横河メディカル Vivid7 Dimension 4D	1	
〃	超音波画像診断装置	Core Vision SSA-350A, 340A	2	
〃	超音波画像診断装置	GEヘルスケアジャパン LOGIQ7	1	
〃	心電計	日本光電 ECG-9422 他	1	
〃	心電計	日本光電 ECG-9372	3	
〃	実験台4（解剖室）		1	
〃	実験台3（標本切出室）		1	
〃	実験台2（病理検査室）		1	
〃	実験台1（細菌検査室）		1	
〃	自動封入装置	サクラ精機 SGC-400-D	1	
〃	自動染色装置	サクラ精機 DRS-2000B	2	
〃	嫌気性インキュベーター	ヒラサワ ANX-3 (a)	1	
〃	蛍光顕微鏡	本体 ニコン E8-RFL-2 他	1	
〃	解剖台	サクラ精機 KBH-LA	1	
〃	運動負荷試験システム	日本光電 ECG-9522 トレッドミル	1式	
〃	密閉式自動固定包埋装置	サクラファインテックジャパン ETP-5-F	1	
〃	ABIフォルム	日本コーリン from PWV/ABI	1	
〃	超音波診断装置	GEヘルスケア LOGIQ7	1	
〃	凍結組織切片作製装置	サクラファインテック ティッシュテック クライオ	1	
〃	自動採血管準備システム	テクノメディカ BC・ROBO-787	1式	
〃	血液照射装置	IBL-437C	1	
〃	超音波診断装置	GEヘルスケア LOGIQ7	1	
〃	生理検査システム	日本光電 PrimeVita他	1式	
〃	呼気ガス分析装置	ミナト医科 AE-310SRC他	1式	

◎印は平成28年度新規購入及び買換を示します。

(取得価格：160万円以上)

所属別	品名	規格	数量	備考
検査科	血圧脈派検査装置	オムロン HFA-203RPEⅢ	1	
〃	全自動免疫染色装置	ライカ Bond-max	1式	
〃	超音波診断装置(乳腺精細用)	日立アロカメディカル Preirus	1式	
〃	総合肺機能検査システム	チェスト CHESTAC-8900N	1	
〃	脳波計	日本光電 EEG-1218	1	
〃	血液培養装置	シスメックス・ビオリユー バクテアラート3D 360型	1	
〃	全自動同定・感受性検査装置 ／感染制御システム	シーメンスヘルスケア マイクロスキャン WalkAway96Plus	1	
〃	脳波計	日本光電 EEG-1214	1	
〃	筋電図・誘発電位検査装置	日本光電 MEB-2312	1	
〃	システム生物顕微鏡	オリンパス BX-53	1	
〃	加算心電図ソフトウェア付心	日本光電 ECG-2550	1	
〃	長時間心電図解析装置	日本光電 DSC-5500	1	
〃	◎超音波診断装置	Philips EPIQ7	1	
〃	◎全自動輸血検査装置	オーソ VISION	1	
内視鏡センター	内視鏡画像ファイリングシス	オリンパス光学 EVIS-NET	1式	
〃	電子内視鏡システム	フジノン東芝 ES システム EL2-TF410	1式	
〃	電子内視鏡システム	オリンパス EVIS ルセラ 260 システム	1式	
〃	電子内視鏡システム	オリンパス CV-260SL 他	1式	
〃	大腸ビデオスコープ	オリンパス EVIS LUSER PCF240 i	1	
〃	大腸ビデオスコープ	オリンパス PCF-Q260A	2	
〃	大腸ビデオスコープ	オリンパス CF-Q240ZI	1	
〃	上部消化管汎用ビデオスコープ	オリンパス GIF-Q260	2	
〃	上部消化管汎用ビデオスコープ	オリンパス GIF-Q240	3	
〃	上部消化管汎用ビデオスコープ	オリンパス GIF-Q240	1	
〃	上部消化管汎用ビデオスコープ	オリンパス GIF-H260Z	2	
〃	上部消化管汎用ビデオスコープ	オリンパス GIF-H260	1	
〃	上部消化管処置用2チャンネル内鏡	オリンパス GIE-2T20	1	
〃	上部消化管ビデオスコープ	オリンパス GIF-Q240	1	
〃	十二指腸用電子スコープ	オリンパス JF-240	1	
〃	十二指腸ビデオスコープ	オリンパス TJF-240	1	
〃	下部消化管ビデオスコープ	オリンパス PCF-240L/ i	1	
〃	ベットサイドモニター	日本光電 BSM-83D1	1	

◎印は平成28年度新規購入及び買換を示します。

(取得価格：160万円以上)

所属別	品名	規格	数量	備考
内視鏡センター	ファイバースコープ	オリンパス BF-240	1	
〃	内視鏡管理システム	オリンパス SolemioENDO	1 式	
〃	高周波手術装置	エルベ VIO-300D	1	
〃	気管支ビデオスコープ	オリンパス EVISLUCERA BF-6C260	1	
〃	アルゴンプラズマシステム	アムコ アルゴンプラズマ APC300 他	1 式	
〃	上部消化管汎用ビデオスコープ (2 式)	オリンパス GIF-H260	2	
〃	消化器内視鏡システム (2 式)	オリンパス EVIS LUCERA SPECTRUM	2	
〃	気管支超音波穿刺システム	オリンパス スコープ BF-UC260F-OL8/観測装置 EU-C2000	1	
〃	気管支ビデオスコープ	オリンパス BF-XP260F	1	
〃	大腸ビデオスコープ	オリンパス PCF-Q26AI	1	
〃	上部消化管ビデオスコープ	オリンパス GIF-H260	1	
〃	大腸ビデオスコープ	オリンパス PCF-Q2660AZI	1	
〃	十二指腸ビデオスコープ	オリンパス JF-260V	1	
〃	超音波内視鏡システム	オリンパス EU-ME1 他	1 式	
〃	気管支ビデオスコープ	オリンパス BF-XP260F	1	
〃	上部消化管ビデオスコープ	オリンパス GIF-XP260NS	1	
〃	気管支ビデオスコープ	オリンパス BF-260	1	
〃	十二指腸ビデオスコープ	オリンパス JF-260V	1	
〃	内視鏡室マネージメントシステム	Solemio ENDO Ver. 4	1	
〃	電子内視鏡システム	LUCERA ELITE CV-290	1	
〃	◎電子内視鏡システム	オリンパス	1	
内 科	携帯型超音波診断装置	ソノサイトジャパン iLook25	1	
〃	血管内超音波診断装置	テルモ TU-C200	1	
〃	超音波診断装置	GEヘルスケア LOGIQP5	1	
〃	個人用多用途透析装置	日機装 DBG-03	1	
〃	◎医用テレメータ	日本光電 WEP-5208	1	
産 婦 人 科	超音波診断装置	持田シーメンスメディカル ソノビスタ C3000	1	
〃	超音波診断装置	東芝 SSA-340A 他	3	
〃	超音波診断装置	ソノビスター (MEU-1585)	1	
〃	婦人科内視鏡システム	オリンパス VISERA-PROCCU 他	1 式	
〃	超音波診断装置	日立アカメディカル Prosound α 6	1 式	
〃	超音波画像診断装置	GEヘルスケア・ジャパン VOLUSON P8	4	

◎印は平成28年度新規購入及び買換を示します。

(取得価格：160万円以上)

所属別	品名	規格	数量	備考
産婦人科	超音波診断装置	持田シーメンス X500	1	
〃	ヒステロ内視鏡システム	オリンパス OTV-S190	1	
〃	◎超音波画像診断装置	GE ヘルスケアジャパン Voluson S8	1	
外科	超音波診断装置		1	
〃	ラジオ波焼灼装置	ボストンサイエンティフィックジャパン RF3000	1	
〃	超音波診断装置	東芝メディカルシステムズ Xario200	1	
呼吸器外科	◎気管支ビデオスコープ	BF-P290	1	
耳鼻咽喉科	聴力検査装置	リオン AA-75	1	
〃	耳鼻科ユニット	永島医科 SNニューピアレスF (片面)	3	
〃	喉頭電子スコープセット	オリンパス ENF-V 他	1 式	
〃	吸入器	SNネブライザー装置ルミエール	1	
〃	眼振計	日本光電 MBN-1104	1	
〃	鼻咽喉内視鏡システム	オリンパス VISERA-PROCCU 他	1 式	
〃	インピーダンスオーディオメー	リオン RS-22	1	
〃	重心動揺計	アニマ グラビコグ GP-5000	1	
〃	眼振図解析システム	第一医科 ニスタグラフ FNG-1004 他	1 式	
〃	神経刺激モニター	日本メドトロニック NIMレスポンス 3.0	1 式	
〃	耳鼻咽喉ビデオスコープ	オリンパス ENF-VQ	1 式	
〃	オーディオメーター	リオン AA-H1	1	
泌尿器科	泌尿器用内視鏡装置	武井医科 TV-3500	1	
〃	泌尿器科用検診台	モリタ製作所 SPN-1	1	
〃	ウロダイナミクス検査装置	アムコ ウロラブスペクトラム	1	
〃	泌尿器内視鏡システム	オリンパス VISERAPro システム	1	
〃	超音波診断装置	東芝 NEMIO XG	1	
整形外科	埋込型シャウカステン	森山X線 ISH-02U (36台) 他	1 式	
皮膚科	診断用顕微鏡	ニコン エクリプス 80i MTH5-31	1	
〃	近赤外線治療器	東京医研 スーパーライザー HA-2200LEI-DX 2WAY	1	
形成外科	◎CO2 レーザー手術装置	日本ルミナス	1	
眼科	網膜電気図記録装置	トーマー PE-3000	1	
〃	非接触式角膜内皮細胞撮影装	コーナン社 ノンコロソ	1	
〃	投影式精査型視野計	タカギセイコー プロジェク ションペリメーターMT-325UD	1	
〃	超音波画像診断装置	トーマー UD-6000A/B 他	1	

◎印は平成28年度新規購入及び買換を示します。

(取得価格：160万円以上)

所属別	品名	規格	数量	備考
眼科	自動視野計	カールツァイス HFA II 740	1	
〃	光干渉断層計	フリードメイン OCTRT Vue-100	1	
〃	眼科検査訓練機器	クレメントクラーク社シノプトフォア 2001 他	1	
〃	画像ファイリング機能付スリットランプ	カールツァイス SL130	1	
〃	角膜形状測定装置	トーマー TNS-4	1	
〃	オートレフケラトメーター	キャノン RK-5	1	
〃	オートレフ・ケラトメーター	キャノン RK-F1	1	
〃	眼底カメラ	コーワ VX-10 i	1	
〃	マルチカラーレーザー光凝固装置	ツァイス	1	
〃	ピズラスPDTシステム	スリットランプ SL130 付システム 690 S	1	
〃	眼科診療支援システム	ニデック NAVIS-HP 他	1	
〃	細隙灯顕微鏡	ハーグストレート 900BQ LED	1	
〃	細隙灯顕微鏡	カールツァイス	1	
〃	オートレフケラトトノメーター	キャノン TX-20P 他	1	
〃	眼圧・角膜厚測定装置	キャノンライフケアソリューションズ TX-20P	1	
〃	眼軸長測定機器	カールツァイス iOL マスター (モデル 700)	1	
〃	◎眼科ファイリングシステム	ニデック NAVIS-AZU	1	
腎センター	透析用監視装置	日機装 DCS-73	1	
〃	多人数用透析液供給装置	日機装 DAB-10E	1	
〃	多人数透析液供給装置	日機装 DAB-05B	1	
〃	逆浸透性精製水製造装置	東レ・メディカル TW-300HI	1	
救急室	搬送用人工呼吸器	ドレーゲルメディカル オキシログ 3000	1	
〃	経皮的心肺補助装置	テルモ キャピオックスEBS 他	1 式	
〃	◎超音波診断装置	富士フイルムメディカル	1	
救命救急センター	高機能患者シミュレータ	METI (アイエムアイ) ECS 成人モデル	1	
〃	高機能ICUベッド	ヒルロム トータルスポーツケア	1	
〃	救急用ストレッチャー	日本ストライカー SM204	1	
〃	ポータブル超音波診断装置	ソノサイトジャパン マイクロマックス	1	
〃	ヘモダイナミックモニター	エドワーズライフサイエンス VIG2	1	
〃	ベッドサイドモニター	日本光電 BSM-2301	1 式	
〃	ベッドサイドモニター	日本光電 BSM-2301	1 式	

◎印は平成28年度新規購入及び買換を示します。

(取得価格：160万円以上)

所属別	品名	規格	数量	備考
救命救急センター	ベッドサイドモニター	日本光電 BSM-2301	1式	
	病棟モニタリングシステム	日本光電 CNS-9701	1式	
	全自動血液ガス分析装置	バイエルメディカル ラピッドポイント 405	1式	
	心電図受信装置	日本光電 CNS-9701	1式	
	人工呼吸器	日本光電 EVT-400	2	
	血液透析濾過装置	旭化成メディカル Plasauto i Q21	1	
	救急用受信システム	日本光電 WEC-4100	1式	
	陽・陰圧体外式人工呼吸器	メディベント社 RTX	1	
	超音波診断装置	ソノサイト L04326 他	1式	
	救急・搬送用人工呼吸器	ドレーゲル	1	
	超音波診断装置 (救急用)	富士フィルムメディカル FAZONE M	1	
歯科口腔外科	歯科用ユニット	FGMD2-163L	2	
	歯科用キャビネット	ウエダ キャビネットABC他	1	
	歯科用インスツルメント	長田電気	1	
	感染対策歯科セット	O F J - M Z L タービンセット 他	1式	
	デンタルユニット	GM/ML-223LL	1	
	セントラルシステム	フレクシークリーンエアバキューム 他	1式	
心臓血管外科	遠心ポンプ	テルモ サーンズセントリ フェーガルシステム	1式	
	大動脈内バルーンポンプ	ゼメックス I A B P	1	
	大動脈内バルーンポンプ	エドワーズライフサイエンス CS-100	1	
	人工心肺装置	スタッカート スタッカート S 5	1	
	リハビリ	耳鼻咽喉ファイバースコープ	町田製作所 FLT-SIII 他	1
リハビリ	磁気刺激装置	ミュキ技研 マグスティムラピッドシステム	1式	
リハビリ	筋力評価訓練装置	酒井医療 BDX-3 他	1	
リハビリ	起立訓練ベッド	酒井医療 SPR-8000	1	
リハビリ	バランス・計測訓練機器	アニマ キネトグラビコーダ G-7100 他	1	
リハビリ	トレッドミル		1	
リハビリ	耳鼻咽喉ビデオスコープ	オリンパス OTV-S190 他	1	
リハビリ	◎チルトテーブル水平位サポート台	酒井医療 SPR-7000D	1	
透析室	透析用監視装置	日機装 DCS-73	1	
	HDF 監視装置	日機装 DCG-03	1	
	多用途透析監視装置	日機装 DCG-03	1	

◎印は平成28年度新規購入及び買換を示します。

(取得価格：160万円以上)

所属別	品名	規格	数量	備考
透析室	個人用透析装置	日機装 DBB-27	1	
8階北病棟	分娩監視システム	アトムメディカル AFD-32 他 一式	1式	
〃	体外受精用無菌培養システム	日本医科器械 HIS-M-1600CIS	1式	
〃	新生児連れ去り防止システム	マトリックス IC タグセキュリティーシステム	1式	
〃	産科病棟セキュリティーシステム	シスメックス C-CV20-2 他	1式	
〃	顕微受精システム	オリンパス ON2-ICSI-II	1式	
〃	分娩台	アトム LDR-7000	1	
〃	分娩監視装置・単胎用	アトムメディカル FM-20A/E-20 他	1式	
〃	分娩監視装置・双胎用	アトムメディカル FM-20B/E-20 他	1式	
〃	体外受精用培養器	クックメディカル ミニインキュベーター K-MINC-1000	1	
〃	超音波画像診断装置	シーメンス SONOVISTA FX premium edition	1	
〃	◎分娩台	アトム マミージョイ LDR 14320	1	
〃	◎フラッシュャーディスインフェクター	ゲティングジャパン GETINGE607LCC-2P-50	1	
8階南病棟	フラッシュャーディスインフェクター	GETINGE607LCC-2P-50	1	
8階西病棟	人工呼吸器(ベンチレーター)	東機貿 SLE2000 他	1	
〃	新生児用人工呼吸器	東機貿 SLE2000HFO	1	
〃	インフアントウォーマー	アトム V-505HL	1	
9階南病棟	肺理学療法システム	ヒルロム(パラマウント) トータルケアスポーツ	6	
〃	人工呼吸器	ドレーゲル Savina	1	
〃	アークティックサン	アイエムアイ モデル 2000 VER. 4	1	
〃	フラッシュャーディスインフェクター	ゲティング GETINGE607	1	
10階北病棟	フラッシュャーディスインフェクター	GETINGE607LCC-2P-50	1	
〃	病棟用医用テレメータシステム	HXC-1150	1	
10階南病棟	◎フラッシュャーディスインフェクター	ゲティングジャパン GETINGE607LCC-2P-50	1	
11階北病棟	超音波画像診断装置	腹部検査用	2	
〃	新生児用人工呼吸器	東機貿 SLE2000	1	
〃	◎フラッシュャーディスインフェクター	ゲティングジャパン GETINGE607LCC-2P-50	1	
11階南病棟	血管アクセス用超音波診断装置	メディコン サテライト 5	1	
〃	フラッシュャーディスインフェクター	GETINGE607LCC-2P-50	1	
12階北病棟	耳鼻科ユニット	永島医科 S I Vニューピアレス	1	
〃	細隙灯顕微鏡	ハーグストレイト 900BQV 他	2	
〃	ネブライザーユニット	永島医科 SN-P型3人用	1	

◎印は平成28年度新規購入及び買換を示します。

(取得価格：160万円以上)

所属別	品名	規格	数量	備考
1 2 階北病棟	◎フラッシュャーディスインフェクター	ゲティンゲジャパン GETINGE607LCC-2P-50	1	
1 2 階南病棟	8人用医用テレメーター	日本光電 WEP-5218	1 式	
〃	◎フラッシュャーディスインフェクター	ゲティンゲジャパン GETINGE607LCC-2P-50	1	
1 3 階北病棟	セントラルモニター	オムロンコーリン HXC-1190 他	1 式	
〃	フラッシュャーディスインフェクター	ゲティンゲ GETINGE607	1	
1 3 階南病棟	フラッシュャーディスインフェクター	ゲティンゲ GETINGE607	1	
〃	◎超音波診断装置	コニカミノルタ SONIMAGE HS1-4	1	
1 4 階北病棟	介護浴槽	酒井医療 LUP-930G/P	1	
1 4 階南病棟	医用テレメーター	オムロンコーリン HXC-1100 他	1 式	
N I C U	新生児用聴覚検査装置	日本光電 MAAS	1	
〃	新生児用人工呼吸器	ドレーゲル Babylog 8000plus	4	
〃	新生児用人工呼吸器	イワキ カリオペα	2	
〃	光凝固装置	エレックス ソリティア	1	
〃	血液ガス分析装置	ラジオメーター ABL835FLEX	1	
〃	CRシステム	コダック CR ELITE-19	1	
〃	ポータブルX線撮影装置	シーメンス MOBILETT XP	1	
〃	カウンターユニット・シーリングモジュール	セントラルユニ カウンターユニット+シーリングモジュール	1	
〃	CRP測定器	日水製薬 エバネットE V20	1	
〃	脳機能モニタ	アイエムアイ 16ch 124 01 20	1	
〃	呼吸機能測定装置	アイビジョンアーフェルⅢ	1	
〃	閉鎖式保育器	アトムメディカル	10	
〃	生体情報モニター	フィリップス MP50	5	
〃	体温管理システム	アイ・エム・アイ アークティックサン	1	
〃	搬送用保育器	アトムメディカル V-808 SpO2	1	
〃	開放型保育器	アトムメディカル ｲﾝﾌｧｳｰﾏｰⅠ	1	
〃	閉鎖循環式保育器	アトムメディカル ｲﾝｷﾞｬⅠ	1	
I C U / C C U	超音波診断装置	SONOS-5500	1	
〃	人工呼吸器	ドレーゲルメディカル エビタ4	1	
〃	人工呼吸器	ドレーゲル エビタXL	1	
〃	人工呼吸器	ドレーゲル EVT4000	3	
〃	持続緩徐式血液濾過装置	旭メディカル Plasauto iQ	1	
〃	持続緩徐式血液浄化装置	旭メディカル ACH-10	1	

◎印は平成28年度新規購入及び買換を示します。

(取得価格：160万円以上)

所属別	品名	規格	数量	備考
I C U / C C U	在室患者監視システム	オムロンコーリン ベッドサイドモニタ Solar8000i	1	
〃	I C U天井懸垂システム	インケアポート MODEL-277	1 式	
〃	血液浄化システム	旭化成クラレ プラソート I Q21	1	
〃	高機能 ICU ベッド	パラマウントベッド KH-151	1	
〃	◎フラッシュャーディスインフェクター	ゲティンゲジャパン GETINGE607LCC-2P-50	1	
感染対策室	採痰ブース	日本医科器械製作所 VCM-1500N2	1	
薬剤部	薬剤保管用縦型回転柵	クラヤ薬品 92C3-315-42	1	
〃	薬剤管理業務支援システム	ユヤマ クスリ箱エース 21 他	1 式	
〃	薬剤トレイ回収システム	セントラルユニ	1 式	
〃	電動式移動棚	クラヤ薬品 RAM-5240 K-TE 他	1	
〃	蒸留水製造装置	清水理化学機器 TKS-30	1	
〃	プレハブ低温室		1	
〃	I V H機器システム	日科ミクロン	1 式	
〃	調剤支援システム	ユヤマ一式	1 式	
〃	全自動散薬分包機	ユヤマ YS-TWIN-R93Ⅲ	2	
〃	全自動錠剤分包機	ユヤマ YS-TR-330FDS2	1	
〃	薬液・薬ビン用蒸気滅菌器	サクラ精機 ΣⅢYR-B09SLPC	1	
〃	注射薬自動払出システム	トーショー UNIPUL-4000-V4	1	
〃	バイオハザード対策用キャビネット	日科ミクロン B C G 401	2	
食養科	プレハブ冷凍庫	日本調理機 HCA22A	1	
〃	食器洗浄機	日本調理機 DWF2-6RPE-01	1	
〃	哺乳瓶用乾熱滅菌装置	三田理化学工業 MB-20E	1	
〃	スチームコンベクションオープン	ニチワ SCOS-2020RH-L 他	1 式	
〃	温冷配膳車	エクター MOG48RER-SY	4	
〃	◎温冷配膳車	エクター MOG40SER-SY	2	
〃	◎電気スチームコンベクション	ニチワ電機 SCOS-2010RH-R	1	
医事課	総合医療情報システム	富士通	1 式	
〃	ムーブラック	イトーキ	1	
〃	レセプトチェックシステム	エーアイエスマイティチェッカー	1	
〃	収納 POS レジシステム	富士通	6	
〃	◎自動精算機	グローリー IHV-PCS	2	
教育指導部	救命処置トレーニングシステム	レイダル社ハートシステム A C L S トレーニング	1 式	

◎印は平成28年度新規購入及び買換を示します。

(取得価格：160万円以上)

所属別	品名	規格	数量	備考
教育指導部	救命処置トレーニングシステム	レイダル社ハートシステムACLSトレーニング	1式	
〃	システムオートラック	マルタン	1	
庶務課・管理	物品器材管理システム	セントラルユニ	1式	
〃	物品管理システム	セントラルユニ	1式	
〃	プラスチック破砕器	EC-15-30-B	1	
〃	ピアノセット	ヤマハ C3L	1式	
〃	防災対策用カメラシステム	ヤマハ C3LTOA C-CV160S-3 他	1式	
川崎病院	急性期患者情報システム	オムロンーリン ICUシステム・ERシステム・ORシステム	1式	
〃	デジタルサイネージ機器	シャープ	1	

◎印は平成28年度新規購入及び買換を示します。

(取得価格：160万円以上)

6 主な委託業務

病院業務の効率的な運営を期して、業務の一部を次のとおり委託しています。

平成10年度から委託業務の一部を整理統合しました。

委 託 業 務 名	委 託 内 容	開始年度
清 掃	院内（病棟区域・外来区域）、構内清掃	昭和32年度
リネンセンター 運営管理業務	診療衣・看護衣・診察用布等の洗濯、折りたたみ 新生児・乳幼児用肌着等の提供と洗濯 入院患者寝具・洗濯・病棟配布 宿直職員及び夜勤看護師用寝具の提供と補修・洗濯 患者病衣の提供 ベッドセンター運営管理・補修室縫製等	昭和35年度 昭和41年度 昭和41年度 昭和48年度 平成6年度 平成10年度
施設管理業務	空調機・自家発電機・医療ガス設備・昇降機点検 機械設備管理・運転監視・空調設備保守等	昭和45年度 平成10年度
消防設備関係	外観・機能点検1回、総合点検1回	昭和45年度
検査業務	一般・血液・生化学・血清・細菌検査	昭和45年度
医 事 業 務	診察データの入力・診療報酬請求書・行為別集計等の作成 臨床クラーク（病棟及び外来の医療業務上の事務補助） 初診受付・再診受付・外来会計受付・電算入力 事務当直業務（時間外患者受付） 医事業務（全面委託）	昭和52年度 平成1年度 平成1年度 平成2年度 平成5年度
給 食 業 務	調理・盛り付け・配膳・下膳・食器洗浄等 給食材料の発注及び検収等	平成7年度 平成23年度
情報システム運用業務	総合医療情報システム管理運用業務	平成10年度
物 流 管 理 業 務	SPD（物流管理）・滅菌業務	平成10年度
院 内 保 安 警 備	院内の保安警備、駐車場管理業務 防災センター監視業務ほか	昭和43年度 平成10年度
放射性物質濃度法定測定	作業環境法に基づく測定業務	平成1年度
電 話 交 換 業 務	電話交換・院内放送業務	平成10年度
感染性産業廃棄物処理	廃棄物処理法による感染性産業廃棄物の処理	平成4年度
医事データ遠隔地保管	医事データのバックアップを外部で保管	平成13年度
そ の 他	歯科技工、害虫駆除、植木剪定、解剖臓器処理、カーテン賃貸借、院内保育室調理業務等、夜間保育（平成25年）	

7 図 書 室

平成 28 年度は、前年度に引き続き、研修医向けの図書室資料の充実を図りました。

統計ソフト SPSS がバージョンアップされ、e ラーニングを導入して利用促進を図りました。

UpToDate、電子ジャーナルパッケージ「Clinical Key」の説明会・登録会を開催しました。リモートアクセス登録による図書室外からの利用が好評で、タブレット端末の活用により利用範囲が広がっています。

慶應義塾大学信濃町メディアセンター主催の第 1 回関連病院図書担当者連絡会に参加しました。今後は、毎年開催の予定です。

「つつじ文庫」は多くの患者の皆様に好評を得ています。

蔵書は市民・職員の皆様の温かい御支援の下、多くの図書が寄贈されています。

平成 28 年度末現在約 35,000 冊の蔵書数となっています。

平成28年度図書室資料受入状況

区 分	購 入	寄 贈	計
単行書（和）	112	158	270
単行書（洋）	2	2	4
雑誌（和）	109	61	170
雑誌（洋）	35	5	40
視聴覚資料	0	0	0
年報・報告書	0	130	130
雑誌所蔵目録	1	2	3
検索用データベース	3	0	3
医中誌Web			
メディカルオンライン			
最新看護索引web			
臨床支援ツール	2	0	2
Up To Date			
今日の診療			
電子ジャーナル パッケージ	2	0	2
Clinical Key			
Fixed 10			

平成28年度和雑誌購読（105誌）

- | | | | |
|----|-------------------|----|------------------------------------|
| 1 | あたらしい眼科 | 38 | Journal of Clinical Rehabilitation |
| 2 | ブレインナーシング | 39 | 重症集中ケア |
| 3 | 病院 | 40 | 看護 |
| 4 | 病院安全教育 | 41 | 看護技術 |
| 5 | クリニカルエンジニアリング | 42 | 看護実践の科学 |
| 6 | 地域連携入退院支援 | 43 | 看護管理 |
| 7 | 中毒研究 | 44 | 看護研究 |
| 8 | 電気と工事 | 45 | 看護きろくと看護過程 |
| 9 | 栄養と料理 | 46 | 看護教育 |
| 10 | エキスパートナース | 47 | 看護展望 |
| 11 | エマージェンシーケア | 48 | 肝・胆・膵 |
| 12 | 外来看護（新規） | 49 | 緩和ケア |
| 13 | がん看護 | 50 | 形成外科 |
| 14 | 癌と化学療法 | 51 | 呼吸と循環 |
| 15 | 画像診断 | 52 | 呼吸器ケア |
| 16 | 外科 | 53 | コミュニティケア |
| 17 | 月刊 保険診療 | 54 | 厚生 の 指標 |
| 18 | 月刊 ナーシング | 55 | 胸部外科 |
| 19 | 月刊 ナースマネジャー | 56 | 救急医学 |
| 20 | 月刊 新医療 | 57 | 救急・集中治療 |
| 21 | 月刊 薬事 | 58 | 麻酔 |
| 22 | ハートナーシング | 59 | Medical Practice |
| 23 | 皮膚病診療 | 60 | Medical Technology |
| 24 | ホルモンと臨床 | 61 | Medicina |
| 25 | ICUとCCU | 62 | 内科 |
| 26 | ICNR（新規） | 63 | 日本病院会雑誌 |
| 27 | 医学のあゆみ | 64 | 日本医事新報 |
| 28 | 医学のあゆみ 別冊 | 65 | 日本臨床 |
| 29 | 医学教育 | 66 | 脳神経外科 |
| 30 | 医学図書館 | 67 | 脳神経外科速報 |
| 31 | Infection Control | 68 | ナーシングビジネス |
| 32 | 胃と腸 | 69 | Nutrition Care |
| 33 | 耳鼻咽喉科・頭頸部外科 | 70 | オペナーシング |
| 34 | 腎と透析 | 71 | PEPARS |
| 35 | JJNスペシャル | 72 | ペリネイタルケア |
| 36 | JOHNS | 73 | Phase3:最新医療経営 |
| 37 | 助産雑誌 | 74 | プロフェッショナルがんナーシング |

- | | | | |
|----|-------------------------|-----|----------------|
| 75 | クインテッセンス・デンタル・インプラントロジー | 92 | 整形外科看護 |
| 76 | レジデント | 93 | 整形・災害外科 |
| 77 | レジデントノート | 94 | 精神科治療学 |
| 78 | 理学療法ジャーナル | 95 | 精神科看護 |
| 79 | 臨床栄養 | 96 | 設備と管理 |
| 80 | 臨床婦人科産科 | 97 | 歯界展望 |
| 81 | 臨床外科 | 98 | 神経内科 |
| 82 | 臨床泌尿器科 | 99 | 消化器外科ナーシング |
| 83 | 臨床放射線 | 100 | 小児科 |
| 84 | 臨床整形外科 | 101 | 小児看護 |
| 85 | 臨床精神薬理 | 102 | 小児科診療 |
| 86 | 臨床透析 | 103 | 小児内科 |
| 87 | 老年精神医学雑誌 | 104 | 手術 |
| 88 | 作業療法ジャーナル | 105 | 周産期医学 |
| 89 | 産科と婦人科 | 106 | 糖尿病ケア（新規） |
| 90 | 整形外科 | 107 | ヴィジュアル・ダーマトロジー |
| 91 | 整形外科 別冊 | 108 | 薬局 |
| | | 109 | 全国自治体病院協議会雑誌 |

平成28年度購読洋雑誌（誌）

- 1 American Journal of Psychiatry
- 2 American Journal of Respiratory and Critical Care Medicine
- 3 American Journal of Sports Medicine
- 4 Anesthesia & Analgesia and A&A Care Reports
- 5 Annals of Internal Medicine
- 6 Arthritis & Rheumatism
- 7 Arthritis Care & Research
- 8 Blood
- 9 BMJ:British Medical Journal (international)
- 10 Bone & Joint Journal (前誌: Journal of Bone & Joint Surgery(Br))
- 11 Cancer
- 12 Cancer cytopathology
- 13 Chest
- 14 Clinical Infectious Diseases
- 15 Diabetes Care
- 16 Dysphagia
- 17 Hepatology
- 18 JAMA Dermatology (前誌: Archives of Dermatology)
- 19 JAMA Ophthalmology (前誌: Archives of Ophthalmology)

- 20 JAMA Otolaryngology-Head & Neck Surgery
(前誌 : Archives of Otolaryngology-Head & Neck Surgery)
- 21 JAMA Surgery (前誌 : Archives of Surgery)
- 22 Journal of American Medical Association
- 23 Journal of Bone & Joint Surgery (Am)
- 24 Journal of Clinical Oncology
- 25 Journal of Hand Surgery (Eur)
- 26 Journal of Neurosurgery
- 27 Journal of Orthopaedic Science
- 28 Journal of Trauma and Acute Care Surgery
- 29 Laryngoscope
- 30 Liver Transplantation
- 31 Neurology
- 32 New England Journal of Medicine
- 33 Pediatrics
- 34 Radiology
- 35 Sports Health

平成28年度購読電子ジャーナルパッケージ

- 1 Fixed10
- 2 Clinical Key

平成28年度寄贈和雑誌 (61誌)

- | | |
|---------------------------------------|--------------------------|
| 1 Circulation Journal | 16 日本顎関節学会誌 |
| 2 Clinical Pediatric Endocrinology | 17 日本癌治療学会雑誌 |
| 3 Gastroenterological Endoscopy | 18 日本外科学会雑誌 |
| 4 北海道農村医学会雑誌 | 19 日本医師会雑誌 |
| 5 茨城県救急医学会雑誌 | 20 日本女性医学学会雑誌 |
| 6 International Journal of Hematology | 21 日本看護技術学会誌 |
| 7 神奈川医学会雑誌 | 22 日本環境感染学会会誌(前誌 : 環境感染) |
| 8 感染症 | 23 日本口腔科学会雑誌 |
| 9 感染症学雑誌 | 24 日本救急医学会雑誌 |
| 10 川崎市医師会医学会誌 | 25 日本救急医学会雑誌 関東地方会雑誌 |
| 11 こども医療センター医学誌 | 26 日本内分泌学会雑誌 |
| 12 共済医報 | 27 日本内科学会雑誌 |
| 13 Nagoya Medical Journal | 28 日本内視鏡外科学会雑誌 |
| 14 日本エイズ学会誌 | 29 日本農村医学会雑誌 |
| 15 日本腹部救急医学会雑誌 | 30 日本臨床外科医学会雑誌 |

31 日本産科婦人科学会雑誌	46 臨床評価
32 日本産科婦人科学会 関東連合地方部会会誌	47 臨床医薬
33 日本産科婦人科学会 神奈川地方部会会誌	48 臨床核医学
34 日本産科婦人科学会 東京地方部会会誌	49 臨床血液
35 日本産科婦人科内視鏡学会雑誌	50 臨床薬理の進歩 日本臨床救急医学会雑誌
36 日本整形外科学会雑誌	51 聖マリアンナ医科大学雑誌
37 日本歯科医師会雑誌	52 歯科薬物療法
38 日本心臓血管外科学会雑誌	53 島津評論
39 日本小児科学会雑誌	54 小児保健研究
40 日本小児救急医学会雑誌	55 帝京医学雑誌
41 日本透析医学会雑誌	56 Therapeutic Apheresis and Dialysis
42 日赤医学	57 頭頸部癌
43 Osteoporosis Japan(日本骨粗鬆症学会)	58 東京都医師会雑誌
44 Pediatrics International	59 予防医学
45 Reproductive Medicine and Biology	60 横浜医学 日本透析医学会雑誌

平成28年度寄贈洋雑誌 (3誌)

- 1 Gynecology and Minimally Invasive Therapy
- 2 International Journal of Oral and Maxillofacial Surgery
- 3 Oral Science International

平成28年度神奈川県・川崎市年報、報告書 (13誌)

- 1 神奈川県悪性新生物登録事業年報
- 2 神奈川県予防医学協会事業年報
- 3 神奈川県立がんセンター年報
- 4 神奈川リハビリテーション病院年報
- 5 川崎市健康安全研究所年報 (前誌：川崎市衛生研究所年報)
- 6 川崎市立看護短期大学年報
- 7 川崎市立看護短期大学紀要
- 8 川崎市立井田病院年報
- 9 川崎市立川崎病院年報
- 10 川崎市立多摩病院年報
- 11 川崎市立川崎病院看護部看護研究集録
- 12 川崎市立川崎病院看護部事例研究集録
- 13 川崎市立川崎病院看護部活動実績

8 看護部の概況

平成 28 年度は、新規採用職員 45 名をむかえ、看護職員 609 名（正規職員）の看護職員でスタートしました。

4 月に地域医療支援病院の承認のニュースが飛び込み、明るい幕開けとなりました。在院日数短縮、紹介・逆紹介率アップなど、全職員がその準備を進めてくださり、成果を積み重ねた結果、予定の一年前倒しで承認を受けることができました。承認は、診療報酬を引き上げますので、皆さま一人ひとりの力が病院経営に貢献した証と言えます。

以下、看護現場の取り組みについて、いくつか述べたいと思います。

患者の「安心して家に帰りたい」という思いを実現するために、地域連携室に看護師 2 名を配置しました。1 人の看護師が 2 病棟ずつ担当し、病棟看護師と連絡を密に取りながら患者・家族の相談支援にあたっています。また、がん相談支援センターには研修を終了した看護師を配置し、がん告知から終末期までどのような病期であっても患者の「生きる」を支えるための相談室を開いています。緩和やリエゾンラウンドは、周知も進みチームで支える医療の基盤が整いつつあります。

このほか緊急入院受け入れ業務のスマート化、患者用パスの推進、さらに産科病棟のお祝い膳のスタート、ICU・CCU の面会時間の拡大など、各部署が患者サービスの向上につながる取り組みをしました。加えて、手術室看護師による手術器材・材料の見直しは、年間 7,000 万円の費用削減につながりました。職員の皆さまは、大変なご苦労だったと思います。

このような取り組みが、患者サービスの向上や費用抑制につながり、経営改善の柱に成長しています。

私達の顧客は、患者・家族であり、多くのメディカルスタッフであり、看護職自身であると考えています。お互いの気持ちを知り、お互いを大切にしながら、そこから生まれた目的に向き合う。これも内なる質向上です。

「ありがとう」や挨拶が飛び交う病院づくりを看護職から始めましょう。自治体立という制限の多い病院ですが、看護の力は大きいと実感しています。限りある資源の中で知恵を絞って価値ある病院作りを進めてまいります。

副院長兼看護部長 網嶋 たかえ

(1) 看護職員配置数

(平成 29 年 4 月 1 日現在)

項目 看護単位	許可 病床数	稼動 病床数	助産師 看護師	臨時 職員	夜勤人員		看護 助手	クレーク (委託)
					準夜	深夜		
	713	647						
看護部配置数			589					
看護部 4 月現在現在数			610					
14 階北病棟(内科・透析室)	52	42	31	1	4	4	4	1
14 階南病棟(内科)	51	46	31	1	4	4	4	1
13 階北病棟(心外・循環器内科)	51	46	30	2	4	4	6	1
13 階南病棟(内科)	53	48	31	1	4	4	6	1
12 階北病棟(泌・耳・眼・口腔)	51	46	28		3	3	2	1
12 階南病棟(脳・皮・放・リハ)	53	48	29	1	4	4	5	1
11階北病棟(外科)	53	48	29		4	4	3	1
11階南病棟(外科・肺外科)	53	48	28	2	4	4	3	1
10 階北病棟(整形外科・形成外科)	53	48	28	1	3	3	3	1
10 階南病棟(婦人科・整形外科)	52	47	27		3	3	2	1
9階北病棟 (精神科)	38	33	16	5	3	2	1	1
9階南病棟 (EICU・救命救急病棟・小児急病センター)	20	20	66	6	10	9	4	1
8 階北病棟 (産科・新生児)	44	42	29	6	4	4	3	1
8 階南病棟・小児科外来	41	41	26	1	4	3	1	1
NICU	6	6	15	3	2	2	1	1
GCU	18	18	13	2	3	3		
5 階 ICU・CCU	12	8	27	1	4	4	1	1
5 階 手術室			36		2	2		1
外来	Aブロック		30	24			6	31
	Bブロック							
	Cブロック							
副院長(看護部長)室			1					
看護部管理室			3					
担当課長・看護師長			1(再掲)					
看護師長			18(再掲)					
地域医療部兼務担当係長			1					
医療安全管理室兼務担当係長			1					
産休・育休・病休・休職・派遣研修			42					

(2) 職員の出身校別内訳・年齢分布・平均年齢

ア 出身校別内訳

(平成29年3月31日現在)

種別	学校					
	人数	看護大学	助産師校	看護短期大学	看護専門学校	准看学校
総数	591人	84人	21人	154人	327人	3人
構成比(%)	100%	14%	4%	26%	55%	1%
助産師	24人	3人	21人	0人	0人	0人
構成比(%)	4%	1%	4%	0%	0%	0%
看護師	562人	81人	0人	154人	327人	0人
構成比(%)	95%	14%	0%	26%	55%	0%
准看護師	3人	0人	0人	0人	0人	3人
構成比(%)	1%	0%	0%	0%	0%	1%

イ 年齢分布

年齢	助産師	看護師(准看護師含む)	計
21	0	0	0
22	0	16	16
23	0	43	43
24	1	32	33
25	1	33	34
26	1	29	30
27	2	26	28
28	0	11	11
29	1	10	11
30～34	6	91	97
35～39	2	62	64
40～44	3	80	83
45～49	5	58	63
50～54	3	44	47
55～59	0	29	29
60～	0	2	2
合計	25	566	591

ウ 平均年齢

(平成29年3月31日現在)

助産師	看護師(准看護師含む)	総平均
36.5	35.4	35.6

(3) 勤続年数

助産師: 7.2 年

看護師(准看護師含む): 9.3 年

総平均: 9.2 年
(平成29年3月31日現在)

年数	助産師	看護師 (准看護師含む)
1年未満	4人	44人
1年	2人	48人
2年	1人	48人
3年	2人	25人
4年～5年	3人	43人
6年～9年	4人	120人
10年～14年	3人	67人
15年～19年	3人	50人
20年～24年	1人	41人
25年～29年	1人	23人
30年以上	0人	32人

(4) 平成28年度看護職員採用・退職状況

採用者数	49 人	助産師4名 看護師45名
退職者数	47人	助産師2名 看護師45名

(5) 通勤及び入寮状況

(平成29年3月31日現在)

通 勤	517名	91.8% (助産師2名・看護師46名)
入 寮	43名	8.2% (助産師2名・看護師41名)

9 地域医療部

(1) 地域医療連携室

地域医療支援病院として急性期の治療を終えた患者さんが、地域の診療所・クリニックなどで継続的に医療提供が受けられるよう地域の保険医療機関との連携強化に努めております。そして高度医療機器共同利用の推進や紹介患者受診予約、緊急受診患者への応需体制の強化にも力を入れて取り組んでおります。

また、平成28年8月に退院支援加算3、平成28年度12月に退院支援加算1を取得致しました。入院中の患者さんが、住み慣れた地域で安心して暮らし続けることができるよう、病棟専任退院支援看護職員を配置し、病棟看護師やMSWと連携強化を図りながら、退院支援・調整にも力を入れております。

ア 紹介率・逆紹介率

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
紹介率%	60.7	58.3	61.0	60.9	53.6	57.1	61.5	68.0	64.2	60.7	62.4	65.3	60.9
逆紹介率%	88.6	79.7	82.0	82.1	73.3	67.9	78.8	86.4	89.1	76.6	83.4	82.7	79.6

イ 地域医療連携業務

	緊急受診 依頼	入院 依頼	転院調整	かかりつけ 医紹介	診療情報 提供依頼	紹介予約	病院診療 所訪問
件数	948	165	186	660	1018	3036	42

ウ 医療機器共同利用

	CT	MRI	腹部エコー	心エコー	骨シンチ	上部内視鏡	栄養相談
件数	144	142	32	21	14	67	3

エ 退院調整

	退院支援加算 1・2・3	介護支援連携 指導	共同会議 指導 2	共同会議 指導 2(3者以上)
件数	3453	387	121	47

	退院調整 CF	退院時 医療処置	新規在宅酸 素導入	訪問診療医 調整	訪問看護師 調整	ケアマネジャ ー調整
件数	829	458	91	200	219	370

オ 地域連携クリニカルパス

神奈川県脳卒中地域連携パス 23件	大腿骨頸部骨折地域連携パス 38件
-------------------	-------------------

カ 地域連携業務

地域連携便り発行	7月 12月 3月 発行
外来診療担当表	川崎区・幸区 診療所・病院に毎月発送

キ 在宅支援業務

内容	ショートステイ	あんしん見守り
件数	21件	1件

ク 平成 28 年度 地域の医療従事者を対象とした研修の実施状況（医師、コメディカル）

	開催月日	主催	名称	内容
1	5月27日（金）	内科 整形外科	第22回 川崎リウマチ膠原病 診療懇話会	症例検討会・病診連携報告 講演「高齢の関節リウマチ患者における 生物学的製剤の安全性」
2	6月7日（火）	外科	第2回 川崎区医師会・川崎病院 「外科系症例検討会」	外科系症例検討会
3	6月15日（水）	小児科	第368回 川崎小児科医会	小児科症例検討会
4	6月24日（金）	泌尿器科	第4回川崎泌尿器科 病診連携の会 川崎区医師会・川崎病院	泌尿器科症例検討会
5	7月14日（木）	川崎病院	学術講演会	基礎から理解する前立腺癌の臨床
6	7月15日（金）	精神科	精神科講演会	講演1 かわさきディケアクリニック 「精神医療における多点支持の必要性 ～地域化の取り組みとアウトリーチ～」 講演2 山梨県立北病院 「持続性注射剤治療の基本と実際」
7	11月16日（水）	内科 整形外科 皮膚科	第23回川崎リウマチ膠原 病診療懇話会	症例検討会・病診連携報告 講演1 肩関節滑膜炎の診断と治療 講演2 皮膚科で診る リウマチ・整形疾患
8	11月28日（月）	川崎病院	川崎病院学術講演会	慶応義塾病院で行っている Struktore Heart Disease に対する 先進医療の取り組み
9	11月29日（火）	川崎病院 川崎市医師会 川崎市内科医会	川崎地区 RiskManagement 学術講演会	最近の病院リスクマネジメントについて ～不眠症とせん妄を中心に～
10	12月12日（月）	薬剤部	院外処方箋へ臨床検査値 記載に関する勉強会	臨床検査値の考え方
11	1月20日（金）	リウマチ 膠原病 痛風センター	第2回リウマチ膠原病 セミナー	講演「ループス腎炎の治療戦略」
12	2月15日（水）	小児科	第374回川崎小児科医会	小児科症例検討会

13	2月24日(金)	川崎病院 幸区・川崎区 医師会	第7回幸・川崎病診 Net	講演1 「虚血性心疾患のリスク低減について」 冠疾患集中治療室 室長 西澤 健也 講演2 「川崎病院における悪性脳腫瘍治療について」 脳血管外科部長 片山真
----	----------	-----------------------	---------------	---

ケ 平成28年度 地域の医療従事者を対象とした研修の実施状況（看護師）

	開催月日	主催	名称	内容
1	5月11日(水)	看護部 地域医療部	知っとくナース 川崎病院公開講座	脳卒中患者の体位変換と ポジショニング
2	6月15日(水)	看護部 地域医療部	認定看護師出張講座 認知症グループホーム 灯りケアホーム	認知症高齢者の急変時を 見逃さないポイント
3	7月6日(水)	看護部 地域医療部	知っとくナース 川崎病院公開講座	食べるためにできること
4	9月7日(水)	看護部 地域医療部	知っとくナース 川崎病院公開講座	高齢者のインスリン療法
5	9月23日(金)	看護部 地域医療部	認定看護師出張講座 特別養護老人ホーム	感染症対策
6	9月27日(火)	看護部 地域医療部	認定看護師出張講座 ふれあいの園・武蔵中原	緊急時の対応
7	10月4日(火)	地域連携 部会	地域ケア懇談会	事例検討会
8	10月7日(金)	看護部 地域医療部	認定看護師出張講座 老人保健施設協会看護部	高齢者のフットケア
9	10月28日(金)	看護部 地域医療部	認定看護師出張講座 育桜福祉会 障害者福祉施設こぶし園	皮膚トラブルに対しての 最新看護ケアと施設での対応
10	12月2日(金)	看護部 地域医療部	認定看護師出張講座 老人福祉施設 葵の園・武蔵小杉	誤嚥性肺炎を防ぐコツ
11	1月11日(水)	看護部 地域医療部	知っとくナース 川崎病院公開講座	排便ケア（下痢と便秘）
12	1月19日(木)	地域 連携部会	地域ケア懇談会	地域ケアに関する懇談会

13	3月1日(水)	看護部 地域医療部	知っとくナース 川崎病院公開講座	認知症高齢者の アセスメントの視点とは？
14	3月3日(金)	看護部 地域医療部	認定看護師出張講座 帝京大学老人保健センター	褥瘡の予防と褥瘡の対応

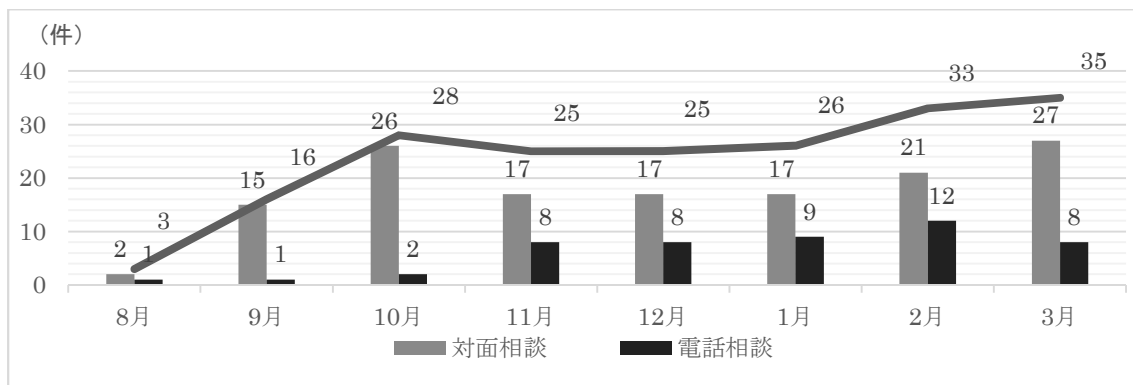
コ 平成28年度 地域の医療従事者・学童を対象とした「がん」に関する研修の実施状況

	開催月日	主催	名称	内容
1	5月21日(土) 5月22日(日)	緩和ケア 委員会	神奈川県単位型 緩和ケア研修	がん診療に携わる医師に対する 緩和ケア研修
2	1月12日(金)	がん診療連携 指定病院 準備委員会	がん教育	がんに関する教育(宮崎中学校)
3	1月26日(木)	がん診療連携 指定病院 準備委員会	がん教育	がんに関する教育(富士見中学校)

(2) がん相談支援センター

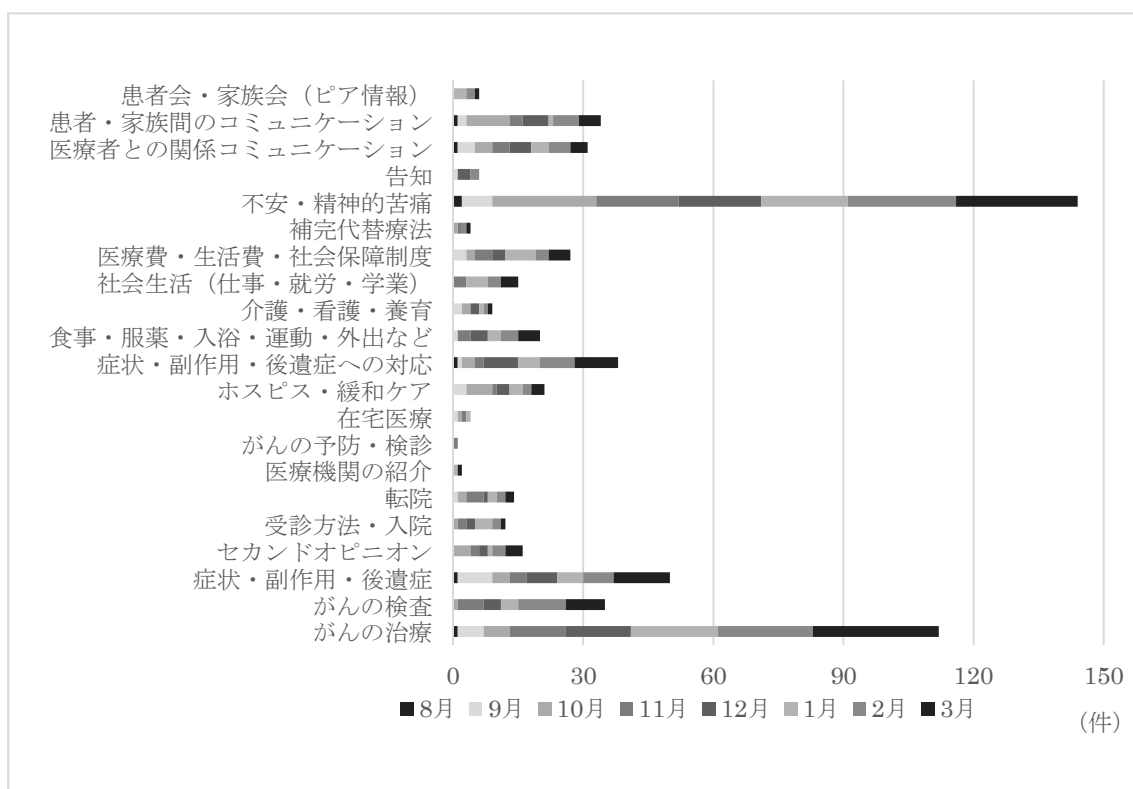
神奈川県がん診療連携指定病院の指定要件で、平成 28 年 8 月 25 日に開設しました。がん専門相談員が、がん患者や家族等、国民対象に、科学的根拠があり信頼できる情報提供を行うことで、その人らしい生活や治療選択ができるように支援しています。

ア 相談件数 (平成 28 年 8 月 25 日～平成 29 年 3 月 31 日)



相談件数は、徐々に増加傾向にあります。

イ 相談内容(複数回答) (平成 28 年 8 月 25 日～平成 29 年 3 月 31 日)



病状・治療・生活について考えが混乱して不安な気持ちで相談室に来る方が多い傾向です。次に、がんの治療、症状や副作用や後遺症への対応等になっています。

(3) 医療相談室の概況

平成 28 年 9 月、事務室が 3 階に移動となり、相談窓口が 1 階になりました。1 階の相談窓口では、社会福祉職のほかに非常勤事務職員やがん相談員なども常時待機しております。

平成 28 年度の医療福祉相談の援助内容として「転院・他施設入所等援助」72%が最も多く、続いて「福祉的サービス活用援助」7%となっております(図1)。「転院・他施設援助」の退院先は、リハビリ病棟が最も多く、医療療養病棟、緩和ケア病棟、地域包括ケア病棟は、ほぼ同数でした。しかし、相談を進めていく中で死亡されてしまうケースや気持ちや病状の変化、経済的事情等で在宅生活を選ばれるケースも多くありました(図2)。

その他の業務の取扱い件数は、生活保護入院時申請援助が昨年に比べて約 30 件の減少となっております。医療通訳派遣システム事業調整は、年々増加傾向にあり、特に今年度は昨年度に比べ約 100 件の増加でした。派遣言語では中国語が最も多く、次いで英語、スペイン語の順となっております。重症心身障害児者短期入所利用者の多くは年度内に複数回の利用を行っており、在宅生活を送る上で貴重な社会資源の役割を担っていると感じております(表 1)。

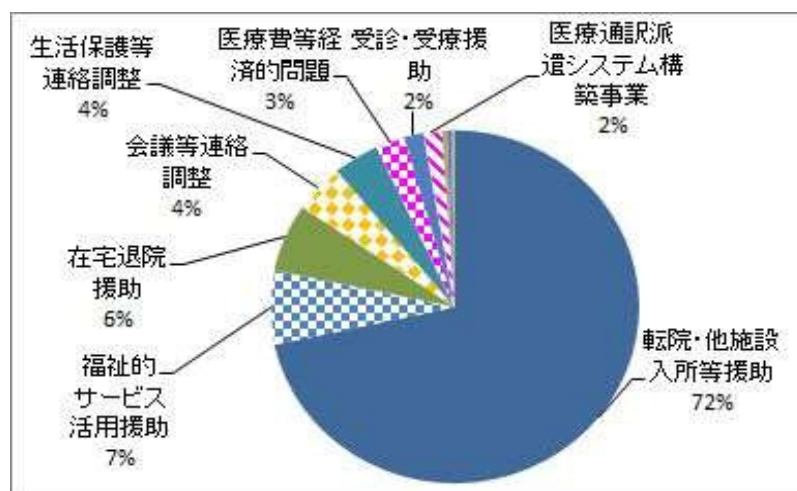


図 1 28 年度援助内容別集計 (27,969 件)

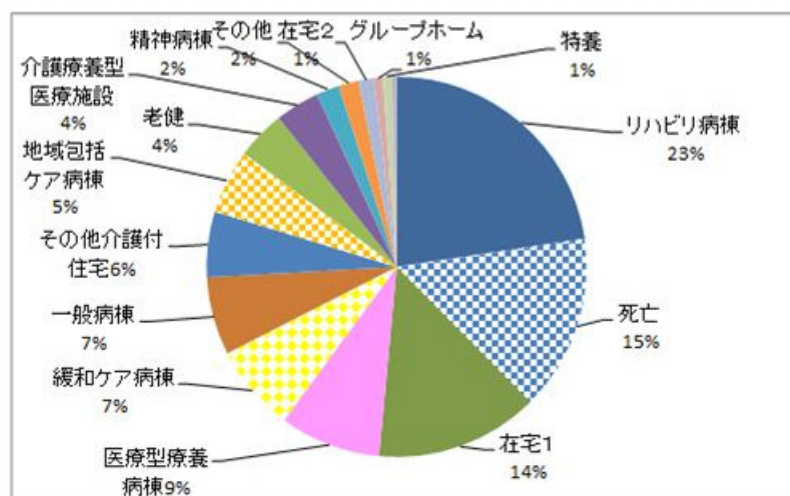


図 2 年度退院支援実績 (768 件)

表1 その他主な業務の取扱い件数の推移

(単位：件)

取扱い業務		27年度	28年度
生活保護入院時申請援助	住所不定	20	20
	生活困窮	34	34
生活保護日用品費		67	50
重症心身障害児者短期入所		32	33
医療通訳派遣システム事業調整		569	675
児童虐待連絡検討会		2	3

10 医療安全管理室

医療安全管理室は、安全な医療の提供と医療の質の向上を目的に、医療安全管理体制の確立及び医療事故の予防並びにインシデントの再発防止対策を推進しています。

平成 27 年 10 月から開始された医療事故調査制度に向けた体制整備としては、平成 28 年度は死亡事例に関しては院長、医療安全管理室との情報共有を行ないながら 6 件の死亡事例検討会を行ないました。また、インシデントレポートシステムの更新に伴い、インシデントレベルの変更と合併症・併発症の用語の定義を整理するとともに各部署から報告されるインシデントレポート件数は年間 4,000 件前後になりますが、報告されたレポートを集計・分析し医療安全関連の委員会で検討しています。さらに、警鐘事例や共有事例については再発防止策を立案し周知する必要があり、薬剤部や検査科・ME センター等、他部門・他職種と連携しながら改善策を示しています。医療機器の安全使用については、機器別に毎年勉強会を企画して医療機器の設定や管理について知識・技術の向上を目指しています。院内のシステム改善としては、システム運用検討部会と協同し電子カルテ上の課題について検討・整備を行っています。

昨今、社会的な問題である院内暴力・暴言対策としましては、職員衛生委員会と協同し暴力暴言対応マニュアル改訂、暴力・暴言対応研修の企画、運営を行っています。平成 28 年度は院外講師を招いて全職員対象研修と管理職対象の実践型研修を行い、組織対応能力の向上に向けた整備を進めております。

医療行為を実施するに当たっては、患者・家族の意思を尊重し納得の得られる説明と同意が不可欠です。医療者と患者・家族間では情報量に差があり、医療者には理解しやすい表現で丁寧に説明する義務があります。平成 28 年度は各診療科と調整しながら説明・同意書の順次改訂を行いました。

医療安全を推進するためには、他職種が連携し、専門性を発揮しながらチーム医療として力を高める必要があります。平成 27 年度から開始した医療安全ラウンドは各種医療チームとの組織横断的な情報共有に役立ち、現場での課題などを検討する機会となっております。また、事例検討会や合同カンファレンスの開催等、全職員が医療安全と医療の質の向上に努めています。

(1) 平成28年度インシデントレポート件数

	平成 27 年度	平成 28 年度	増減	平成 28 年度 構成比
薬剤	1,665	1520	▼145	39%
輸血	19	37	△18	1%
治療・処置	373	528	△155	13%
医療機器等の使用・管理	116	133	△17	3%
ドレーン・チューブ類等の使用・管理	608	428	▼180	11%
検査	284	416	△132	11%
療養上の場面	698	818	△120	21%
その他	367	24	▼343	1%
合計	4,130	3904	▼226	100%

* 複数の職員からレポートの提出があった場合は、1件として集計しています。

(2) 主な改善項目

	項目	目的 改善内容
治療・処置	電子カルテ	<ul style="list-style-type: none"> ● 化学療法に関連した薬剤の表示の改善
療養生活	暴言暴力への対応	<ul style="list-style-type: none"> ● 暴力・暴言マニュアル改訂 ● 暴力・暴言発生時の対応体制の整備 ● 暴力・暴言対応研修（全職員対象講義研修、管理監督者実践型研修）
	安全への取組	<ul style="list-style-type: none"> ● 手術室（筋弛緩剤専用シリンジの導入） ● 患者離院対策（ドアコールの設置）
	改訂及び新規作成	<ul style="list-style-type: none"> ● 暴力・暴言発生時連絡先フローを作成、各部署に掲示 （相談員暴力・暴言専用 PHS6110 対応）
マニュアル		<ul style="list-style-type: none"> ● ドレーン・チューブ管理マニュアル（気管切開カニューレ） 改訂

11 DMAT活動

川崎病院は神奈川 DMAT 指定病院に指定されており、災害医療における専門的な技術や知識を備えた職員が勤務しています。また、国内で起きた災害において、神奈川DMATとして派遣され、現場で活動した実績もあります。

平成 28 年度は 4 月 14 日に発生した熊本地震に対し、厚生労働省DMAT事務局より 4 月 17 日に神奈川県DMATに派遣要請があり、4 月 18 日より 21 日まで、熊本県内で発生した地震災害による急性期災害医療ニーズの対応、支援を行うため、医師 1 名、看護師 2 名、業務調整員 2 名によるチームが派遣されました。現地では阿蘇医療センターや阿蘇中学校などで、本部の業務調整補助、阿蘇医療センターへの支援調整、病院診療支援および避難所スクリーニングを行いました。

平成 28 年度の主な活動内容は次のとおりです。

活動日	活動内容	活動場所
平成 28 年 4 月 18～21 日	熊本地震派遣	熊本県
平成 28 年 7 月 31 日	東急武蔵小杉駅訓練	東急武蔵小杉駅
平成 28 年 8 月 6 日	大規模地震時医療活動訓練	東海地区
平成 28 年 8 月 28 日	川崎市総合防災訓練	多摩区
平成 28 年 9 月 11 日	ビッグレスキューかながわ	横須賀
平成 28 年 11 月 8 日	東扇島訓練	東扇島
平成 28 年 11 月 26～27 日	関東ブロック訓練	埼玉県
平成 28 年 12 月 3 日	浮島ジャンクション派遣	浮島ジャンクション
平成 28 年 12 月 3～4 日	神奈川 DMAT - L 隊員養成 研修	横浜労災病院
平成 28 年 12 月 10 日	災害医療対応訓練	川崎病院
平成 29 年 1 月 22 日	横浜市東部病院訓練	横浜市東部病院
平成 29 年 1 月 24 日	川崎 DMAT 隊員養成研修	川崎市
平成 29 年 2 月 26 日	川崎区訓練	川崎区
平成 29 年 3 月 15 日	本部警防訓練	高津区
通年	災害対策本部運営マニュアル 改訂班	
通年	水害対策ワーキンググループ	

12 定例院内会議

(1) 三役会議

病院長、事務局長、担当理事①、副院長④、担当部長、庶務課長、医事課長 週1回

(2) 運営会議

病院長、事務局長、担当理事②、副院長④、各科部・課(科)長、担当部・課(科)長
月2回

(3) 各種委員会

(平成29年3月1日現在)

番号	委員会名 活動内容	委員長名	役職名	統括 開催予定
1	倫理委員会 (脳死判定委員会) *医療行為に関し、倫理的・社会的観点から審査等を行う。	宮川 俊一 (竹中 信夫)	副院長 (副院長)	宮川副院長 (竹中副院長) 必要に応じて開催
2	職員服務委員会 *職員の服務の確立と不祥事故防止の徹底を図る。	成松 芳明	病院長	病院長 必要に応じて開催
3	病院(経営)改善委員会 (DPC コーディング部会) (県がん診療連携指定病院準備委員会) *経営改善及び調査等を行い検討する。	成松 芳明 (野崎 博之) (夏 錦言)	病院長 (内科部長) (小児外科部長)	病院長 (病院長) (病院長) 必要に応じて開催
4	病院機能再編推進委員会 (救急医療再編推進部会) (外来化学療法室再編推進部会) (内視鏡センター再編推進部会) (外来機能再編推進部会) (手術室・ICU再編推進部会) (周産期・小児医療再編推進部会) (検査部門再編推進部会) (事務部門再編推進部会) *病院内の各部署の再編について調査及び検討する。	大曾根 康夫 (田熊 清継) (澤藤 誠) (相浦 浩一) (野崎 博之) (森田 慶久) (土橋 隆俊) (倉田 忠宣) (勝野 隆)	副院長 (救命救急センター所長) (呼吸器外科部長) (内視鏡センター所長) (内科部長) (麻酔科部長) (小児科部長) (放射線診断科部長) (庶務課長)	大曾根副院長 (大曾根副院長) (大曾根副院長) (大曾根副院長) (大曾根副院長) (大曾根副院長) (大曾根副院長) (大曾根副院長) (大曾根副院長) 月1回
5	防火防災管理委員会 *消防法に基づき、院内の防災対策を検証及び推進する。	成松 芳明	病院長	病院長 必要に応じて開催
6	医療安全管理委員会 (医療安全管理部会) *医療事故を防止し、安全かつ適切な医療体制を確立する。	宮川 俊一 (萬谷 京子)	副院長 (乳腺外科部長)	宮川副院長 (宮川副院長) 月1回
7	職員衛生委員会 *職員の労働衛生に関する事項を調査審議し、衛生管理の推進を図る。	大曾根 康夫	副院長	大曾根副院長 月1回
8	院内感染対策委員会 (感染対策部会) (感染対策チーム) *院内感染の防止のため、諸問題を調査及び審議する。	坂本 光男 (細田 智弘) (坂本 光男)	感染症内科部長 (感染症内科副医長) (感染症内科部長)	宮川副院長 (宮川副院長) (宮川副院長) 月1回
9	医療ガス安全管理委員会 *高圧ガス保守法に基づき、院内医療ガスの安全を検証及び推進する。	佐山 宏一	呼吸器内科部長	病院長 年2回
10	放射線安全委員会 *放射線障害の防止について、必要事項を調査及び審議する。	成松 芳明	病院長	病院長 年1回
11	個人情報管理委員会 (診療録等開示検討部会) *診療記録及び診療報酬明細書の開示を行うために、必要な事項を検討する。	大曾根 康夫 (今西 智之)	副院長 (脳神経外科部長)	大曾根副院長 (竹中副院長) 必要に応じて開催
12	診療録管理委員会 *診療録の管理と診療情報の提供を行うために、必要事項を検討する。	土橋 隆俊	小児科部長	竹中副院長 月1回
13	給食委員会 *栄養業務及び給食業務の管理運営について検討する。	有馬 功一郎	血液透析室長	宮川副院長 月1回
14	治験審査委員会・臨床研究倫理審査委員会 *治験を行うことの適否、その他治験に関する調査及び審議する。	小柳 貴裕	整形外科部長	番場担当理事 月1回
15	輸血療法委員会 *輸血関連業務等の必要事項を検討する。	市東 昌也	消化器外科部長	竹中副院長 隔月
16	臨床検査業務検討委員会 *臨床検査の精度管理を行う。	杉浦 仁	検査科部長	病院長 必要に応じて開催
17	業務改善委員会 *職場環境を整え、患者サービスの充実と医療の向上を図るために、必要事項を検討する。	宮川 俊一	副院長	宮川副院長 月1回
18	機種選定委員会 *購入する医療用器機の仕様の決定又は機種の選定を行う。	竹中 信夫	副院長	竹中副院長 必要に応じて開催
19	クリニカルパス検討委員会 *チーム医療の機能と効率性を高めるために、必要事項を検討する。	津村 和 大	糖尿病内科部長	大曾根副院長 隔月
20	廃棄物管理委員会 *院内の環境保全を図るとともに、感染性廃棄物による感染事故防止を目的とする。	西澤 健也	冠疾患集中治療室長	宮川副院長 必要に応じて開催
21	薬事委員会 *薬事全般に関する事項について審議する。	飯島 尚志	薬剤部長	宮川副院長 月1回
22	保険委員会 *診療報酬の請求に対する査定等について検討し、経営効率の向上に努める。	成松 芳明	病院長	病院長 月1回

番号	委員会名 活動内容	委員長名	役職名	統括 開催予定
23	情報システム管理委員会 (システム運用検討部会) *医療情報システムの管理及び運用について検討する。	野崎博之 (榎林 敦)	内科部長 (小児科医長)	大曾根副院長 (大曾根副院長) 必要に応じて開催
24	手術部委員会 (外来手術室部会) *手術部門の安全かつ円滑な運営をするために、必要事項の検討、調査審議及び提言を行う。	竹中信夫 (掛札 敏裕)	副院長 (外科部長)	竹中副院長 (竹中副院長) 月1回
25	ICU・CCU運営委員会 *ICU・CCUの安全管理と集中治療室としての機能を発揮できる運営を推進する。	森田慶久	麻酔科部長	竹中副院長 年4回
26	医療材料等委員会 *医療材料等の採用・死蔵化の防止、使用の効率化及び試用に関する事項を検討する。	末吉浩一郎	循環器内科部長	宮川副院長 月1回
27	地域医療連携推進・強化委員会 (地域連携部会) *病院と地域の連携を図り、情報の共有化及びネットワーク作りを検討及び推進する。	中道憲明 (中田 さくら)	整形外科担当部長 産科部長・婦人科部長	大曾根副院長 大曾根副院長 月1回
28	褥瘡対策委員会 *褥瘡対策を討議し、その効率的な推進を図る。	宮川俊一	副院長	宮川副院長 月1回
29	救急医療運営委員会 (災害時医療等専門部会) (DMAT作業部会) (院内救急部会) (当直業務検討部会) *救急部門及び災害時医療対策について、必要事項を検討する。	田熊清継 (竹村 成秀) (竹村 成秀) (齋藤 豊) (掛札 敏裕)	救命救急センター所長 (救命救急センター医長) (救命救急センター医長) (救命救急センター副医長) (外科部長)	田熊所長 田熊所長 田熊所長 田熊所長 田熊所長 月1回
30	化学療法委員会 *外来治療センターの運営に関する必要事項を検討する。	澤藤 誠	呼吸器外科部長	竹中副院長 月1回
31	物流運営委員会 *院内の輸送設備を効率よく運用することを検討する。	染谷 健一	婦人科担当部長	病院長 必要に応じて開催
32	保育室運営委員会 *保育室の運営に関する事項を検討する。	高木 英恵	肝臓内科部長	事務局長 必要に応じて開催
33	広報委員会 *広報雑誌とホームページの作成を中心に、病院の広報活動の推進を図る。	蜂谷 貴	心臓血管外科部長	病院長 年1回
34	接遇教育委員会 *職員の接遇教育の充実を図り、患者サービスの充実と医療の質向上を図る。	網嶋 たかえ	副院長・看護部長	網嶋副院長 隔月
35	ボランティア推進委員会 *ボランティア活動を円滑化して、患者サービスの充実及び向上を図る。	網嶋 たかえ	副院長・看護部長	網嶋副院長 隔月
36	精神科救急医療検討委員会 *精神科救急医療を円滑に実施するために、必要事項を検討する。	齋藤 寿昭	精神科部長	田熊所長 必要に応じて開催
37	病院機能評価検討委員会 *病院機能評価の受審等に関する事項について検討する。	掛札 敏裕	外科部長	竹中副院長 必要に応じて開催
38	医療機器安全管理委員会 *医療機器の安全使用のための情報収集、医療機器の安全使用のための研修の策定及び実施、医療機器の保守点検の計画の策定	森田慶久	麻酔科部長	病院長 隔月
39	糖尿病診療連携委員会 *糖尿病の診療連携について検討する。	津村 和 大	糖尿病内科部長	大曾根副院長 月1回
40	チーム医療推進委員会 (SCU部会) (栄養サポートチーム(NST)) (呼吸器ケア部会) (緩和ケア部会) (緩和ケアチーム) *チーム医療について討議し、その効率的な推進を図る。	竹中信夫 (竹中 信夫) (阿部 玲音) (森田 慶久) (齋藤 寿昭) (夏 錦言)	副院長 (副院長) (リハビリテーション科部長) (麻酔科部長) (精神科部長) (小児外科部長)	竹中副院長 (竹中副院長) (竹中副院長) 病院長 大曾根副院長 大曾根副院長 必要に応じて開催
41	外来診療委員会 *外来診療について検討する。	今西 智之	脳神経外科部長	宮川副院長 隔月
42	虐待対策委員会 *児童虐待に関する諸問題を調査及び審議する。	土橋 隆 俊	小児科部長	田熊所長 必要に応じて開催
43	行動制限最小化委員会 *精神科入院患者の隔離・拘束・通信制限などにつきその妥当性を検討する。	齋藤 寿昭	精神科部長	宮川副院長 月1回
44	内視鏡委員会 *医療従事者の診療検査体制及び診療情報共有による質の高い円滑な医療提供を図る。	相浦 浩一	内視鏡センター所長	宮川副院長 隔月
45	教育研究委員会 (研修管理委員会) (教育部会) (研究部会) (図書部会) (年報編集部会) *研修医の教育支援と管理、臨床研究支援、図書の整備、業績管理を行う。	番場 正博 (小宮 浩一郎) (原 智) (津村 和 大) (玉井 博修) (田邊 雅史)	教育指導部長 整形外科担当部長 泌尿器科部長 糖尿病内科部長 消化器内科部長 事務局長	番場担当理事 番場担当理事 番場担当理事 番場担当理事 番場担当理事 番場担当理事 必要に応じて開催
46	精神科身体合併症管理委員会 *精神科身体合併症患者の診察・治療において院内連携を円滑にするための調整を行う。	齋藤 寿昭	精神科部長	宮川副院長 月1回
47	医師負担軽減処遇改善委員会 *医師の負担軽減及び処遇の改善に資する計画の作成や達成状況の評価等を行う。	番場 正博	担当理事	番場担当理事 年2回

Ⅲ 診療業務概要

1 平成28年度外来患者状況

(H28.4~29.3)

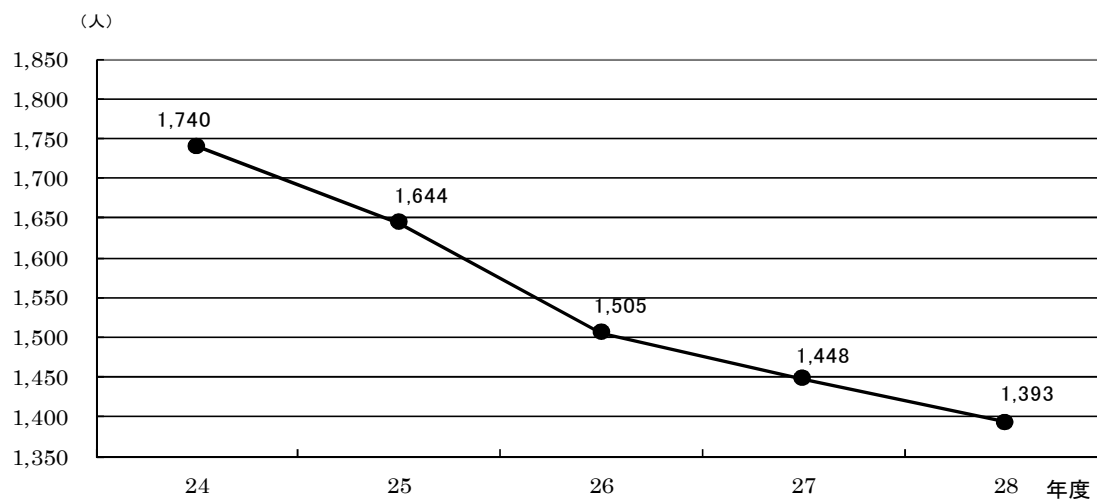
科 別	新 患	一日平均	再 来	一日平均	患者延数	一日平均	比 率 (%)	平均通院 日 数
内 科	9,694	39.9	96,584	397.5	106,278	437.4	31.4	11.0
精 神・神 経 科	422	1.7	18,509	76.2	18,931	77.9	5.6	44.9
小 児 科	10,916	44.9	18,457	76.0	29,373	120.9	8.7	2.7
外 科	1,080	4.4	27,627	113.7	28,707	118.1	8.5	26.6
脳 神 経 外 科	511	2.1	5,078	20.9	5,589	23.0	1.7	10.9
整 形 外 科	3,047	12.5	27,043	111.3	30,090	123.8	8.9	9.9
形 成 外 科	461	1.9	2,446	10.1	2,907	12.0	0.9	6.3
心 臓 血 管 外 科	38	0.2	2,304	9.5	2,342	9.6	0.7	61.6
皮 膚 科	1,517	6.2	18,464	76.0	19,981	82.2	5.9	13.2
泌 尿 器 科	766	3.2	16,236	66.8	17,002	70.0	5.0	22.2
産 婦 人 科	2,851	11.7	22,456	92.4	25,307	104.1	7.5	8.9
眼 科	410	1.7	9,467	39.0	9,877	40.6	2.9	24.1
耳 鼻 い ん こ う 科	1,540	6.3	10,264	42.2	11,804	48.6	3.5	7.7
リハビレテーション科	7	0.0	3,833	15.8	3,840	15.8	1.1	548.6
放 射 線 科	241	1.0	6,014	24.7	6,255	25.7	1.8	26.0
歯 科 口 腔 外 科	2,676	11.0	11,780	48.5	14,456	59.5	4.3	5.4
救 命 救 急 セ ン タ ー	3,017	12.4	2,767	11.4	5,784	23.8	1.7	1.9
小 計	39,194	161.1	299,329	1,232.0	338,523	1,393.0	100.0	8.6

注：小数点以下の端数処理の関係で、合計が一致しない場合がある。

診療日数243日

平均通院日数 = $\frac{\text{患者延数}}{\text{新患者数}}$

外来患者数(1日平均)



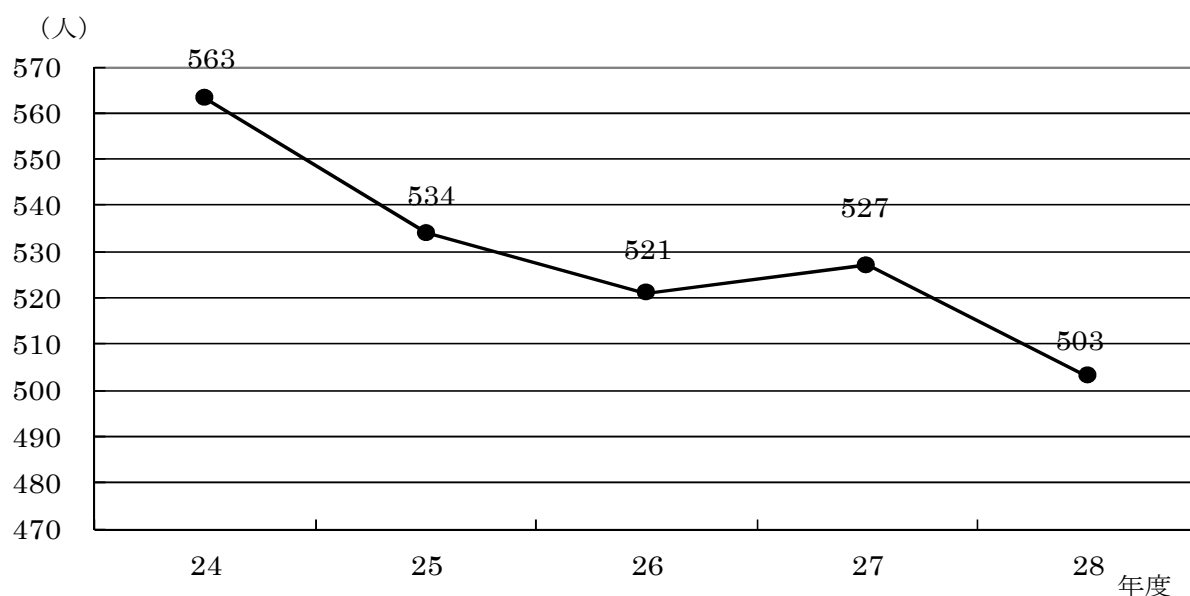
2 平成28年度入院患者状況

(H28.4～H29.3)

科 別	前年度 繰越	入 院	退 院	死亡 (再掲)	次年度 繰越	患者延数	一日平均	比 率 (%)	平均入院 日 数
内 科	186	4,736	4,679	283	178	78,804	215.9	42.9	16.7
小 児 科	31	1,634	1,633	2	27	12,280	33.6	6.7	7.5
外 科	50	1,598	1,664	49	33	20,614	56.5	11.2	12.6
脳神経外科	13	193	213	8	6	3,856	10.6	2.1	19.0
整形外科	49	1,044	1,096	3	44	18,408	50.4	10.0	17.2
形成外科	1	86	92	0	1	766	2.1	0.4	8.6
心臓血管外科	3	121	118	3	9	1,854	5.1	1.0	15.5
皮膚科	6	167	169	2	6	2,764	7.6	1.5	16.5
泌尿器科	17	741	750	12	14	6,710	18.4	3.7	9.0
産婦人科	36	2,076	2,083	3	30	15,674	42.9	8.5	7.5
眼 科	2	272	276	0	0	1,062	2.9	0.6	3.9
耳鼻咽喉科	12	326	338	5	12	4,460	12.2	2.4	13.4
リハビリ科	0	0	0	0	0	0	0.0	0.0	0.0
放射線科	0	6	4	0	0	26	0.1	0.0	5.2
歯科口腔外科	1	102	101	0	5	693	1.9	0.4	6.8
救命救急センター	26	846	748	289	16	7,112	19.5	3.9	8.9
小 計	433	13,948	13,964	659	381	175,083	479.7	95.4	12.5
感 染 症	0	0	0	0	0	0	0.0	0.0	0.0
感染小児科	0	0	0	0	0	0	0.0	0.0	0.0
精 神 科	27	253	298	0	17	8,423	23.1	4.6	29.3
合 計	460	14,201	14,262	659	398	183,506	502.8	100.0	12.9

注:小数点以下の端数処理の関係で、合計が一致しない場合がある。

入院患者数(1日平均)



3 病棟の利用状況

(1) 病棟別患者数

病棟名	病床数		延病床数		入院患者 延 数	前 月 繰越患者	入 院	転 入
	公 称	稼 動	公 称	稼 動				
14 階 北	52	42	18,980	15,330	14,334	36	664	193
14 階 南	51	46	18,615	16,790	15,580	41	683	204
13 階 北	51	46	18,615	16,790	13,996	36	907	430
13 階 南	53	48	19,345	17,520	15,913	40	641	183
12 階 北	51	46	18,615	16,790	13,739	35	1,478	96
12 階 南	53	48	19,345	17,520	15,020	37	699	239
11 階 北	53	48	19,345	17,520	13,590	29	1,050	169
11 階 南	53	48	19,345	17,520	13,677	28	956	215
10 階 北	53	48	19,345	17,520	14,737	42	834	106
10 階 南	52	47	18,980	17,155	13,410	23	1,130	72
精 神	38	33	13,870	12,045	8,423	27	253	44
9 階 南	20	20	7,300	7,300	4,748	11	1,463	134
9 階 西 感 染	12	12	4,380	4,380	976	5	129	51
8 階 北	44	42	16,060	15,330	10,854	30	1,430	2
8 階 南	41	41	14,965	14,965	9,126	18	1,515	14
G C U	18	18	6,570	6,570	2,011	9	124	120
N I C U	6	6	2,190	2,190	1,922	6	131	0
I C U・C C U	12	8	4,380	2,920	1,450	7	105	557
合 計	713	647	260,245	236,155	183,506	460	14,192	2,829
新 生 児	0	0	0	0	6,691	16	1,135	0

(稼動日数 365 日)

(2) 年間病床利用状況

病棟名	病床数		延病床数		入院患者 延 数	前 月 繰越患者	入 院	転 入
	公 称	稼 動	公 称	稼 動				
一 般	663	602	241,995	219,730	175,080	433	13,938	2,785
感 染 症	12	12	4,380	4,380	0	0	0	0
精 神	38	33	13,870	12,045	8,423	27	253	44
合 計	713	647	260,245	236,155	183,503	460	14,191	2,829
新 生 児	0	0	0	0	6,691	16	1,135	0

(稼動日数 365 日)

注:小数点以下の端数処理の関係で、合計が一致しない場合がある。

(H28.4. 1~29.3.31)

退 院	転 出	期 末 患者数	一日平均	病床利用率 (%)		平均在院 日 数	死亡	健全化用 平均在院日数
				公 称	稼 働			
828	33	32	39.3	75.5	93.5	18.1	56	18.1
840	52	36	42.7	83.7	92.8	19.4	73	19.4
1,122	222	29	38.3	75.2	83.4	12.7	32	12.7
785	43	36	43.6	82.3	90.8	21.2	53	21.2
1,515	60	34	37.6	73.8	81.8	8.2	18	8.2
858	81	36	41.2	77.6	85.7	18.2	31	18.2
1,130	95	23	37.2	70.3	77.6	11.4	39	11.4
1,009	162	28	37.5	70.7	78.1	12.9	34	12.9
890	59	33	40.4	76.2	84.1	16.1	2	16.1
1,172	29	24	36.7	70.7	78.2	10.6	9	10.6
298	9	17	23.1	60.7	69.9	29.5	0	29.5
499	1,100	9	13.0	65.0	65.0	5.3	281	4.3
71	111	3	2.7	22.3	22.3	9.1	3	9.1
1,433	4	25	29.7	67.6	70.8	6.6	0	6.6
1,525	3	19	25.0	61.0	61.0	5.0	1	5.0
248	1	4	5.5	30.6	30.6	9.5	0	9.5
12	119	6	5.3	87.8	87.8	26.7	1	26.7
20	645	4	4.0	33.1	49.7	22.9	18	22.9
14,255	2,828	398	502.8	70.5	77.7	11.9	651	11.9
1,140	0	11	18.3			4.9		4.9

(H28.4. 1~29.3.31)

退 院	転 出	期 末 患者数	一日平均	病床利用率 (%)		平均在院 日 数	死亡	健全化用 平均在院日数
				公 称	稼 働			
13,957	2,818	381	479.7	72.3	79.7	11.6	651	11.6
0	0	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0	0.0
298	9	17	23.1	60.7	69.9	29.5	0	29.5
14,255	2,827	398	502.7	70.5	77.7	11.9	651	11.9
1,140	0	11	18.3			4.9	0	4.9

$$\text{平均在院日数} = \frac{\text{患者延数}}{\frac{\text{入院+退院}}{2}}$$

2

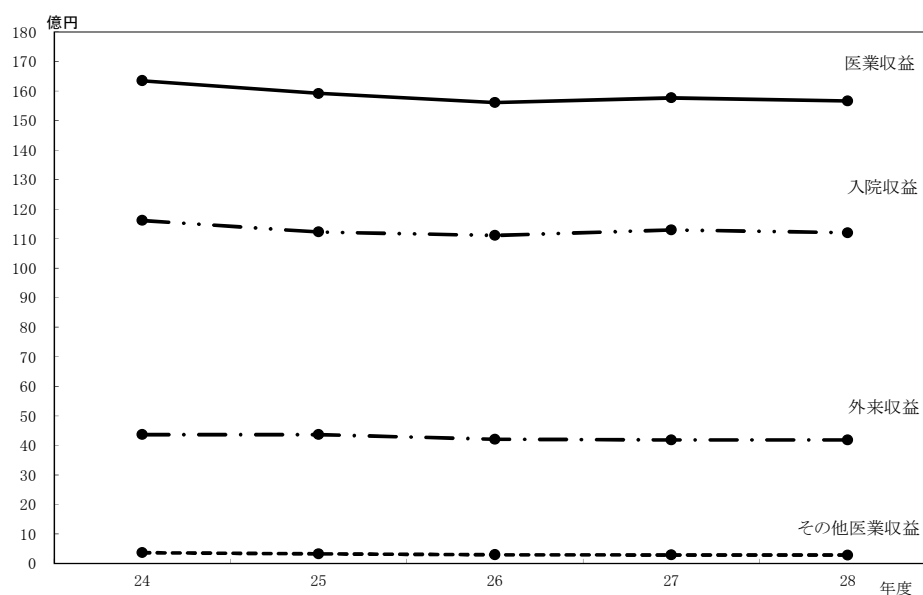
4 科別収益状況

科別の収益状況は、平成27年度の医業収益に対し平成28年度の医業収益は、外来収益が0.1%の減収、入院収益は0.8%の減収で、その他医業収益は2.4%の減収となりました。医業収益全体では、率で0.7%、額で約1億6千万円の減収となりました。

(H28.4～H29.3) (単位：千円)

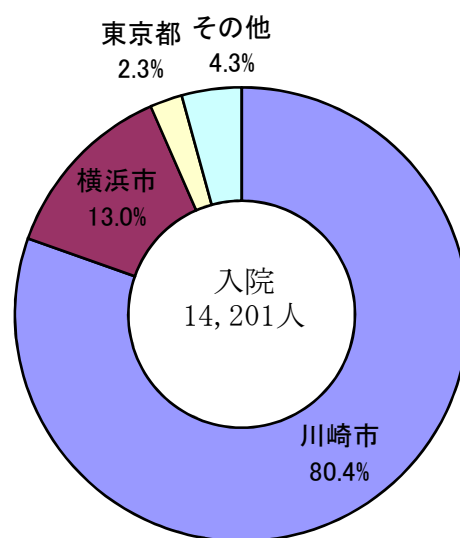
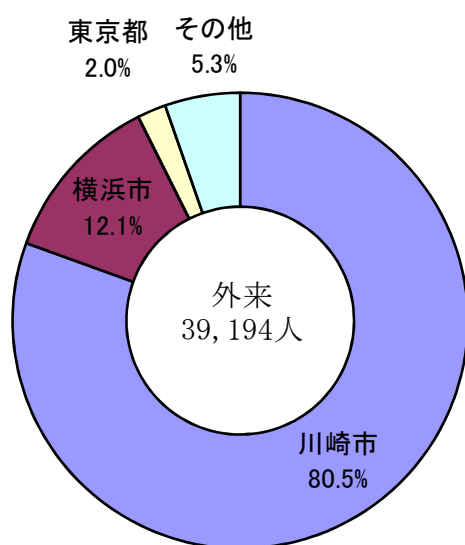
科 別	外 来		入 院		そ の 他 医業収益額	合 計	
	収益額	構成比率 (%)	収益額	構成比率 (%)		収益額	構成比率 (%)
内 科	1,797,907	43.0	4,101,418	36.6	—	5,899,325	37.7
精 神 科	118,194	2.8	226,475	2.0	—	344,669	2.2
小 児 科	380,548	9.1	811,207	7.2	—	1,191,754	7.6
外 科	464,662	11.1	1,532,759	13.7	—	1,997,420	12.8
脳 神 経 外 科	81,269	2.0	365,206	3.3	—	446,474	2.9
整 形 外 科	205,485	4.9	1,320,290	11.8	—	1,525,775	9.7
形 成 外 科	21,186	0.5	51,783	0.5	—	72,968	0.5
心 臓 血 管 外 科	17,808	0.4	375,755	3.4	—	393,563	2.5
皮 膚 科	66,673	1.6	97,375	0.9	—	164,048	1.0
泌 尿 器 科	245,111	5.9	435,894	3.9	—	681,005	4.3
産 婦 人 科	295,563	7.1	950,717	8.5	—	1,246,281	8.0
眼 科	96,787	2.3	102,708	0.9	—	199,495	1.3
耳 鼻 い ん こ う 科	90,122	2.2	247,457	2.2	—	337,579	2.2
リハビリテーション科	14,550	0.3	0	0.0	—	14,550	0.1
放 射 線 科	113,841	2.7	3,381	0.0	—	117,222	0.7
歯 科 ・ 口 腔 外 科	78,039	1.9	38,316	0.3	—	116,355	0.7
救命救急センター	92,854	2.2	539,161	4.8	—	632,014	4.0
感 染 症	—	—	0	0.0	—	0	0.0
その他医業収益	—	—	—	—	283,573	283,573	1.8
合 計	4,180,597	100.0	11,199,900	100.0	283,573	15,664,069	100.0

年度別収益グラフ



5 地区別新患外来・入院患者数

地区	区名	患者総数 (人)		構成比率 (%)		患者数及び比率	
		外 来	入 院	外 来	入 院	外 来	入 院
川 崎 市	川崎区	21,922	7,927	55.9%	55.8%	31,565 80.5%	11,421 80.4%
	幸区	7,101	2,674	18.1%	18.8%		
	中原区	1,603	466	4.1%	3.3%		
	高津区	474	174	1.2%	1.2%		
	宮前区	244	94	0.6%	0.7%		
	多摩区	164	59	0.4%	0.4%		
	麻生区	57	27	0.1%	0.2%		
市 外	横浜市	4,735	1,847	12.1%	13.0%	7,629 19.5%	2,780 19.6%
	東京都	801	327	2.0%	2.3%		
	その他	2,093	606	5.3%	4.3%		
合計		39,194	14,201	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%



6 救急患者取扱状況

(1) 月別取扱状況

(H28.4～29.3) (単位：人又は台)

区分	交通事故	一般負傷	自損行為	急病	分娩	その他	合計	来院方法別患者数			
								救急車	パトカー	その他	合計
4月	21	143	2	1,807	45	74	2,092	416	1	1,675	2,092
5月	33	130	1	2,059	38	80	2,341	416	5	1,920	2,341
6月	30	146	1	1,696	41	63	1,977	403	3	1,571	1,977
7月	24	146	7	2,159	36	106	2,478	461	0	2,017	2,478
8月	17	166	5	1,618	49	79	1,934	425	2	1,507	1,934
9月	15	159	3	1,872	47	55	2,151	409	3	1,739	2,151
10月	13	172	5	1,972	48	86	2,296	406	2	1,888	2,296
11月	16	168	4	1,975	51	76	2,290	422	3	1,865	2,290
12月	11	164	0	2,429	44	94	2,742	449	2	2,291	2,742
1月	11	181	3	2,344	55	88	2,682	427	1	2,254	2,682
2月	16	116	0	1,530	39	83	1,784	343	0	1,441	1,784
3月	20	145	5	1,289	50	106	1,615	378	2	1,235	1,615
計	227	1,836	36	22,750	543	990	26,382	4,955	24	21,403	26,382
構成比率 (%)	0.9	7.0	0.1	86.2	2.1	3.8	100.0	18.8	0.1	81.1	100.0

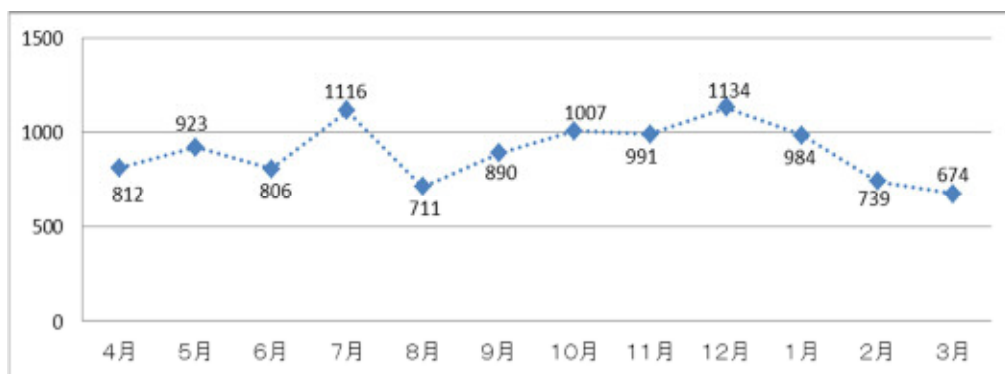
(2) 科別取扱状況

(H28.4～29.3) (単位：人)

区分	科別	内科	神経	小児科	外科	脳外科	整形	形成	心臓	皮膚	泌尿	産婦人科	眼科	耳鼻	リハビリ	放射	口外	救命救急	計
		外来	患者数	6,498	24	10,334	143	141	1,088	138	3	262	74	99	111	646	15	36	466
	構成比率 (%)	28.2	0.1	44.8	0.6	0.6	4.7	0.6	0.0	1.1	0.3	0.4	0.5	2.8	0.1	0.2	2.0	12.9	100
入院	患者数	768	22	455	79	8	37	0	1	1	8	680	0	13	0	0	2	1,391	3,465
	構成比率 (%)	22.2	0.6	13.1	2.3	0.2	1.1	0.0	0.0	0.0	0.2	19.6	0.0	0.4	0.0	0.0	0.1	40.1	100
計	患者数	7,266	46	10,789	222	149	1,125	138	4	263	82	779	111	659	15	36	468	4,361	26,513
	構成比率 (%)	27.4	0.2	40.7	0.8	0.6	4.2	0.5	0.0	1.0	0.3	2.9	0.4	2.5	0.1	0.1	1.8	16.4	100.0

注：小数点以下の端数処理の関係で、合計が一致しない場合があります。

(3) 平成28年度小児急病センター患者受入状況



7 救命救急センターの業務状況

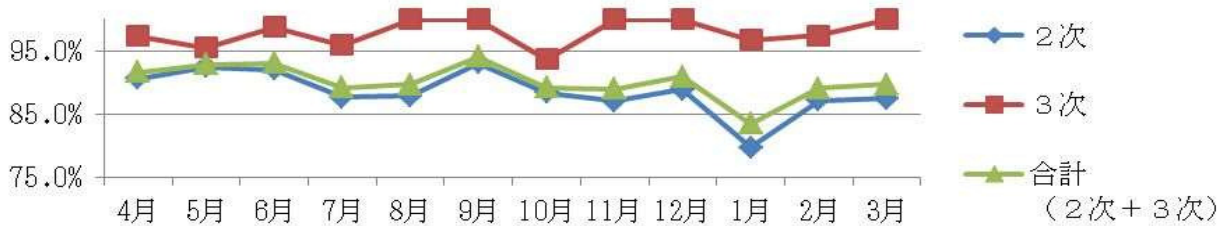
(1) 体制・施設規模（平成29年4月1日現在）

- ア 体制 医師（常勤11人、非常勤7人）／看護師（常勤66人、臨時職員5人）
- イ 施設規模 20床（ICU 4床、救急病床 16床）

(2) 受入状況

- ア 当院で救急車を受入れた救急車総数（6,686台）のうち、ホットライン経由で救急車を受入れた件数は、5,632台で、応需率は2次88.6%、3次97.9%、2次・3次合わせて90.1%になります。（平成28年度）

平成28年度月別救急車応需率



イ 平成28年度救命救急センター受入状況

総数	時間			救急隊						傷病分類				トリアージ区分				転帰												
	深夜	日勤	準夜	川崎南	川崎中	川崎北	横浜	東京	その他	内因性		外傷	CPA	1次 軽症	2次 中等症	3次		帰宅	入院						転送	死亡				
										うち入院	うち入院					重症	死亡確認		計	救命救急	内科	外科	整形	脳外			小児	その他		
合計	5,632	1,580	2,084	1,968	5,062	179	13	244	57	77	3,269	1,361	2,007	557	356	3,076	1,159	1,385	12	3,243	2,004	601	1,186	71	83	17	2	44	95	290
1月平均	469.3	131.6	173.6	164.0	421.8	14.9	1.1	20.3	4.8	6.4	272.4	113.4	167.3	46.4	29.7	256.3	96.6	115.4	1.0	270.3	167.0	50.1	98.8	5.9	6.9	1.4	0.2	3.7	7.9	24.2
1日平均	15.4	4.3	5.7	5.4	13.9	0.5	0.0	0.7	0.2	0.2	9.0	3.7	5.5	1.5	1.0	8.4	3.2	3.8	0.0	8.9	5.5	1.6	3.2	0.2	0.2	0.0	0.1	0.3	0.8	

ウ 平成28年度三次救急の内訳

（単位：人）

	計	重症脳血管障害	急性冠症候群・心不全	冠不全	肝不全	腎不全	多発外傷	急発中	急性中毒	意識障害	その他	CPA※心肺停止	CPAのうち蘇生成功数
年間	1,397	131	112	23	154	70	38	513	356	63			
1日平均	3.8	0.4	0.3	0.1	0.4	0.2	0.1	1.4	1.0	—			
傷病別割合	100.0%	9.4%	8.0%	1.7%	11.0%	5.0%	2.7%	36.5%	25.5%	—			

※受入全体中の死亡者数290人（救命救急センター受入全体の5.0%）

エ 平成28年度救命救急センター患者受入状況（件数）

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
489	480	474	494	514	459	457	464	492	482	395	432	5,632

8 専門外来及び診療相談

各科専門外来

科 別	内 容
内 科	リウマチ膠原病・痛風センター、循環器、呼吸器、糖尿病、消化器、腎臓、神経内科、内分泌、感染症
精 神 ・ 神 経 科	心理面接
小 児 科	心臓、循環器、神経、内分泌、代謝、予防接種、腎臓、呼吸器、精神衛生、フォローアップ、アレルギー、血液
新 生 児 内 科	フォローアップ、1か月健診
外 科	食道、胃、大腸、肛門、肝臓、胆嚢、膵臓、乳腺、血管、肺、小児外科
心 臓 血 管 外 科	不整脈・心房細動、ペースメーカー
整 形 外 科	外傷、リウマチ、骨粗しょう症、脊椎、（肩、肘、手、股、膝）関節外科
産 科 ・ 婦 人 科	手術診、子宮鏡、不妊症、ハイリスク妊娠、婦人科腫瘍フォローアップ
眼 科	網膜硝子体、白内障、光凝固、蛍光眼底、未熟児、視野
耳 鼻 咽 喉 科	頭頸部腫瘍、内視鏡、神経耳科、めまい、甲状腺
皮 膚 科	光線
泌 尿 器 科	自己導尿指導、フォローアップ、超音波検査、ストマ及び特殊検査、膀胱鏡
歯 科 口 腔 外 科	顎関節症、歯科矯正相談、うけ口、埋伏歯抜歯、歯科インプラント
リハビリテーション科	義肢装具、嚥下障害、ボトックス（痙縮治療）、高次脳機能障害、顔面神経麻痺、呼吸リハビリ、がんのリハビリ（リンパ浮腫など）

- 1 神奈川リウマチ友の会：関節リウマチや膠原病の患者を中心に組織し、リウマチ膠原病に関する知識の向上・会員相互の親睦を図ることを目的としています。昭和38年7月発足（当時40名）、昭和45年10月から「神奈川県リウマチ友の会」と改組し、事業として会誌の発行や講演会を開催し、日本リウマチキャンペーンの一翼となっています。
- 2 かわびょう糖友会（糖尿病友の会）：糖尿病の治療及び予防に関する知識の普及並びに会員の福祉の増進を目的として昭和38年に発足しました。糖尿病患者、医療スタッフ会員で組織されています。糖尿病啓発事業やスタッフ勉強会を開催するとともに、神奈川県糖尿病協会の運営の中核を担いながら、同協会主催の講演・講習会、研修旅行、ウォークラリーなどの各種事業に参加しています。
- 3 母親学級：当院で出産予定の妊婦を対象として、妊娠、分娩、産褥及び育児についての保健指導をしています。前期・後期の2回コースで、妊娠の生理、妊産婦の栄養、バースプラン、分娩の進行と呼吸法・補助動作、母乳育児、赤ちゃんについてなど、ビデオや実習を交えて行っています。それぞれに、医師、助産師、栄養士、看護師が担当しています。
- 4 分娩入院説明：当院での分娩予定者で、妊娠28週以降の方全員を対象に、オリエンテーションを行っています。内容は、入院の時期、入院時の持ち物、入院中の生活についてです。その目的は、陣発時や入院時の不安を軽減し、入院がスムーズにできることです。第1、第2水曜日に助産師・看護師が説明を行っています。
- 5 小児アレルギー教室：当院受診中のアレルギー疾患患児の保護者を対象に、食物アレルギー・アトピー性皮膚炎・気管支喘息の各疾患について、主に治療導入期に疾患教育を行っています。医師が約1時間、病態・診断・治療・長期管理についての説明とデモ器での手技指導を行います。長期的な治療の理解により、病状の安定化とかかりつけ医への移行促進を目的とします。

9 手術件数

(1) 手術室における手術件数

	外科	脳神経外科	整形外科	形成外科	心臓血管外科	皮膚科	泌尿器科	産科・婦人科	眼科	耳鼻咽喉科	歯科口腔外科	精神科	麻酔科	救命科	合計
中央手術室	1,023	148	1,119	96	80	12	476	1,005	2	262	94	340	1	0	4,658
外来手術室	38	0	129	186	0	137	0	1,027	560	0	35	0	0	0	2,112
手術室合計	1,061	148	1,248	282	80	149	476	2,032	562	262	129	340	1	0	6,770

※ 産科・婦人科については外来手術室に分娩室を含む。

(2) 心血管・検査、血管内治療・検査（手術室No. 2・No. 3室使用状況）

	放射線科	内科	心臓外科	脳神経外科	外科	他科	合計
血管内治療・検査	155			42	158		355
心血管治療・検査		590					590
ペースメーカー埋め込み			30				30
体外ペースメーカー		14					14
血管外治療・検査	25						25
その他の	3	2	2	17	8		32
合計	183	606	32	59	166	0	1,046

(3) 主な手術の内容

ア 外科

術式	件数		
	平成26年度	平成27年度	平成28年度
食道癌手術			14
食道裂孔ヘルニア手術			1
特発性食道破裂手術			0
胃全摘術			10
幽門側胃切除術			29
局所切除術			6
バイパス術			3
広範囲胃切除術			1
グラハム術			8
胃単純縫合術			1
合計			73
右側結腸手術			42
左側結腸手術			29
直腸手術			16
ハルトマン術			21
人工肛門造設術			26
人工肛門閉鎖術			16
肛門手術（痔核その他）			7
合計			157
肝切除術			34
胆嚢摘出術			75
膵頭十二指腸切除術			11
尾側膵切除術			5
その他			4
合計			129
乳癌手術			108
Bt			44
Bp			64
乳房温存率			59%
SN生検施行率			66%
良性疾患			7
合計			115
動脈瘤			36
末梢性動脈疾患			87
急性動脈閉塞症			27
下肢静脈瘤			51
内シャント関連			61
その他			41
合計			303

平成28年度より、術式の項目を変更。

イ 呼吸器外科

分 類	病 名 及 び 術 式	件 数		
		平成26年度	平成27年度	平成28年度
肺 癌	肺全摘出	4	4	0
	肺葉切除	14	14	23
	肺区域・部分切除	2	2	3
	胸腔鏡下肺葉切除	17	21	31
	胸腔鏡下肺区域・部分切除	2	4	6
	気管支形成術を伴う肺葉切除	2	3	2
	試験開胸術	0	0	0
転 移 性 肺 腫 瘍	肺全摘出	0	1	0
	肺葉切除	3	0	0
	肺区域・部分切除	3	4	2
	胸腔鏡下肺葉切除	3	0	0
	胸腔鏡下肺区域・部分切除	9	4	5
肺（その他悪性）	胸腔鏡下肺区域・部分切除	1	1	2
肺（良 性）	肺全摘出	0	0	0
	肺葉切除	1	0	2
	肺区域・部分切除	0	0	1
	胸腔鏡下肺葉切除	0	0	1
	胸腔鏡下肺区域・部分切除	2	3	4
気胸・嚢胞性肺疾患	肺部分切除・肺縫縮術	2	2	6
	胸腔鏡下肺部分切除	10	24	19
縦 隔 腫 瘍	胸腺摘出術	2	4	1
	腫瘍摘出術	4	4	5
重症筋無力症	拡大胸腺摘出術	0	0	0
縦 隔（その他）	腫瘍・リンパ節生検	0	2	0
	リンパ節摘出	0	0	0
	交感神経節切除	0	0	0
胸 膜（悪 性）	胸膜肺全摘	0	1	0
	生検	2	3	1
胸 膜（良 性）	腫瘍摘出術	0	0	0
	生検	3	11	3
	開窓術	0	0	1
	筋弁充填・剥皮術	0	0	1
胸 壁	腫瘍摘出術	0	1	1
	肺葉切除等	1	0	3
そ の 他		0	2	4
計		87	121	127

ウ 脳神経外科

分 類	病 名 及 び 術 式	件 数		
		平成26年度	平成27年度	平成28年度
腫 瘍	メニンジオーマ	7	12	9
	グリオーマ	10	3	8
	転移性脳腫瘍	8	9	14
	頭蓋咽頭腫	0	0	0
	下垂体腫瘍	3	3	4
	その他の腫瘍	8	5	2
血 管 疾 患	脳動脈瘤（直達手術のみ）	11	12	6
	高血圧性脳出血	11	8	4
	脳動静脈奇形（直達手術のみ）	0	1	1
	血管内手術・出血性疾患（脳動脈瘤・動静脈奇形）	10	13	12
	血管内手術・閉塞性疾患（ステント・血栓除去など）	0	0	4
	その他（水頭症など）	17	11	13
外 傷	慢性硬膜下血腫（水腫）	27	33	25
	急性硬膜下血腫	3	9	1
	急性硬膜外血腫	1	4	0
	陥没骨折	0	0	0
	骨弁形成術・減圧開頭術	0	0	1
	その他（水頭症など）	3	2	1
水 頭 症	癌性髄膜炎・正常圧水頭症など	26	33	9
	髄膜瘤など	0	0	1
奇 形	その他	43	26	56
そ の 他				
		188	184	171

エ 整形外科

術 式	件 数		
	平成26年度	平成27年度	平成28年度
脊柱、脊髄、頸椎、前方	9	15	6
〃、後方	37	29	55
胸椎、前方	1	1	1
〃、後方	6	9	7
腰椎、前方	5	6	3
〃、後方	122	123	131
腱、神経	103	46	109
骨 折	315	332	315
骨折以外の外傷	41	36	45
抜 釘	127	117	76
手の手術	178	193	201
先天性奇形	0	4	2
骨軟部腫瘍	38	47	39
関節鏡 手	8	8	10
肘	0	6	2
肩	76	69	62
膝	51	59	42
股	0	1	0
人工股関節	48	51	52
人工膝関節	50	49	58
人工肩関節		9	7
その他の人工関節(肘、指、足)	14	8	9
上肢切断術 (指含む)	2	5	1
下肢切断術 (踵含む)	10	14	13
その他	27	38	2
計	1,268	1,275	1248

オ 形成外科

分 類	件 数		
	平成26年度	平成27年度	平成28年度
I. 外傷	175	200	198
II. 先天異常	17	14	7
III. 腫瘍	179	221	252
IV. 瘢痕・瘢痕拘縮・ケロイド	21	24	22
V. 難治性潰瘍	9	12	6
VI. 炎症・変性疾患	31	23	22
VII. 美容（手術）	46	57	50
VIII. その他	0	0	0
計	478	551	557

カ 心臓血管外科

分 類	病 名	術 式	件 数		
			平成26年度	平成27年度	平成28年度
心 大 血 管	大 動 脈	●胸部、胸腹部 人工血管置換術 他	10	8	27
		先天性心疾患 開心術	0	0	0
	後天性心疾患				
	●弁 膜 症	人工弁置換術、弁形成術	19	12	18
	●冠動脈疾患	冠動脈バイパス術 他	10	7	11
	●心 房 細 動	メイズ手術（単独）	1	0	0
	●そ の 他		1	2	0
	心 外 傷	ペースメーカー移植 心カテアンギオ検査 その他	} 36	} 36	} 37
	そ の 他				
	計				

キ 皮膚科

術 式	件 数		
	平成26年度	平成27年度	平成28年度
皮膚生検	163	232	196
皮膚良性腫瘍摘出	348	240	283
皮膚悪性腫瘍摘出	31	15	11
計	542	487	490

ク 泌尿器科

術式	件数		
	平成26年度	平成27年度	平成28年度
後腹膜腫瘍摘出	0	1	0
腹腔鏡下副腎摘除術	3	4	3
副腎全摘除術	1	0	0
腎摘除術（良性）	0	1	0
根治的腎摘除術（悪性）	1	1	2
腎部分切除術	0	6	5
腹腔鏡下腎摘除術	18	13	15
腹腔鏡下腎部分切除術	4	8	9
腎尿管全摘除術	3	0	1
腹腔鏡下腎尿管全摘除術	13	12	5
腎盂形成術	4	1	2
腹腔鏡下腎盂形成術	0	0	1
腎瘻造設術	7	6	11
PNL	3	5	4
腎盂切石	1	1	0
膀胱切石術	0	0	0
膀胱全摘除術	4	1	0
腹腔鏡下膀胱全摘除術	2	15	4
回腸導管造設術（膀胱全摘を伴うもの）	5	14	4
回腸導管造設術（膀胱全摘を伴わないもの）	5	2	2
代用膀胱造設術	1	2	0
後腹膜リンパ節郭清	0	0	0
経尿道的手術			
a) 膀胱結石、異物	17	17	15
b) TURBT	100	100	117
c) TURP	68	42	41
d) TUL	35	39	59
e) 経尿道の尿管狭窄拡張術	4	6	6
f) 内尿道切開切開術	0	2	2
g) 尿道狭窄拡張術	6	6	4
膀胱尿管新吻合	1	0	2
尿管尿管吻合	0	0	1
膀胱修復術	1	1	1
包茎手術			
a) 背面切開	0	0	0
b) 環状切開	3	2	3
精巣摘出術	2	6	3
高位精巣摘除術	3	8	3

術式	件数		
	平成26年度	平成27年度	平成28年度
精巣固定術（停留精巣）	1	0	0
精巣（睾丸）捻転手術	1	2	1
陰嚢水腫根治手術	11	4	6
精索静脈瘤切除術	0	1	1
尿膜管嚢胞切除術	0	0	0
前立腺摘除術	1	1	0
腹腔鏡鏡下前立腺摘除術	23	21	9
ロボット支援腹腔鏡下前立腺摘除術	0	0	31
前立腺針生検術	116	94	151
陰茎全摘除術	1	0	0
陰茎部分切除術	0	0	1
陰茎癌鼠径リンパ節廓清術	0	0	0
陰茎折症	0	0	0
E SWL	77	72	39
腎生検	4	4	5
尿管ステント留置	75	74	75
経皮的腎嚢胞縮小術	0	0	0
CVポート	1	8	5
膀胱瘻造設術	6	2	3
その他（R Pなど）	24	24	25
腹腔鏡下膀胱部分切除術	1	0	1
腹腔鏡下尿膜管切除術	1	0	0
腹腔鏡下腎嚢胞開窓術	0	1	0
陰嚢内腫瘍摘除術	0	0	0
経尿道的電気凝固止血術	0	0	4
計	658	630	682

ケ 産科・婦人科

術 式	件 数		
	平成26年度	平成27年度	平成28年度
内視鏡手術 合計	514	464	465
腹腔鏡手術 合計	234	214	194
膣式子宮全摘術	34	49	64
子宮筋腫核出術	71	68	40
付属器切除術	33	31	29
卵巣腫瘍摘出術	71	41	44
卵管開口術			
子宮外妊娠手術	15	21	11
その他の他	10	4	6
子宮鏡手術 合計	280	250	271
粘膜下筋腫摘出術	252	225	247
その他の他	28	25	24
婦人科開腹手術 合計	177	177	151
良性腫瘍手術 合計	137	124	105
腹式単純子宮全摘術	80	58	57
膣上部切断術		1	0
子宮筋腫核出術	38	50	33
付属器切除術	13	9	8
卵巣腫瘍摘出術	3	5	3
子宮外妊娠手術（開腹）			
その他良性腫瘍手術	3	1	4
悪性腫瘍手術 合計	40	21	46
拡大子宮全摘術	30	15	24
広汎子宮全摘術			3
卵巣癌根治術	4	3	13
試験開腹			2
その他悪性腫瘍手術	6	3	4
産科手術 合計	294	294	301
帝王切開術	289	284	285
妊娠子宮摘出術	2		
頸管縫縮術	1	3	2
卵管結紮術		10	14
その他産科手術	2	1	
膣式手術 合計	60	60	78
子宮全摘＋膣壁形成術	5	1	6
膣壁形成術			5
膣閉鎖術	2		1
子宮膣部円錐切除術	52	44	50
バルトリン腺手術		1	2
その他膣式手術	1	4	14
子宮内容除去手術 合計	88	88	52
流産手術	66	53	35
胎状奇胎除去術	2		1
人工妊娠中絶術	7		
内膜ポリープ切除術			
全面搔爬術	13	71	16
計	1,133	1,133	1047

コ 眼科

術 式	件 数		
	平成26年度	平成27年度	平成28年度
白内障	272	288	334
硝子体手術	55	58	69
緑内障	4	2	4
網膜剥離（強膜バックリング）	0	1	1
斜 視	0	0	0
眼瞼腫瘍	3	0	0
眼瞼内反、眼瞼外反	0	0	0
眼球破裂	2	1	2
眼内異物	0	0	1
翼状片	3	0	1
霞粒腫	4	0	2
黄斑下血腫移動術	0	2	1
眼内レンズ整復	0	1	2
結膜弛緩症	0	1	0
眼内レンズ縫着術・強膜内固定術	0	9	9
眼窩脂肪ヘルニア	1	0	0
眼瞼下垂	5	0	2
その他	0	1	
硝子体注射	104	105	134
光凝固術			
網 膜	207	256	39
緑内障	10	8	9
後発白内障	19	5	40
光線力学療法	2	0	0
計	691	738	650

サ 耳鼻咽喉科

分類	病名	術式	件数			
			平成26年度	平成27年度	平成28年度	
耳	慢性中耳炎	鼓室形成	16側	13側	7側	
		乳突削開術	14側	11側	3側	
		鼓膜形成	5側	8側	3側	
		滲出性中耳炎	鼓室内チューブ留置	34側	46側	30側
		先天性耳瘻孔	瘻孔摘出	5側	3側	3側
	鼻	外耳道その他		0	5	1
		良性腫瘍	腫瘍摘出	0	0	3
		慢性副鼻腔炎	内視鏡下副鼻腔手術	60側	52側	41側
		頬部嚢腫	上顎洞根本術	0	0	0
		鼻中隔彎曲症	鼻中隔矯正術	28	33	17
咽頭	肥厚性鼻炎	下甲介切除術	20側	18側	19側	
		上顎骨鼻骨骨折	整復	6	2	8
	鼻茸その他		3	5	3	
	鼻副鼻腔悪性腫瘍		2	1	1	
	喉頭	アデノイド増殖	アデ切除	13	10	15
		慢性扁桃炎	扁桃摘出	88側	112側	70側
		咽頭良性腫瘍	摘出・切除	4	9	5
	舌・口腔	声帯ポリープ、他	ラリngoマイクロ	31側	29側	20側
			悪性腫瘍	ラリngoマイクロ	0	
	顎頸部	良性腫瘍・チステ他	摘出・切除	2	2	7
唾液腺手術			良性手術摘出 (顎下腺6、耳下腺15)	21	23 (顎下腺8、耳下腺15)	15 (顎下腺2、耳下腺13)
		悪性手術摘出	1	2	3	
甲状腺手術		良性手術摘出	27	21	7	
		悪性手術摘出	11	10	16	
頸部のう胞他		良性	6	3	6	
リンパ節		摘出	9	22	14	
気管切開			12	37	39	
頭頸部悪性		舌・口腔	悪性手術摘出	1	4	3
			咽頭	悪性手術摘出	1	5
	喉頭		悪性手術摘出	6	4	4
			頸部郭清	15	22	28
			皮弁形成	2	5	6
その他			47	31	42	
計			490	548	447	

シ 歯科口腔外科

術式	件数		
	平成26年度	平成27年度	平成28年度
〈入院手術症例〉			
上下顎骨形成術	2	3	6
顎顔面多発骨折観血的整復固定術	1	2	2
下顎骨骨折観血的整復固定術	10	3	4
頬骨骨折観血的整復固定術			
固定金属板除去術	6	4	5
唇顎口蓋裂手術			
顎骨嚢胞摘出術	28	29	32
顎骨骨髓炎手術	2	2	3
上顎洞根本術			
上顎洞口腔瘻閉鎖術			1
唾石摘出術			1
腫瘍摘出術	4	3	9
顎骨腫瘍摘出術	4	3	1
口腔・顎・悪性腫瘍切除術	4	4	3
顎骨・顔面再建術	1		
下顎・口蓋隆起形成術	5	2	13
埋伏歯抜歯術	15	7	24
顎関節脱臼観血手術			
顎関節授動術（開放）			
歯根端切除術	20	19	
インプラント関連手術		4	
心身障害児歯科治療	1	3	
その他	5	11	
〈外来手術症例〉			
埋伏歯抜歯術	916	1,004	980
抜歯術	1,521	1,573	1206
嚢胞摘出術	81	76	49
歯根端切除術	63	48	42
縫合術	34	21	20
腫瘍摘出術	32	47	35
矯正用インプラント埋入術	28	19	8
インプラント埋入術	8	6	11
インプラント骨移植術	1	3	5
その他	343	311	263
計	3,135	3,207	2738

10 分娩件数

術 式	件 数		
	平成26年度	平成27年度	平成28年度
単胎分娩	1,053	1,010	1,032
双胎分娩	12	20	18
経膈分娩	775	746	764
帝王切開分娩	290	284	285
帝王切開率	27.2%	27.6%	27.2%
早産分娩	94	96	103
正期産分娩	965	934	940
過期産分娩			0
早産率	8.8%	9.3%	9.6%
吸引分娩	35	43	46
鉗子分娩	2		0
骨盤位分娩	1		0
V B A C			0
予定帝王切開	172	170	168
緊急帝王切開	118	114	117
緊急帝王切開率	11.1%	11.1%	11.1%
母体搬送依頼（出）	3	4	2
母体搬送応需（入）	33	30	25
院外分娩	2	1	3
分娩時平均年齢	31.3歳	30.9歳	30.8歳
初産	584	541	526
経産	481	493	537
男児	572	577	552
女児	510	471	515
川崎区	493	536	569
幸区	209	204	191
中原区	43	21	34
川崎市	792	804	831
鶴見区	95	74	77
横浜市	130	108	110
大田区	55	49	42
東京都	83	76	69
川崎市民の割合	76.1%	78.0%	79.1%
分 娩 件 数	1,065	1,030	1,050
分 娩 総 数	1,082	1,050	1,068

11 麻酔科及びMEセンター状況

(1) 麻酔科

分類 ・年度	診療科																	計
	一般外科	心臓外科	形成外科	放射線科	精神科	脳外科	整形外科	皮膚科	泌尿器科	産科・婦人科	眼科	耳鼻科	歯科口腔外科	循環器科	麻酔科	救急科		
麻酔科 管理	25	923	39	85	83	121	96	1,154	13	368	1,206	3	215	72	6	4	5	4,393
	26	788	34	86	96	144	93	1,067	17	449	1,032	2	293	65	5	18	2	4,191
	27	872	35	54	22	168	105	1,002	6	412	970	0	260	63	5	0	3	3,977
	28	807	76	78	10	340	84	1,049	7	440	1,000	2	212	54	1	0	1	4,161

(2) MEセンター

医療機器が多用される最近の医療現場では、医師や看護師のみでは効率的かつ安全な医療の遂行が難しくなり、医学的な知識のみならず工学的な知識と技術を持つ専門家として、昭和63年に誕生したのが臨床工学技士です。臨床工学技士は医療技術者の一つで、厚生労働大臣の免許を受けて「医師の指示の下に呼吸、循環、代謝に関わる生命維持管理装置の操作及び保守点検を行うことを業とする」（臨床工学技士法第2条）とされています。

業務体制としては、手術室部門・人工呼吸器部門・血液浄化部門・心臓カテーテル部門・ペースメーカー部門・ME機器部門など多岐に分かれます。

ア 臨床業務実績

業務内容	項目	平成27年度	平成28年度
血液浄化	CHDF	280	239
	PMX-DHP	10	1
	PE	18	7
	ビリルビン吸着	3	0
	出張HD	41	27
	LCAP	0	9
透析室	透析室	197	503
人工呼吸器	人工呼吸器ラウンド	2808	2264
	RST 総合ラウンド	532	421
	回路交換	30	111
カテーテル業務	CAG	333	349
	PCI	126	146
	緊急カテ	92	103
	IVUS	210	199
	FFR	2	9
	Rotabrator	0	0
	テンポラリーPM 挿入	0	8
	IABP	4	6

ペースメーカー業務	新規植込	21	19
	電池交換	10	10
	植込1週間後チェック	22	23
	緊急チェック	23	10
	術中管理	8	22
	外来	339	340
体外循環	人工心肺	19	43
	PCPS(管理日数)	18(53)	9(18)
	V-V ECMO	1(13)	0
オペ室業務	セルセーバー	29	81
	オペ室対応	147	453
	da vinci 業務	-	31
	脳神経外科ナビゲーション	-	18
	術中神経モニタリング	-	23
	術中カメラ操作	-	13
病棟	病棟対応	115	89

イ 機器管理業務実績

	項目	平成 27 年度	平成 28 年度
点検	輸液ポンプ	1385	1380
	シリンジポンプ	914	841
	除細動器	206	206
	自動体外式除細動器	85	85
	閉鎖式保育器	256	256
	PCA ポンプ	111	143
	人工呼吸器	890	838
	人工心肺	19	43
	PCPS	18	9
	テンポラリーPM	246	233
	麻酔器	2482	2289
	血液ガス装置	486	506
	電気メス	26	1890
	ハーモニック	-	129
	サンダービート	-	32
	高周波メス	-	89
	内視鏡	-	977
	ソノサージ	-	14
	医療用レーザー	-	40

	手術支援システム	-	31
	離床センサー	15	15
	経腸栄養ポンプ	8	18
	反復圧迫治療器	90	126
	パルスオキシメーター	225	243
	超音波ネブライザ	5	37
	ベッドサイドモニタ	400	399
	送信機	60	66
	血圧計	52	171
修理	輸液ポンプ	32	18
	シリンジポンプ	49	30
	血圧計	45	139
	反復圧迫治療器	17	33
	送信機	5	9
	ベッドサイドモニタ	0	3
	低圧持続吸引器	3	5

12 内視鏡センター利用状況

分 類	件 数		
	平成26年度	平成27年度	平成28年度
上部消化管内視鏡	5,457	5,540	5,402
超音波内視鏡	8	14	2
食道・胃粘膜切除術	46	51	38
(食道粘膜切除術)	17 (ESD13)	12 (ESD11)	7 (ESD7)
(胃粘膜切除術)	29 (ESD26)	39 (ESD39)	31 (ESD31)
中・下咽頭粘膜切除術	2	0	0
上部消化管静脈瘤治療	31	50	26
(EVL)	(29)	(48)	(24)
(EIS)	(2)	(2)	(2)
胃静脈瘤硬化療法 (SOS)	0	0	0
狭窄拡張術	22	48	40
止血術	149	154	165
人工食道挿入	1	0	2
胃ろう造設 (PTEG)	60		55
イレウス管挿入	4	2	2
異物除去	23	14	15
下部消化管内視鏡	2,072	2,119	1990
大腸粘膜切除術	193 (ESD 0)	199 (ESD 8)	278 (ESD13)
大腸ポリペクトミー	110	94	118
吻合部拡張術	3	3	1
止血術	9	12	8
カプセル内視鏡	18	24	9
気管支鏡	242	275	322
経気管支肺生検	76	94	
膵・胆道内視鏡	266	266	276
逆行性膵・胆管造影	193	199	212
超音波内視鏡	64	67	64
EUS-FNA	9	7	(3)
乳頭括約筋切開術	83	66	89
乳頭バルーン拡張術	20	14	19
胆管結石採石・砕石術	79	61	79
経鼻胆道ドレナージ術	46	60	60
胆管ステント挿入術	51	47	29
膵管ステント挿入術	11	7	13
乳頭切除術	1	0	1
細胞診	31	1	14
組織診	22	0	15
計	8,131	8,224	8,000

(小腸鏡 28年度 1件 → これを入れることにより 計 8,000 件 となります)

13 クリニカルパス使用件数

病棟	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
14N	7	3	7	8	10	9	10	7	11	5	9	12	98
14S	12	8	10	19	19	12	3	10	6	3	9	6	117
13N	47	33	38	35	31	29	43	33	38	42	47	57	473
13S	15	16	12	11	12	12	9	10	6	11	120	10	244
12N	82	69	83	103	88	89	71	77	67	77	80	89	975
12S	12	17	17	15	17	21	21	18	16	11	14	16	195
11N	39	48	48	43	28	31	36	35	36	25	24	22	415
11S	37	33	33	20	26	23	28	24	26	21	25	26	322
10N	80	62	70	64	69	56	66	53	49	44	69	78	760
10S	80	72	77	98	92	63	71	75	61	56	77	81	903
9 N	0	0	1	4	5	6	6	6	6	4	5	6	49
9 S	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	2	4
9 W	1	3	0	2	5	3	2	4	4	3	4	2	33
8 N	134	140	130	135	133	125	140	127	119	127	120	124	1554
8 S	27	30	20	26	28	22	23	17	26	35	30	22	306
8 W	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
I C U	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	12
O P E	560	510	652	546	608	515	509	594	524	526	547	591	6682
合計	1134	1045	1199	1130	1172	1017	1039	1091	996	991	1183	1145	13142

14 外来治療センター利用状況

平成 28 年度治療患者数

月別 区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
大腸	26	22	28	19	30	26	24	31	17	38	33	35	329
胃	0	1	2	3	2	4	8	5	3	4	6	6	44
肝胆膵	11	9	12	17	14	16	16	13	9	8	18	17	160
乳腺	23	23	31	29	42	35	38	41	40	47	40	45	434
呼吸器	33	30	34	32	55	39	38	45	43	41	53	42	485
造血器	7	7	13	8	15	7	16	16	19	23	15	27	173
婦人科	2	2	5	5	11	8	11	11	11	12	15	14	107
脳神経	9	11	7	9	8	13	16	13	14	10	12	15	137
泌尿器	3	3	4	3	2	9	4	3	1	0	0	6	38
頭頸部	6	7	7	7	2	4	3	4	1	0	0	1	42
その他	2	0	1	0	2	2	3	1	3	3	3	5	25
生物学的製剤	41	33	39	43	48	38	40	49	44	41	43	52	511
合計	163	149	183	175	233	201	217	232	205	227	238	265	2488
診療日数	20	17	22	20	22	20	20	20	20	19	20	22	242
1日当たり	8.2	8.8	8.3	8.3	10.6	10.5	10.6	11.6	10.3	11.9	11.9	12.0	10.3

15 薬剤部業務状況

薬剤部の業務は、調剤・注射薬調製、薬剤管理指導、薬品管理、医薬品情報管理、製剤の5部門に大別され、その内容は次に示すとおりです。病院の機能分化が進む中、当院では外来患者数の減少に伴い、平成28年度の院外処方箋枚数は1日平均40枚減少しましたが、入院処方箋枚数は1日平均約30枚増加しました。持参薬の確認・鑑別業務は昨年度より約450件減少しましたが、これは入院契機となる薬剤の使用を制限したことが要因と考えられます。薬剤管理指導業務は昨年度より約2,000件増加しました。これは薬剤師の1名増員と育児休業取得者の減少が影響していると考えられます。薬品管理部門では、前年度に引き続き後発医薬品への切替えを積極的に行い、後発品使用率（数量シェア）は約75%となりましたが、薬品使用金額は昨年度に比べ約3,300万円の増加となりました。

(1) 調剤・注射薬調製業務

アに科別、病棟別の外来・入院処方箋枚数を示しました。外来患者数が減少したことにより、外来院外処方箋枚数は昨年度より約9,000枚減少し、外来院内処方箋枚数は昨年度より約500枚減少しました。入院処方箋枚数は昨年度より約12,000枚増加しました。イに月別の外来処方箋枚数と院外処方箋発行率を示しましたが、院外処方箋発行率は昨年度とほぼ同じでした。ウに持参薬確認件数を示しましたが、昨年度より約450件減少しました。エに月別、病棟別TPN調製件数を示しました。TPN調製については、昨年度より一般病棟における調製件数が約600件減少し、NICUの調製件数は約110件増加しました。オに化学療法調製件数を示しました。外来は昨年度とほぼ同じで、入院は約40件減少しました。カに月別注射薬枚数を示しました。注射薬枚数は昨年度とほぼ同程度で推移しています。

ア 診療科別外来（院外・院内）処方・病棟別入院処方年間総処方箋枚数及び1日平均処方箋枚数

診療科	外来院外処方箋枚数		外来院内処方箋枚数		病棟	入院処方箋枚数	
	年間	1日平均	年間	1日平均		年間	1日平均
内科	53,961	221.2	6,730	27.6	8N	3,512	9.6
精神・神経科	18,164	74.4	488	2.0	8S	3,752	10.3
小児科	14,208	58.2	3,830	16.1	8W	781	2.1
外科	8,197	33.6	772	4.0	9N	7,675	21.0
心臓血管外科	1,254	5.1	19	0.0	9S	6,209	17.0
脳神経外科	2,205	9.0	123	0.7	9W	986	2.7
整形外科	13,110	53.7	981	4.1	10N	8,456	23.2
形成外科	721	3.0	136	0.6	10S	9,639	26.4
皮膚科	13,483	55.3	164	0.9	11N	11,232	30.8
泌尿器科	7,735	31.7	153	0.7	11S	11,291	30.9
産婦人科	6,056	24.8	68	0.4	12N	9,452	25.9
眼科	4,897	20.1	85	0.3	12S	14,288	39.1
耳鼻咽喉科	4,935	20.2	139	0.9	13N	16,041	43.9
放射線科	386	1.6	18	0.1	13S	15,990	43.8
リハビリテーション科	73	0.3	1	0.0	14N	16,004	44.8
口腔外科	4,154	17.0	45	0.1	14S	16,347	44.8
救命救急センター	869	3.6	861	2.4	ICU	3,519	9.6
計	154,408	633	14,613	40	計	155,174	425

稼働日数 外来院外 244日
 外来院内 365日
 入院 365日

イ 平成28年度月間外来（院外・院内）処方箋枚数及び院外処方箋発行率

月別	外来処方箋枚数						院外処方箋発行率 ^(注2)		
	院外処方箋枚数	院内処方箋枚数 ^(注1)			計	計	(I)	(II)	(III)
		(A)	(B)	(C)					
4月	12,793	238	547	379	1,164	13,957	91.7%	94.2%	98.2%
5月	12,515	230	610	354	1,194	13,709	91.3%	93.7%	98.2%
6月	13,366	212	531	392	1,135	14,501	92.2%	94.7%	98.4%
7月	12,918	236	667	421	1,324	14,242	90.7%	93.5%	98.2%
8月	13,067	236	492	414	1,142	14,209	92.0%	94.7%	98.2%
9月	13,093	241	577	409	1,227	14,320	91.4%	94.1%	98.2%
10月	12,642	240	575	387	1,202	13,844	91.3%	93.9%	98.1%
11月	12,679	225	720	389	1,334	14,013	90.5%	93.1%	98.3%
12月	13,197	247	785	395	1,427	14,624	90.2%	92.7%	98.2%
1月	12,738	234	719	388	1,341	14,079	90.5%	93.0%	98.2%
2月	11,910	225	413	360	998	12,908	92.3%	94.9%	98.1%
3月	13,490	241	526	360	1,127	14,617	92.3%	94.6%	98.2%
計	154,408	2,805	7,162	4,648	14,615	169,023	91.4%	93.9%	98.2%

(注1) (A) : 労災、自賠責扱い患者の処方、院内製剤、麻薬、治験を含む処方、特に必要と認められた患者の処方等

(B) : 救急外来処方（主に夜間）

(C) : 検査薬、糖尿病血糖測定紙、穿刺針、消毒綿、インスリン注入器等の処方

(注2) (I) : 院内処方せん枚数に (A)、(B)、(C) を含む

(II) : 院内処方せん枚数に (A)、(B) を含む

(III) : 院内処方せん枚数に (A) を含む

ウ 持参薬確認件数

月別 病棟	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
14N	19	27	27	26	18	23	22	20	11	4	10	7	214
14S	28	25	34	26	20	15	22	23	16	11	18	17	255
13N	48	45	49	42	45	29	29	34	32	40	31	46	470
13S	38	35	24	20	11	14	15	10	8	5	21	13	214
12N	74	83	99	92	96	84	100	100	77	102	94	79	1080
12S	39	34	34	31	17	21	34	32	24	19	28	26	339
11N	54	56	57	56	71	44	62	64	47	68	58	41	678
11S	53	55	64	55	66	47	53	58	41	65	47	68	672
10N	46	46	57	39	54	38	42	33	31	47	43	35	511
10S	52	46	62	44	61	44	46	59	44	51	57	60	626
9N	3	8	4	12	10	8	4	5	10	4	11	8	87
9S	13	9	11	11	2	1	2	4	5	3	5	7	73
8N	4	14	5	7	12	7	8	6	5	7	2	10	87
8S	1	0	0	1	0	0	0	1	1	1	3	1	9
ICU	0	1	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	3
合計	472	484	527	462	483	375	439	449	353	428	428	418	5318

エ 平成28年度月別、病棟別TPN調製件数

月別 病棟	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
8S													
9N													
10N							4						4
10S													
11N	14			18	7	4	17	28	72	49	30	62	301
11S	29	23	8	10	4		20	28	4	12	3	1	142
12N	40	71	5			11	30						157
12S		2	3		6	4		7	55	73			150
13N		7	9	1	1	8		12	5	11	2	5	61
13S				8	46	11	16	10	14	29	5	20	159
14N	8		32	9	12	39	31	31	12	1	5	3	183
14S	4		1	12	68	40	21	4	22	19	17	14	222
TPN計	95	103	58	58	144	117	139	120	184	194	62	105	1379
NICU	20	10	39	31	26	42	39	28	12	31	55	34	367
合計	115	113	97	89	170	159	178	148	196	225	117	139	1746

オ 平成28年度月別、外来（診療科）・入院（診療科・臓器別）化学療法調製件数

診療科 ・入院（臓器別）	月別	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
内科		77	79	81	89	107	86	100	102	0	113	115	117	1066
外科		67	75	79	68	101	81	88	97	0	89	97	105	947
脳神経外科		6	8	3	4	3	8	11	9	6	9	10	13	90
産婦人科		2	2	4	5	11	8	10	12	15	13	15	16	113
泌尿器科		3	3	4	3	4	9	3	3	1	0	0	4	37
耳鼻咽喉科		6	7	6	5	2	4	3	4	0	0	0	2	39
歯科		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
エンドキサンフォルス		0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1
外来合計		161	174	177	174	228	196	216	227	22	224	237	257	2293
造血器		14	21	11	12	8	10	8	18	0	7	11	14	134
肺		66	89	83	69	68	54	59	73	0	59	58	79	757
食道		13	2	16	7	19	38	48	31	0	14	19	14	221
胃		3	3	1	3	7	6	7	5	3	7	6	5	56
膵		1	0	2	25	0	0	0	3	29	9	35	14	118
胆肝		0	0	0	0	0	2	0	2	0	0	0	0	4
乳腺		3	0	0	0	2	2	0	2	2	2	2	3	18
大腸		5	2	4	2	3	1	3	2	0	4	5	3	34
脳外		0	6	3	6	8	1	1	2	1	5	4	4	41
皮膚科		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
産婦人科		4	9	8	10	4	13	11	5	0	8	6	6	84
泌尿器科		18	12	17	17	22	22	15	7	0	12	18	23	183
耳鼻科		11	3	0	4	8	10	4	2	9	21	21	15	108

歯科													0
エンドキサンパルス	0	1	1	3	5	3	0	1	0	0	0	3	17
その他	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	1	3
入院合計	138	148	146	158	154	162	158	153	44	148	185	184	1778
総合計	299	322	323	332	382	358	374	380	66	372	422	442	4072

カ 平成28年度月別注射箋枚数（入院）

月別	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
注射箋枚数	12,981	12,260	12,115	13,293	13,962	13,104	12,514	13,202	13,746	12,798	12,784	14,070	156,829

(2) 薬剤管理指導業務

平成28年度は、指導患者数3911人（前年比42.5%増）、算定件数5732件（前年比53.7%増）となりました。業績向上の要因は薬剤師の人員増（1名）の影響もありますが、病棟チーム制導入による業務効率化による影響が大きいと考えられます。ほとんどの診療科で増加しており、特に内科は前年比180%と大幅な増加となりました。

診療科別・病棟別年間指導対象患者数及び薬剤管理指導件数

診療科	患者数	薬剤管理指導件数	病棟	患者数	薬剤管理指導件数
内科	1935	3067	8N	0	0
精神・神経科	12	13	8S	10	2
小児科	11	2	9N	12	13
外科	441	679	9S	3	3
心臓血管外科	52	69	9W	6	4
脳神経外科	13	19	10N	417	597
整形外科	514	737	10S	213	313
形成外科	20	26	11N	228	346
皮膚科	81	129	11S	326	523
泌尿器科	274	354	12N	787	904
産婦人科	40	68	12S	270	427
眼科	243	191	13N	466	599
耳鼻咽喉科	174	254	13S	377	619
歯科口腔外科	64	70	14N	393	627
救急科	37	54	14S	449	752
			ICU	4	3
計	3911	5732	計	3961	5732

(3) 薬品管理業務

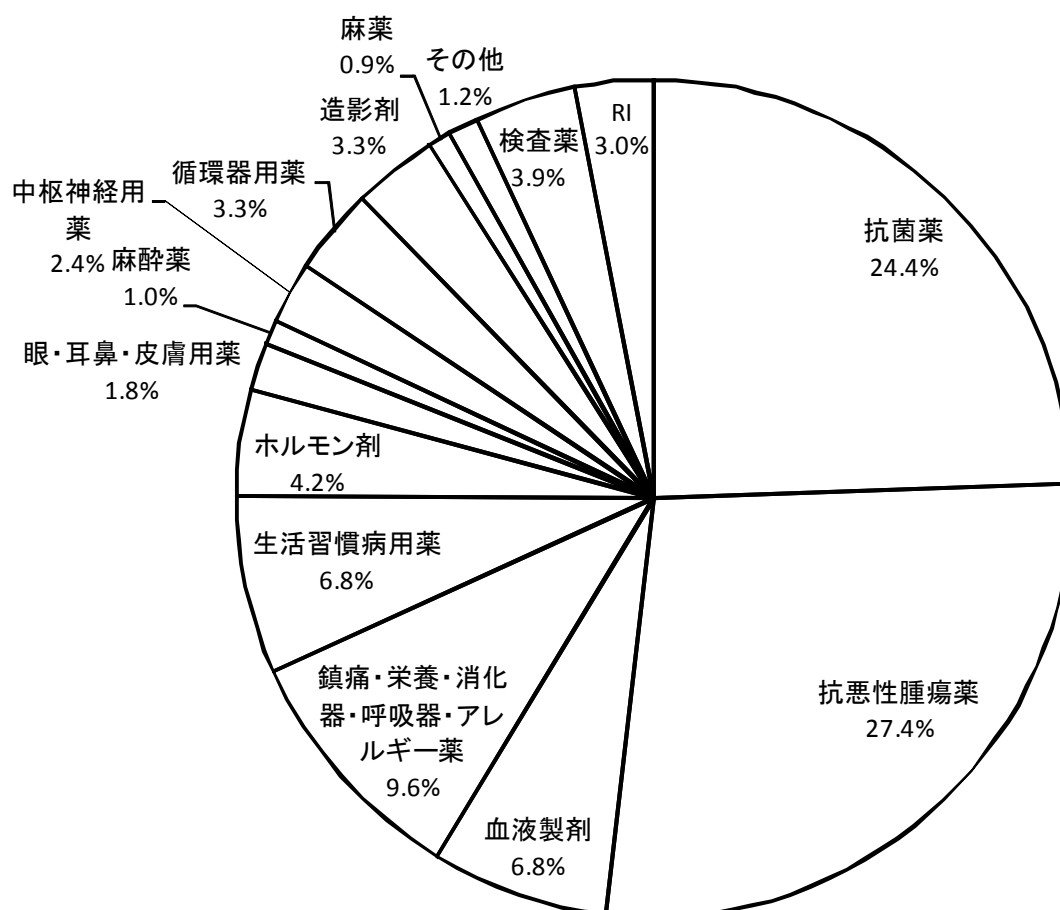
薬品使用金額は昨年度に比べ約1.5%、金額にして約3,300万円の増加となりました。先発医薬品から後発医薬品への変更による減額効果以上に、新規抗がん剤、放射性薬品、抗体製剤などの高額医薬品の購入費が増加しており、ここ数年増加の一途をたどっています。

〔薬品使用状況〕

ア 区分別使用割合

区 分	比 率 (%)	区 分	比 率 (%)
内 服 用 薬 品	15.53	そ の 他 薬 品	0.78
注 射 用 薬 品	69.85	麻 薬	0.88
外 用 薬 品	2.29	血 液	3.68
検 査 薬 品	3.94	放 射 性 薬 品	3.05

イ 薬効分類別購入金額割合



ウ 採用医薬品における後発医薬品の割合

平成28年度の、後発医薬品採用率及び使用率は、次のとおりでした。

採用薬品数	先発医薬品	後発医薬品	合計	後発医薬品 採用率 (品目シェア)
	1,037	418	1,455	28.73%
入院使用数量	先発医薬品 (後発の発売が あるもの)	後発医薬品	合計	後発医薬品 使用率 (数量シェア)
	647,174	1,938,224	2,585,398	74.97%
外来使用数量	先発医薬品 (後発の発売が あるもの)	後発医薬品	合計	後発医薬品 使用率 (数量シェア)
	37,268	192,666	229,934	83.79%

(4) 医薬品情報管理業務

日本病院薬剤師会への薬剤師介入事例報告（プレアボイド報告）は、昨年度の136件から164件に約20%増加し高い報告数を維持しています。

平成28年度 月別	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
プレアボイド 報告（様式1）								2					2
プレアボイド 報告（様式2）	10	16	10	12	12	16	10	10	5	7	9	12	129
プレアボイド 報告（様式3）	1	2	4	2	5	4		1	6	2	5	1	33

様式1：重篤化等回避報告

様式2：未然回避報告

様式3：薬物治療効果の向上

(5) 製剤業務

院内製剤実績は全体的に減少傾向にあり、坐薬、注射剤は実績なしとなりました。当院では、市販品又は同等の市販品への切替えを推進しており、院内製剤品目数の減少傾向はさらに続くと考えられます。

主な製剤総量(平成28年4月～平成29年3月)

薬品名	規格	数量	薬品名	規格	数量
8倍イソジン洗眼液	100ml	410	アクネローション	50ml	11
塩酸エピネフリン0.03%	50ml	728	2%グリセリンカリ石鹼浣腸	3000ml	2
滅菌エピネ・キシロ1:1	50ml	58	2.5%酢酸	100ml	25
滅菌オリブ油	20ml	32	2.5%酢酸	500ml	48
滅菌グリセリン	30ml	19	30%酢酸	8000ml	38
脱気水	1000ml	54	3%硝酸銀液	10ml	3
滅菌ハイアミン0.025%	100ml	386	20%硝酸銀液	20ml	4
滅菌ハイアミン0.01%	100ml	76	精製水	3000ml	29
滅菌ハイアミン0.01%	500ml	49	精製水	10000ml	14
滅菌ピオクタニン2%	10ml	361	生理食塩水	10000ml	96
滅菌テーカイン液0.3%	50ml	40	皮膚インキ	120ml	1
滅菌テーカ・エピネ1:1	50ml	54	2%ホルマリンアルコール	500ml	6
1.2%口腔外科用ルゴール	100ml	17	ホワイトローション	50ml	12
0.5%硫酸アトロピン点眼液	5ml	15	5%内服用ルゴール	500ml	8
1%塩酸点眼液	5ml	6	1%内服用ルゴール	100ml	6
4%キシロカイン点眼液 分注	5ml	104	1.2%ルゴール液	500ml	9
ナシピン点鼻液 分注	10ml	28	0.8%ルゴール液	500ml	10
プリピナ点鼻液 分注	10ml	3	水性ゲル	450ml	2
2%SADBE アセトン	60ml	9	5%チンクレスタミンクリーム	100g	3
1%SADBE アセトン	60ml	10	2%ハイドロキノン	10g	37
0.1%SADBE アセトン	60ml	10	5%ハイドロキノン	10g	47
0.01%SADBE アセトン	60ml	9	パッチテスト	5g	7
0.001%SADBE アセトン	60ml	3	0.2%ポリミキシン軟膏	300g	4
0.0005%SADBE アセトン	60ml	2	0.1%レチノイン酸	10g	44
ZENTEL	30ml	5	0.2%レチノイン酸	10g	36
10%硫酸亜鉛散	100mg/包	1,710			

平成28年度年間製剤総数量

滅菌、無菌を要する製剤		滅菌を要しない製剤	
注射剤	0本	内・外用液剤	1,573L (376本)
点眼薬・点鼻薬等	156本	軟膏剤	4.0kg
その他	2360本	坐薬	0個
		内用散剤	1,710包

(6) 薬学生実務実習受入状況

平成28年度の受入人数は、慶應義塾大学2名、帝京大学1名、星薬科大学1名、横浜薬科大学2名の計6名でした。

16 放射線診断科・放射線治療科業務状況

今年度は、がん診断を行うPET-CT装置の導入を目指した結果、来年度の装置購入が決まりました。平成30年4月からの稼働を目標に現在改築設置工事を進めています。

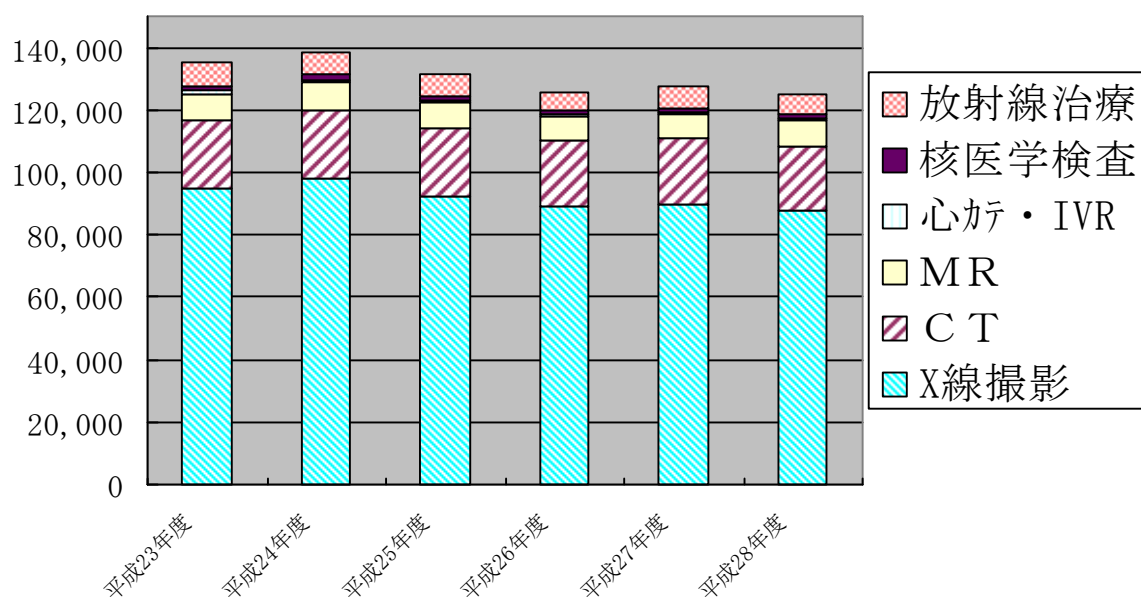
放射線科、総患者数は、昨年・一昨年は前年比増でしたが、本年度は減少となってしまいました。今後は地域連携よりの医療機器共同利用枠を拡大し検査件数増・放射線治療件数増に努めます。

今後、MRI検査・CT検査・放射線治療装置等既存装置の更新時期を迎えようとしています。よりの確な診断を目指し高解像度・高性能な医療機器を、また高精細で精密な治療が行える放射線治療装置への更新を行っていきます。

放射線診断科・治療科 患者数比較表 年度推移

部 門	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	前年度比	件数 (平成28年度)	前年度比
X線撮影	98,133	92,483	89,125	90,016	89,042	0.99	157,255	0.89
C T	21,952	21,432	20,910	20,573	20,372	0.99	20,888	0.96
M R	8,537	8,228	7,768	7,834	7,896	1.01	12,941	1.04
カテ治療IVR	1,135	1,063	1,026	1,039	1,095	1.05	1,095	1.05
核医学検査	1,421	1,150	1,118	1,243	1,443	1.16	1,443	1.16
放射線治療	6,977	6,857	5,685	6,608	6,002	0.91	6,594	0.89
合 計	138,155	131,213	125,632	127,313	125,850	0.99	200,216	0.91

放射線診断科・治療科 患者数比較表 年度推移 (人数)



(1) 撮影部門

検査種別	部位分類	集計区分	内科	精神科	小児科	外科	脳神経外科	心臓血管外科	整形外科	形成外科	皮膚科
一般単純撮影	頭部・頸部系	単純	133	1	83	9	339	1	3	25	4
	胸部系	単純	32,697	255	2,452	9,238	303	1,646	1,346	172	268
	腹部系	単純	3,332	122	473	5,993	81	13	25		4
	椎体系	単純	708	2	68	58	55		15,530		10
	胸郭系	単純	220	2	2	17	6		3,818		
	骨盤系	単純	111		18	22			3,831		
	上肢系	単純	1,050	5	211	26	4		12,339	7	9
	下肢系	単純	1,107	3	37	79	12	2	13,085	15	80
	歯科										
一般単純撮影 集計		39,358	390	3,344	15,442	800	1,662	49,977	219	375	
ポータブル	頭・頸部系(P)	単純	3		4		2		1		
	胸部系(P)	単純	6,415	83	128	1,062	116	319	125		32
	腹部系(P)	単純	1,019	25	23	577	10	17	23		6
	椎体系(P)	単純	4				2		44		
	胸郭系(P)	単純	1				1		5		
	骨盤系(P)	単純	6	1		4			43		
	上肢系(P)	単純	19		26				15		
	下肢系(P)	単純	8	2	8				121		
ポータブル 集計		7,475	111	189	1,643	131	336	377	0	38	
手術室ポータブル	頭部・頸部系(0)	単純									
	胸部系(0)	単純	4			208	4	80	12		
	軀幹系(整形)(0)	単純					2		443		
	腹部系(0)	単純	5			316	1				
	椎体系(整形)(0)	単純							467		
	上肢系(整形)(0)	単純							525		
	下肢系(整形)(0)	単純							587		
手術室ポータブル 集計		9	0	0	524	7	80	2,034	0	0	
乳房撮影	単純	7			1,626						
一般造影撮影	婦人科系	造影									
透視検査	上部消化管	造影	31	1	3	117	1				1
	下部消化管	造影	17			61					
	消化管その他	造影	42			120					
	肝・胆道・膵臓	造影	24			31					
	腎臓	造影				1					
	尿管	造影									
	膀胱、尿道、その他	造影									
	婦人科	造影									
	脊椎、椎体	造影							200		
	整形系その他	造影	1						20		
	小児科	造影			45	1					
その他	造影	9		1	35	1		1			
透視検査 集計		124	1	49	366	2	0	221	0	1	
透視下内視鏡	呼吸器系	単純	190			35					
	上部消化管系	造影				3					
	下部消化管系	造影	1			2					
	肝臓・胆嚢・膵臓系	造影	216			54					
透視下内視鏡 集計		407	0	0	94	0	0	0	0	0	
骨塩定量		114		23	117	4		387		9	
結石破砕											
一般撮影室 集計		47,494	502	3,605	19,812	944	2,078	52,996	219	423	
救急室単純撮影	頭部・頸部系(ER)	単純	61		22		10		5	2	
	胸部系(ER)	単純	2,505		777	110	9		89		3
	腹部系(ER)	単純	1,395		313	133	2		6		
	椎体系(ER)	単純	37		4	2			305		
	胸郭系(ER)	単純	25						183		4
	骨盤系(ER)	単純	4			1			89		
	上肢系(ER)	単純	12			5	2		837	16	
	下肢系(ER)	単純	26		4	11			661	6	2
救急室単純撮影 集計		4,065		1,120	262	23		2,175	24	9	
撮影部門 合計		51,559	502	4,725	20,074	967	2,078	55,171	243	432	

泌尿器科	産婦人科	眼科	耳鼻咽喉科	歯科口腔外科	放射線科	リハビリ	救急科	麻酔科	体検	総件数	外来人数	入院人数	総人数
	1	3	85	2,198			10			2,895	2,034	408	2,442
1,060	1,051	23	720	107	31	1	238		2,433	54,041	22,394	11,589	33,983
2,579	75	1	6	2			65			12,771	3,522	3,460	6,982
2			15		60		19			16,527	4,435	744	5,179
			2				42			4,109	1,704	203	1,907
	33		1				10			4,026	1,494	628	2,122
4					4		32			13,691	4,586	263	4,849
3			2		2		78			14,505	3,486	757	4,243
				1						1		1	1
3,648	1,160	27	831	2,308	97	1	494	0	2,433	122,566	43,655	18,053	61,708
			1	2				1		14		10	10
80	120	4	35	7		2	787	36		9,351	27	9,322	9,349
75	20					2	98	3		1,898	3	1,887	1,890
				2			7			59	1	34	35
							4			11		11	11
2	1						10			67	2	57	59
1				2			7			70		38	38
							11			150		76	76
158	141	4	36	13	0	4	924	40	0	11,620	33	11,435	11,468
				24			1			25		12	12
2	3		18				5	7		343	4	338	342
							12			457	2	326	328
44	439		5					3		813	3	810	813
										467		312	312
							6			531	51	210	261
							13	8		608	5	294	299
46	442	0	23	24	0	0	37	18	0	3,244	65	2,302	2,367
									1,016	2,649	1,343	14	1,357
	20									20	19	1	20
1			10			354	3		65	587	142	444	586
										78	60	18	78
1							1			164		54	54
										55	8	156	164
75										76	45	18	63
14										14	13	1	14
60	1									61	4	57	61
	27									27	27		27
										200	64	87	151
							3			24	19	5	24
										46	17	29	46
							1			48	4	44	48
151	28	0	10	0	0	354	8	0	65	1,380	403	913	1,316
										225	29	196	225
										3		3	3
										3		3	3
	1						2			273	50	223	273
0	1	0	0	0	0	0	2	0	0	504	79	425	504
	58				23				21	756	712	36	748
43										43	1	42	43
4,046	1,850	31	900	2,345	120	359	1,465	58	3,535	142,782	46,310	33,221	79,531
				1			50			151	82	2	84
6	16		27				3,190			6,732	5,518	267	5,785
10	2						557			2,418	1,451	42	1,493
2							415			765	333	1	334
							263			475	220	2	222
1							508			603	436	3	439
			2				638			1,512	548	9	557
							1,107			1,817	584	13	597
19	18		29	1			6,728			14,473	9,172	339	9,511
4,065	1,868	31	929	2,346	120	359	8,193	58	3,535	157,255	55,482	33,560	89,042

(2) CT部門

検査種別	部位分類	集計区分	内科	精神科	小児科	外科	脳神経外科	心臓血管外科	整形外科	形成外科	皮膚科	
C T	頭部系CT	単純	1,009	89	34	25	1,180	12	11	48	5	
		造影	9			9					2	
		単純+造影	11			10	1				1	
	頭部系CT 集計			1,029	89	34	44	1,181	12	11	48	8
	頸部系CT	単純	13	1							8	
		造影	6		4					2		
		単純+造影	7							1		
	頸部系CT 集計			26	1	4				3	8	
	胸部系CT	単純	1,913	2	8	600		3	99	13	3	11
		造影	1,119		16	1,179		16	35	9	1	17
		単純+造影	299	1		937		2	4	5		3
	胸部系CT 集計			3,331	3	24	2,716	21	138	27	4	31
	腹部系CT	単純	162		1	161		2			1	9
		造影	117	1	8	114		2				
		単純+造影	697		1	125		1		1		
	腹部系CT 集計			976	1	10	400	5		1	1	9
	骨盤系CT	単純	7			1				66	3	2
		造影	4		1	3				2		
		単純+造影	1			1						1
	骨盤系CT 集計			12		1	5			68	3	3
	脊椎系CT	単純	3		1					322		1
	四肢系CT	単純	6					1		449	5	5
		造影								2	1	
四肢系CT 集計			6				1		451	6	5	
血管系CT	造影	124	1		334		7	82	9	1	3	
	単純+造影	187			34		139	37	4		1	
血管系CT 集計			311	1		368	146	119	13	1	4	
その他のCT			1									
C T 集計			5,691	95	73	3,533	1,354	269	574	71	60	
救急室CT	頭部系CT (救急)	単純	575	1	140	11	66		12	20	1	
		造影	3									
		単純+造影	8		2							
	頭部系CT (救急) 集計			586	1	142	11	66		12	20	1
	胸部系CT (救急)	単純	229		2	6	1			1		
		造影	37			3						
		単純+造影	13							1		
	胸部系CT (救急) 集計			279		2	9	1		2		
	腹部系CT (救急)	単純	187	1	5	13						
		造影	47		10	11						
		単純+造影	329	1	5	33				1		
	腹部系CT (救急) 集計			563	2	20	57			1		
	脊椎系CT (救急)	単純								4		
	四肢系CT (救急)	単純	2							18		
		造影										
	四肢系CT (救急) 集計			2								
	血管系CT (救急)	単純	2			8						
	血管系CT (救急) 集計			22			8					
	全身系CT (救急)	単純	74			4						
		造影	19		1	4						
		単純+造影	73			8						
	全身系CT (救急) 集計			166		1	16					
	救急室CT 集計			1,616	3	165	101	67	0	15	20	1
CT + 救急室CT 合計			7,307	98	238	3,634	1,421	269	589	91	61	

(3) MR部門

検査種別	部位分類	集計区分	内科	精神科	小児科	外科	脳神経外科	心臓血管外科	整形外科	形成外科	皮膚科	
MR I	頭部系	単純	4,443	130	645	34	1,207	117	12		11	
		造影	563		9	46	479					
	頭部系 集計			5,006	130	654	80	1,686	117	12		11
	顔面・頸部系	単純	8							2	7	5
		造影	3		1						1	
	顔面・頸部系 集計			11		1				2	8	5
	胸部系	単純	7		1	15			2	3		5
		造影	10			322				1		
	胸部系 集計			17		1	337		2	4		5
	腹部系	単純	432		8	84						1
		造影	131			78						
	腹部系 集計			563		8	162					1
	骨盤系	単純	17	1	1	8				3	2	4
		造影	7			3				2	1	4
	骨盤系 集計			24	1	1	11			5	3	8
	上肢系	単純	13							373	6	5
		造影								3	2	2
	上肢系 集計			13						376	8	7
	下肢系	単純	28		9	5				378	2	15
		造影	4		1					5		3
	下肢系 集計			32		10	5			383	2	18
	脊椎系	単純	346		15	5	12			1,311		4
		造影	20		1	2	7			31		
脊椎系 集計			366		16	7	19		1,342		4	
血管系	単純	8		1	38	3		3	6		5	
MR I 集計			6,040	131	692	640	1,708	122	2,130	21	64	

泌尿器科	産婦人科	眼科	耳鼻咽喉科	歯科口腔外科	放射線科	リハビリ	救急科	麻酔科	体検	総件数	外来	入院	総計
3	4	28	208	803	9		123			3,591	1,913	1,168	3,081
			10	4	1					35	27	6	33
3			6	1			1			34	18	13	31
6	4	28	224	808	10		124			3,660	1,958	1,187	3,145
			29	6	1					58	43	8	51
			50	44						106	79	17	96
			23	4						35	29	4	33
			102	54	1					199	151	29	180
202	33		48	22	98		20			3,075	2,489	595	3,084
347	259		168	2	7		8			3,183	2,785	416	3,201
99	19		37	1	18		3			1,428	1,244	188	1,432
648	311		253	25	123		31			7,686	6,518	1,199	7,717
116	1				19		4			476	388	89	477
54	11		1		1		7			316	233	83	316
169	11				11		8			1,024	826	199	1,025
339	23		1		31		19			1,816	1,447	371	1,818
										79	52	26	78
	1						1			12	7	5	12
	2									5	1	4	5
	3									96	60	35	95
					1					328	152	120	272
							1			467	398	50	448
										3	1	1	2
							1			470	399	51	450
2	14						8	1		586	375	213	588
	1						1			404	343	65	408
2	15						9	1		990	718	278	996
										1	1		1
995	356	28	580	887	165	0	185	1	0	14,917	11,251	3,150	14,401
4		10	9				2,069	1		2,919	2,732	187	2,919
		1								4	3	1	4
							31			41	39	2	41
4		11	9				2,100	1		2,964	2,774	190	2,964
1							282			522	472	50	522
							54			94	76	18	94
							10			24	18	6	24
1							346			640	566	74	640
2	1						226			435	413	22	435
	1						36			105	99	6	105
2	2						254			627	586	41	627
4	4						516			1,167	1,098	69	1,167
							10			14	12	2	14
							77			97	85	6	91
							7			17	12	5	17
							52			72	65	7	72
							59			89	77	12	89
2			1				635			716	685	31	716
							143			167	154	13	167
							147			228	202	26	228
2			1				925			1,111	1,041	70	1,111
11	4	11	10	0	0	0	3,946	1	0	5,971	5,556	415	5,971

泌尿器科	産婦人科	眼科	耳鼻咽喉科	歯科口腔外科	放射線科	リハビリ	救急科	麻酔科	体検	総件数	外来	入院	総計
1,006	360	39	590	887	165	0	4,131	2	0	20,888	16,807	3,565	20,372

泌尿器科	産婦人科	眼科	耳鼻咽喉科	歯科口腔外科	放射線科	リハビリ	救急科	麻酔科	体検	総件数	外来	入院	総計
		10	111		52		127			6,899	1,819	780	2,599
	1	1	13		1					1,113	748	195	943
	1	11	124		53		127			8,012	2,567	975	3,542
		6	39	23	1					91	82	5	87
		4	36	13						58	54	4	58
		10	75	36	1					149	136	9	145
										33	27	2	29
					17					350	191	2	193
					17					383	218	4	222
9					3		1			538	477	91	568
10							1			220	611	32	643
19					3		2			758	1,088	123	1,211
117	470				21		1			645	767	43	810
60	98									175	416	11	427
177	568				21		1			820	1,183	54	1,237
					29					426	423	11	434
										7	385	69	454
					29					433	808	80	888
					18		4			459	393	74	467
										13	1,318	271	1,589
					18		4			472	1,711	345	2,056
2			3		51		40			1,789	1,354	292	1,646
										61	51	4	55
2			3		51		40			1,850	1,405	296	1,701
										64	57	5	62
198	569	21	202	36	193	0	174	0	0	12,941	9,173	1,891	11,064

(4) 核医学部門

検査種別	部位分類	内科	精神科	小児科	外科	脳神経外科	心臓血管外科	整形外科	形成外科	皮膚科	泌尿器科	産婦人科
核医学	脳	193	14	2		37						
	甲状腺	6		3								
	副甲状腺	3										
	副腎			1							4	
	肺	12			2							
	骨	425		1	220	6		20			164	
	腫瘍	26		1	3					1		
	循環器	148	3	1	18							
	消化管	1		3								
	腎			6							6	
唾液腺	5											
リンパ				74								
核医学 集計		819	17	18	317	43	0	20	0	1	174	0

(5) 血管撮影件数

		内科	外科	心外科	脳外科	放射線科	その他	合計
心臓系	心カテ	376						376
	PCI	214						214
	経皮的筋焼灼術							0
	ペースメーカー	14		30				44
	その他	2		2				4
	心臓系小計	606	0	32	0	0	0	638
頭頸部・一般血管	脳血管診断				26			26
	脳血管IVR				16			16
	頭頸部血管小計	0	0	0	42	0	0	42
	胸・腹部診断		1			3		4
	四肢・血管系診断		28			5		33
	一般血管診断小計	0	29	0	0	8	0	37
	胸・腹部IVR		35	28		102		165
	四肢・血管系IVR		115			45		160
	一般血管IVR小計	0	150	28	0	147	0	325
	血管以外の検査・治療					25		25
その他		8		17	3		28	
血管撮影室合計	606	187	60	59	183	0	1,095	

(6) 画像データ・フィルム画像の入出力件数

	入出力デバイス名	平成27年度	平成28年度	前年度比
		件数	件数	
入力	フィルム	468	252	0.54
	CD(医事課)	3,915	4,308	1.10
	入力合計	4,383	4,560	1.04
出力	フィルム	420	366	0.87
	CD-R	2,685	2,472	0.92
	DVD	298	417	1.40
	出力合計	3,403	3,255	0.96
	総合計	7,786	7,815	1.00

(7) CT3D処理

	平成27年度	平成28年度	前年度比
	件数	件数	
3D画像	1,140	1,228	1.08
心臓解析	157	173	1.10
デンタル解析	449	407	0.91
合計	1,746	1,808	1.04

眼科	耳鼻咽喉科	歯科口腔外科	放射線科	リハビリ	救急科	麻酔科	体検	総件数	外来人数	入院人数	総人数
	6							252	214	38	252
	1							10	7	3	10
								3	2	1	3
								5	4	1	5
								14	8	6	14
	1		22					859	770	89	859
					1			32	20	12	32
								170	150	20	170
								4	1	3	4
								12	7	5	12
		3						8	7	1	8
								74		74	74
0	8	3	22	0	1	0	0	1,443	1,190	253	1,443

(8) 放射線治療部門

リニアック部位件数

部位	件数
脳	314
眼窩	25
副鼻腔	31
口腔・舌	0
頸部	907
その他	3
肺	473
食道	274
乳房	1,682
鎖骨部	221
腋窩・胸壁	172
その他	8
縦隔	159
腹部	46
その他	19
全骨盤	148
小骨盤	1,197
鼠径・臀・外陰部	24
その他	41
上肢(軟部)	45
下肢(軟部)	57
その他	0
頭部骨	19
胸部骨	35
腹部・骨盤部骨	118
脊椎	434
上肢骨	0
下肢骨	109
その他	0
上肢関節	0
下肢関節	0
全身	0
リハビリ	0
その他	33
合計	6,594

治療計画CT件数

	単純	造影	単+造	合計
頭部	13	59		72
頭部集計	14	68		82
副鼻腔	1	0		1
副鼻腔集計	1	0		1
頸部	26	8		34
頸部集計	4	3		7
肺・縦隔	45	26		71
肺・縦隔集計	1	1		2
乳房	62	1		63
乳房集計	0	0		0
上腹部	62	1		63
上腹部集計	4	6		10
下腹部	1	0		1
下腹部集計	1	0		1
骨盤腔	48	10		58
骨盤腔集計	1	0		1
股関節	49	10		59
股関節集計	2	0		2
頸椎	2	0		2
頸椎集計	1	1		2
胸椎	6	6		12
胸椎集計	0	0		0
腰椎	6	6		12
腰椎集計	5	4		9
上肢	5	4		9
上肢集計	3	0		3
下肢	3	0		3
下肢集計	3	5		8
その他	3	5		8
その他集計	1	5		6
小計	1	5		6
小計	220	131		351
小計	9	13		22
小計	0	1		1
合計	229	145		374

リニアック特殊放射線治療件数

区分	件数
強度変調放射線治療	635
射線治療	997
画像誘導放射線治療 (IGRT)	1,706
脳定位放射線治療	142
肺定位放射線治療	45
合計	3,525

放射線治療管理料件数

区分	件数
1門照射・対向2門照射	80
非対向2門・3門照射	111
4門照射以上	133
強度変調放射線治療 (IMRT)	49
放射線治療専任加算	280
合計	653

(9) 使用造影剤

造影剤	規格	平成27年度	平成28年度	前年度比
ガストログラフィン	100ml	410	268	0.65
バリテスターA240散	350g	180	60	0.33
ボースデル	250ml	345	365	1.06
EOB・プリモビスト注シリンジ	10ml	85	90	1.06
イオパミロン注300	50ml	135	105	0.78
	100ml	146	115	0.79
イオパミロン注300シリンジ	50ml	25	90	3.60
	100ml	2,275	1,880	0.83
イオパミロン注370	20ml	200	265	1.33
	50ml	25	30	1.20
	100ml	100	522	5.22
イオパミロン注370シリンジ	100ml	325	410	1.26
イオメロン300注	50ml	320	295	0.92
	100ml	205	195	0.95
オイパロミン300注シリンジ	100ml	2,590	2,760	1.07
オムニパーク140注	50ml	60	55	0.92
オムニパーク300注	10ml	130	135	1.04
オムニパーク300注シリンジ	80ml	885	865	0.98
	100ml	2,090	2,575	1.23
	150ml	180	150	0.83
コンレイ注	20ml	608	0	-
ウログラフィン注	20ml	410	695	1.70
バイステージ注370	50ml	55	50	0.91
	100ml	400	480	1.20
マグネビストシリンジ	15ml	1,065	635	0.60
リピオドール480注	10ml	95	80	0.84
ネオダルムゾル	400ml	10	48	4.80
オムニスキャンシリンジ	10ml	260	130	0.50

(10) 放射性医薬品

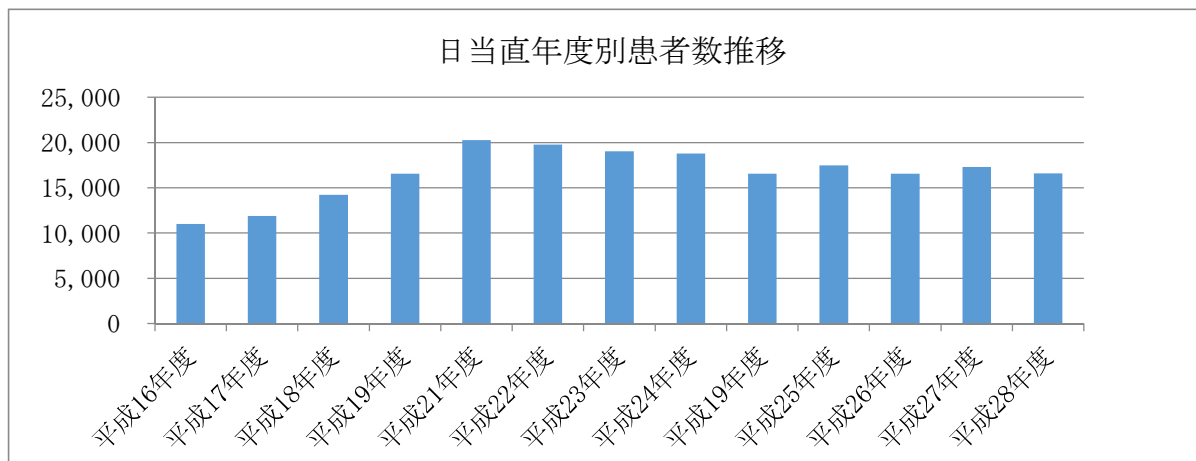
	平成27年度	平成28年度	前年度比
	入荷量 (MBq)	入荷量 (MBq)	
99mTc-pertechnetate	31,450	33,670	107.1
99mTc-HSA-D	740	740	100.0
99mTc-ECD	69,000	52,600	76.2
99mTc-MAG3	1,998	1,776	88.9
99mTc-MDP	511,340	635,290	124.2
99mTc-MIBI	2,220	1,110	50.0
99mTc-tetrofosmin	108,780	92,500	85.0
201TlCl	3,478	1,628	46.8
67Ga-citrate	4,292	3,737	87.1
123I-MIBG	3,330	8,991	270.0
123I-BMIPP	888	444	50.0
123I-capsule	22	33	150.0
111In-DTPA	925	259	28.0
123I-ioflupane	14,863	23,714	159.6

(11) 日当直状況
ア 月別日当直患者数

平成27年度	平成28年度(人)		平成24年度 合計(人)	平成25年度 合計(人)	平成26年度 合計(人)	平成27年度 合計(人)	平成28年度 合計(人)	前年度比
	当直	土日祝日勤						
4月	960	503	1,571	1,434	1,401	1,308	1,463	1.12
5月	952	511	1,638	1,584	1,492	1,991	1,463	0.73
6月	1,001	414	1,554	1,496	1,347	1,159	1,415	1.22
7月	937	490	1,667	1,435	1,335	1,286	1,427	1.11
8月	921	405	1,623	1,430	1,249	1,323	1,326	1.00
9月	860	424	1,559	1,421	1,405	1,547	1,284	0.83
10月	839	449	1,499	1,302	1,410	1,276	1,288	1.01
11月	920	517	1,490	1,438	1,307	1,472	1,437	0.98
12月	903	677	1,646	1,616	1,587	1,469	1,580	1.08
1月	894	660	1,721	1,669	1,629	1,465	1,554	1.06
2月	774	393	1,361	1,319	1,218	1,540	1,167	0.76
3月	809	368	1,444	1,347	1,136	1,475	1,177	0.80
合計	10,770	5,811	18,773	17,491	16,516	17,311	16,581	0.96
月平均	897.5	484.3	1,564.4	1,457.6	1,376.3	1,442.6	1,381.8	0.96
一日平均	29.5	51.9	130.4	121.5	114.7	120.2	81.4	0.68

イ 日当直業務内容別患者数

業務項目	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	前年度比
	合計人数	合計人数	合計人数	合計人数	合計人数	
1) 単純撮影	8,665	9,108	8,282	8,120	8,250	0.98
2) 回診撮影	5,070	3,299	3,337	3,763	2,957	1.13
3) 造影撮影	114	138	84	153	164	1.82
4) カテ治療・IVR	100	154	154	196	188	1.27
5) CT検査	4,824	4,785	4,705	5,053	4,935	1.07
5) MR検査			4	26	87	6.50
	18,773	17,484	16,566	17,311	16,581	1.04



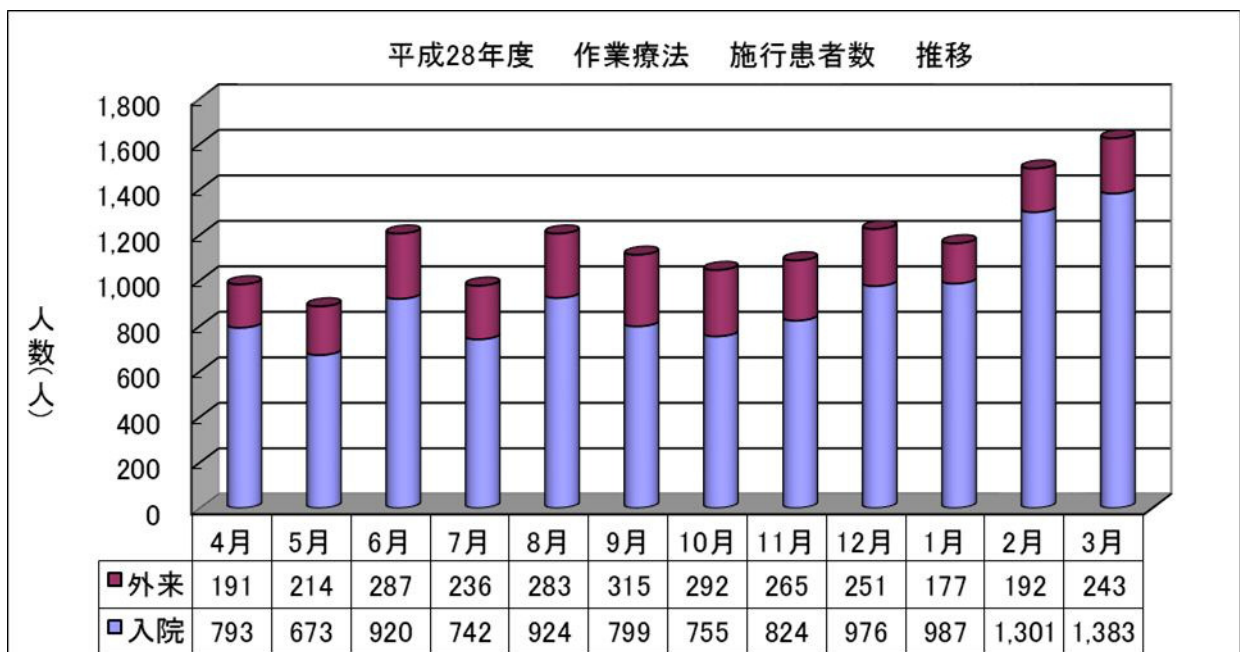
17 リハビリテーション科業務状況

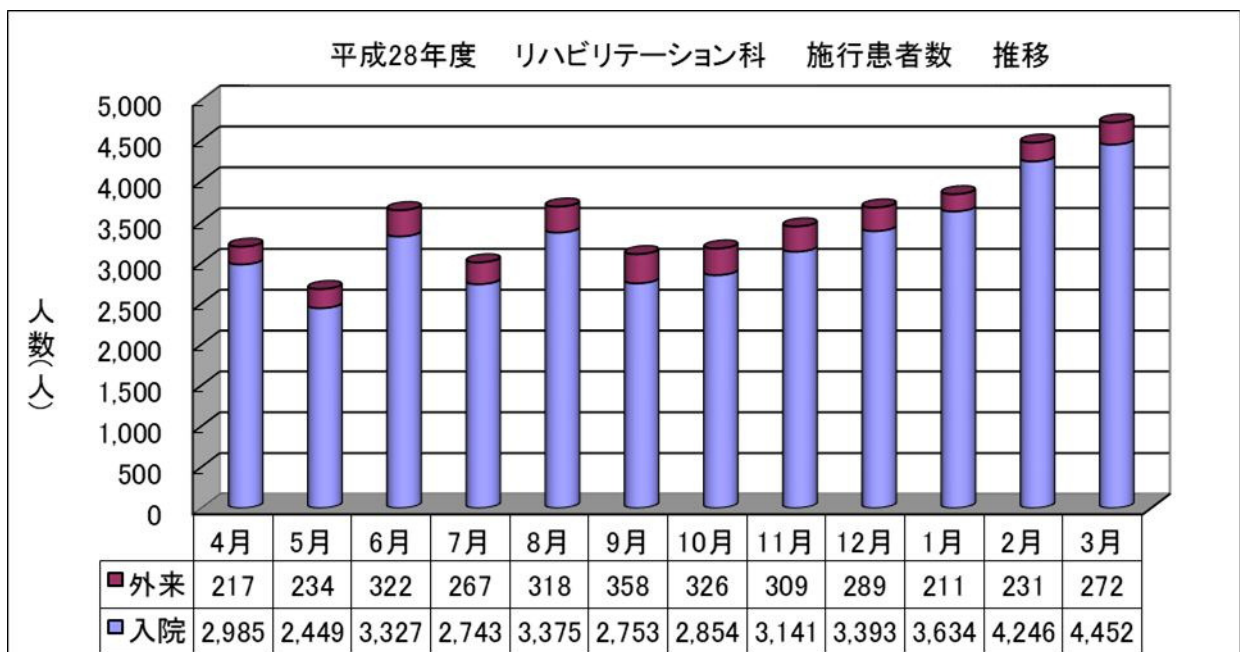
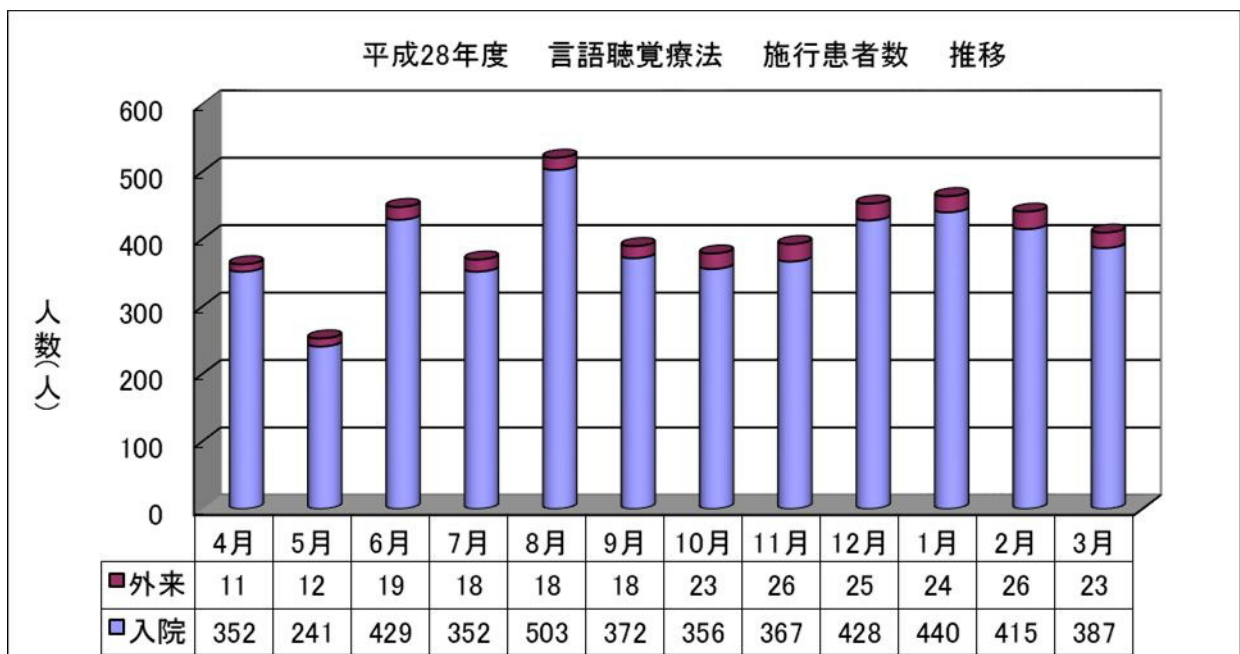
(1) 平成28年度業務実績

平成28年度リハビリテーション科業務実績		
	項目	人数(人)
1	理学療法合計	23,798
2	作業療法合計	14,023
3	言語聴覚療法合計	4,885
4	年間筋電図実施人数	149
5	年間嚙下造影実施人数	374
6	年間嚙下内視鏡実施人数	49
7	総合計	42,706

日付	平成28年4月			平成28年5月			平成28年6月			平成28年7月			平成28年8月			平成28年9月			平成28年10月		
月実施日数	20			19			22			20			22			20			20		
項目	入院	外来	合計	入院	外来	合計	入院	外来	合計	入院	外来	合計	入院	外来	合計	入院	外来	合計	入院	外来	合計
理学療法合計	1,840	15	1,855	1,535	8	1,543	1,978	16	1,994	1,649	13	1,662	1,948	17	1,965	1,582	25	1,607	1,743	11	1,754
作業療法合計	793	191	984	673	214	887	920	287	1,207	742	236	978	924	283	1,207	799	315	1,114	755	292	1,047
言語聴覚療法合計	352	11	363	241	12	253	429	19	448	352	18	370	503	18	521	372	18	390	356	23	379
年間筋電図実施人数																					
年間嚙下造影実施人数																					
年間嚙下内視鏡実施人数																					
総合計	2,985	217	3,202	2,449	234	2,683	3,327	322	3,649	2,743	267	3,010	3,375	318	3,693	2,753	358	3,111	2,854	326	3,180

日付	平成28年11月			平成28年12月			平成29年1月			平成29年2月			平成29年3月			年間合計			月平均		
月実施日数	20			19			19			20			22			243			20.25		
項目	入院	外来	合計	入院	外来	合計	入院	外来	合計	入院	外来	合計	入院	外来	合計	入院	外来	合計	入院	外来	合計
理学療法合計	1,950	18	1,968	1,989	13	2,002	2,207	10	2,217	2,530	13	2,543	2,682	6	2,688	23,633	165	23,798	1,969	14	1,983
作業療法合計	824	265	1,089	976	251	1,227	987	177	1,164	1,301	192	1,493	1,383	243	1,626	11,077	2,946	14,023	923	246	1,169
言語聴覚療法合計	367	26	393	428	25	453	440	24	464	415	26	441	387	23	410	4,642	243	4,885	387	20	407
年間筋電図実施人数																					149
年間嚙下造影実施人数																					374
年間嚙下内視鏡実施人数																					49
総合計	3,141	309	3,450	3,393	289	3,682	3,634	211	3,845	4,246	231	4,477	4,452	272	4,724	39,352	3,354	42,706	3,279	280	3,559





(2) 平成28年度実習状況

学校名	人数	期間
北里大学医療衛生学部 理学療法学科	1名	平成28年4月11日～6月3日
北里大学医療衛生学部 作業療法学科	1名	平成28年11月14日～12月2日

18 検査科業務状況

病理医の杉浦検査科部長の下、臨床検査技師22名（産休育休中職員1名）、非常勤職員1名、臨時的任用職員15名、ブランチ・ラボ（SRLに業務委託）で業務を行いました。

平成28年4月から常勤病理医が1名体制となりましたが、平成29年1月より2名体制に戻りました。細菌検査室では平成29年2月よりLAMP法による抗酸菌迅速診断を開始し、陽性疑い患者への迅速な対応が可能となりました。また、感染対策チーム、DMAT、糖尿病療養指導等のチーム医療への参加等、検査の質と患者サービスの向上に努めています。

各種認定資格取得状況

日本超音波医学会認定超音波技師：循環器3名、消化器2名、体表臓器2名

日本糖尿病療養指導士：2名、日本臨床細胞学会認定細胞検査士：5名（国際細胞検査士3名）

日本臨床衛生検査技師会病理検査技師1名、日本輸血・細胞治療学会認定輸血検査技師：2名

(1) 生理検査

項 目	平成 27 年 度			平成 28 年 度		
	外 来	入 院	総件数	外 来	入 院	総件数
心 電 図	15,200	3,441	18,641	15,373	3,403	18,776
C V R R	37	46	83	63	45	108
心 室 遅 延 電 位	3	6	9	2	3	5
運 動 負 荷	130	17	147	153	6	159
起 立 負 荷	40	2	42	33	6	39
ホ ル タ ー	307	22	329	324	18	342
ト レ ッ ド ミ ル	128	7	135	113	4	117
負 荷 心 肺 機 能 検 査	7	2	9	1	6	7
A B I	1,273	201	1,474	1,168	209	1,377
S P P	17	31	48	21	16	37
T B I	28	1	29	31	1	32
一 般 肺 機 能 (S V C)	1,702	336	2,038	1,573	361	1,934
一 般 肺 機 能 (F V C)	1,702	336	2,038	1,573	361	1,934
機 能 的 残 気 量	75	11	86	80	19	99
肺 拡 散 能 力	75	10	85	80	19	99
C ・ ボ リ ュ ー ム	66	9	75	76	19	95
薬 剤 吸 入 試 験	6	4	10	5	4	9
筋 電 図	526	8	534	450	23	473
神 経 伝 導 検 査	1,773	521	2,294	1,849	279	2,128
脳 波	649	416	1,065	701	281	982
脳 波 (眠 剤 使 用)	7	109	116	8	120	128
A B R	48	18	66	20	18	38
V E P						
S E P						
V E M P						
心 エ コ ー	1,650	752	2,402	1,678	715	2,393
経 食 道 心 エ コ ー	3	3	6	0	5	5
腹 部 エ コ ー	3,390	877	4,267	3,211	784	3,995
体 表 エ コ ー	2,674	150	2,824	2,663	160	2,823
血 管 エ コ ー	363	338	701	485	415	900
エ コ ー 下 生 検 ・ 穿 刺	167	30	197	167	39	206
モ ニ タ リ ン グ	0	25	25	0	35	35
合 計	32,046	7,729	39,775	31,901	7,374	39,275

(2) 病理検査部門

ア 病理・細胞診検査

項 目	平 成 27 年 度			平 成 28 年 度		
	外来件数	入院件数	総件数	外来件数	入院件数	総件数
病 理 組 織 検 査	2,922	4,685	7,607	2,977	4,554	7,531
病 理 術 中 迅 速 検 査	5	289	294	4	258	262
免 疫 染 色	489	889	1,378	374	736	1,110
特 殊 染 色	78	350	428	102	368	470
電 子 顕 微 鏡 検 査	0	7	7	0	5	5
細 胞 診 検 査	8,839	1,377	10,216	8,297	1,522	9,819
細 胞 診 術 中 迅 速 検 査	0	42	42	0	23	23
病 理 解 剖	0	27	27	0	20	20
合 計	12,333	7,666	19,999	11,754	7,486	19,240

イ 剖検状況

科別剖検状況	平 成 27 年 度				平 成 28 年 度			
	実入院	死亡数	剖検数	剖検率	実入院	死亡数	剖検数	剖検率
内 科	4,362	249	23	9.24	4,736	283	18	6.36
神 経 科								
小 児 科	1,944	3			1,634	2		
外 科	1,794	61	2	3.28	1,598	49		
脳 神 経 外 科	202	15			193	8	1	12.5
整 形 外 科	1,025	2			1,044	3	1	33.3
形 成 外 科	58	0			86	0		
心 臓 血 管 外 科	89	3	1	33.33	121	3		
皮 膚 科	165	3			167	2		
泌 尿 器 科	685	15			741	12		
産科・婦人科（死産児）	2,064	4			2,076	3		
眼 科	173	0			272	0		
耳 鼻 咽 喉 科	444	1			326	5		
リハビリテーション科	0	0			0	0		
放 射 線 科	8	0			6	0		
歯 科 口 腔 外 科	115	0			102	0		
救命救急センター	571	79	1	1.27	846	289		
感 染 内 科	0	0			0	0		
感 染 小 児 科	0	0			0	0		
精 神 科	274	0			253	0		
計	13,973	435	27	6.21	14,20	659	20	3.03

ウ 臨床支援業務

項 目	平 成 27 年 度			平 成 28 年 度		
	外来件数	入院件数	外来件数	外来件数	入院件数	総件数
産科エコー（胎児計測）	2,724		2,724	2,754		2,754

(3) 細菌検査

年度 項目		平成 27 年 度			平成 28 年 度		
		外 来	入 院	合 計	外 来	入 院	合 計
塗 抹 鏡 検		3,707	4,900	8,607	3,629	3,747	7,376
培 養 同 定	口 腔 ・ 呼 吸 器	2,403	2,296	4,699	2,190	1,946	4,136
	消 化 器	446	1,180	1,626	491	1,034	1,525
	泌 尿 器 ・ 生 殖 器	2,419	1,234	3,653	2,539	967	3,506
	血 液 ・ 穿 刺 液	4,109	4,546	8,655	4,227	3,594	7,821
	そ の 他	874	1,004	1,878	567	675	1,242
嫌 気 性 培 養		5,117	6,456	11,573	5,519	4,933	10,452
薬 剂 感 受 性	1 菌 種	2,391	1,855	4,246	2,225	1,311	3,536
	2 菌 種	625	535	1,160	553	381	934
	3 菌 種 以 上	186	223	409	183	126	309
大 腸 菌 抗 原		347	343	690	309	260	569
大 腸 菌 ベ ロ ト キ シ ン		2	3	5	3	0	3
肺 炎 球 菌 抗 原		3	1	4	1	0	1
ヘ モ フ ィ ル ス 抗 原		3	0	3	1	0	1
カ ン ジ ダ		0	0	0	0	0	0
ト リ コ モ ナ ス		1	0	1	0	0	0
ク ラ ミ ジ ア		0	0	0	0	0	0
イ ン フ ル エ ン ザ		91	19	110	-	-	-
ア デ ノ ウ イ ル ス		229	38	267	-	-	-
R S ウ イ ル ス		153	34	187	-	-	-
抗 酸 菌 塗 抹 至 急		104	510	614	68	307	375
L A M P 法		-	-	-	9	18	27
合 計		23,210	25,117	48,387	22,514	19,299	41,813

平成27年8月からインフルエンザ、アデノウイルス及びRSウイルスの迅速検査は検体検査室での実施となりました。

平成29年2月から抗酸菌塗抹至急の代わりにLAMP法による遺伝子検査を開始しました。

(4) 血液センター

ア 検査件数

	平成 27 年 度			平成 28 年 度		
	外 来	入 院	合 計	外 来	入 院	合 計
血液型 A B O 式及び Rh 式	6,581	1,515	8,096	6,450	1,522	7,972
抗体スクリーニング 含む抗 D i a 抗体検査	5,131	1,213	6,344	5,024	1,225	6,249
A B O 式 重 型 の 同 定	2	0	2	0	0	0
その他の血液検査	1	2	3	0	2	2
抗 体 価	17	10	27	24	19	43
交 差 試 験	959	2,834	3,793	938	2,378	3,316
直 接 ク ー ム ス	30	207	237	31	241	272
間 接 ク ー ム ス	30	47	77	33	34	67
出 血 時 間	8	9	17	7	7	14
合 計	12,759	5,837	18,596	12,507	5,428	17,935

イ 血液使用数量

製 剤		単 位	平成 27 年 度			平成 28 年 度			
			外 来	入 院	合 計	外 来	入 院	合 計	
自 己 血		1	0	1	1	0	1	1	
		2	0	122	122	0	91	91	
成 分 製 剤	赤血球製剤	R B C - L R	1	0	37	37	0	0	0
			2	650	1,896	2,546	698	1,375	2,073
		日赤照射 R B C - L R	1	0	4	4	2	4	6
			2	17	101	118	19	63	82
		合 計	1	0	41	41	2	4	6
		2	667	1,997	2,664	717	1,438	2,155	
	新 鮮 凍 結 血 漿	F F P - L R	120ml	0	39	39	0	2	2
			240ml	240	667	907	201	594	795
			480ml	0	116	116	0	41	41
	濃 厚 血 小 板	P C - L R	1	0	13	13	0	0	0
5			0	3	3	0	0	0	
10			15	38	53	13	31	44	
15			0	0	0	0	1	1	
20			0	9	9	0	4	4	
日赤照射 P C - L R		1	0	0	0	0	0	0	
		5	0	10	10	0	3	3	
		10	8	121	129	18	114	132	
		15	4	14	18	1	14	15	
		20	8	39	47	3	36	39	
P C - H L A - L R		10	0	0	0	0	14	14	
		15	0	0	0	0	1	1	
		20	0	0	0	0	3	3	

ウ 自己血貯血

	単位	平成 27 年 度			平成 28 年 度		
		外 来	入 院	合 計	外 来	入 院	合 計
液 状 保 存	1	2	1	3	2	0	2
	2	231	12	243	214	4	218
合 計		233	13	246	216	4	220

*単位 1 は200ml、単位 2 は400ml

(5) 院内委託検査

検査項目	平成 27 年 度			平成 28 年 度		
	外 来	入 院	総件数	外 来	入 院	総件数
(尿検査)						
尿 定 性	49,785	13,634	63,419	48,369	12,331	60,700
尿 沈 渣	25,327	8,737	34,064	24,979	8,397	33,376
尿定量検査	8,655	26,736	35,391	8,777	16,840	25,617
髄液検査	1,242	1,923	3,165	1,059	1,623	2,682
穿刺液検査	202	783	985	276	668	944
そ の 他	2,838	3	2,841	2,663	4	2,667
小 計	88,049	51,816	139,865	86,123	39,863	125,986
(血液検査)						
血 算	78,517	51,087	129,604	77,360	47,737	125,097
血 液 像	50,386	35,529	85,915	52,386	33,798	86,184
網状赤血球	6,789	8,724	15,513	7,655	8,905	16,560
凝固関連検査	60,679	58,743	119,422	62,744	50,123	112,867
血液ガス	1,803	2,592	4,395	1,730	2,125	3,855
赤 沈	6,870	933	7,803	7,420	1,149	8,569
そ の 他	9	6	15	6	5	11
小 計	205,053	157,614	362,667	209,301	143,842	353,143
(血清検査)						
感染症関連検査	47,535	3,722	51,257	47,086	3,165	50,251
薬物関連検査	2,540	769	3,309	2,239	576	2,815
腫瘍関連検査	24,720	2,061	26,781	24,291	2,083	26,374
そ の 他	33,252	7,475	40,727	40,981	8,165	49,146
小 計	108,047	14,027	122,074	114,597	13,989	128,586
(生化学検査)	1,427,604	873,127	2,300,731	1,419,344	782,182	2,201,526
合 計	1,828,753	1,096,584	2,925,337	1,829,365	979,876	2,809,241

(6) 院外外注検査

検査項目	平成27年度			平成28年度		
	外来	入院	総件数	外来	入院	総件数
内分泌学の検査	10,295	3,417	13,712	7,326	5,430	12,756
腫瘍関連検査	17,924	2,896	20,820	14,815	5,747	20,562
細胞性免疫検査	2,288	361	2,649	1,384	188	1,572
薬物検査	1,283	609	1,892	1,435	312	1,747
生化学的検査	5,763	3,474	9,237	7,390	4,011	11,401
免疫学的検査	32,283	6,340	38,623	23,932	6,004	29,936
感染症・ウイルス検査	18,249	4,449	22,698	19,984	5,936	25,920
血液学的検査	297	255	552	283	293	576
遺伝子関連検査	205	224	429	197	186	383
微生物学的検査	3,128	4,347	7,475	3,093	4,116	7,209
病理学的検査	176	184	360	258	148	406
尿検査・他	2,851	737	3,588	2,922	600	3,522
合計	94,742	27,293	122,035	83,019	32,971	115,990

(7) 宿日直検査

項目	平成27年度		平成28年度	
	件数	月平均	件数	月平均
血液型検査	1,706	142.1	1,651	137.6
交差適合試験	1,401	116.8	1,195	99.6
血液製剤払い出し	980	81.7	735	61.2
心電図検査	4,477	373.1	4,423	368.6
合計	8,564	713.7	8,004	667.0

19 給食業務状況

平成28年度は入院患者数の減少に伴い給食総数も減少しました。今年度も引き続き特別食の増加を目標に掲げ、医療スタッフ勉強会や特別食早見表の配布を行いました。濃厚流動食の特別食加算が廃止となったこともあり、特別食比率は2%減少しました。栄養に関する情報発信として、栄養だよりを作成、毎月デイルームへ掲示しました。また献立アイディア募集箱の意見を参考に委託業者と連携しながら、メニュー改善に努めました。

(1) 年度別給食状況

年 度	一 般 食				特別食	計	1 回 の 食 数	特別食 比率%
	常 食	軟 食	流動食	計				
平成24年度	198,266	88,293	61,874	348,433	136,209	484,642	443	28.1
平成25年度	190,869	86,117	59,635	336,621	126,932	463,553	423	27.4
平成26年度	190,806	89,445	51,783	332,034	119,848	451,882	413	26.5
平成27年度	189,566	92,045	56,284	337,895	126,162	464,057	424	27.2
平成28年度	192,865	96,665	45,708	335,238	112,724	447,962	409	25.2

(2) 食種別給食数

総 数 447,962 食 100 %

一般食	335,238食	74.8 %	— 常食	192,865食
			— 軟食	64,144食
			— 嚥下調整食	32,521食
			— 流動食	5,090食
			— 調乳	14,947食
			— 濃厚流動食	25,671食

特別食	112,724食	25.2%	— 蛋白コントロール 食	51,203食
			— 脂質コントロール 食	6,297食
			— カロリーコントロール 食	50,252食
			— 術後・潰瘍食	4,898食
			— 注腸食	74食

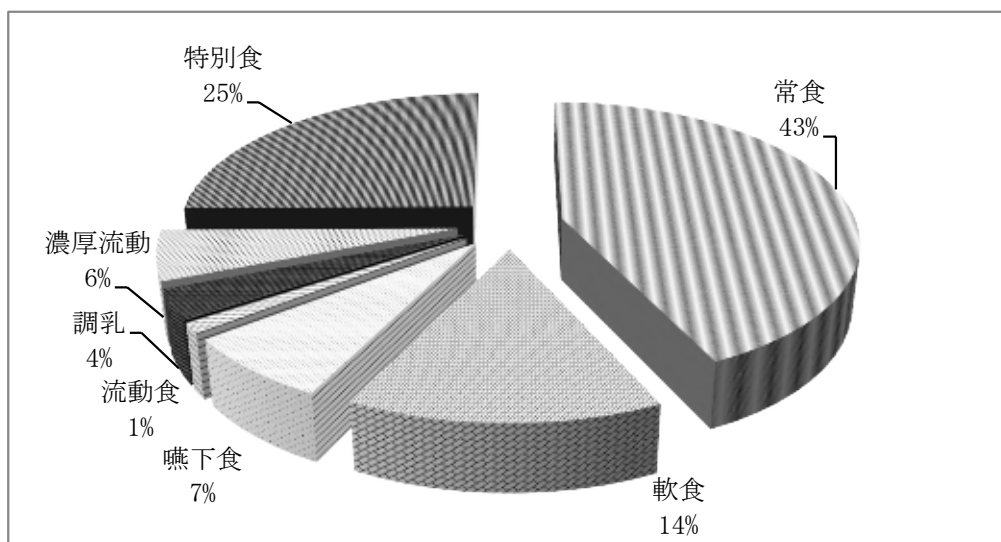
なごみ食 10,049食 (常食として計上)

フリーオーダー食 1,120食 (常食として計上)

定型除去食 0食 (軟食として計上)

検食 4,380 食 (常食として計上)

食種別比率



(3) 月別給食数 (平成28年度)

月別	一般食				特別食	計	1回の食数
	常食	軟食	流動食	計			
4月	15,156	8,615	4,284	28,055	9,945	38,000	422
5月	16,726	7,774	4,261	28,761	8,243	37,004	398
6月	17,384	7,466	3,643	28,493	8,368	36,861	410
7月	17,463	8,008	3,744	29,215	9,021	38,236	411
8月	17,670	7,917	4,048	29,635	9,185	38,820	417
9月	15,632	8,461	3,773	27,866	9,120	36,986	411
10月	15,222	7,821	3,882	26,925	8,479	35,404	381
11月	15,223	8,009	3,911	27,143	9,781	36,924	410
12月	15,580	8,782	3,240	27,602	9,443	37,045	398
1月	16,225	7,669	3,725	27,619	10,700	38,319	412
2月	14,504	7,619	3,466	25,589	9,611	35,200	419
3月	16,080	8,524	3,731	28,335	10,828	39,163	421
計	192,865	96,665	45,708	335,238	112,724	447,962	409

(4) 嚥下調整食数

平成26年2月より嚥下調整食の分類を見直し、一口大食ときざみ食をまとめ6段階としました。全食数の7%を占めています。栄養サポートチームでは経口摂取をめざし、早期介入を行っています。

年度	ゼリー開始食	ミキサー	細きざみ	きざみ	一口大	軟菜食Ⅰ	軟菜食Ⅱ	計
平成24年度	1,095	8,531	7,072	7,301	4,711	7,742	4,923	41,375
平成25年度	913	10,525	5,340	5,869	4,486	5,637	4,437	37,207
平成26年度	1,647	16,159	7,459	6,498	0	7,885	2,240	41,888
平成27年度	1,730	13,404	5,927	8,074	0	7,738	1,991	38,864
平成28年度	1,235	8,565	5,896	6,683	0	6,227	3,915	32,521

20 栄養指導・NST業務状況

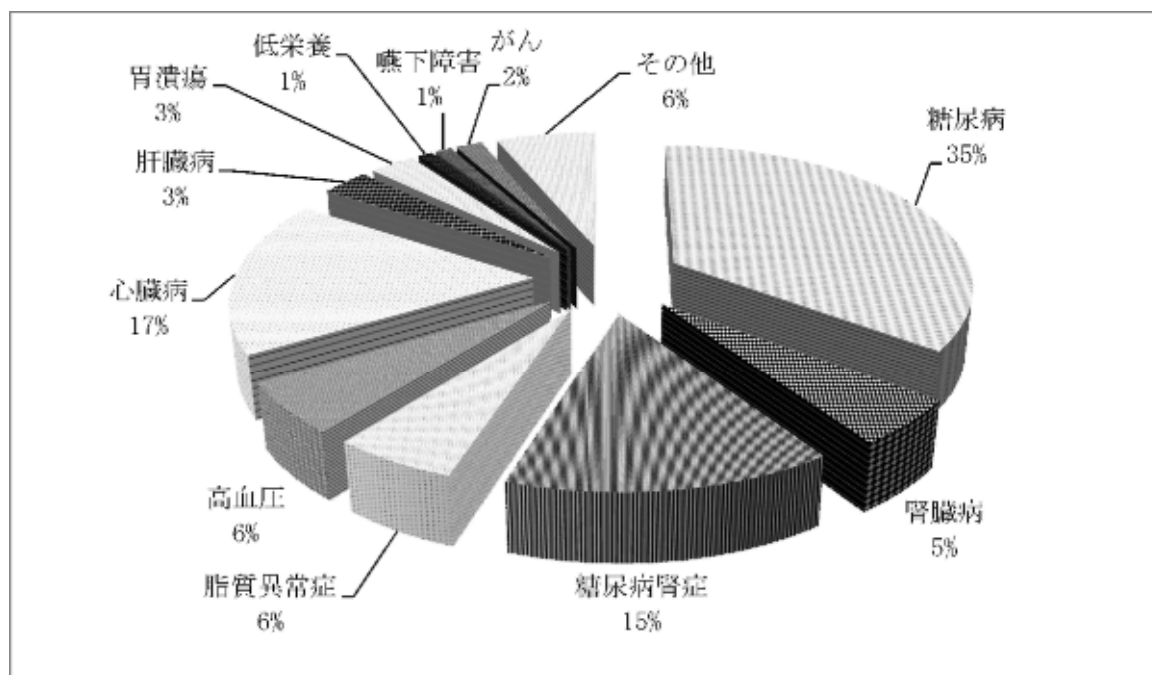
(1) 栄養指導状況

個別指導件数に占める入院個別指導の割合が増えています。疾患別では糖尿病、糖尿病腎症合わせて50%と半数を占めています。心臓カテーテル入院でのクリニカルパス指導件数が17%と次いで多くなっています。集団指導は糖尿病教室の参加者が増加しました。平成28年から低栄養、嚥下障害、がんの栄養指導が加算対象となりました。

		個別指導		集団指導			
		個別指導	透析予防指導	糖尿病教室		母親教室	イベント
				基礎	応用		
回数	総数	2,356	406	11	10	12	2
	月平均	196.3	33.8	0.9	0.8	1	
人数	総数	2,954	433	158	133	249	69
	月平均	246.2	36.1	13.2	11.1	20.8	
内 訳	総数	外来 922	外来 406	外来 39	44	外来 249	5月 看護の日 12名
		入院 1,434		入院 83	62		
		家族他 598	家族 27	家族他 36	27		
	月平均	外来 76.8	33.8	外来 3.3	3.7	外来 20.8	9月 糖尿病 公開講座 57名
		入院 119.5		入院 6.9	5.2		
		家族他49.8	2.3	家族他 3	2.3		
時間	総時間	1,178	203	11.0	10.0	12.0	
	1回	30分	30分	1時間	1時間	1時間	

個別栄養指導(疾患別件数)

糖尿病	腎臓病	糖尿病腎症	脂質異常症	高血圧	心臓病	肝臓病	胃潰瘍	低栄養	嚥下障害	がん	その他
972	144	406	156	157	487	83	80	25	30	47	175



(2) N S T回診状況

N S T（栄養サポートチーム）は食事だけでなく、経管栄養、静脈栄養など総合的かつ専門的な栄養管理を目指し、医師、看護師、薬剤師、栄養士、検査技師、言語聴覚士など、多職種が連携して活動を行っています。平成22年の診療報酬改定にて、栄養サポートチーム加算（200点／週／人）が新設され、平成23年3月から施設基準を満たし算定を行っています。

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年間 (人)
平成24年度	256	212	218	225	300	207	278	217	213	198	214	207	2,745
平成25年度	256	191	200	288	197	218	188	212	215	204	215	252	2,636
平成26年度	182	172	254	176	193	209	216	189	186	167	156	184	2,284
平成27年度	162	140	144	163	126	142	138	127	114	125	135	151	1,667
平成28年度	125	119	138	128	196	136	128	162	164	185	172	156	1,809

※回診回数：平成24年度～平成26年度週3回、平成27年度から週2回

〔介入状況〕

N S T加算算定開始後は嚥下障害や食種・補助食の相談を中心に介入患者数を増やしてきました。近年では、回診の体制を週2回としたこと、N S T勉強会などによる経管栄養による下痢発症時の対応の周知により経管栄養の介入依頼が減ったこと、病棟担当管理栄養士の積極的な活動により食種・補助食の介入依頼は減少しましたが、栄養判定や栄養ルート相談などの多岐にわたる介入依頼が増加しました。介入終了理由については転院や退院が半数を占めています。

	経管栄養 (下痢含む)	褥瘡	嚥下障害	食種・補助食	輸液	栄養判定	その他	合計 (人)
平成24年度	94(14.6%)	12(1.9%)	318(49.5%)	205(31.9%)			13(2.0%)	642
平成25年度	65(10.5%)	8(1.3%)	316(51.2%)	166(26.9%)	10(1.6%)		52(8.4%)	617
平成26年度	77(12.0%)	1(0.2%)	325(50.7%)	183(28.5%)	27(4.2%)		28(4.4%)	641
平成27年度	66(14.9%)	1(0.2%)	269(60.7%)	84(19.0%)	20(4.5%)		3(0.7%)	443
平成28年度	56(11.4%)	5(1.0%)	283(57.7%)	82(16.7%)	23(4.7%)	7(1.4%)	35(7.1%)	491

	退院	転院	改善	不変	死亡	悪化 (ターミナルなど)	合計(人)
平成24年度	258(39.9%)	95(14.7%)	173(26.8%)	7(1.1%)	65(10.1%)	48(7.4%)	646
平成25年度	206(32.3%)	104(16.3%)	225(35.3%)	7(1.1%)	56(8.8%)	39(6.1%)	637
平成26年度	195(30.8%)	73(11.5%)	266(42.0%)	18(2.8%)	49(7.7%)	32(5.1%)	633
平成27年度	98(20.7%)	53(11.2%)	235(49.7%)	41(8.7%)	22(4.7%)	24(5.1%)	473
平成28年度	156(32.5%)	81(16.9%)	178(37.1%)	15(3.1%)	37(7.7%)	13(2.7%)	480

〔入院期間と介入期間〕

病院全体として入院期間短縮に取り組む中で、N S T介入者の入院期間と介入期間は下表のとおりです。介入者の高齢化が進む中、入院期間が短くなるような介入を目指しています。平成28年度の介入患者の介入期間は増加しましたが、入院期間は前年度より短縮しました。

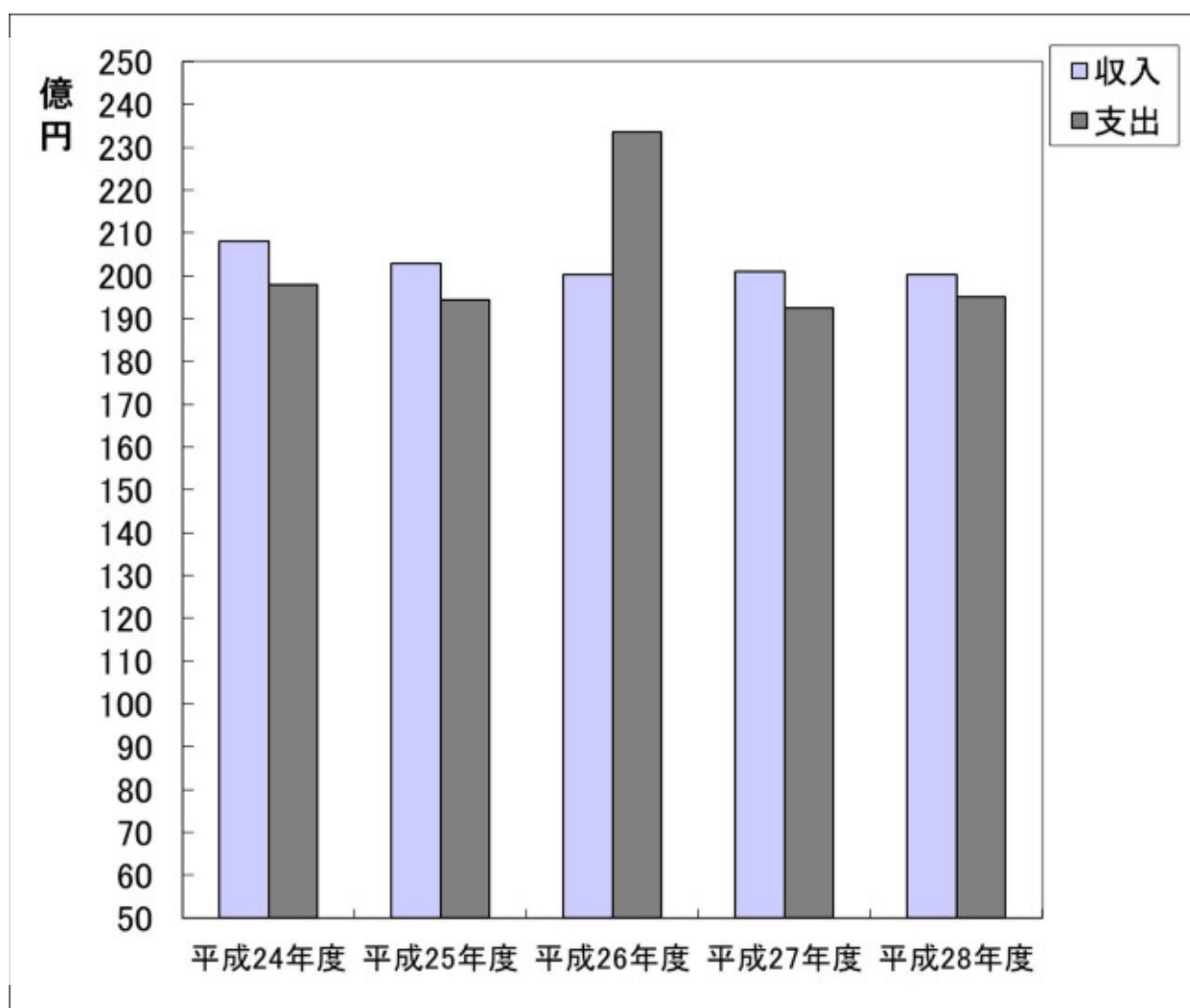
	年齢(歳)	入院期間(日)	介入期間(日)
平成24年度	76.0	44.0	20.0
平成25年度	76.0	44.0	18.0
平成26年度	76.0	39.0	14.0
平成27年度	75.0	54.8	14.3
平成28年度	73.7	50.0	21.7

Ⅳ 経 理 概 要

1 年度別経営収支状況

(単位：千円)

年 度	収 入		支 出		損 益
	決 算 額	指 数	決 算 額	指 数	
平成24年度	20,808,593	100	19,794,924	100	1,013,669
平成25年度	20,290,579	98	19,432,171	98	858,408
平成26年度	20,035,777	96	23,363,614	118	-3,327,837
平成27年度	20,102,156	97	19,246,546	97	855,610
平成28年度	20,018,915	96	19,508,441	99	510,474



2 収入・支出状況

(1) 収益的収入及び支出

収 入

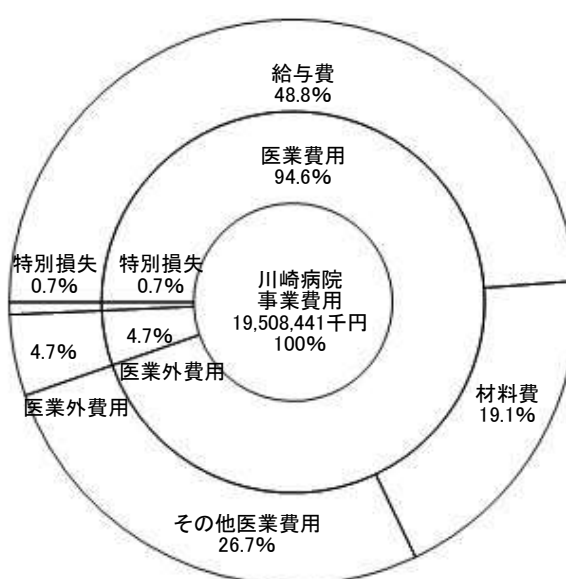
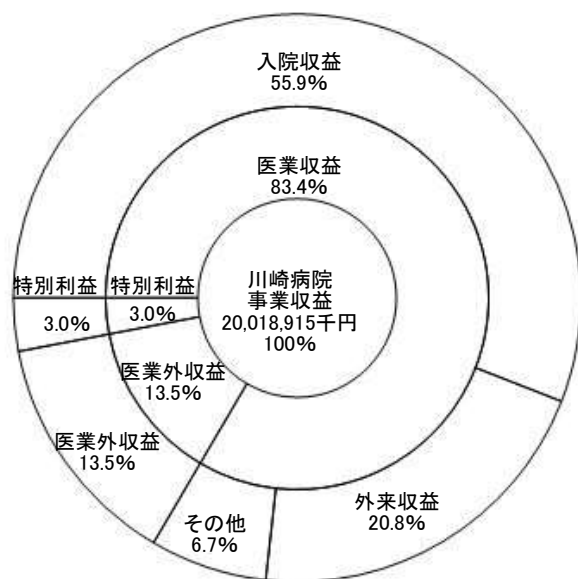
(単位：千円)

科 目	平成27年度		平成28年度	
	決算額	構成比率 (%)	決算額	構成比率 (%)
川崎病院事業収益	20,102,156	100.0	20,018,915	100.0
医業収益	16,758,004	83.4	16,704,394	83.4
入院収益	11,291,687	56.2	11,196,887	55.9
外来収益	4,175,232	20.8	4,171,594	20.8
その他	1,291,084	6.4	1,335,913	6.7
医業外収益	2,815,501	14.0	2,710,353	13.5
受取利息配当金	884	0.0	34	0.0
補助金	39,559	0.2	41,036	0.2
負担金交付金	1,935,706	9.6	1,849,309	9.2
長期前受金戻入	439,831	2.2	388,957	1.9
資本費繰入収益	173,739	0.9	219,539	1.1
その他	225,782	1.1	211,478	1.1
特別利益	528,652	2.6	604,168	3.0

支 出

(単位：千円)

科 目	平成27年度		平成28年度	
	決算額	構成比率 (%)	決算額	構成比率 (%)
川崎病院事業費用	19,246,546	100.0	19,508,441	100.0
医業費用	18,165,147	94.4	18,462,093	94.6
給与費	9,134,694	47.5	9,520,697	48.8
材料費	3,655,242	19.0	3,725,468	19.1
経 費	4,077,729	21.2	4,021,973	20.6
減価償却費	1,180,748	6.1	1,114,543	5.7
資産減耗費	49,729	0.3	18,672	0.1
研究研修費	67,005	0.3	60,740	0.3
医業外費用	928,452	4.8	908,362	4.7
特別損失	152,947	0.8	137,986	0.7



(2) 資本の収入及び支出

収 入

(単位：千円)

科 目	平 成 27 年 度		平 成 28 年 度	
	決算額	構成比率 (%)	決算額	構成比率 (%)
川崎病院事業資本の収入	1,553,179	100.0	1,616,373	100.0
企 業 債	530,000	34.1	543,000	33.6
出 資 金	0	0.0	0	0.0
固定資産売却代金	0	0.0	0	0.0
補 助 金	0	0.0	0	0.0
負 担 金	1,023,179	65.9	1,073,373	66.4

支 出

(単位：千円)

科 目	平 成 27 年 度		平 成 28 年 度	
	決算額	構成比率 (%)	決算額	構成比率 (%)
川崎病院事業資本の支出	2,501,543	100.0	2,701,045	100.0
建 設 改 良 費	727,115	29.1	809,837	30.0
企 業 債 償 還 金	1,774,428	70.9	1,891,208	70.0
長期借入金償還金	0	0.0	0	0.0

3 年度別一般会計繰入金及び出資金

(単位：千円)

種 別	年 度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度
収 益 的 収 入 他会計負担金、他会計補助金、 負担金交付金、資本費繰入収益		4,077,339	3,177,821	3,128,730	3,139,215
資 本 的 収 入 (出 資 金)		0	0	0	0

4 比較貸借対照表

(単位：千円)

科 目	平成27年度 決算額	平成28年度 決算額	増 減	前年度比 (%)	構成比率 (%)	
					平 成 27年度	平 成 28年度
固定資産	17,354,775	17,046,228	△ 308,547	98.2	71.0	74.6
有形固定資産	17,354,775	17,046,228	△ 308,547	98.2	71.0	74.6
土地	426,224	426,224	0	100.0	1.7	1.9
建物	14,428,644	14,065,623	△ 363,021	97.5	59.0	61.5
構築物	89,054	49,000	△ 40,054	55.0	0.4	0.2
器械備品	2,312,238	2,393,059	80,821	103.5	9.5	10.5
車 両	2,647	2,019	△ 628	76.3	0.0	0.0
リース資産	44,922	76,073	31,151	169.3	0.2	0.3
その他	32,830	31,421	△ 1,409	95.7	0.1	0.1
建設仮勘定	18,217	2,808	△ 15,409	15.4	0.1	0.0
無形固定資産	—	—	—	—	—	—
施設利用権	—	—	—	—	—	—
流動資産	7,083,728	5,811,875	△ 1,271,853	82.0	29.0	25.4
現金預金	4,179,846	2,962,743	△ 1,217,103	70.9	17.1	13.0
未収金	2,827,114	2,757,403	△ 69,711	97.5	11.6	12.1
貯蔵品	76,768	91,729	14,961	119.5	0.3	0.4
前払金	—	—	—	—	—	—
その他	—	—	—	—	—	—
資産合計	24,438,503	22,858,103	△ 1,580,400	93.5	100.0	100.0

(単位：千円)

科 目	平成27年度 決算額	平成28年度 決算額	増 減	前年度比 (%)	構成比率 (%)	
					平 成 27年度	平 成 28年度
固定負債	23,648,978	22,339,191	△ 1,309,787	94.5	76.2	73.8
企業債	20,167,171	18,793,856	△ 1,373,315	93.2	65.0	62.1
リース債務	25,076	44,116	19,040	175.9	0.1	0.1
引当金	3,456,730	3,501,219	44,489	101.3	11.1	11.6
流動負債	5,039,902	4,992,599	△ 47,303	99.1	16.2	16.5
企業債	1,891,209	1,916,315	25,106	101.3	6.1	6.3
リース債務	17,065	17,288	223	101.3	0.1	0.1
未払金	2,410,407	2,318,005	△ 92,402	96.2	7.8	7.7
未払費用	144,291	138,718	△ 5,573	96.1	0.5	0.5
引当金	476,256	499,508	23,252	104.9	1.5	1.7
その他	100,674	102,765	2,091	102.1	0.3	0.3
繰延収益	450,679	536,999	86,320	119.2	1.5	1.8
負債合計	29,139,559	27,868,789	△ 1,270,770	95.6	93.9	92.1
資本金	8,750,047	8,750,047	0	100.0	28.2	28.9
自己資本	—	—	—	—	—	—
借入資本	—	—	—	—	—	—
企業債	—	—	—	—	—	—
剰余金	△ 6,863,058	△ 6,346,290	516,768	92.5	△ 22.1	△ 21.0
資本剰余金	59,152	65,445	6,293	110.6	0.2	0.2
受贈財産評価額	30,092	30,092	0	100.0	0.1	0.1
補助金	22,897	22,897	0	100.0	0.1	0.1
負担金	6,163	12,456	6,293	202.1	0.0	0.0
欠損金	6,922,209	6,411,735	△ 510,474	92.6	△ 22.3	△ 21.2
当年度未処理決損金	6,922,209	6,411,735	△ 510,474	92.6	△ 22.3	△ 21.2
資本合計	1,886,989	2,403,756	516,767	127.4	6.1	7.9
負債資本合計	31,026,548	30,272,545	△ 754,003	97.6	100.0	100.0

※ 各表の数値については、端数処理の関係から合計値が一致しない場合があります。

5 主な経営分析

項 目	平成27年度	平成28年度	
(1) 病床利用率 (%)			
一般 = $\frac{\text{年延入院患者数}}{\text{年延病床数}} \times 100$	76.1	72.3	
精神 = $\frac{\text{年延入院患者数}}{\text{年延病床数}} \times 100$	59.1	60.7	
感染 = $\frac{\text{年延入院患者数}}{\text{年延病床数}} \times 100$	0.0	0.0	
(2) 一日平均患者数 (人)			
入院 = $\frac{\text{年延入院患者数}}{\text{診療日数}}$	526.8	502.8	
外来 = $\frac{\text{年延外来患者数}}{\text{診療日数}}$	1447.9	1393.1	
(3) 外来入院患者比率 (%) $\frac{\text{年延外来患者数}}{\text{年延入院患者数}} \times 100$	182.5	184.5	
(4) 職員1人当たり患者数 (人)			
医 師	入院 = $\frac{\text{年延入院患者数}}{\text{年延医師数}}$	4.0	3.8
	外来 = $\frac{\text{年延外来患者数}}{\text{年延医師数}}$	11.1	10.5
看護部門	入院 = $\frac{\text{年延入院患者数}}{\text{年延看護部門職員数}}$	0.9	0.8
	外来 = $\frac{\text{年延外来患者数}}{\text{年延看護部門職員数}}$	2.4	2.3
(5) 患者1人1日当たり診療収入 (円)			
入院 = $\frac{\text{入院収益}}{\text{年延入院患者数}}$	58,564	61,016	
外来 = $\frac{\text{外来収益}}{\text{年延外来患者数}}$	11,867	12,323	
(6) 患者1人1日 当たり薬品費 (円) = $\frac{\text{薬品費 (投薬・注射)}}{\text{年延患者総数}}$	2,649	2,811	
(7) 入院患者1人1日当たり給食材料費 (円)			
= $\frac{\text{給食材料費}}{\text{年延入院患者数}}$	601	627	

項 目	平成27年度	平成28年度
(8) 薬品使用効率 (%) = $\frac{\text{投薬注射収入}}{\text{薬品費}} \times 100$	70.0	69.3
(9) 診療収入に対する割合 (%)		
投薬注射収入 $\frac{\text{投薬注射収入}}{\text{入院外来収益}} \times 100$	9.3	9.5
検査収入 $\frac{\text{検査収入}}{\text{入院外来収益}} \times 100$	8.1	7.9
放射線収入 $\frac{\text{放射線収入}}{\text{入院外来収益}} \times 100$	4.3	4.4
(10) 医業収益に対する割合 (%)		
薬品費 $\frac{\text{薬品費}}{\text{医業収益}} \times 100$	12.3	12.7
診療材料費 $\frac{\text{診療材料費}}{\text{医業収益}} \times 100$	8.7	8.9
給与費 $\frac{\text{給与費}}{\text{医業収益}} \times 100$	54.5	57.0

V 研究・研修及び実習・講師派遣

1 診療関係研究

平成 28 年度 C. P. C 開催内容

通 常 型	開催番号	年 月 日	剖検番号	症例事項名	主 治 医	病理担当
	第377回 (合同第87回)	7月14日	A-6027	神経線維腫症1型 + 腹腔内大量出血	大 谷 慧 松 原 祥 平	堀 井 千 裕 杉 浦 仁
	第378回	8月17日	A-6029	骨髄異形成症候群、急性白血病化	有 馬 聖 永	紅 林 泰 杉 浦 仁
	第379回	11月7日	A-6030	食道胃接合部癌術後	大 谷 慧	西 村 瑤 子 杉 浦 仁
	第380回 (合同第88回)	平成29年 1月13日	S-XXXX	防水スプレー吸入による肺障害	兵 頭 正 浩	南 雲 佑
	第381回	1月18日	A-6026	高齢者EBV陽性びまん性大細胞型B細胞性リンパ腫	齋 藤 豊	江 本 桂 杉 浦 仁

各診療科カンファレンス状況

各 科	検討会	抄読会	研究会	各カンファレンス内容
内 科	週1回	週1回	月1回	内科 (週1回) 循環器 (週1回) 内視鏡 (週1回) リウマチ (週1回) 腎臓 (週1回) 神経 (週1回) 呼吸器 (週1回) 総診 (週1回) 消化器 (週1回)
精 神 科	週1回			病棟カンファレンス (週1回) 医局カンファレンス (週1回) 病棟回診 (週1回)
小 児 科 新生児内科	週1回	週1回		神奈川県下10病院合同症例検討会 (年1回) 川崎市小児科医会症例検討会 (年2回) 病棟回診 (週2回) カルテ回診 (週1回) 慶大小児科高橋教授回診 (月2回) X線画像カンファレンス (週1回) 症例検討会 (月2回)
外 科	週1回	月1回		部長回診 (週1回) 術前・術後カンファレンス (各週1回) 消化器カンファレンス (隔週) 救急外科カンファレンス (不定期) 合併症カンファレンス (不定期)
脳神経外科	週4回	適宜		脳神経カンファレンス (週1回) カルテ回診 (週1回) 術前カンファレンス (週1回) 病棟カンファレンス (週1回)
整 形 外 科	週1回	適宜	年2回	X線画像カンファレンス (週5回) 入院患者カンファレンス (週1回) 全体カンファレンス (月1回)
形 成 外 科	週1回	月1回	年2回	術前カンファレンス (週1回) 抄読会(月1回) 同門会 (年2回)
心臓血管外科	週1回			循環器合同 (週1回) 術前カンファレンス (週1回)
皮 膚 科	週1回	適宜		皮膚病理 (週1回) 市皮膚科医会症例検討 (年2回) 県 7 病院症例検討会 (年3回) 臨床画像カンファレンス (週1回)

各 科	検討会	抄読会	研究会	各カンファレンス内容
泌 尿 器 科	週2回			術前カンファレンス (週1回) 病棟カンファレンス (週1回)
産科・婦人科	週1回		年2回	ハイリスク症例検討 (週1回) 手術症例検討会 (週1回) 勉強会 (月2回) カルテ回診 (週1回) 放射線カンファレンス (年4回)
眼 科	週1回	月2回	年1回	症例検討カンファレンス (週1回)
耳 鼻 咽 喉 科	週4回	月2回		術前カンファレンス (週1回) 病棟カンファレンス (週1回) 癌治療カンファレンス (週1回) 耳鼻科・放射線合同カンファレンス (週1回) 耳鼻科・リハ科合同嚥下カンファレンス (月1回)
放射線診断科	週4回	適宜		放射線科画像カンファレンス (週1回) 消化器画像カンファレンス (月2回) 小児科画像カンファレンス (週1回) 産婦人科画像カンファレンス (年4回) 呼吸器画像カンファレンス (週1回) 脳神経カンファレンス (週1回)
放射線治療科	週1回			耳鼻科・放射線治療科合同カンファレンス (週1回) 呼吸器合同カンファレンス (週1回)
麻 酔 科	毎日	月2回		術前カンファレンス (週5回)
リハビリテーション科		月1回		耳鼻科・リハビリテーション科合同嚥下カンファレンス (月1回) 摂食嚥下ランチ回診、カンファレンス (月2回) 脳神経外科病棟カンファレンス (週1回) 整形外科カンファレンス (医師：週1回、療法士：週2回) SCU部会 (月2回) NSTカンファレンス (週1回) NST部会 (月1回) NST回診 (週2回) 神経内科カンファレンス (週1回)
歯科・口腔外科	週1回	適宜	年3回	カンファレンス (週1回) 川崎病院症例検討会 (年3回)
救 急 科	週14回	月4回		総合カンファレンス (月4回)、症例検討会 (週14回)

2 院内研究交流会 平成29年2月27日(月) 18:00~20:00

演 題	演 者	所 属
薬剤耐性対策アクションプランに本当に必要な対策とは何か？(第1報) ～抗菌薬適正使用支援活動の抗菌薬使用動向に及ぼす影響～	小林 岳 小林 綾 町田 造 細田 智 坂本 光	薬剤部 感染症内科 感染対策チーム
薬物過剰摂取患者の深部静脈血栓症予防の視点 ～肺血栓症の発症例と非発症例との比較調査より～	大山美和子 高橋 貴子 奈良唯唯子 小澤 康子 斎藤 豊	看護部9階南病棟 救命科
NSTにおけるリハ栄養スクリーニングの有効性について	小島 厳 尾原 恵美 鎌田 郁子 阿部 玲音 富岡 曜平 亀山 亜希夫	リハビリテーション科 食養科
当院内科外来の看護指導の実態調査	高橋 一子 田中 君枝 高田 昌幸 津村 和夫	看護部 外来 糖尿病内科
遺伝子解析を視野に入れた病理組織検体の適切な固定について	鈴木 玲子	検査科
ダヴィンチ手術導入への取り組みと現状	永田 修一 円谷 博宣 石井 容子 今はるな 小川 千晶 井本 有美 中尾 一俊 井汲 康典 原 智	手術室 MEセンター 泌尿器科
看護の質向上を目的としたDiNQLへの参加とその活用に関する報告	榎原 弘成	看護部
亜急性心筋梗塞にて入院中に非閉塞性腸管虚血(non-occlusive mesenteric ischemia)を発症し死亡した1例	中村 美紀 秋山 友紀 藤田野々香 山野 邊義晴	初期臨床研修医
播種性糞線虫症の一例から学ぶ医療スタッフの感染予防策について	田中 朋陽 細尾 真奈美 松本 龍門 森田 佳織	研修医1年次
敷地内の全面禁煙施行に関する質問紙調査	田中 李樹 山下 友寛 崎本 優里 中川原 賢亮	初期臨床研修医

救急Bの概要とその詳細について	鈴木 友博 中西 村吾 原 川賢 碧	初期研修医1年
人工呼吸器関連トラブルについての集計報告	加藤 藤 幸 穂 門馬 栄 菜 山 下 絵 里 笹屋 賢 史 西根 啓 太 芝真 佐 樹 井汲 康 典 山口 和 哉 中尾 一 俊 安藤 嘉 門 逢坂 佳 宗 森田 慶 久	MEセンター 麻酔科
手術室専任臨床工学技士常駐後の業務内容とその成果についての報告	西加 根 啓 太 山藤 幸 穂 里 門下 絵 菜 笹馬 栄 史 芝真 佐 樹 井汲 康 典 山口 和 哉 中尾 一 俊 森田 慶 久	MEセンター 麻酔科
ポータブル撮影時の放射線から逃げる方法	青木 友 絵 小野 美 歩 中塚 早 紀 三角 宅 博 川野 田 昭 野 保 夫	放射線診断科
内科病棟患者における、日常生活動作評価(BI、FIM)の比較・検討	中村 優 太 小島 巖 美 尾原 恵 子 鎌田 郁 平 富岡 曜 音 阿部 玲 音	リハビリテーション科
手術室で発生した皮膚トラブルに関する看護師の意識，継続看護の実態調査 ～情報共有で病棟での継続した看護につなげる～	元麻 李 横尾 茜 向山 香 純 佐藤 律 子 田中 麻 実	手術室
平成28年度汚染・破損ME機器に関する報告	笹屋 賢 史 加藤 藤 幸 穂 門馬 栄 菜 山 下 絵 里 西根 啓 太 芝真 佐 樹 井汲 康 典 山口 和 哉 中尾 一 俊	MEセンター 麻酔科

	安藤 藤 嘉 門 森 坂 佳 宗 田 慶 久	
医療安全研修会におけるハイリスク薬への関心度調査結果報告および血管外漏出に関する情報提供	永井 沙 知 小林 岳 早川 和 宏 飯島 尚 志 小海 照 美	薬剤部 医療安全管理室
薬剤耐性対策アクションプランに本当に必要な対策とは何か？（第2報） ～薬剤耐性動向から探索する抗菌薬適正使用アプローチ～	小林 岳 小林 綾 町田 造 晃 細田 智 弘 坂本 光 男	薬剤部 感染症内科 感染対策チーム
がん相談支援センターの取り組み	寺内 絵 己	がん相談支援センター
緩和ケアチームの取り組み	塩津 未 季 夏 錦 言 田口 博 章 千島美奈子 他緩和ケアチームメンバー	緩和ケアチーム
助産外来実践報告	長澤 聖 子	8階北病棟助産師
宮崎県への転院搬送を行った10歳女児例の経験	関口 愛 実 石原 恵理子 片山 真 志村 和 浩 土橋 隆 俊 手塚 順 子 田邊 雅 史 吉川 紀 子 森 田 純 子	8S病棟看護師 脳外科 小児科 庶務課
複数の医療チームが介入し栄養サポートを行った縦隔炎の1例	長澤 恵 梨 子 清水谷 弘 美 龜山 亜 希 夫 太田 博 子 樋口 直 美	食養科 栄養サポートチーム 褥瘡チーム
細菌性髄膜炎と鑑別を要したMRSA硬膜外膿瘍の一例	石倉佳代子 清河 駿 樹 石川 隆 昭 大崎 典 子 河野 暉 子 手塚 朋 子 中屋 雅 人 野間 絵 梨 子 道 振 康 平	臨床研修医2年次

3 看護研究発表会

(1) 事例研究

第 19 回 院内発表会

ア 平成 28 年 11 月 26 日 (土) 9:00~15:00

研 究 テ ー マ	研 究 者	所 属
肺癌の脊髄への転移により身体機能に障害が残る患者への関わり ～危機理論より自分の看護を振り返る～	曾我部 綾乃	12 階南病棟
高齢患者の家族の想いを知ることで生まれる看護	藤田 有衣	12 階南病棟
ターミナル期患者への清潔ケアの意義	松田 理花	12 階南病棟
「ターミナル期で不安・苦痛を訴える患者との関係の構築」 ～肺癌ターミナル期の患者への清潔ケアを通して～	小笠原 南	12 階南病棟
がん性疼痛のため不安がある患者とのかかわり ～寄り添ってわかった患者の真意～	小野 沙織	13 階北病棟
初めて心筋梗塞を起こした患者との関わり ～病態や病気の経過を理解する重要性～	佐藤 恵美子	13 階北病棟
心筋梗塞患者に対する禁煙指導 ～患者の喫煙に対する思いを傾聴することの重要性～	元木 佳奈	13 階北病棟
ターミナル期にある患者への関わりを振り返って ～全人的苦痛を緩和するためにできること～	荃田 美果	14 階北病棟
高齢入院患者の自己効力感を活かした ADL 回復と自宅退院を支援 する病棟看護 ～自宅退院をめざす高齢入院患者への看護から学んだこと～	川井 文子	14 階南病棟
ターミナル期における家族看護 ～家族と共に考え、実施したターミナルケアから学んだこと～	清水目 有里	14 階北病棟
患者-看護師の相互関係の変化 ～終末期の患者との関わりを振り返って～	河合 真由	14 階北病棟
緊急帝王切開となった褥婦の心理的变化	引地 春菜	8 階北病棟
母乳育児を希望している喫煙褥婦への継続した保健指導について	櫻井 小夜	8 階北病棟
家族の不安を和らげる急変時の関わり方 ～先輩看護師と自身の対応を比較して～	庭田 アリサマイ	8 階南病棟
長期入院が必要な学童期にある児との関わり方について	山田 雅子	8 階南病棟
人工呼吸器管理下の経管栄養投与による苦痛の理解 ～合併症による苦痛を未然に防ぐケアの検討～	高宮 夕起	9 階南病棟
間質性肺炎急性増悪患者へのかかわり ～患者の意思決定を支えること～	森居 久恵	9 階南病棟

研 究 テ ー マ	研 究 者	所 属
自分の思いを表出するまでの過程を振り返って	藤田 陽菜	9 階南病棟
患者にあった身体抑制具の使用とは	金子 逸美	9 階南病棟
せん妄患者に対する看護を自己の体験から学ぶ	菊川 芙以	9 階南病棟
食が与える影響	寺栖 亜実	9 階南病棟
母乳育児を通しての直接授乳支援 ～早産・低出生体重児における授乳場面をとって学んだこと～	和久井 香菜恵	GCU・NICU
「入院中、自分に否定的な母親の心理状態と関わり」 ～脳室拡大のみられる低出生体重児の母の感情表出～	永野 未有	GCU・NICU
言語的コミュニケーションが難しい患者のニードを汲み取る方法 ～気管切開患者の訴えが続き理解できずに焦燥感に駆られてしまった事例での自己の看護を振り返る～	田島 彩夏	ICU・CCU
咽頭喉頭食道全摘術後の患者のストレス要因と対策の検討	寺田 史穂	ICU・CCU
口唇口蓋裂を持つ児の母親の受容過程に合わせた看護	木賀 あずさ	GCU・NICU
術前に不安を抱く患者へのより効果的な介入方法の検討 ～術前訪問から術中の麻酔導入までの関わりにおいて～	新井 亜侑美	手術室
患者がより安心して手術を受けられるために ～帝王切開術を受ける患者との関わりを振り返って～	吉田 理人	手術室
手術を受ける患者の羞恥心について	井本 有美	手術室

イ 平成28年12月3日（土）9：00～17：00

研 究 テ ー マ	研 究 者	所 属
糖尿病患者に対しての教育	春木 栞奈	10 階北病棟
意欲低下のある高齢夫婦に対する退院指導	福 静香	10 階北病棟
術前不安を訴える患者への関わりから学んだこと	斉藤 なつみ	10 階北病棟
手術目的で短期入院する患者の不安に対する看護の振り返り	坂寄 悠	10 階南病棟
呼吸困難感を訴える多発性筋炎患者の看護について	柴田 里奈	10 階南病棟
喀痰吸引を拒否する患者への関わり	木村 菜摘	10 階南病棟
高齢患者を看取る家族の思いを振り返って	木村 あずさ	11 階北病棟
術前に涙を流した患者との関わり	古市 理奈	11 階北病棟
喫煙を希望するターミナル期の患者との関わりを通して学んだこと	佐々木 香織	11 階北病棟

研 究 テ ー マ	研 究 者	所 属
終末期癌患者の心のゆらぎに寄り添う看護	佐藤 祐美	11 階北病棟
乳癌患者の手術前後の受容過程に対する看護の振り返り	安永 旭	11 階南病棟
全人的苦痛が強いターミナル期患者への看護を振り返る スピリチュアルペインの視点から	山川 愛梨紗	12 階北病棟
治療困難と宣告された下咽頭がん患者との関わりを振り返る がん告知後から適応に至るまでの心理状況の変化と看護	猪野 睦	12 階北病棟
ターミナル期の A 氏に対する疼痛緩和	岩本 明香里	13 階南病棟
在宅介護を行う家族への退院指導	北川 絵美子	13 階南病棟
終末期がん患者の排泄援助について	浅井 美聡	13 階南病棟

(2) 看護研究

第 71 回 院内発表会

平成 29 年 1 月 28 日 (土) 9:00~12:00

研 究 テ ー マ	所 属	発 表 者	研究メンバー
A 病棟における与薬基準の遵守状況と内服関連 のインシデント発生要因からみえた課題	11 階南病棟	白砂 ゆり	高橋 笑美子 齋藤 喜彦
当病棟の退院調整の現状と今後の課題 ～退院調整を行なった患者の長期入院事例を 振り返って～	10 階南病棟	金井 恵美子	馬渡 悦子 上原 佳澄 山下 純子
薬物過剰摂取患者の深部静脈血栓症併発の調査 ～薬物過剰摂取患者の深部静脈血栓予防対策 の検討～	9 階南病棟	大山 美和子	高橋 貴子 小澤 康子
災害アクションカードを使用した災害シュミレ ーションを通してのスタッフの意識変容	9 階南病棟	田中 美紗	塚田 千代 内海 聡 野口 杏実 荒木 和也 高橋 貴子
看護師間の協力意識を強化する取り組み	8 階西病棟	鶴巻 元子	土浜 敏子
チームで取り組む手術室における皮膚トラブル 予防 ～情報共有で皮膚トラブルの早期治療につな げる～	手術室	元 麻李	向山 香純 田中 麻実子 横尾 茜 佐藤 律子
Prscent-ICU によるバイタルサイン自動入力 がもたらす記録時間の短縮	ICU, CCU	佐久間 祐樹	

(3) 院外看護研究派遣者

No.	演 題 名	氏 名	学 会 名	発 表 日
1	働きやすい人的環境の構築に向けて ～対人関係の意識改革～	鈴木 見香	第30回年次大会 日本手術看護学会	10月14日
2	手術室における新人看護師教育支援の取り 組み ～屋根瓦方式導入後の現状～	永田 修一	第30回年次大会 日本手術看護学会	10月15日
3	緊急入院患者が代理意思決定から意思決定 に移行できた過程の一考察	小澤 康子	第55回自治体病院 学会	10月21日
4	小児の点滴刺入部の管理 ～蜂窩織炎を起ししやすい原因はあるのか～	新堀 彩美	第55回自治体病院 学会	10月21日
5	急性期における超低出生体重児の体温変動 の実態	山口 美咲	第26回日本新生児 看護学会学術集会	12月2日
6	助産師の死産に関する教育指針の一考察 ～死産分娩を後輩と一緒に先導助産 師の支援方法～	星野 夏樹	第47回日本看護学 学会看護教育	8月4日
7	鎮痛・鎮静・せん妄の評価を行う抑制アセス メントフローチャートが看護師に与える影 響	佐久間 祐樹	日本集中治療医学 会関東甲信越地方 会	8月20日
8	外科病棟における手術後の褥瘡発生要因及 び予防対策の評価	大欠 久美子	第55回自治体病院 学会	10月20日

4 研 修

(1) 看護部 院内研修実施状況

No.	研 修 名	研 修 内 容	実施年月日	参加者 数	会 場	講 師
1	新人看護 職員入職 ガイダンス	病院長あいさつ 副院長兼看護部長講話 看護部概要・看護部組 織活動 電子カルテ基本操作 三役紹介 事務連絡 自治会活動 防災・勤務管理、職員 衛生 職員ファイル、BLS	2016/4/1 (半日) 2016/4/8 (1日) 2016/4/11 (1日)	4月採用者 45名	7階 講堂	成松院長 綱嶋副院長 兼看護部長 岡本副看護部長 庶務課、 管理係 院内救急対策部会 教育委員会
2	新採用者 看護技術演習	採血・血統測定・イン スリン皮下注射・静脈 注射・点滴管理・輸液 ポンプ・シリンジポン プ操作・清潔操作・酸 素吸入・ネブライザ ー・吸引・オムツ交換・ 体位変換ポジショニ ング・食事介助・経腸栄 養・移動解除(移送移 譲)	2016年 4/12、4/18 4/25、5/2 5/6、5/13 5/16	4月新規採 用者 37 名	7階 講堂	教育委員会 認定看護師 副主任会 院内救急対策部会
3	新人実地 指導者研修①	新人看護師の特徴とは 新人実地指導者とは	2016/4/11	19名	フロンティア	川崎看護短期大 非常勤講師 植垣一彦

4	臨床実習 指導者研修①	臨床指導者の役割 看護学生の特徴	2016/4/18	19名	フロラシオン	川崎市立 看護短期大学 学科長 滝島紀子
5	新規採用者 研修	専門職として学ぶこと	2016/4/26	39名	フロラシオン	川崎看護短期大学 非常勤講師 植垣一彦
6	認定看護師 による講演	新人看護師のための心 理教育・暴力回避行動 について	2016/5/11	86名	7階 講堂	うつ病看護 認定看護師 認定看護師会
7	認定看護師に よる公開講座	脳卒中患者の体位変換 をポジショニング	2016/5/11	46名	7階 講堂	脳卒中リハビリ 認定看護師 認定看護師会
8	新人看護 職員研修 安全な看護を 提供するため に	薬剤管理の基礎知識 安全な与薬方法 インシデント教訓事例 からの学び 安全な看護を提供する ということ（グループ ワーク）	2016/5/20 (1日)	4月新採者 39名	7階 講堂	坂井薬剤部係長 井口担当係長 廣川副主任 教育委員会
9	リーダーシッ プ研修①	看護をチームで実践す るための課題を見つけ、 解決するための方 略を考える	2016/5/23	19名	フロラシオン	東京医療保健大学 准教授 末永由理
10	新人看護職員 研修 安全な看護を 提供するため に	感染防止における看護 師の役割 安全防止の実際 病棟での実際（グルー プワーク）	2016/5/26 (1日)	4月新採者 39名	7階 講堂	駒場担当課長 教育委員会
11	新人看護職員 静脈注射技術 テスト	静脈注射に関する 技術チェック	2016/6/8	38名	各部署	教育委員会 副主任会
12	新人看護職員 静脈注射筆記 テスト	解剖整理及び実施上の 注意 薬理作用と投与方法の 注意点	2016/6/10	39名	7階 講堂	教育委員会
13	第1回看護記録 強化研修	根拠に基づいた看護診 断の方法など	2016/6/11	45名	フロラシオン	長崎大学大学院 永田 明先生
14	担当看護師の ための看護記 録研修	記録の意義を考える 実際の記録を評価する	2016/6/17	34名	フロラシオン	川崎市立看護短期 大学 学科長 滝島紀子
15	夜勤準備研修	フィジカルアセスメン トの基礎知識 急変時の対応 看護業務の優先順位	2016/6/20	38名	フロラシオン	井田病院 認定看護師
16	看護助手研修	医療制度の概要及び病 院の機能と組織の理解 他	2016/6/15 2016/6/21 14:00-15:30	41名	7階大 会議室	教育委員会
17	認定看護師 による講演	手術看護の術前管理	2016/7/6	60名	7階 講堂	手術室看護 認定看護師 認定看護師会
18	認定看護師に よる公開講座	食べるためにできるこ と	2016/7/6	60名	7階 講堂	摂食・嚥下障害 看護認定看護師 認定看護師会
19	認定看護師に よる講演	細菌・ウイルスの特徴 を知って感染対策に強 くなる	2016/9/7	56名	7階 講堂	感染管理 認定看護師 認定看護師会
20	認定看護師に よる公開講座	高齢者のインスリン療 法	2016/9/7	54名	7階 講堂	糖尿病看護 認定看護師 認定看護師会
21	新人実地 指導者研修②	新人看護師の成長を促 す支援	2016/9/9	19名	フロラシオン	川崎看護短期大学 非常勤講師 植垣一彦
22	重症度、医療・ 看護必要度	看護必要度の必要性と 評価方法	2016/9/15	166名	7階 講堂	看護記録 委員 委員長

23	新人研修 フィジカルア セスメント	フィジカルアセスメン トの知識・技術を深め、 緊急性・重症性の判断 力を高める	2016/9/20	36名	フロン	集中ケア・ 慢性心不全看護 認定看護師
24	新人看護職員 臨床研修	新人看護職員の院内留 学	2016/10～11	36名	各部署	教育委員会
25	認定看護師 による講演	抗がん剤の副作用と その対策	2016/11/2	55名	7階 講堂	がん化学療法看護 認定看護師 認定看護師会
26	担当看護師 役割研修	ケアプロセスの理解と 退院支援マネジメント	2016/11/22	36名	フロン	川崎病院・ 井田病院師長
27	臨床実習 指導者研修②	実習生の学びを支援す る	2016/12/9	18名	フロン	川崎市立 看護短期大学 学科長 滝島紀子
28	重症度、医療・ 看護必要度	看護必要度の必要性と 評価方法	2016/12/15	57名	7階 講堂	看護記録委員 委員長
29	新人研修 ーフィジカル アセスメント 研修ー	フィジカルアセスメン トの基礎となる実践能 力の向上	2016/12/19	36名	7階 講堂	教育委員会 集中ケア 認定看護師
30	看護倫理研修	患者の人権と看護職の 責任を理解し、倫理的 課題への対応について 学ぶ	2017/1/7	21名	フロン	聖路加看護大学 准教授 鶴若麻理先生
31	認定看護師 による講演	腸管ケア	2017/1/11	29名	7階 講堂	集中ケア 認定看護師 認定看護師会
32	認定看護師に よる公開講座	排便ケア（下痢と便秘）	2017/1/11	59名	7階 講堂	皮膚・排泄ケア 認定看護師 認定看護師会
33	訪問看護 ステーション 研修報告会	おおしま訪問看護ステ ーション・川崎大師訪 問看護ステーション・ 川崎南部訪問看護ステ ーションでの学びと課 題	2017/1/16	26名	7階 講堂	教育委員会 地域医療部
34	第2回看護記録 強化研修	臨床推論を活用した看 護診断の方法の理解 （参加型講義）	2017/1/21	43名	フロン	長崎大学大学院 永田 明先生
35	担当看護職員 準備研修	これまでの看護実戦を 振り返り担当看護師と しての目標を見出す	2017/1/27	69名	フロン	川崎看護短期大学 非常勤講師 植垣一彦 楳原師長
36	キャリア アップ ニュース	認定看護師教育課程報 告 皮膚排泄ケア、糖尿病 看護、精神科看護	2017/1/31	96名	7階 講堂	教育委員会
37	看護職員 採用時研修	安全管理・災害看護、 看専管理（中途採用・ 臨時職員）	2017/1/31	9名	カンファ ンスル ーム	教育委員会
38	リーダー シップ研修②	課題解決のための行動 計画に沿って実践し、 その内容を評価できる	2017/2/6	34名	フロン	東京医療保健大学 教授宮本千津子 准教授末永由理
39	新人実地 指導者研修③	新人指導者としての関 わりを振り返り、指導 者とは何かについて概 念化するプロセスの中 で今後の課題を明確に できる	2017/2/17	32名	フロン	川崎看護短期大学 非常勤講師 植垣一彦

40	フィジカルアセスメント	フィジカルアセスメント能力の向上	2017/2/20	42名	7階講堂	集中ケア認定看護師
41	フィジカルアセスメント研修	フィジカルアセスメントの知識を深め実践能力が向上する	2017/2/20	73名	7階講堂	集中ケア認定看護師
42	新任リーダー支援研修	日頃のリーダー業務での、不安や疑問を解決する為の糸口がつかめる	2017/2/21	23名	7階大会議室	教育委員会
43	認定看護師による講演	子どもの事故予防	2017/3/1	43名	7階講堂	小児救急認定看護師認定看護師会
44	公開講座	認知症高齢者のアセスメントの視点とは？	2017/3/1	34名	7階講堂	認知症看護認定看護師認定看護師会
45	新人実地指導者研修①	新人看護師の特徴とは新人実地指導者とは	2017/3/6	19名	7階講堂	川崎看護短期大学非常勤講師植垣一彦
46	新人実地指導者研修①	新人指導者の役割を理解できる新人看護師を迎える準備ができる	2017/3/6	35名	7階講堂	川崎看護短期大学非常勤講師植垣一彦
47	新人看護職員研修	2年目に向けて	2017/3/10	36名	7階講堂	教育委員会
48	新人同期会(3回)	茶話会形式でゲームや自由に語り合う場とする	2016/5/13 2016/10/28 2017/3/10	38名 35名 34名	7階講堂	副主任会
49	看護必要度研修	重症度、医療・看護必要度の必要性と評価方法を理解する	2016/3～ 2017/3	看護師 助産師	各部署	各部署研修修者

(2) 検査科 院内研修会実施状況

No.	研修会名	研修内容	実施年月日	参加者数	会場	講師
1	検査科勉強会	Brugada症候群と心室遅延電位	平成28年5月17日	18名	4階会議室	千葉 彩香
2	検査科勉強会	食中毒について	平成28年6月14日	14名	4階会議室	金子 誠
3	検査科勉強会	悪性リンパ腫の検査	平成28年8月9日	15名	4階会議室	谷口 早絵
4	検査科勉強会	洗浄血小板について	平成28年10月11日	13名	4階会議室	三津田 太郎
5	検査科勉強会	I C T活動について	平成28年12月13日	15名	4階会議室	内田 理絵
6	検査科勉強会	脳波について	平成29年1月17日	16名	4階会議室	屋代 ふみ
7	検査科勉強会	アスベストとその関連疾患について	平成29年2月14日	15名	4階会議室	横屋 瀬理香
8	検査科勉強会	輸血機能認定評価制度(I & A)について	平成29年3月14日	16名	4階会議室	西之坊 泰子

(3) 放射線診断科・放射線治療科 院内研修会実施状況

No.	研修会名	研修内容	実施年月日	参加者数	会場	講師
1	医療安全管理研究会	医療従事者が知っておきたい放射線の知識	平成28年7月8日	多数	7階講堂	小野 欽也 引地 利昭
2	院内研究交流会	「ポータブル撮影時の放射線から逃げる方法	平成29年2月27日	多数	7階講堂	小野 美歩
3	感染対策研修会	Excelの基礎から関数、グラフまで	平成28年12月7日	30名	7階大会議室	堀口 将生

5 院外看護活動

活 動 名	日 程	場 所	参加者
東急武蔵小杉駅訓練	平成28年7月31日	東急武蔵小杉駅	稲葉 咲
政府広域訓練	平成28年8月6日	東海地方（浜松医療センター）	内海 聡 塚田 千代
川崎市防災訓練	平成28年8月28日	多摩川	吉田 優作 稲葉 咲
ビッグレスキューかながわ	平成28年9月11日	横須賀市（武山駐屯地）	吉川 佳子
技能維持訓練	平成28年10月12日 ～10月13日	立川	塚田 千代
羽田訓練	平成28年10月20日	羽田空港	青木 夏代
ハロウィン救護班	平成28年10月30日	川崎市役所	古瀬 美穂
東扇島訓練	平成28年11月8日	東扇島	高橋 貴子
関東ブロック訓練	平成28年11月26日 ～11月27日	埼玉県	小高 夕子 松本 貴子
井田病院災害訓練	平成28年11月26日	井田病院	吉川 佳子
神奈川DMA T-L 隊員養成	平成28年12月3日 ～12月4日	横浜労災病院	吉田 優作 稲葉 咲
済生会横浜市東部病院訓練	平成29年1月22日	済生会横浜市東部病院	吉田 優作
鶴見区訓練	平成29年1月22日	横浜市鶴見区	吉田 優作
川崎区訓練	平成29年2月26日	川崎市川崎区各病院	塚田 千代 小高 夕子 松本 貴子 吉田 優作 稲葉 咲

6 各科別実習状況報告

科・部	学校・病院名	人数	科・部	学校・病院名	人数
内科・総合内科	愛媛大学	1名	精神科	信州大学	1名
	旭川医科大学	1名		鳥取大学	1名
	横浜市立大学	2名		東京慈恵会医科大学	1名
	岡山大学	1名		東北大学	2名
	金沢大学	1名	小児科	慶應義塾大学	2名
	熊本大学	1名		香川大学	1名
	群馬大学	1名		埼玉医科大学	1名
	慶應義塾大学	8名		札幌医科大学	1名
	広島大学	1名		山梨大学	1名
	香川大学	1名		順天堂大学	2名
	札幌医科大学	1名		昭和大学	1名
	三重大学	1名		聖マリアンナ医科大学	1名
	山形大学	2名		東京医科大学	1名
	山梨大学	3名		東京慈恵会医科大学	1名
	滋賀医科大学	2名		東京女子医科大学	1名
	鹿児島大学	1名		東京大学	1名
	順天堂大学	2名		東邦大学	1名
	昭和大学	1名		東北大学	1名
	聖マリアンナ医科大学	3名	日本医科大学	3名	
	千葉大学	4名	琉球大学	2名	
	大分大学	1名	外科	慶應義塾大学	3名
	筑波大学	2名		筑波大学	1名
	帝京大学	1名		長崎大学	1名
	東京医科歯科大学	1名		帝京大学	1名
	東京医科大学	2名		東京医科歯科大学	1名
	東京慈恵会医科大学	2名		東京慈恵会医科大学	3名
	東京女子医大	2名		東北大学	2名
	東京大学	2名		日本医科大学	1名
	東邦大学	8名	富山大学	1名	
	徳島大学	1名	呼吸器外科	鹿児島大学	1名
	日本医科大学	4名		千葉大学	1名
	浜松医科大学	1名	脳神経外科	横浜市立大学	1名
	富山大学	3名		札幌医科大学	1名
福岡大学	1名	山形大学		1名	
北里大学	2名	東京慈恵会医科大学		1名	
名古屋市立大学	1名	整形外科	群馬大学	1名	
琉球大学	2名		聖マリアンナ医科大学	1名	
杏林大学	1名		東京医科歯科大学	1名	
久留米大学	1名		東邦大学	2名	
精神科	岐阜大学	1名	富山大学	1名	
	金沢大学	1名	皮膚科	徳島大学	1名

科・部	学校・病院名	人数
泌尿器科	金沢大学	1名
	慶應義塾大学	1名
産婦人科	旭川医科大学	1名
	横浜市立大学	1名
	群馬大学	1名
	筑波大学	1名
	東邦大学	1名
	東北大学	1名
	日本医科大学	1名
	富山大学	1名
放射線科	群馬大学	1名
麻酔科	横浜市立大学	1名
	聖マリアンナ医科大学	1名
	北海道大学	1名
救急科	愛媛大学	1名
	旭川医科大学	2名
	横浜市立大学	6名
	京都大学	1名
	金沢大学	1名
	群馬大学	1名
	慶應義塾大学	10名
	弘前大学	2名
	香川大学	1名
	佐賀大学	1名
	埼玉医科大学	1名
	札幌医科大学	2名
	三重大学	2名
	山形大学	2名
	山梨大学	4名
	鹿児島大学	1名
	順天堂大学	1名
	昭和大学	2名
	新潟大学	1名
	聖マリアンナ医科大学	3名
	千葉大学	3名
大分大学	1名	
東海大学	1名	
東京医科歯科大学	1名	

科・部	学校・病院名	人数
救急科	東京医科大学	1名
	東京慈恵会医科大学	4名
	東京女子医科大学	1名
	東京女子医大	1名
	東京大学	2名
	東北大学	4名
	日本医科大学	7名
	浜松医科大学	3名
	福島県立医科大学	1名
	北里大学	1名
	琉球大学	1名

※ 平成27年度から、現役研修医の見学は数値から除外している。

7 講師派遣

(1) 看護師

氏名	派遣場所	担当科目	期間
柳井田 恭子	川崎市キャリア開発センター	フットケア研修	6月4日、6月5日
柳井田 恭子	神奈川県立保健福祉大学	成人看護学（慢性期）Ⅱ	6月28日、7月5日、7月12日
柳井田 恭子	神奈川県看護協会	実地指導者研修～共に支え合う新人教育～	9月29日
加藤 理賀子	川崎市キャリア開発センター	フットケア研修	6月4日、6月5日
加藤 理賀子	日本下肢救済・足病変学会	日本下肢救済・足病変学会座長	5月28日
加藤 理賀子	社会福祉協議会	福祉看護職のための出張講座「高齢者のフットケア」	10月7日
加藤 理賀子	神奈川県糖尿病療養指導研究会	研究会企画運営スタッフおよび司会	平成29年1月29日
高橋 一子	川崎市キャリア開発センター	フットケア研修	6月4日、6月5日
高橋 一子	社会福祉協議会	福祉看護職のための出張講座「高齢者のフットケア」	10月7日
高橋 一子	日本糖尿病協会	「糖尿病ウォークラリー」における青空教室	10月23日
吉崎 弘之	医師会附属准看護学校	精神看護	4月18日～6月27日（11回）
吉崎 弘之	日本精神科看護協会	日本精神科看護学術集会：座長	6月11日
大山 美和子	日本離床研究会	「血液生化学データの読み方」 「体水分にまつわる臨床判断の仕方」	5月21日・8月20日
大山 美和子	病院局： フロラシオン新川崎	フィジカルアセスメント研修	平成29年2月20日
大川 順子	病院局： フロラシオン新川崎	「新人のためのフィジカルアセスメント研修」 急性期におけるフィジカルアセスメント研修	9月20日
牛込 志乃	ホスター社	「WOCと共に考えるストマケア」講師	5月14日
牛込 志乃	社会福祉協議会	福祉看護職のための出張講座 「皮膚トラブルに対しての最新看護ケアと施設での対応」	10月28日
久野 昭子	川崎市立看護短期大学	「成人看護Ⅴ」講師	9月23日
久野 昭子	日本手術看護学会	「周術期における看護記録/ 鏡視下手術における看護」	平成29年2月18日
佐藤 江利子	川崎市立看護専門学校	ストマを持つ患者の看護	12月6日
佐藤 江利子	社会福祉協議会	福祉看護職のために出張講座	平成29年3月3日
達 かおり	川崎市立看護専門学校	クリティカルケア	11月9日・16日

高畑 良子	(株)ノボノルディ スクファーマ	認知症と糖尿病に関する講演	5月12日
高畑 良子	社会福祉協議会	認知症看護	6月15日
高畑 良子	川崎看護短期大学	認知症のある高齢者とのコミュニケーション	6月21日
高畑 良子	健康福祉局 地域包括ケア	看護職員認知症対応力向上研修の講師を担う看護師の伝達講習会	6月28日
高畑 良子	神奈川県病院協会： 横浜中央看護専門学校	看護職員認知症対応力向上研修	8月29日
高畑 良子	神奈川県病院協会： キャリア支援 研修センター藤沢	看護職員認知症対応力向上研修	8月30日
高畑 良子	社会福祉協議会	川崎市福祉人材バンク	9月23日
高畑 良子	関東労災病院	認知症ケア	
高畑 良子	(株)ロシュ・ダイア グノスティックス	認知症のある糖尿病患者さんどうしていますか	10月29日
高畑 良子	川崎市看護協会	新人看護職員研修「認知症看護」	11月9日
高畑 良子	川崎市看護協会	認知症看護に必要な専門的知識技術を有する看護師を養成する	12月1日
高畑 良子	川崎キャリア 開発センター 川崎病院	認知症患者ケア実践力向上研修	平成29年3月11日
久野 昭子	日本手術看護学会	日本手術看護学会実行役員	6月18日
久野 昭子	川崎看護短期大学	「成人看護方法V」(周手術期にある人の看護)	9月23日
久野 昭子	日本手術看護学会	教育セミナー「周術期における看護記録/鏡視下手術における看護」	平成29年2月18日
森田 純子	社会福祉協議会	福祉看護職のための出張講座「感染症対策」	9月23日
小澤 康子	社会福祉協議会	福祉看護職のための出張講座「緊急時の対応」	9月27日
須貝 美帆	川崎看護短大	テーマ別看護論(家族看護論)	9月6日
須貝 美帆	川崎看護短大	テーマ別看護論(家族看護論)	平成29年1月24日
古瀬 美穂	社会福祉協議会	誤嚥性肺炎を防ぐコツ	12月2日
古瀬 美穂	日本摂食・嚥下障害 研究会	研究会関東支部会 座長	平成29年1月14日
臼田 美奈子	子ども未来局 子育て推進部	医療的ケア研修 「病気がもたらす障害と在宅医療の実際」	平成29年2月20日
森 亜沙美	日本脳神経看護 研究学会	ニューロサイエンス看護学会学術大会 司会・進行	平成29年1月21日
森 亜沙美	目白大学メディカル スタッフ研修セン ター	実践報告会	平成29年2月24日
飯塚 千代	川崎市看護協会	新人指導者研修	5月26日、9月30日、 平成29年1月19日
榎原 弘成	川崎市立看護短期大学	看護管理	7月19日

榎原 弘成	病院局：フロンティア新川崎	担当看護師役割研修	11月22日
大和田 恵美	医師会附属准看護学校	臨床看護概論：手術室看護	4月12日～17日（5回）
塚田 千代	医師会附属准看護学校	臨床看護概論：救急看護	8月30日～10月11日（5回）
田島 深雪	医師会附属准看護学校	成人看護各論 血液造血器アレルギー、膠原病、感染症、結核	4月11日～5月9日（5回）
野村 貴子	医師会附属准看護学校	成人看護各論：女性生殖器看護	8月29日～9月26日（4回）
荻野 飛鳥	医師会附属准看護学校	成人看護各論：腎疾患看護	10月11日～25日（3回）
渡邊 いづみ	医師会附属准看護学校	成人看護各論：泌尿器疾患看護	11月8日
渡邊 いづみ	医師会附属准看護学校	成人看護各論：感覚器看護（眼科）	7月5日
奥田 裕美	医師会附属准看護学校	成人看護各論：運動器看護	5月24日～6月7日（3回）
鈴木 由美	医師会附属准看護学校	成人看護各論：感覚器看護（口・耳）	6月14日～28日（3回）
西森 春江	医師会附属准看護学校	授業講師	4月11日
武田 玲子	川崎市立看護専門学校	医療安全	10月6日
武田 玲子	慶応義塾大学 大学院健康 マネジメント研究科	医療政策・管理学	12月12日（月）
松澤 由香	川崎市立看護専門学校	糖尿病看護	12月8日・12月16日
塚田 千代	川崎市看護協会	災害看護	8月17日
塚田 千代	川崎市立看護短期大学	DMAT	10月9日
吉崎 弘之	川崎キャリア 開発センター 川崎病院	認知症患者ケア実践力向上研修	平成29年3月4日

(2) 医師

派遣場所	川崎市立看護短期大学			学年学期	2年次 前期・後期
科目名	病態治療学Ⅲ・Ⅳ	単位数	各1単位(必修)	科目区分	専門基礎科目
担当者	夏 錦言 掛札敏裕 今西智之 中道憲明 澤藤 誠 倉田忠宜 齋藤 豊 市東昌也 佐藤陽一郎 宮川俊一 原 智 堀内直樹 (担当順)				

「授業概要」

病態治療学Ⅲ・Ⅳでは、手術療法と血管塞栓術などの手術に準ずる治療、麻酔、救急・集中治療について教授します。それぞれの治療目的と適応、効果、治癒による生体への侵襲と回復過程について概説し、さらに具体的な治療方法や関連する検査・援助について代表的な状態や疾患を引用して解説します。

小児科は内科と重複する疾患が多いですが、年齢によって疾患の傾向が違います。それは、患者さんが成長していくからです。この講義の目的は、そのような特殊性を加味して、小児疾患を理解することにあります。

生殖器・特殊感覚器疾患については、手術療法と血管塞栓術など手術に準ずる治療、麻酔、救急・集中治療について教授します。それぞれの治療目的と適応、効果、治療による生体への侵襲と回復過程について概説し、さらに具体的な治療方法や関連する検査・援助について代表的な状態や疾患を引用して解説します。

「授業計画」

病態治療学Ⅲ	病態治療学Ⅳ
1 内視鏡下手術 総論	1 小児1
2 内視鏡下手術 各論	2 小児2
3 手術学総論 適応	3 小児3
4 外科	4 小児4
5 手術学各論 脳神経外科	5 耳鼻科
6 整形外科	6 小児5
7 呼吸器外科	7 皮膚科
8 麻酔	8 泌尿器科
9 心肺蘇生	9 産科手術
10 I V R	10 婦人科手術
11 心臓外科	11 産科正常編
12 救急	12 産科異常編
13 手術学総論 術前検査	13 眼科
14 手術学総論 術後管理	14 まとめ
15 まとめ	15 定期試験

(3) 薬剤師

氏 名	派 遣 場 所	担 当 科 目	期 間	回 数
小林 岳	星薬科大学	実務実習事前学習	4月～12月	8回
小林 岳	神奈川県立保健福祉大学実践教育センター	感染症学（抗微生物薬の種類と薬理作用）	6月30日	1回
長谷川 圭子	川崎看護専門学校	病態薬理学	4月～6月	7回

(4) 診療放射線技師

氏 名	派 遣 場 所	担 当 科 目	期 間
田中 秀夫	川崎市立看護短期大学	画像診断	11月11日
小切 孝洋	川崎市立看護短期大学	画像診断	11月11日

(5) 臨床検査技師

氏 名	派 遣 場 所	担 当 科 目	期 間
鈴木 玲子	神奈川県立衛生看護専門学校	妊娠期の診断技法（超音波）	7月4日

Ⅵ 臨 床 研 修 概 要

1 経 緯

(1) 病院の沿革・特徴

昭和2年、伝染病組合病院が川崎市立病院に改称、昭和11年、大規模改築、昭和20年6月1日に総合病院となり、その後建物、設備、診療科の増設を逐次行い、市民の医療の中核を担う病院に発展してきました。

昭和40年、救急指定病院となり、昭和42年には研修医制度が発足しました。それ以降、各学会の指定医の研修施設に指定され、昭和63年には、外国人医師等を対象とした臨床修練指定病院となりました。

また、平成10年4月から総合診療科を設置したことに伴い、新たに後期臨床研修も実施しています。

なお、平成7年から全面改築を進めてきましたが、平成10年11月病棟・中央診療棟が完成し、そして平成12年4月、新外来棟がオープンしたことにより、当院を取り巻く医療環境は、大幅に改善されたばかりでなく、導入された総合医療情報システムや搬送システムが完全に稼動し、機能面でも一段とアップしました。

(2) 初期臨床研修

当院の臨床研修制度は、昭和42年4月に発足し、既に40年が経過しています。最初の10年間は研修期間4年のレジデント制度として行われ、昭和52年からは2年間の臨床研修制度となりました。

また、当初の12年間は学制と同じく4月に始まり、3月に終わる制度でありましたが、研修医内定者のうち医師国家試験に不合格となるものがあり、厚生省の指導や欠員を配慮して昭和54年からは6月開始・5月修了に改められました。そして、平成5年に至り医師国家試験の期日が3月に変更されたことに伴い、5月開始・4月修了という新たな制度に生まれ変わりました。

昭和50年度までは単一専門科か専門科と関連する他の1から2科を研修するのみでありましたが、昭和51年度からは専門科に重点を置きながらも、広く各科を研修するローテイト方式を採用してきました。

これは平成16年度から実施された卒後臨床研修制度を先取りしていたものであったといえます。

平成16年5月からは新たな卒後臨床研修制度義務化に伴って、単独型臨床研修病院として初期研修医各学年10名を受け入れ、更に川崎市立井田病院に対する協力型病院として井田病院の臨床研修医（当院ローテイトは卒後2年目）を指導しています。

平成22年12月1日に卒後臨床研修評価機構の認定を受けました。

新制度実施後、多数の医学生から応募があるのは、当院がこれまで取り組んできた臨床研修制度が高く評価されたものと自負しつつも更に医療安全管理・倫理面も含めた教育内容を拡充し、優れた臨床医の育成を図りたいと考えています。

ア 臨床研修医年度別 採用者数

年 度	応 募 者	採 用	修 了	備 考
昭和44	5	3		
45	14	7	3	
46	19	4	2	
47	18	6	8	
48	17	8	4	
49	24	6	3	
50	39	10	7	
51	37	5	5	3年制→2年制度へ移行
52	26	8	5	
53	23	10	11	
54	42	10	11	
55	17	10		
56	12	3	9	
57	9	5	8	
58	4	3	2	
59	11	5	5	
60	11	1	11	
61	9	5	1	
62	6	2		
63	8	2	4	
平成元	12	8	2	
2	9	6	1	
3	9	7	6	
4	13	10	6	
5	12	7	5	
6	10	9	8	
7	11	11	6	
8	21	10	7	
9	13	6	8	
10	12	9	10	
11	16	9	4	
12	16	11	5	
13	14	10	8	
14	11	10	8	
15	8	7	7	
16	84	10	6	
17	126	9	4	
18	83	9	9	
19	103	10	9	
20	83	9	9	
21	62	10	9	
22	67	10	10	
23	79	10	10	
24	96	10	10	
25	77	10	10	
26	51	10	10	
27	73	9	10	
28	83	10	9	
計	1605名	369名	305名	

イ 専攻医年度別 採用者数

年 度	応募者数	採 用	備 考
13	13	12	
14	8	8	
15	10	10	
16	13	10	
17	11	11	
18	13	12	
19	27	25	
20	44	36	
21	38	34	
22	32	29	
23	34	27	
24	38	34	
25	31	30	
26	40	40	
27	46	45	
28	38	37	

ウ 臨床研修医出身校別採用者数

国・公立大学

私立大学等

(平成28年4月1日現在)

出身校	年度							計	出身校	年度							計
	昭和42~ 平成23	24	25	26	27	28	平成23			24	25	26	27	28			
北海道大	4			1			5	岩手医大	2						2		
札幌医科大	1						1	自治医大	7						7		
旭川医科大	1						1	埼玉医大	3						3		
弘前大	5						5	日本大	4						4		
秋田大	7						7	日本医大	2	2	1				5		
山形大	2						2	順天堂大	3						3		
東北大	2	2	1				5	慶應義塾大	75		5	6	3	5	96		
福島医大	1						1	東京医科大	8	2	1				9		
群馬大	3				1		4	東京女子医大	8	1					9		
筑波大	2				1	1	4	慈恵医科大	28						28		
千葉大	13	1		1			15	昭和医大	6	1	1		1		9		
東京医科歯科大	1		1	1		1	4	東邦大	15						15		
東京医科歯科大	4						4	杏林大	7						7		
横浜市立大	3						3	聖マリアンナ	14						14		
山梨大	1						1	北里大	6				1		7		
新潟大	3		1				4	東海大	13						13		
富山大	2						2	帝京大	1						1		
福井大	2						2	藤田保健大	10						10		
松山医科大	4						4	愛知医科大	2						2		
岐阜大	2						2	関西医科大	3						3		
名古屋大	2						2	大阪医科大	2						2		
名古屋大	3						3	兵庫医科大	1						1		
三重大	3						3	川崎医科大	2						2		
奈良大	1						1	産業医科大	5						5		
京都府医大	1						1	久留米大	2						2		
神戸大	3						3	金沢医大	2						2		
岡山大	2						2	その他(海外等)	2						2		
島根大	1						1								0		
山口大	2						2								0		
山徳大	2						2								0		
香川大	1						1								0		
長崎大	4					1	5								0		
佐賀大	1						1								0		
熊本大	2						2								0		
鹿児島大	1						1								0		
琉球大	2						2								0		
大阪大	0			1			1								0		
高知大	0					2	2								0		
滋賀医科大	0					1	1								0		
計	94	3	3	4	4	5	113	計	233	7	7	6	5	5	263		

エ 初期臨床研修修了者（平成27年度生）

修了年月日	氏名	出身校
平成29年3月31日	手塚 朋子	高知大学
平成29年3月31日	中屋 雅人	高知大学
平成29年3月31日	石川 隆昭	筑波大学
平成29年3月31日	野間絵梨子	北里大学
平成29年3月31日	道振 康平	昭和大学
平成29年3月31日	大崎 典子	群馬大学
平成29年3月31日	石倉佳代子	慶應義塾大学
平成29年3月31日	河野 暉	慶應義塾大学
平成29年3月31日	清河 駿樹	慶應義塾大学

<2年間研修を受けた専攻医>（※ 1年6か月以上2年未満の者を含む。）

・前田 麻実 ・平本 和音 ・横山 裕章 ・城下 郊平 ・萩原 裕也 ・鈴木 啓介
 ・的場 健太 ・長田 枝利香

<1年間研修を受けた専攻医>（※ 6か月以上1年未満及び1年6か月未満の者を含む。）

・生駒 祐介 ・柿沼 勇太 ・小川 卓範 ・阿部 麻衣 ・楠本 竜也 ・稲毛 純
 ・鄭 瑞雄 ・長島 誠 ・木村 文将 ・菊池 直哉 ・石原 恵理子 ・加茂川 留理
 ・白井 将博 ・佐々木 万里恵 ・早乙女 啓子 ・中山 堯振 ・太田 琴美 ・上倉 英恵
 ・岡田 祐輝 ・前島 沙織 ・紅林 泰

オ 在籍する臨床研修医（平成29年4月1日現在）

2年次生（平成28年度生）		1年次生（平成29年度生）	
氏名	出身校	氏名	出身校
鈴木 友博	慶應義塾大学	今本 多計臣	聖マリアンナ医科大学
田中 李樹	東京大学	内田 絢子	慶應義塾大学
中川原 賢亮	慶應義塾大学	及川 紗由香	千葉大学
中村 美紀	慶應義塾大学	加藤 恭介	慶應義塾大学
中村 有吾	筑波大学	佐藤 慎吾	東京大学
西川 賢	慶應義塾大学	佐柳 太一	慶應義塾大学
原 碧	長崎大学	田中 邦生	東北大学
藤田 野々香	福井大学	田中 優衣	慶應義塾大学
細尾 真奈美	滋賀医科大学	松山 遼太郎	帝京大学
山下 友寛	慶應義塾大学	森田 すみれ	筑波大学

カ 在籍する専攻医(平成29年6月1日現在)

4年次生以上			3年次生		
志望科	氏名	出身校	志望科	氏名	出身校
内科	花田 亮太	昭和大学	内科	野間 絵梨子	北里大学
内科	津軽 開	慶應義塾大学	内科	道振 康平	昭和大学
内科	脇坂 悠介	慶應義塾大学	内科	上園 志穂	東邦大学
内科	鎌田 龍明	横浜市立大学	内科	阪口 楓	北里大学
内科	明神 聡介	慶應義塾大学	内科	内 孝文	東邦大学
内科	永岡 未来	北里大学	内科	永田 真夕	浜松医科大学
内科	城谷 翔太	順天堂大学	内科	鈴木 昂名	福島県立医科大学
内科	長田 真二	岡山大学	内科	李 昊	島根大学
内科	永田 亮平	新潟大学	内科	長岡 可楠子	聖マリアンナ医科大学
内科	上妻 嵩英	慶應義塾大学	内科	釧持 奈緒美	北里大学
内科	松原 祥平	杏林大学	外科	金本 徳之	帝京大学
内科	倉持 信	慶應義塾大学	外科	村田 哲	日本大学
内科	堀内 康平	慶應義塾大学	整形外科	石倉 佳代子	慶應義塾大学
内科	森岡 紘子	広島大学	小児科	手塚 朋子	高知大学
内外科	岩崎 恵美	奈良県立医科大学	耳鼻咽喉科	井口 聖名	慶應義塾大学
外科	塩味 慶子	北里大学	麻酔科	青木 真理子	慶應義塾大学
整形外科	疋田 康祐	東京医科大学	麻酔科	平川 雄亮	東京大学
脳神経外科	辻阪 亮介	慶應義塾大学	麻酔科	北嶋 宏輝	横浜市立大学
形成外科	大石 裕美子	宮崎大学	救急科	井上 聡	大分大学
精神科	奥島 久貴	群馬大学	救急科	藤綱 隆太郎	香川大学
精神科	安東 一樹	慶應義塾大学			
小児科	清水 杏里	杏林大学			
小児科	江原 和美	キングスカレッジ			
小児科	進藤 淳也	日本医科大学			
泌尿器科	梅田 浩太	慶應義塾大学			
婦人科	玉川 真澄	慶應義塾大学			
眼科	伊藤 賀一	東北大学			
耳鼻咽喉科	島貫 茉莉江	近畿大学			
耳鼻咽喉科	佐藤 えみり	慶應義塾大学			
麻酔科	石渡 博昭	東京女子医科大学			
麻酔科	阿部 彩由美	福島県立医科大学			
麻酔科	東條 嶺	日本歯科大学			
歯科口腔外科	矢島 祥助	鶴見大学			
検査科	堀井 千裕	昭和大学			
救急科	白川 和宏	東海大学			
救急科	鳥海 聡	慶應義塾大学			
救急科	宮嶋 和宏	杏林大学			
救急科	土屋 光正	秋田大学			
救急科	金子 翔太郎	香川大学			
救急科	石田 径子	順天堂大学			
		富山大学			

2 初期臨床研修医プログラム

(1) 名 称

川崎市立川崎病院初期臨床研修プログラム

(2) 目的と特徴

当院の研修医制度は、昭和42年4月に発足し、その後教育指導部を設置して既に40年以上が経ちますが、この間多数の研修修了者を送り出してきました。その後、幾度かの変遷を経て、現在では、毎年4月1日に研修開始して、2年後の3月31日に修了する方式を採っています。

ローテイトに当たっては、研修医と十分話し合いを持ち、それぞれに最も適した個別カリキュラムを組んで、限られた期間に充実した研修成果が上がるよう努めています。

また、各科の基礎的診断治療のための技能の習得のみならず、“病気を診るのではなく、悩める病人を診る”という、診療態度の修得やプライマリ・ケアを重視した研修を行っています。

医学の進歩に伴い、医療の専門分化・高度化により各臓器疾患の専門医は増加し、これまで治療困難とされた疾患が克服できるようになりました。それに反して患者を全人的に診療できる医師（General Physician）は少なく、“病気のみを診るのではなく悩める病人を診る”ことのできるGeneral Physicianの養成が社会的に求められています。また、本当の意味での専門医はGeneral Physicianとしての素養を身につけた上で、自分の専門分野を追及していくべきと考えます。

そこで当院では、“臓器別専門医である前に、患者全体を診て適切な診療を行う”を基本方針の基に、臨床医としての基礎的臨床能力を養成することを主たる目標にしました。

(3) 指導者と研修施設

ア 指導者と研修プログラム責任者

研修管理委員会委員長 小宮 浩一郎

イ 研修施設

診療各科及び検査科の施設、研究室、会議室

ウ 指導医リスト [医師免許取得後7年以上] (平成29年6月1日現在)

内科	大曾根 康夫	岡野 裕	有馬 功一郎	佐山 宏一
	野崎 博之	末吉 浩一郎	坂本 光男	西澤 健也
	玉井 博修	伯野 大彦	高木 英恵	李 慧崇
	津村 和大	田口 博章	有泉 健	大森 奈緒
	高橋 賢至	高田 昌幸	田中 希宇人	深江 智明
	井上 健太郎	室田 敦子	扇野 圭子	細田 智弘
	北菌 久雄	葉末 亮		
精神科	齋藤 寿昭	米森 京子	鹿島 美納子	三浦 孝政
小児科	番場 正博	土橋 隆俊	檜林 敦	荒木 耕生
	外山 陽子	本田 堯		
新生児内科	森 和広	古川 律子	梶原 久美子	坂井 みのり
	金子 絵名			
外科	市東 昌也	相浦 浩一	夏 錦言	萬谷 京子
	和多田 晋	三原 規奨	菊池 弘人	高橋 秀奈
	井上 正純			

呼吸器外科	澤藤 誠	井澤 菜緒子		
脳神経外科	竹中 信夫	今西 智之	小野塚 聡	片山 真
	三島 牧	植田 良		
整形外科	上田 誠司	中道 憲明	小宮 浩一郎	西脇 正夫
	山口 健治	畑 亮輔	美馬 雄一郎	清田 康弘
形成外科	畑野 麻子			
心臓血管外科	蜂谷 貴	笠原 啓史		
皮膚科	宮川 俊一	渡邊 絵美子	雁金 詩子	
泌尿器科	原 智	服部 盛也	石岡 桂	勝井 政博
産婦人科	中田 さくら	染谷 健一	上野 和典	樋口 隆幸
	金 善恵	春日 義史	鈴木 毅	
眼科	富田 洋平	堀内 直樹		
耳鼻咽喉科	今西 順久	佐藤 陽一郎		
放射線診断科	成松 芳明	倉田 忠宜	長谷川 市郎	佐藤 宏朗
放射線治療科	栗林 徹	舟越 和人	黒岩 信子	
麻酔科	森田 慶久	逢坂 佳宗	安藤 嘉門	阪本 浩平
	細井 卓司	平畑 枝里子		
救急科	田熊 清継	齋藤 豊	荘司 清	塩島 裕樹
	進藤 健	竹村 成秀	春成 学	金尾 邦生
リハビリテーション科	阿部 玲音	岩崎 真梨	富岡 曜平	
歯科口腔外科	鬼澤 勝弘	安居 孝純		
検査科	杉浦 仁	折笠 英紀		

エ 専門医（認定医）教育病院等学会の指定状況

日本内科学会認定医制度教育病院	日本外科学会外科専門医制度修練施設
日本リウマチ学会認定教育施設	日本消化器外科学会専門医修練施設
日本内分泌学会内分泌代謝科専門医制度認定教育施設	日本消化器病学会専門医制度認定施設
日本感染症学会認定研修施設	日本消化器内視鏡学会認定指導施設
日本アレルギー学会認定アレルギー専門医教育研修施設	日本呼吸器外科専門医合同委員会認定修練基幹施設
日本循環器学会認定循環器専門医研修施設	日本胆道学会認定指導施設
日本呼吸器内視鏡学会専門医制度認定施設	日本脳卒中学会専門医認定研修教育病院
日本呼吸器学会認定施設	三学会構成心臓血管外科専門医認定機構認定基幹施設関連施設
日本小児科学会小児科専門医研修施設	日本皮膚科学会認定専門医研修施設
日本小児科学会小児科専門医研修支援施設	日本泌尿器科学会専門医教育施設
日本精神神経学会精神科専門医制度研修施設	日本産科婦人科学会専門医制度専攻医指導施設
日本認知症学会認定教育施設	日本がん治療認定医機構認定研修施設

日本神経学会専門医制度准教育施設	日本心血管インターベンション治療学会認定研修施設
日本耳鼻咽喉科学会専門医研修施設	日本脈管学会認定研修指定施設
日本麻酔科学会麻酔科認定病院	日本乳癌学会認定医・専門医制度関連施設
日本集中治療医学会専門医研修施設	腹部大動脈瘤ステントグラフト実施施設
日本整形外科学会専門医制度研修施設	胸部大動脈瘤ステントグラフト実施施設
日本手外科学会認定研修施設	日本プライマリ・ケア連合学会認定病院総合医養成プログラム
日本形成外科学会認定教育関連施設	日本頭頸部外科学会頭頸部がん専門医制度準認定施設
日本眼科学会専門医制度研修施設	日本食道学会全国登録認定施設
日本核医学会専門医教育病院	日本消化管学会胃腸科指導施設
日本医学放射線学会放射線科専門医総合修練機関	日本周産期・新生児医学会専門医制度暫定認定施設
日本放射線腫瘍学会認定協力施設	日本産科婦人科内視鏡学会認定研修施設
日本 IVR 学会専門医修練施設	日本顎顔面インプラント学会認定関連研修施設
日本リハビリテーション医学会認定研修施設	日本肝胆膵外科学会高度技能専門医制度認定修練施設
日本臨床細胞学会認定施設	
日本病理学会研修認定施設 B	
日本救急医学会救急科専門医指定施設	

オ 指導体制

各科とも原則としてマンツーマン方式を取れ入れています。

(4) プログラム委員会

本院には、研修管理委員会が設置されており、その委員がプログラム委員を兼務します。

(5) プログラム管理体制

ア 研修管理委員会の組織・機能

(ア) 委員長：小宮 浩一郎 研修管理委員会委員長

(イ) 構成：委員は各研修カリキュラムの責任者、院長、事務局長、副院長、庶務課長、研修協力施設の研修実施責任者（指導医等）、外部委員（医師等）

(ウ) 業 務

a 研修プログラムの全体的な調整・管理

（研修プログラム作成方針の決定や、各研修カリキュラム間の相互調整など）

b 研修医の全体的な管理

（研修医の募集、他施設への出向、研修医の処遇、研修医の健康管理）

- c 研修医の研修状況の評価
(研修目標の達成状況の評価、臨床研修修了の評価)
- d 採用時における研修希望者の評価
- e 指導医の評価と記録
- f 研修後の進路について、相談等の支援を行う
- g 院内カンファレンス、研修資料と教育機材の管理、指導医研修

イ 研修医の勤務規定、顕彰・処罰規定及び採用方法

研修医の勤務規定、顕彰・処罰規定及び採用方法は別途定める要綱によります。研修医は、毎年公募により採用されます。

ウ 研修プログラムの自己評価と改善体制

研修管理委員会では、研修医の研修成果や研修医・指導医の意見を踏まえ、常に研修プログラム自体の評価を行い、修正可能な点は速やかに修正します。また、大きなシステム上の問題は、関係各所と協議の上、適宜改善を行います。

エ 研修医からのフィードバック

研修医は、研修実行委員と定期的に面接を行い、研修プログラムや指導医に対する意見を述べることができます。臨床研修委員会は、できるだけ研修医の要望を実現できるように配慮します。

オ 研修の継続が困難な研修医に対する処置

身体的・社会的・経済的理由などにより、研修継続が困難な状態に陥った場合は、臨床研修委員会及び研修責任者は、研修医個人の処遇を勘案し、適切な対応を行うものとします。

(6) 卒後臨床研修・ローテイトについて

ア 期間割り研修医予定配置

1年次の最初の月（4月）は、全員が救急科で研修を行います。厚生労働省の定める内科6箇月、救急科3箇月、地域医療1箇月を必修科目として計10箇月間研修します。選択必修は5科（外科、麻酔科、小児科、産婦人科、精神科）の中から2科を選択し、選択科（内科、外科、救急科、麻酔科、小児科、産婦人科、精神科、整形外科、放射線科、皮膚科、眼科、耳鼻咽喉科、泌尿器科、脳神経外科、心臓血管外科、リハビリテーション科、検査（病理）科、の中から選択）と合わせて計14箇月の研修を行います。

選択科目の研修期間は、プログラムの特性を配慮し、最低1箇月とします。

選択科目の研修に当たっては、研修医が各研修カリキュラムを選択し、積極的に研修に取り組み、充実した研修ができるように留意します。

(7) 研修医定員及び処遇

研 修 医 定 員：1年次10名、2年次10名

募 集 及 び 採 用 方 法：公募、小論文、集団面接及び集団討論にて選考、マッチングに参加

資 格：平成29年度に日本で有効な医師免許を取得見込みの者

処 遇：川崎市非常勤嘱託職員

地方公務員法（以下「地公法」という。）第30条及び第32条から第35条を、遵守する義務を負う。

待	<p>遇：給与月額 364,100円</p> <p>健康保険・厚生年金・雇用保険・労働災害補償あり</p> <p>レジデントハウス（単身者用）あり</p> <p>病院個室なし、個人の机及びロッカー有り</p> <p>定期健康診断年1回</p> <p>医師賠償責任保険は病院として加入</p> <p>学会及び研究会への参加は研修に支障のない範囲で可。ただし、公費負担なし。</p>
勤務時間	<p>：1週5日（月～金曜日）</p> <p>月～金曜日：8時30分～17時まで 時間外勤務なし</p> <p>研修以外の診療活動は認めない（地公法第38条の改正による）</p> <p>当直は配属科により変わるが、内科の場合に平日当直2日、休日当直1日が目安である。</p>
年次有給休暇等	<p>：1年目10日、2年目11日付与</p> <p>夏期休暇5日（6月1日～10月31日までの間に取得）</p>

(8) 研修修了認定基準

臨床研修医に関する要綱中、第10条の修了証書の授与に際しては、次の基準によるものとします。

- ア 各研修医は、厚生労働省の指定した初期臨床研修到達目標の自己評価表に基づき、自己採点を行い、研修責任者に提出する。
- イ 研修責任者は、研修管理委員会を開催し、ローテイトした科の指導責任者の採点によるレジデント評価表と研修医が採点した自己評価表を併せて審査し、その結果を院長に報告する。
- ウ 院長は、報告に基づき研修が修了したと認定された研修医に対して、修了証書を授与する。

VII 業 績 目 録

科 別 業

科目	年度	科 別												
		内科・総合診療科	精神科	小児科	新生児内科	外科	呼吸器外科	脳神経外科	整形外科	形成外科	心臓血管外科	皮膚科	泌尿器科	産科・婦人科
学 位 取 得	24												1	
	25					1								
	26								1					1
	27													
	28													
賞	24					1							1	
	25													
	26	1												
	27								2				1	1
	28												1	
研 究 助 成 共 同 研 究	24	1						1						
	25	1						1						
	26	2						1					1	
	27		1					1					1	
	28							1						
書 籍	24	3		2		24			23					
	25	4		11		1			1					
	26	1		1		2			1					5
	27						4		10					1
	28		1						3					
論 文	24	3				2	1		16			1	9	3
	25	10		2		8	2	2	20	2	6	1	2	
	26	18		9		5	3	1	20		1	7	4	11
	27	9		9	1	5	1		19	1		1	4	4
	28	19		16		2	1		18	1		2		2
学 会 研 究 会	24	22	4	4		1	8	1	18		3	6	13	31
	25	45	3	18	2	30	5	2	34	1		7	4	
	26	54	5	13	1	21	2	2	67	2	1	5	6	34
	27	20	3	18	7	21	4	3	60	1	1	5	2	9
	28	17		13	4	17		2	51	3		4	2	10
そ の 他	24	7							15				1	
	25	7	2	1										
	26	4	5	10	2			1	8				2	
	27			4		1			4		1		1	
	28		3		2	6		1	15	1			2	

※ 平成25年度から業績目録の様式を変更。

※ 「新生児内科」「形成外科」は平成25年度から計上。「放射線診断科」「放射線治療科」は平成25年度から分離。「医療安全管理室」は平成26年度から計上。

※ 平成26年度から「学会」と「研究会」を統合。

※ 「書籍」は「著書」と「書籍の章」の合算。「その他」には「講演会等」を含む。

績 統 計

眼 科	耳 鼻 咽 喉 科	放 射 線 治 療 科	放 射 線 診 断 科	麻 酔 科	救 急 科	リ ハ ビ リ テ ー シ ョ ン 科	歯 科 口 腔 外 科	検 査 科	薬 剤 部	看 護 部	医 療 安 全 管 理 室	地 域 医 療 部	感 染 対 策 室	食 養 科	合 計
1				2	1		1		1						2 1 3 2 2
2	1	1						1		3 4 1 2					4 3 6 3 9
1 1	1				1		1 1 1 1 1								3 3 6 5 4
		1			1 15	2 1			2 1 1				1 1		56 35 16 23 9
1 1 3 1	2 2 3 4	2 4		3 7 1 4 4	5 19 3 11 3	2		6 1 6 3	1 4 2 3	4 4 2 3					57 94 97 97 79
3 3 1	17 12 16	7 25 4	4	16 18 13	24 33 34	5 2 5	4 2 14	12 9 8	4 3 4	7 9			1	2 4 5 1	202 269 327
3 1	21 23	2	5 7	8 6	36 21	5	6 3	6 3	8 4				1	1 1	256 201
1 1	1	4		1	48 5 17		5 10 17 18	3 16 3	3 15 7 12	3 1 25	10 25	11	5 1 10	2 5 7 6	90 23 120 101 121

1 当院における学位取得者

(1) 麻酔科

安藤嘉門. 医学博士 (乙). 平成 28 年 7 月取得. Metabolomic analysis of the mechanism of isoflurane induced apoptosis of PC12 cells. J Metabolomics.

菅規久子. 医学博士 (乙). 平成 29 年 3 月取得. Impact of left heart bypass on arterial oxygenation during one-lung ventilation for thoracic aortic surgery. Journal of Cardiothoracic and Vascular Anesthesia.

2 賞

(1) 整形外科

船尾陽生. 日本脊椎脊髄病学会 第 11 回 Asia Traveling Fellowship. 平成 28 年 4 月. 受賞理由: これまでの脊椎外科に関する国内外での発表・論文等が評価されたため。

石濱寛子, 石井賢, 船尾陽生ほか. 第 45 回日本脊椎脊髄病学会 English Presentation Award. 平成 28 年 4 月. 受賞理由: 抗菌性素材に関する基礎研究内容と英語での発表が評価されたため。

(2) 泌尿器科

服部盛也. 第 10 回ヤングリサーチグラント. 平成 28 年 4 月. 受賞理由: 研究成果。

(3) 婦人科

林保良. Life time achievement award(2016 APAGE). 平成 28 年 11 月.

(4) 放射線診断科

川野保夫. 川崎市病院協会優良職員表彰. 平成 28 年 10 月.

(5) 歯科口腔外科

安居孝純. 優秀演題賞 (第 37 回日本炎症・再生医学会純化歯髄幹細胞は高い骨形成能を有する). 平成 28 年 6 月.

(6) 薬剤部

飯島尚志. 川崎市病院協会優良職員表彰. 平成 28 年 10 月.

(7) 看護部

門脇里美. 神奈川県看護協会会長表彰. 平成 28 年 6 月. 受賞理由: 多年にわたり神奈川県内において看護師としてその業績に励み顕著な業績を上げている。

原田直子. 神奈川県看護協会会長表彰. 平成 28 年 6 月. 受賞理由: 多年にわたり神奈川県内において看護師としてその業績に励み顕著な業績を上げている。

(8) 医事課

佐藤康明. 川崎市病院協会優良職員表彰. 平成 28 年 10 月.

3 研究助成及び共同研究

(1) 脳神経外科

植田良. 文部科学省科学研究費. 悪性神経膠腫および腫瘍新生血管に対する複合的ペプチドワクチン療法の評価法開発.

(2) 眼科

富田洋平. 文部科学省科学研究費. 高脂肪食と加齢黄斑変性

(3) 耳鼻咽喉科

今西順久. 文科省科研費助成金 基盤研究 (C). 癌幹細胞維持機構と EMT(上皮間葉転換)を同時標的とする頭頸部癌転移治療の研究 (16K11245)

(4) 歯科口腔外科

安居孝純. 平成 28 年度科学研究費助成事業 (学術研究助成基金助成金 基盤研究 C). 研究課題名 : 高純度歯髄幹細胞の顎骨壊死治療への応用. 補助事業期間 : 平成 28 年度～平成 31 年度

4 書籍の章

(1) 精神科

齋藤寿昭. 16 精神疾患 薬剤による精神障害. 2017 今日の治療指針. 福井次矢, 高木誠, 小室一成. 東京, 医学書院, 2017; 2017 年版, p. 992-993.

(2) 整形外科

西脇正夫. 三角線維軟骨複合体 (TFCC) 損傷. 上肢臨床症候の診かた・考え方. 玉井和哉, 金谷文則, 池上博泰. 東京, 南山堂, 2016; 第 1 版, p. 219-221.

西脇正夫. 月状骨 (周囲) 脱臼. 上肢臨床症候の診かた・考え方. 玉井和哉, 金谷文則, 池上博泰. 東京, 南山堂, 2016; 第 1 版, p. 228-229.

石井賢, 塩野雄太, 磯貝宜広, 船尾陽生, 細金直文, 八木満, 日方智宏, 渡辺航太, 松本守雄. 手術のコツ<固定術>Extreme lateral interbody fusion (XLIF) with PPS. 脊椎疾患診療マニュアル—私のコツ—. 西良浩一. 東京, 全日本病院出版会, 2016; Monthly Book Orthopaedics 29 (10), p. 175-185.

(3) 耳鼻咽喉科

今西順久. 第 2 章 解剖と機能 5 気管・食道. 耳鼻咽喉科・頭頸部外科研修ノート. 改訂第 2 版. (総監修) 永井良三. 東京, 診断と治療社, 2016; p. 76-78.

(4) 麻酔科

逢坂佳宗. Section3 下肢 症例 12 足関節骨折. Lisa コレクション 超音波ガイド化末梢神経ブロック 実践 25 症例. 森本康裕. 東京, メディカルサイエンスインターナショナル, 2016; 第 1 版, p. 147-151.

(5) 歯科口腔外科

鬼澤勝弘, 安居孝純. 埋伏歯抜歯. よくわかる歯科小手術の基本 抜歯から歯周外科まで. 齋藤淳, 中川種昭, 清水宏康. 東京, 株式会社デンタルダイヤモンド社, 2016; p. 54-62.

(6) 看護部

白田美奈子. 熱性けいれんと診断され帰宅する. 小児看護. へるす出版, 2016; 第 39 巻第 6 号, 2016; 第 39 巻第 6 号, p. 689-692.

白田美奈子. 子どもによくみられる症状—観察のポイントとケアの実際—. 小児看護. へるす出版, 2016; 第 39 巻第 7 号, 2017; 第 39 巻第 7 号, p. 265-265.

5 論文

(1) 内科・総合診療科

小川卓範, 田中希宇人, 楠本竜也, 扇野圭子, 大森奈緒, 澤藤誠, 佐山 宏一. 非小細胞肺癌に対してNivolumabを投与し、免疫関連胆管炎、膵炎を来した1例. 日本呼吸器学会誌. 2017; 6: 315.
楠本竜也, 田中希宇人, 片山真, 小川卓範, 扇野圭子, 大森奈緒, 佐山宏一. 肺癌による癌性髄膜炎に対するオンマイヤリザーバーを用いたメトトレキサート髄腔内治療の検討. 日本呼吸器学会誌. 2017; 6: 281.

細田智弘, 坂本光男, 野崎博之, 大楠清文. 液体培地における8週間の培養陰性と免疫再構築症候群に合併した脾梗塞が診断の契機となったHIV感染者における播種性Mycobacterium genavense感染症. 結核. 2017; 92: 248.

細田智弘, 坂本光男, 東野俊洋, 野崎博之, 清水英明, 三崎貴子, 岡部信彦. チフス性疾患との鑑別に難渋したフィリピン渡航後の発疹熱. 感染症学雑誌. 2017; 91: 337.

Yokoyama Hiroaki, Sakamoto Mitsuo, Toyama Takaaki, Shiroshita Kohei, Fukae Tomoaki, Okano Yutaka, Nozaki Hiroyuki. EBウイルス陽性びまん性大細胞型B細胞性リンパ腫を合併した心筋心膜炎 症例報告(Myopericarditis associated with EB virus positive diffuse large B cell lymphoma: a case report) (英語). 臨床血液. 2016; 57: 1731.

Shiroshita Kohei, Sakamoto Mitsuo, Toyama Takaaki, Yokoyama Hiroaki, Hosoda Tomohiro, Okano Yutaka, Nozaki Hiroyuki. 再生不良性貧血を合併したCorynebacterium性菌血症(Corynebacterium striatum bacteremia complicated with aplastic anemia) (英語). 臨床血液. 2016; 57: 1678.

布施彰久, 北菌久雄, 野崎博之, 岡野裕, 秋月哲史. 院内発症した脳梗塞に対してt-PA施行群と未施行群の比較検討. 日本内科学会雑誌. 2017; 106: 259.

野間絵梨子, 有泉健, 脇坂悠介, 井上健太郎, 高木英恵, 玉井博修, 相浦浩一. EMR-Lで切除した直腸の小カルチノイドの一例. Progress of Digestive Endoscopy. 2016; 90: 127.

脇坂悠介, 井上健太郎, 三原規奨, 市東昌也, 有泉健, 高木英恵, 玉井博修, 相浦浩一. 主膵管蛇行により急性膵炎を反復したと考えられた早期慢性膵炎の1例. Progress of Digestive Endoscopy. 2016; 90: 121.

野崎博之, 細田智弘, 岡野裕. 院内発症の脳梗塞に対して血栓溶解療法(tPA 静注療法)を施行した症例の検討. 日本病院総合診療医学会雑誌. 2016; 11: 157.

脇坂悠介, 東谷卓美, 金澤英明, 貞廣威太郎, 鶴田ひかる, 深江智明, 高橋賢至, 李慧崇, 西澤健也, 末吉浩一郎, 福田恵一, 秋月哲史. 超高齢で発症したplatypnea orthodeoxia syndrome (POS)の1例. 心臓. 2017; 49: 59-65.

細田智弘, 坂本光男. 脾梗塞を合併したサイトメガロウイルスによる伝染性単核症. 感染症学雑誌. 2016; 90: 814-818.

Hosoda Tomohiro, Sakamoto Mitsuo. クリプトコッカス髄膜炎に起因する免疫再構築炎症反応症候群(Immune Reconstitution Inflammatory Syndrome due to Cryptococcal Meningitis) (英語). Internal Medicine. 2016; 55: 1505-1506.

細田智弘, 坂本光男, 前田麻実, 岡野裕, 野崎博之. 脾梗塞を合併したサイトメガロウイルスによる伝染性単核症. 日本病院総合診療医学会雑誌. 2016; 10: 204.

井上健太郎, 三原規奨, 市東昌也, 有泉健, 高木英恵, 玉井博修, 杉浦仁, 相浦浩一. 粘液の胆管

内逆流により黄疸を来した膵管内乳頭粘液性腫瘍の1例. *Progress of Digestive Endoscopy*. 2016; 88: 184-185.

有田祐起, 細田智弘, 東野俊洋, 田口博章, 大曾根康夫, 野崎博之, 坂本光男. 発症8日目の髄液PCR法のみで病原体が検出されたレプトスピラ症の1例. *感染症学雑誌*. 2016; 90: 325-329.

津村和大. 服薬管理における各職種の役割 医師・薬剤師・看護師・ケアマネージャー 服薬管理における各職種の役割 医師の立場から「患者教育と医療者教育のコンダクター」. *糖尿病*. 2016; 59: 24.

中屋雅人, 井上健太郎, 三原規奨, 市東昌也, 有泉健, 高木英恵, 玉井博修, 相浦浩一. 再発性重症膵炎に対して内視鏡的嚢胞開窓術が奏功した choledochocoele の1例. *Progress of Digestive Endoscopy*. 2016; 89: 116.

細田智弘, 坂本光男, 有馬聖永, 東野俊洋, 田口博章, 大曾根康夫, 野崎博之. インフルエンザに合併した肺炎患者の臨床的検討. *感染症学雑誌*. 2016; 90: 405.

(2) 小児科

及川裕之, 長田枝利香, 江原和美, 本田堯, 志村和浩, 荒木耕生, 津村由紀, 安藏慎, 番場正博. 幼少期から繰り返す上腹部痛の既往があり急性腹症で来院した右傍十二指腸ヘルニアの14歳男児. *小児科*. 2016; 58: 307-309.

鳥居健一, 三谷麻里絵, 江原和美, 本田堯, 荒木耕生, 後藤正之, 檜林敦, 津村由紀, 安藏慎, 番場正博, 高橋孝雄. 股関節痛で発症した化膿性内閉鎖筋炎の1歳児例. *小児科臨床*. 2016; 69: 1199-1203.

長田枝利香, 三谷麻里絵, 江原和美, 本田堯, 荒木耕生, 後藤正之, 檜林敦, 津村由紀, 安藏慎, 番場正博. インフルエンザワクチン、日本脳炎ワクチン接種後に免疫性血小板減少症 (ITP) を発症した5歳女児例. *小児科*. 2016; 58: 405-408.

土橋隆俊. 【小児循環器のファーストタッチから専門診療へ】主要症候に対するファーストタッチ胸痛. *小児科診療*. 2017; 80: 27-33.

Takagi M, Takahashi M, Ohtsu Y, Sato T, Narumi S, Arakawa H, Hasegawa T. A novel mutation in HESX1 causes combined pituitary hormone deficiency without septo optic dysplasia phenotypes. *Endocr J*. 2016; 63(4): 405-410.

Saito T, Nagasaki K, Nishimura G, Wada M, Nyuzuki H, Takagi M, Hasegawa T, Amano N, Murotsuki J, Sawai H, Yamada T, Sato S, Saitoh A. Criteria for radiologic diagnosis of hypochondroplasia in neonates. *Pediatr Radiol*. 2016; 46(4): 513-518.

Yagi H, Takagi M, Narumi S, Hasegawa T, Nishimura G, Hasegawa Y. Stippled calcification in an infant with a recurrent SRCAP gene mutation. *Am J Med Genet A*. 2016; 170A(4): 1088-1091.

Higuchi S, Takagi M, Shimomura S, Nishimura G, Hasegawa Y. A Japanese familial case of Schmid metaphyseal chondrodysplasia with a novel mutation in COL10A1. *Clin Pediatr Endocrinol*. 2016; 25(3): 107-110.

Nagahara K, Harada Y, Futami T, Takagi M, Nishimura G, Hasegawa Y. A Japanese familial case of hypochondroplasia with a novel mutation in FGFR3. *Clin Pediatr Endocrinol*. 2016; 25(3): 103-106.

Takagi M, Shinohara H, Nagashima Y, Hasegawa Y, Narumi S, Hasegawa T. A novel dominant negative mutation in the intracellular domain of GHR is associated with growth hormone insensitivity. *Clin Endocrinol (Oxf)*. 2016; 85(4): 669-671.

Takagi M, Miyoshi T, Nagashima Y, Shibata N, Yagi H, Fukuzawa R, Hasegawa T. Novel heterozygous mutation in the extracellular domain of FGFR1 associated with Hartsfield syndrome. *Hum Genome Var*. 2016; 3:16034.

Takagi M, Takeda R, Yagi H, Ariyasu D, Fukuzawa R, Hasegawa T. A case of transient neonatal diabetes due to a novel mutation in ABCC8. *Clin Pediatr Endocrinol*. 2016; 25(4): 139-141.

Takagi M, Kamasaki H, Yagi H, Fukuzawa R, Narumi S, Hasegawa T. A novel heterozygous intronic mutation in POU1F1 is associated with combined pituitary hormone deficiency. *Endocr J*. 2017; 64(2): 229-234.

Kusano C, Takagi M, Hori N, Murotsuki J, Nishimura G, Hasegawa T. A novel mutation in the C-propeptide of COL2A1 causes atypical spondyloepiphyseal dysplasia congenita. *Hum Genome Var*. 2017; 4:17003.

Nakamura Y, Takagi M, Takeda R, Miyai K, Hasegawa Y. Hypertension is a characteristic complication of X-linked hypophosphatemia. *Endocr J*. 2017; 64(3): 283-289.

Sugaya N, Shinjoh M, Kawakami C, Yamaguchi Y, Yoshida M, Baba H, Ishikawa M, Kono M, Sekiguchi S, Kimiya T, Mitamura K, Fujino M, Komiyama O, Yoshida N, Tsunematsu K, Narabayashi A, Nakata Y, Sato A, Taguchi N, Fujita H, Toki M, Myokai M, Ookawara I, Takahashi T. Trivalent inactivated influenza vaccine effective against influenza A(H3N2) variant viruses in children during the 2014/15 season, Japan. *Euro Surveill*. 2016; 21(42).

(3) 外科

Kishida N, Matsuda S, Itano O, Shinoda M, Kitago M, Yagi H, Abe Y, Hibi T, Masugi Y, Aiura K, Sakamoto M, Kitagawa Y. Development of a novel mouse model of hepatocellular carcinoma with nonalcoholic steatohepatitis using a high-fat, choline-deficient diet and intraperitoneal. *BMC Gastroenterol*. 2016; 16(1): 61.

和多田晋. あなたならどうする?. *血管外科*. 2016; 35: 106-110.

(4) 呼吸器外科

井澤菜緒子, 泉陽太郎, 福田祐樹, 儀賀理暁, 中山光男. 肺葉内肺分画症内に発生した扁平上皮癌の一例. *日本呼吸器外科学会雑誌*. 2016; 30: 731-736.

(5) 整形外科

小宮浩一郎, 福原悠介. CR型TKA施行8年後に誘因なく関節血症を伴い前方亜脱臼を生じた1例. *日本人工関節学会誌*. 2016; 46: 399-400.

小柳貴裕. 臨床研究における最近の統計手法の進歩とPits and Falls(前編) 観察研究におけるバイアス対策の諸手法. *臨床整形外科*. 2017; 52: 59-67.

稲葉尚人, 西脇正夫, 鈴木拓, 別所祐貴, 堀内行雄. 小児上腕骨顆上骨折の内側皮質粉砕が内反肘

変形に与える影響. 日本手外科学会雑誌. 2016; 33: 94-96.

小宮浩一郎, 福原悠介. 関節包滑膜から渦巻き状に連続する有茎性軟部腫瘍が膝関節に catching を生じた 1 例 遊離体形成の一過程像か. JOSKAS. 2016; 41: 510-511.

福原悠介, 小宮浩一郎. 尋常性乾癬および Ni アレルギーをもつ変形性膝関節症に対して人工膝関節置換術を施行した 1 例. JOSKAS. 2016; 41: 430-431.

西脇正夫, 稲葉尚人, 岡崎真人. 陳旧性骨性槌指に対して flexion block を用いた経皮的鋼線刺入固定法の治療成績. 骨折. 2017; 39: 200-203.

岡崎真人, 田崎憲一, 西脇正夫, 谷野善彦. PIP 関節背側脱臼骨折に対するミニプレート固定手術成績に影響する因子の検討. 日本手外科学会雑誌. 2016; 32: 992-994.

Stoesser H, Padmore C, Nishiwaki M, Gammon B, Langohr GD, Johnson JA. Biomechanical Evaluation of Carpal Kinematics during Simulated Wrist Motion. J Wrist Surg. 2017; 6: 113-119.

森田晃造, 大橋麻依子, 越智健介, 堀内行雄. 掌側転位型橈骨遠位端関節内骨折に対する polyaxial locking plate 固定術の治療成績. 日手会誌 (オンラインジャーナル). 2016; 32: J-0600080.

森田晃造, 堀内行雄. 重度手根管症候群に対する長掌筋腱を用いた新しい母指対立再建術の一考案. 日手会誌 (オンラインジャーナル). 2016; 33: J-07000061.

越智健介, 堀内行雄, 堀内孝一, 水野早希子, 森澤妥, 西脇正夫. 肘部管症候群患者の尺骨神経伸長度と肩関節肢位の関係一肩内旋肘内旋テストの有用性一. Peripheral Nerve 末梢神経. 2016; 27: 306.

小柳貴裕. 膀胱直腸障害を主訴とした surfer's myelopathy の一例. 脊椎脊髄ジャーナル. 2016; 8: 783-786.

日方智宏, 磯貝宜広, 塩野雄太, 船尾陽生, 岡田英次郎, 辻崇, 中村雅也, 松本守雄, 石井賢. 高齢者転移性脊椎腫瘍に対する MISt の治療成績. Journal of Spine Research. 2016; 7: 1304-1307.

Ishii K, Shiono Y, Funao H, Singh K, Matsumoto M. A Novel Groove-Entry Technique for Inserting Thoracic Percutaneous Pedicle Screws. Clin Spine Surg. 2017; 30(2): 57-64.

Hikata T, Isogai N, Shiono Y, Funao H, Okada E, Fujita N, Iwanami A, Watanabe K, Tsuji T, Nakamura M, Matsumoto M, Ishii K. A Retrospective Cohort Study Comparing the Safety and Efficacy of Minimally Invasive Versus Open Surgical Techniques in the Treatment of Spinal Metastases. Clin Spine Surg. 2016.

Funao H, Kebaish K, Isogai N, Koyanagi T, Matsumoto M, Ishii K. Utilization of a technique of percutaneous S2-alar-iliac fixation in immunocompromised patients with spondylodiscitis. World Neurosurg(online journal). 2017; 97: e11-e18.

Shiono Y, Ishii K, Nagai S, Kakinuma H, Sasaki A, Funao H, Kuramoto T, Yoshioka K, Ishihama H, Isogai N, Takeshima K, Tsuji T, Okada Y, Koyasu S, Nakamura M, Toyama Y, Aizawa M, Matsumoto M. Delayed Propionibacterium acnes surgical site infections occur only in the presence of an implant. Sci Rep(online journal). 2016; 6: 32758.

Funao H, Irie R, Daimon K, Isogai N, Sugiura H, Koyanagi T. Intradural extramedullary non-myxopapillary ependymoma with a lumbar nerve root involvement in a Japanese male. Spine J(online publication). 2016; 16(8): e535-e536.

(6) 形成外科

Nagasao T, Kasai S, Shimizu Y, Sakamoto Y, Hatano A, Morotomi T, Ogata H, Kishi K. A biomechanical study of relationship between sternum defect patterns and thoracic respiration. *Comput Assist Surg (Abingdon)*. 2016; 21(1): 1-8.

(7) 皮膚科

大方詩子, 渡辺絵美子, 宮川俊一, 三谷満里絵, 本田堯, 安藏慎一, 番場正博, 栗原佑一, 中村元康, 望月明子, 濱口儒人. 若年性皮膚筋炎の2例. *臨床皮膚科*. 2016; 70: 573-578.

遠藤恵, 大方詩子, 渡辺絵美子, 栗原佑一, 宮川俊一, 入江理恵. 小児の汎発性環状肉芽腫. *皮膚病診療*. 2016; 38: 479-482.

(8) 産科・婦人科

山口緑, 樋口隆幸, 竹田貴, 鈴木毅, 金善恵, 上野和典, 岩田壮吉, 林保良, 染谷健一. A型母体で胎児・新生児溶血性疾患の発症に至ったABO血液型不適合妊娠の1例. *神奈川県産科婦人科学会誌*. 2016; 53: 19-22.

Chin H, Lin BL. Hysteroscopic curettage using the Lin snare and Y adaptor : A review of 300 cases. *J Minim Invasive*. 2016; 23: 62-65.

(9) 眼科

Suzuki M, Nagai N, Shinoda H, Uchida A, Kurihara T, Tomita Y, Kamoshita M, Iyama C, Tsubota K, Ozawa Y. Distinct Responsiveness to Intravitreal Ranibizumab Therapy in Polypoidal Choroidal Vasculopathy With Single or Multiple Polyps. *American Journal of Ophthalmology*. 2016; 166: 52-59.

(10) 耳鼻咽喉科

Otsuka K, Imanishi Y, Tada Y, Kawakita D, Kano S, Tsukahara K, Shimizu A, Ozawa H, Okami K, Sakai A, Sato Y, Ueki Y, Sato Y, Hanazawa T, Chazono H, Ogawa K, Nagao T. Clinical Outcomes and Prognostic Factors for Salivary Duct Carcinoma: A Multi-Institutional Analysis of 141 Patients. *Ann Surg Oncol*. 2016; 23: 2038-2045.

坂本耕二, 今西順久, 富田俊樹, 小澤宏之, 佐藤陽一郎, 稲垣洋三, 山田浩之, 伊藤文展, 鈴木法臣, 甲能武幸, 斉藤真, 野口勝, 西山崇経, 中村伸太郎, 藤田紘子, 渡部高久, 新田清一, 小川郁. 甲状腺癌リンパ節転移診断における穿刺吸引内容物中サイログロブリン濃度測定(FNA-Tg)の有用性と限界. *日本耳鼻咽喉科学会会報*. 2016; 119: 721-726.

Kawakita D, Tada Y, Imanishi Y, Beppu S, Tsukahara K, Kano S, Ozawa H, Okami K, Sato Y, Shimizu A, Sato Y, Fushimi C, Takase S, Okada T, Sato H, Otsuka K, Watanabe Y, Sakai A, Ebisumoto K, Togashi T, Ueki Y, Ota H, Shimura T, Hanazawa T, Murakami S, Nagao T. Impact of hematological inflammatory markers on clinical outcome in patients with salivary duct carcinoma: a multi-institutional study in Japan. *Oncotarget*. 2017; 8: 1083-1091.

伊藤文展, 小澤宏之, 関水真理子, 渡部佳弘, 富田俊樹, 今西順久, 小川郁. 咽頭原発小細胞癌の

臨床所見—当院で経験した4症例を含む症例解析—, 日本耳鼻咽喉科学会会報, 2017; 120: 825-832.

(11) 麻酔科

安藤嘉門. ベーシック特集 見る見るリカイ! 予測ができる 予兆がわかる 術中合併症. OPE nursing. 2016; 31: 26(1104)-39(1117).

逢坂佳宗. モニタリングの基本. オペナーシング. 2016; 31: 26-43.

逢坂佳宗. Bilateral Catheterization, Perpendicular or Parallel, to Femoral Nerve Block in Five Patients Undergoing Bilateral Simultaneous Total Knee Arthroplasty. Journal of Anesthesia & Clinical Research. 2016; 7: 7-7.

逢坂佳宗. Comparison between Ultrasonographic Visibility during Sciatic Nerve Block by Medial Approach and Popliteal Approach. Journal of Anesthesia & Clinical Research. 2016; 7: 10.

(12) 救急科

田熊清継. 【看護師・研修医必携 救急・ICUですぐに役立つ”超”ガイドラインこれだけBOOK】 熱傷 熱傷診療ガイドライン. EMERGENCY CARE. 2017; 新春増刊: 270-281.

土井賢治. 【看護のためのファシリテーション 対話型・参加型組織をつくる技法と実践】 実践報告 医療チーム内の共通認識・相互理解を深めるための対話に基づく実践 ワークショップ・ファシリテーションの技法を活用して. 看護管理. 2016; 26: 908-914.

田熊清継. 【救急外来-救急医療の心臓部;理想と課題】 ソフト面からみた救急外来 overcrowding と diversion. 救急医学. 2016; 40: 802-808.

(13) 歯科口腔外科

佐藤仁, 村岡渡, 西須大徳, 臼田頌, 安居孝純, 鬼澤勝弘, 中川種昭, 和嶋浩一. 非歯原性歯痛を伴う帯状疱疹後神経痛に移行したと考えられた再発性帯状疱疹の1例. 日本口腔顔面痛学会雑誌. 2016; 9: 41-45.

軽部健史, 安居孝純, 鬼澤勝弘, 佐藤仁, 筋生田整治, 河奈裕正. 増大傾向を示した舌下腺による静止性骨空洞の長期観察例. 日本口腔外科学会雑誌. 2016; 62: 299-303.

(14) 検査科

井上健太郎, 三原規奨, 市東昌也, 有泉健, 高木英恵, 玉井博修, 杉浦仁, 相浦浩一. 粘液の胆管内逆流により黄疸を来した膵管内乳頭状粘液性腫瘍の1例. Progress of Digestive Endoscopy. 2016; 88: 184-185.

Haruki Funao, Rie Irie, Kenshi Daimon, Norihiro Isogai, Hitoshi Sugiura, Takahiro Koyanagi. Intraductal extramedullary non-myxopapillary ependymoma with a lumbar nerve root involvement in a Japanese man. The Spinal Journal. 2016; 16: e535-e536.

小柳和夫, 市東昌也, 相浦浩一, 杉浦仁, 掛札敏裕. GIST再発との鑑別が困難であった残胃近傍腸間膜線維腫症の1例. 日本臨床外科学会雑誌. 2017; 78: 297-302.

6 学会・研究会

(1) 内科・総合診療科

川合聡史, 永田亮平, 室田敦子, 東野俊洋, 田口博章, 大曾根康夫, 岡野裕. 発症初期に腎クリーゼを、その7年後に肺動脈性肺高血圧症を発症した乳がん合併・抗RNAポリメラーゼIII抗体陽性の強皮症の1例. 日本リウマチ学会総会・学術集会.

東野俊洋, 稲毛純, 永田亮平, 阿部麻衣, 平本和音, 川合聡史, 室田敦子, 田口博章, 大曾根康夫, 岡野裕. その他の膠原病 高齢発症成人発症 Still 病の臨床特徴. 日本リウマチ学会総会・学術集会.

石川隆昭, 田中希宇人, 片山真, 小川卓範, 楠本竜也, 扇野圭子, 野崎博之, 岡野裕, 佐山宏一. 髄液からEGFR T790M変異を認めた非小細胞肺癌による癌性髄膜炎の1例. 第631回日本内科学会関東地方会.

阿部麻衣, 鄭瑞雄, 川合聡史, 室田敦子, 東野俊洋, 田口博章, 野崎博之, 大曾根康夫, 岡野裕. シクロフォスファミドが奏功した特異な精神症状を呈した全身性エリテマトーデスの1例. 第631回日本内科学会関東地方会.

中村有吾, 布施彰久, 北菌久雄, 岡野裕, 野崎博之, 大曾根康夫, 秋月哲史, 敗血症性ショックに対し治療を行うも意識障害が改善せず、一酸化炭素中毒が疑われた1例. 第628回日本内科学会関東地方会.

木村文将, 花田亮太, 井上健太郎, 有泉健, 高木英恵, 玉井博修, 野崎博之, 岡野裕, 秋月哲史. 乳糜腹水を呈したアルコール性肝硬変の1例. 第629回日本内科学会関東地方会.

長島誠, 城下郊平, 外山高朗, 坂本光男, 岡野裕, 野崎博之, 秋月哲史. リツキシマブが奏功した後天性血友病Aの1例. 第629回日本内科学会関東地方会.

永田亮平, 松原祥平, 室田敦子, 東野俊洋, 田口博章, 大曾根康夫, 岡野裕. 多発性筋炎との鑑別を要したアルコール性ミオパチーの1例. 第627回日本内科学会関東地方会.

松本龍門, 扇野圭子, 小川卓範, 楠本竜也, 田中希宇人, 大森奈緒, 佐山宏一, 岡野裕, 野崎博之, 秋月哲史, G-CSF産生肺多形癌の1例. 第627回日本内科学会関東地方会.

上妻崇英, 津村和夫, 田口博章, 植田良, 樋口隆幸, 高田昌幸, 野崎博之, 有馬功一郎, 岡野裕, 大曾根康夫. 出産直後に下垂体減圧手術を施行したリンパ球性下垂体前葉炎の1例. 第626回日本内科学会関東地方会.

脇坂悠介, 萩原裕也, 井上健太郎, 有泉健, 高木英恵, 玉井博修, 野崎博之, 岡野裕, 秋月哲史, 杉浦仁. 急性肝不全様の経過をとり死亡した悪性リンパ腫の1例. 第625回日本内科学会関東地方会.

清河駿樹, 細田智弘, 坂本光男, 岡野裕, 野崎博之, 秋月哲史, 船尾陽生, 中原奈々. 髄液細胞数上昇を認め髄膜炎と鑑別を要した硬膜外膿瘍の1例. 第625回日本内科学会関東地方会.

東野俊洋, 菅野瑛梨, 長谷川靖浩, 片桐翔治, 平本和音, 田口博章, 大曾根康夫, 佐藤慎二, 鈴木康夫, 岡野裕. 抗MDA-5抗体陽性皮膚筋炎5例の検討. 第60回日本リウマチ学会総会・学術集会プログラム・抄録集.

田口博章, 東野俊洋, 大曾根康夫, 岡野裕, 秋月哲史. リウマチ性疾患の画像 関節リウマチにお

いて構造的寛解を治療目標とした場合に疾患活動性評価には臨床的評価法と比較して超音波パワードプラ検査がより優れている。第60回日本リウマチ学会総会・学術集会プログラム・抄録集。布施彰久，北菌久雄，東野俊洋，岡野裕，野崎博之，秋月哲史。物忘れ、食思不振を主訴に受診しneuro-psychiatric SLEと診断した高齢男性の1例。第624回日本内科学会関東地方会。

鳥海聡，坂本容規，西澤健也，東谷卓美，深江智明，高橋賢至，李慧崇，末吉浩一郎，野崎博之，岡野裕。片側性肺うっ血を認めた解離性大動脈瘤術後に再解離を来した1例。第623回日本内科学会関東地方会。

小川卓範，佐山宏一，加畑宏樹，田中希宇人，大森奈緒，野崎博之，岡野裕，秋月哲史。縦隔型肺癌の多発骨転移と鑑別を要した結核性リンパ節炎・多発骨結核の1例。第622回日本内科学会関東地方会。

(2) 小児科

及川裕之，長田枝利香，江原和美，本田堯，志村和浩，荒木耕生，津村由紀，安藏慎，番場正博。幼少期から繰り返す上腹部痛の既往があり急性腹症で来院した右傍十二指腸ヘルニアの14歳男児。第119回日本小児科学会学術集会。平成28年4月。札幌。

本田堯，三谷麻里絵，長田枝利香，江原和美，荒木耕生，後藤正之，檜林敦，津村由紀，安藏慎，番場正博。ガンマグロブリン投与を含む初期治療後、良好に経過している若年性皮膚筋炎の2例。第119回日本小児科学会学術集会。平成28年4月。札幌。

本田堯，前島沙織，長田枝利香，江原和美，及川裕之，志村和浩，荒木耕生，檜林敦，土橋隆俊，番場正博，瀧正志。ウイルス性胃腸炎後に紫斑と一過性凝固異常を認めたループスアンチコアグラント陽性低プロトロンビン血症(LAHPs)の1例。日本小児科学会神奈川県地方会。平成28年6月。横浜。

荒木耕生。退院後、亜急性期に心嚢液貯留を来した川崎病の一例。第52回日本小児循環器学会総会・学術集会。平成28年7月。東京。

麻生健太郎，水野将徳，都築慶光，後藤健次郎，東賢良，荒木耕生，勝部康弘。学校心臓健診の心筋症抽出に対する有効性の検討—川崎市学校心臓検診と川崎市の三次検診指定病院での調査結果—。第52回日本小児循環器学会総会・学術集会。平成28年7月。東京。

高木優樹，武田良淳，篠原宏行，吉橋博史，鳴海覚志，西村玄，長谷川奉延。シンポジウム Comprehensive Mutation Screening in Japanese Patients with Osteogenesis Imperfecta。第34回日本骨代謝学会学術集会／第3回アジア太平洋骨代謝学会議。平成28年7月。大阪。

金子昌弘，濱田陸，本田堯，稲葉泰洋，菊永佳織，久保田亘，寺野千香子，橋本淳也，原田涼子，濱崎祐子，石倉健司，中西浩一，楊國昌，番場正博，幡谷浩史，本田雅敬。新規遺伝子変異とネフリンのモザイク状発現を認めたフィンランド型先天性ネフローゼ症候群の女児例。第51回日本小児腎臓病学会学術集会。平成28年7月。名古屋。

Takagi M, Daitsu T, Numakura C, Sato T, Narumi S, Hasegawa T. A novel LHX4 mutation is associated with hypogonadotropic hypogonadism, not combined pituitary hormone deficiency. THE AMERICAN SOCIETY OF HUMAN GENETICS 66TH Annual Meeting. 平成28年10月。Vancouver。

菅谷憲夫，新庄正宣，山口禎夫，佐藤清二，明貝路子，川上千春，中田勇二，佐藤明弘，藤野元子，城裕之，三田村敬子，佐藤吉壮，番場正博，岩田敏，高橋孝雄。迅速診断を用いた test-negative case-control design によるインフルエンザワクチンの効果。第48回日本小児感染症学会総会・学

術集会. 平成 28 年 11 月. 岡山.

榎林敦. シンポジウム 薬剤関連業務の情報化における現況と今後の展望 ～薬剤系システムは成熟したか?～ 医師の立場から: 薬剤オーダの課題. 第 36 回医療情報学連合大会(第 17 回日本医療情報学会学術大会). 平成 28 年 11 月. 横浜.

榎林敦. 本邦初の電子お薬手帳内処方データの病院情報システムへの取り込み事例. 第 36 回医療情報学連合大会(第 17 回日本医療情報学会学術大会). 平成 28 年 11 月. 横浜.

Shimura K, Ishii T, Shibata H, Hoshino K, Kuroda T, Kameyama K, Mitsutake N, Sugino K, Noh JY, Hasegawa T. Rapid growth and early metastasis of papillary thyroid carcinoma in an adolescent girl with Graves' disease. 第 9 回アジア太平洋小児内分泌学会. 平成 28 年 11 月. 東京.

及川裕之, 進藤淳也, 佐々木万里恵, 江原和美, 本田堯, 志村和浩, 荒木耕生, 高木優樹, 土橋隆俊, 番場正博. 濱田陸. ショックを呈した未診断の先天性ネフローゼ症候群の 3 か月女児. 小児科学会神奈川県地方会. 平成 28 年 12 月. 横浜.

(3) 新生児内科

坂井みのり, 金子絵名, 梶原久美子, 栗原伸芳, 森和広. Staphylococcus Lugdunensis による臍カテーテル感染から腹腔内感染を起こした超低出生体重児の 1 例. 第 52 回日本周産期・新生児医学会. 平成 28 年 7 月. 富山.

栗原伸芳, 金子絵名, 坂井みのり, 梶原久美子, 森和広. 妊娠末期のプロマゼパム内服と出生児の血中濃度. 第 52 回日本周産期・新生児医学会. 平成 28 年 7 月. 富山.

金子絵名, 坂井みのり, 梶原久美子, 栗原伸芳, 森和広. 社会的養護対象となった当院出生児の背景と支援の現状. 第 61 回日本新生児成育医学. 平成 28 年 12 月. 大阪.

坂井みのり, 金子絵名, 栗原伸芳, 森和広, 番場正博. Staphylococcus Lugdunensis による臍カテーテル感染から腹腔内感染を起こした超低出生体重児の 1 例. 第 344 回小児科学会神奈川県地方会. 平成 29 年 2 月. 横浜.

(4) 外科

市東昌也. 尾側膝切除術における膝断端処理法の検討. 日本外科学会. 平成 28 年 4 月. 大阪.

市東昌也. 切除不能膝頭部癌に対する姑息手術の検討. 日本肝胆膵外科学会. 平成 28 年 6 月. 大阪.

市東昌也. 上腹部手術既往症例に対する腹腔鏡下胆嚢摘出術の検討. 日本消化器外科学会. 平成 28 年 7 月. 徳島.

北郷実, 相浦浩一, 下田啓文, 板野理, 篠田昌宏, 八木洋, 阿部雄太, 日比泰造, 岩崎栄典, 北川雄光. 十二指腸乳頭部腫瘍に対する当院の治療戦略. 52 回日本胆道学会学術集会. 平成 28 年 9 月.

板野理, 岸田憲弘, 玉川英史, 篠崎浩治, 藤崎洋人, 池田謙, 浦上秀次郎, 永滋教, 早津成夫, 鈴木慶一, 櫻川忠之, 松井淳一, 相浦浩一, 皆川卓也, 北川雄光. 胆道癌切除例に対する TS-1 術後補助療法 Feasibility 試験 (TOSBIC01). 54 回日本癌治療学会学術集会. 平成 28 年 10 月.

野間絵梨子, 有泉健, 脇坂悠介, 井上健太郎, 高木英恵, 玉井博修, 相浦浩一. EMR-L で切除した直腸のカルチノイドの一例. 103 回日本消化器内視鏡学会関東支部例会. 平成 28 年 12 月.

夏錦言. 食道癌術後の乳び胸に対して経皮経腹的リンパ管塞栓術が有効であった 1 例. 第 70 回日本食道学会学術集会. 平成 28 年 7 月. 軽井沢.

和多田晋. 当院における静脈血栓塞栓症治療の変遷～エドキサバン導入前後を比較して～. 日本静脈学会. 平成 28 年 6 月.

和多田晋. Y-graft 置換後胸腹部囊状大動脈瘤に対しステントグラフト内挿術を施行した 1 例. 神奈川ステントグラフト研究会. 平成 28 年 11 月.

和多田晋. 上行大動脈置換術後解離性腹部大動脈瘤に対し EVAR を施行した 1 例. 川崎ステントグラフト研究会. 平成 28 年 11 月.

三原規奨. 若手胆道医のトレーニングの現況と課題 胆道外科医としての短い歩みとこれから. 日本胆道学会.

三原規奨. 当院における高難度肝切除周術期管理の徹底の有用性. 日本肝胆膵外科学会.

菊池弘人. 急性虫垂炎を契機に虫垂腫瘍と診断された腹腔鏡下手術症例の検討. 第 29 回日本内視鏡外科学会総会. 平成 28 年 12 月.

井上正純. Role of IL-8/CXCR2 network in the tumor cell proliferation of esophageal squamous cell carcinoma. AACR Annual Meeting 2016. 平成 28 年 4 月. New Orleans, USA.

井上正純. Chemokine network と食道扁平上皮癌悪性度・癌細胞動態との関わり. 第 27 回日本消化器癌発生学会総会. 平成 28 年 9 月.

井上正純. IL-8/CXCR2 network と食道扁平上皮癌予後および癌細胞動態との関わり. 第 70 回日本食道学会学術集会. 平成 28 年 7 月.

井上正純. 胸部食道癌に対する胸壁前経路有茎右側結腸再建の治療成績. JDDW2016.

(5) 脳神経外科

菊地亮吾, 戸田正博, 田村亮太, 長島秀明, 柴尾俊輔, 齋藤克也, 植田良, 佐々木光, 吉田一成. 再発悪性神経膠腫に対するカクテルペプチドワクチン療法第 1/2 相臨床試験. 第 34 回日本脳腫瘍学会学術集会. 平成 28 年 12 月. 甲府.

片山真, 石原恵理子, 植田良, 今西智之. EGFR mutation T790M を髄液検体にて診断し得た NSCLC の 1 例. 第 12 回信濃町脳腫瘍セミナー. 平成 29 年 1 月. 東京.

(6) 整形外科

西脇正夫, 稲葉尚人, 寺坂幸倫, 堀内行雄, King Graham. 自動および他動回内外運動時の遠位橈尺関節のキネマティクス. 第 59 回日本手外科学会学術集会. 平成 28 年 4 月. 広島.

西脇正夫, 稲葉尚人, 岡崎真人. 陳旧性骨性槌指に対して flexion block を用いた経皮的鋼線刺入固定法の治療成績. 第 42 回日本骨折治療学会学術集会. 平成 28 年 7 月. 東京.

西脇正夫, 稲葉尚人, 寺坂幸倫, 堀内行雄, James A. Johnson, Graham J.W. King. 橈骨遠位端骨折の背屈変形と掌屈変形が遠位橈尺関節のキネマティクスに与える影響. 第 9 回日本手関節外科ワークショップ. 平成 28 年 9 月. 岡山.

西脇正夫, 稲葉尚人, 寺坂幸倫, 堀内行雄, 岡崎真人, 田崎憲一. 手指基節骨頭頸部骨折の手術的治療. 第 65 回東日本整形災害外科学会. 平成 28 年 9 月. 箱根.

西脇正夫, 清田康弘, 寺坂幸倫, 稲葉尚人, 堀内孝一, 河野友祐, 別所祐貴, 越智健介, 森田晃造, 堀内行雄. 人工肘関節置換術 K-NOW 人工肘関節の関節面傾斜角の検討. 第 29 回日本肘関節学会学術集会. 平成 29 年 2 月. 東京.

西脇正夫, 清田康弘, 小柳貴裕, 堀内行雄, 岡崎真人, 田崎憲一. 橈骨遠位端骨折に対する髄内釘を用いた治療の現状と未来. 第 57 回関東整形災害外科学会. 平成 29 年 3 月. 東京.

中道憲明. 広範囲腱板断裂に対する広背筋移行術 (Habermeyer 法) の治療成績. 第 23 回神奈川上肢外科研究会. 平成 28 年 10 月. 横浜.

小宮浩一郎, 福原悠介. 大腿骨外顆後方に生じた離断性骨軟骨炎に対し、自家培養軟骨(ジャック)移植を行った 1 例. 第 8 回 日本関節鏡・膝・スポーツ整形外科学会 (JOSKAS). 平成 28 年 7 月. 福岡.

小宮浩一郎, 山口健治, 川崎舎俊一, 西田有正. TKA 後の膝蓋腱断裂に対し人工靭帯を用いた再建術を行い、感染を生じた 1 例～伸展機構を温存しての再置換術～. 第 47 回日本人工関節学会. 平成 29 年 2 月. 沖縄.

堀内行雄. 教育研修講演 4 手術をしなくて治す工夫. 第 59 回日本手外科学会学術集会. 平成 28 年 4 月. 広島.

森田晃造, 越智健介, 谷野善彦, 堀内行雄. 重度手根管症候群に対する長掌筋腱を用いたわれわれの母指対立再建法. 第 59 回日本手外科学会学術集会. 平成 28 年 4 月. 広島.

越智健介, 堀内行雄, 堀内孝一, 岩本卓士, 佐藤和毅. 肘部管症候群患者における尺骨神経伸長度一病態との関連一. 第 59 回日本手外科学会学術集会. 平成 28 年 4 月. 広島.

稲葉尚人, 西脇正夫, 鈴木拓, 別所祐貴, 堀内行雄. 小児上腕骨顆上骨折の内側皮質粉碎が内反肘変形に与える影響. 第 59 回日本手外科学会学術集会. 平成 28 年 4 月. 広島.

越智健介, 堀内行雄, 堀内孝一, 水野早希子, 森澤妥, 西脇正夫. 肘部管症候群患者の尺骨神経伸長度と肩関節肢位の関係一肩内旋肘内旋テストの有用性一. 第 27 回日本末梢神経学会学術集会. 平成 28 年 8 月. 大阪.

森田晃造, 西脇正夫, 堀内行雄, 増田秀輔. 上腕骨顆部後壁の粉碎した coronal shear fracture の治療経験. 第 24 回日本肘関節学会. 平成 29 年 2 月. 東京.

稲葉尚人, 西脇正夫, 大木聡, 鈴木拓, 松村昇, 岩本卓士, 佐藤和毅, 堀内行雄. 内側皮質粉碎に伴った小児上腕骨顆上骨折の術後矯正損失の検討. 第 24 回日本肘関節学会. 平成 29 年 2 月. 東京.

清田康弘, 西脇正夫, 堀内行雄. 母指 CM 関節症に対する Thompson 法術後に長母指伸筋腱皮下断裂を生じた一例. 第 31 回東日本手外科研究会. 平成 29 年 2 月. 札幌.

稲葉尚人, 西脇正夫, 中村研太, 寺坂幸倫, 木村洋朗, 大木聡, 岩本卓士, 佐藤和毅, 堀内行雄. Mallet thumb の 1 例. 第 31 回東日本手外科研究会. 平成 29 年 2 月. 札幌.

二宮研, 小柳貴裕. Modic type1 変性は椎弓切除後に発生する化膿性椎間板炎の危険因子である. 第 90 回日本整形外科学会学術集会. 平成 28 年 5 月. 横浜.

船尾陽生, 塩野雄太, 日方智宏, 藤田順之, 百島祐貴, 中村雅也, 松本守雄, 石井賢. MIS-TLIF における医療従事者の術中放射線被曝量の検証. 第 17 回関西 MIST 研究会. 平成 28 年 4 月. 大阪.

日方智宏, 磯貝宣広, 塩野雄太, 船尾陽生, 岡田英次郎, 藤田順之, 岩波明生, 渡辺航太, 中村雅也, 松本守雄, 石井賢. 転移性脊椎腫瘍に対する最小侵襲脊椎安定術の有用性の検討-多施設後ろ向き研究-. 第 89 回日本整形外科学会学術集会. 平成 28 年 5 月. 横浜.

塩野雄太, 石井賢, 日方智宏, 船尾陽生, 中村雅也, 松本守雄. 新たな胸椎 PPS 刺入法 (Groove Entry Technique) の精度と安全性の検証. 第 45 回日本脊椎脊髄病学会学術集会. 平成 28 年 4 月. 千葉.

美馬雄一郎, 小柳貴裕, 船尾陽生, 中道憲明, 西脇正夫, 小宮浩一郎, 山口健治. 後脊髄動脈症候群に椎体梗塞を合併した 1 例. 第 157 回神奈川整形災害外科研究会. 平成 28 年 6 月. 横浜.

清河駿樹, 細田智弘, 坂本光男, 岡野裕, 野崎博之, 秋月哲史, 船尾陽生, 中原奈々. 髄液細胞数

上昇を認め髄膜炎と鑑別を要した硬膜外膿瘍の一例. 第 625 回内科学会関東地方会. 平成 28 年 7 月. 東京.

船尾陽生, 美馬雄一郎, 小柳貴裕. 成人脊柱変形術後のロッド折損に対する LLIF を用いた低侵襲 revision 手術. 第 13 回川崎脊椎脊髄連携集会. 平成 28 年 7 月. 川崎.

美馬雄一郎, 船尾陽生, 小柳貴裕, 石井賢. 後頭骨環椎脱臼の 1 例. 第 13 回房総脊椎脊髄手術手技研究会. 平成 28 年 7 月. 千葉.

船尾陽生, 美馬雄一郎, 小柳貴裕, 石井賢. 成人脊柱変形術後のロッド折損に対する LLIF を用いた低侵襲 revision 手術. 第 13 回房総脊椎脊髄手術手技研究会. 平成 28 年 7 月. 千葉.

船尾陽生, Khaled Kebaish, 磯貝宜広, 塩野雄太, 日方智宏, 小柳貴裕, 石井賢. 下位腰椎の化膿性脊椎炎に対する経皮的 S2 alar iliac screw を用いた MIS-long fixation の経験. 第 19 回日本低侵襲脊椎外科学会学術集会. 平成 28 年 11 月. 東京.

船尾陽生, 藤田順之, 八木満, 渡辺航太, 中村雅也, 北川雄光, 松本守雄, 尾原秀明, 石井賢. 日本人における 3 次元骨盤 CT を用いた仙骨骨盤固定スクリュー刺入経路の解析. 第 19 回日本低侵襲脊椎外科学会学術集会. 平成 28 年 11 月. 東京.

船尾陽生, 美馬雄一郎, 小柳貴裕. クローン病に伴う脊椎関節炎で脊髄症状を呈した 1 例. 第 92 回神奈川脊椎脊髄研究会. 平成 29 年 2 月. 横浜.

西田有正, 小柳貴裕, 堀内行雄, 中道憲明, 小宮浩一郎, 西脇正夫, 山口健治, 船尾陽生, 川崎舎俊一, 美馬雄一郎, 清田康弘, 岡田祐輝. BP 製剤長期内服後, 大腿骨内側に不全骨折を繰り返した 1 例. 第 159 回神奈川整形災害外科研究会. 平成 29 年 2 月. 横浜.

船尾陽生, 藤田順之, 八木満, 渡辺航太, 中村雅也, 北川雄光, 松本守雄, 尾原秀明, 石井賢. 3 次元骨盤 CT を用いた骨盤固定スクリューの刺入経路の解析. 第 8 回日本 MISt 研究会 第 8 回関東 MISt 研究会合同開催. 平成 29 年 2 月. 東京.

日方智宏, 塩野雄太, 船尾陽生, 岡田英次朗, 金子康仁, 福田健太郎, 中村雅也, 松本守雄, 石井賢. 低侵襲腰椎固定術の有用性の検討～従来の OPEN 手技との比較～. 第 8 回日本 MISt 研究会 第 8 回関東 MISt 研究会合同開催. 平成 29 年 2 月. 東京.

船尾陽生, Khaled Kebaish, 藤田順之, 日方智宏, 岩波明生, 渡辺航太, 中村雅也, 松本守雄, 石井賢. 胸腰椎長範囲固定術後の固定下位隣接後弯変形に対する revision 手術の治療成績. 第 45 回日本脊椎脊髄病学会学術集会. 平成 28 年 4 月. 千葉.

石井賢, 名倉武雄, 関広幸, 塩野雄太, 船尾陽生, 蔵本哲也, 磯貝宜広, 日方智宏, 松本守雄, 中村雅也. 胸椎経皮的椎弓根スクリューの新たな刺入法 (groove-entry technique) の新鮮未固定屍体を用いたバイオメカニクスの検討. 第 45 回日本脊椎脊髄病学会学術集会. 平成 28 年 4 月. 千葉.

塩野雄太, 石井賢, 船尾陽生, 鶴見秀平, 本田みちよ, 相澤守, 中村雅也, 松本守雄. 銀イオンによる抗菌性を有した水酸アパタイト/コラーゲン多孔体人工骨の開発. 第 45 回日本脊椎脊髄病学会学術集会. 平成 28 年 4 月. 千葉.

日方智宏, 磯貝宜広, 塩野雄太, 船尾陽生, 岡田英次朗, 藤田順之, 岩波明生, 渡辺航太, 中村雅也, 松本守雄, 石井賢. 転移性脊椎腫瘍に対する最小侵襲脊椎安定術の有用性の検討-多施設後ろ向き研究-. 第 45 回日本脊椎脊髄病学会学術集会. 平成 28 年 4 月. 千葉.

船尾陽生, 日方智宏, 藤田順之, 渡辺航太, 中村雅也, 北川雄光, 松本守雄, 尾原秀明, 石井賢. 日本人における理想的な仙骨骨盤固定スクリューの刺入経路-3次元骨盤CTによる解析-. 第 31 回日

本整形外科学会基礎学術集会. 平成 28 年 10 月. 福岡.

船尾陽生, 藤田順之, 八木満, 渡辺航太, 中村雅也, 北川雄光, 松本守雄, 尾原秀明, 石井賢. 日本人における 3 次元骨盤 CT を用いた仙骨骨盤固定スクリュー刺入経路の解析. 第 50 回日本側弯症学会学術集会. 平成 28 年 11 月. 京都.

Funao H, Kebaish K, Fujita N, Hikata T, Iwanami A, Watanabe K, Koyanagi T, Nakamura M, Matsumoto M, Ishii K. Sacral three column osteotomies for sacral fracture after multilevel spinal fusion. 第 45 回日本脊椎脊髄病学会学術集会. 平成 28 年 4 月. 千葉.

Ishihara S, Hikata T, Shiono Y, Fujita N, Kaneko Y, Funao H, Saito T, Nakamura M, Matsumoto M, Ishii K. Efficacy of minimally invasive spine stabilization for spinal infection. 第 45 回日本脊椎脊髄病学会学術集会. 平成 28 年 4 月. 千葉.

Isogai N, Ishii K, Shiono Y, Kuramoto T, Yoshioka K, Ishihama H, Funao H, Matsumoto M, Nakamura M. Potential biomarkers of surgical site infection identified by plasma metabolome analysis in mice. 第 45 回日本脊椎脊髄病学会学術集会. 平成 28 年 4 月. 千葉.

Ishihama H, Ishii K, Kakinuma H, Funao H, Nagai S, Aizawa M, Okada Y, Koyasu S, Nakamura M, Matsumoto M. Development of a novel antimicrobial coating for biomedical polymers -Its antibacterial activities both in vitro and in vivo-. 第 45 回日本脊椎脊髄病学会学術集会. 平成 28 年 4 月. 千葉.

Funao H, Momoshima S, Isogai N, Shiono Y, Fujita N, Hikata T, Iwanami A, Watanabe K, Koyanagi T, Nakamura M, Matsumoto M, Ishii K. A prospective study of intraoperative radiation exposure to surgeons in minimally invasive transforaminal lumbar interbody fusion. -Does the patient's body mass index impact on surgeon's radiation dose?-. Society for Minimally Invasive Spine Surgery at Spineweek. 平成 28 年 5 月. シンガポール.

Funao H, Momoshima S, Isogai N, Shiono Y, Fujita N, Hikata T, Iwanami A, Watanabe K, Koyanagi T, Nakamura M, Matsumoto M, Ishii K. Intraoperative radiation exposure to surgeons in single- and multi-level minimally invasive transforaminal lumbar interbody fusion. Asia Pacific Spine Society at Spineweek. 平成 28 年 5 月. シンガポール.

Ishii K, Hikata T, Shiono Y, Funao H, Kaneko Y, Ishihara S, Isogai N, Fujita N, Nakamura M, Matsumoto M, Iwanami A, Watanabe K. MIS-TLIF reduces an incidence of adjacent segment disease in the patient with degenerative spondylolisthesis-Comparative study with conventional TLIF-. Society for Minimally Invasive Spine Surgery at Spineweek. 平成 28 年 5 月. シンガポール.

Ishii K, Shiono Y, Funao H, Kaneko Y, Isogai N, Nagura T, Seki H, Fujita N, Hikata T, Iwanami A, Watanabe K, Nakamura M, Matsumoto M. A new groove-entry technique for inserting thoracic percutaneous pedicle screws. Society for Minimally Invasive Spine Surgery at Spineweek. 平成 28 年 5 月. シンガポール.

Ishii K, Shiono Y, Funao H, Kaneko Y, Isogai N, Nagura T, Seki H, Fujita N, Hikata T, Iwanami Hikata T, Isogai N, Shiono Y, Funao H, Okada E, Fujita N, Iwanami A, Watanabe K, Nakamura M, Matsumoto M, Ishii K. Less invasiveness in minimally invasive spine stabilization (mist) for metastatic spinal tumor. The International Society for the Study of the Lumbar Spine

at Spineweek. 平成 28 年 5 月. シンガポール.

Funao H, Kebaish K, Isogai N, Fujita N, Hikata T, Iwanami A, Watanabe K, Koyanagi T, Nakamura M, Matsumoto M, Ishii K. Minimally invasive spine stabilization with percutaneous sacropelvic fixation for spondylodiscitis in the lower lumbar spine. Society for Minimally Invasive Spine Surgery at Spineweek. 平成 28 年 5 月. シンガポール.

Funao H, Yamane J, Nagoshi N, Isogai N, Ishihara S, Tsuji O, Fujita N, Yagi M, Watanabe K, Hosogane N, Ninomiya K, Nakamura M, Matsumoto M, Ishii K, KSRG. The impact of patients' comorbidity on surgical results and clinical outcomes after cervical laminoplasty for cervical spondylotic myelopathy. 8th Annual Meeting of Cervical Spine Research Society Asia Pacific Section. 平成 29 年 3 月. 神戸.

Ishihara S, Ishii K, Nagoshi N, Yamane J, Ninomiya K, Kato S, Tsuji O, Fujita N, Yagi M, Watanabe K, Fukuda K, Funao H, Nakamura M, Matsumoto M, KSRG members. The impact of patients' obesity on surgical outcomes after cervical laminoplasty in patients with cervical spondylotic myelopathy. 8th Annual Meeting of Cervical Spine Research Society Asia Pacific Section. 平成 29 年 3 月. 神戸.

(7) 形成外科

畑野麻子. どのように眼窩壁の骨折は広がってゆくのかを解明する技術の開発. 第 59 回日本形成外科学会総会・学術集会. 平成 28 年 4 月. 福岡.

畑野麻子. 顔面骨骨折の生じ方は、骨の硬さに影響されるか. 第 8 回日本創傷外科学会総会・学術集会. 平成 28 年 7 月. 福岡.

畑野麻子. 下顎骨への衝撃により頭蓋底に骨折が生じるか否かに関する解明. 第 25 回日本形成外科学会基礎学術集会. 平成 28 年 9 月. 大阪.

(8) 皮膚科

大方詩子, 渡辺絵美子, 川島裕平, 宮川俊一, 坂本容規, 細田智弘, 坂本光男. AIDS 関連カポジ肉腫の 6 例. 第 115 回日本皮膚科学会総会. 平成 28 年 6 月.

大方詩子, 渡辺絵美子, 川島裕平, 宮川俊一, 種瀬啓士, 田島誠也, 三浦圭子. Atypical fibroxanthoma (AFX) の 1 例. 第 867 回東京地方会. 平成 28 年 7 月. 東京.

大方詩子, 渡辺絵美子, 宮川俊一, 細田智弘, 相澤紀江. 発熱、頭頸部の皮疹と食道潰瘍から診断に至った急性 HIV 感染症の 1 例. 第 868 回東京地方会. 平成 28 年 9 月. 神奈川.

大方詩子, 渡辺絵美子, 宮川俊一, 石井則久. ネパール人に生じたハンセン病の 1 例. 第 871 回東京地方会. 平成 29 年 1 月. 神奈川.

(9) 泌尿器科

服部盛也, 石岡桂, 金子剛, 松本一宏, 原智. 骨盤腎に発生した腎細胞癌に対して腹腔鏡下腎摘除術を施行した 1 例. 第 30 回日本泌尿器内視鏡学会総会. 平成 28 年 11 月. 大阪.

金子剛, 石岡桂, 服部盛也, 原智. 腹腔鏡下尿管摘除術の初期経験. 第 30 回日本泌尿器内視鏡学会総会. 平成 28 年 11 月. 大阪.

(10) 産科・婦人科

樋口隆幸, 鈴木毅, 金善恵, 染谷健一. 悪性腫瘍との鑑別に苦慮したが腹腔鏡・子宮鏡下組織生検で診断に至り、ホルモン療法が奏功した若年性子宮腺筋症・子宮内膜ポリープの 1 例. 第 31 回日

本女性医学会学術集会. 平成 28 年 11 月. 京都.

染谷健一, 早乙女啓子, 鈴木毅, 千代田達幸, 金善恵, 樋口隆幸, 上野和典, 林保良, 中田さくら. 未経産婦の巨大筋腫に対する TLH でモルセーフを使用した 1 例. 第 416 回神奈川県産科婦人科学会学術講演会. 平成 28 年 11 月. 横浜.

金善恵, 染谷健一, 千代田達幸, 早乙女啓子, 鈴木毅, 樋口隆幸, 上野和典, 中田さくら, 林保良. TLH 術中に生じた直腸損傷を腹腔鏡下に修復しえた一例. 第 415 回神奈川県産科婦人科学会学術講演会. 平成 28 年 9 月. 川崎.

早乙女啓子, 金善恵, 鈴木毅, 千代田達幸, 樋口隆幸, 上野和典, 林保良, 染谷健一, 中田さくら. 当院にて癒着胎盤を疑い対応した 4 例の検討. 第 416 回神奈川県産科婦人科学会学術講演会. 平成 28 年 11 月. 横浜.

鈴木毅, 金善恵, 樋口隆幸, 上野和典. 当院におけるイスラム教徒の妊婦に対する取り組み. 第 52 回日本周産期・新生児学会. 平成 28 年 7 月. 富山.

鈴木毅, 染谷健一, 早乙女啓子, 千代田達幸, 金善恵, 樋口隆幸, 上野和典, 中田さくら, 林保良. 8 才児の卵巣腫瘍茎捻転に対して腹腔鏡下手術を施行した 1 例. 第 56 回日本産科婦人科内視鏡学会. 平成 28 年 9 月. 長崎.

林保良, 早乙女啓子, 鈴木毅, 千代田達幸, 金善恵, 樋口隆幸, 上野和典, 染谷健一, 中田さくら. 子宮内膜ポリープの除去と子宮内 Targeted biopsy を可能とする新しい鉗子の開発とその臨床応用について. 第 56 回日本産科婦人科内視鏡学会. 平成 28 年 9 月. 長崎.

林保良. 子宮鏡下手術の進歩. 第 132 回関東連合産科婦人科学会総会・学術講演会. 平成 28 年 10 月. 東京.

染谷健一, 早乙女啓子, 鈴木毅, 千代田達幸, 金善恵, 樋口隆幸, 上野和典, 林保良, 中田さくら. 当院における卵巣腫瘍合併妊娠に対する腹腔鏡下手術の検討. 第 417 回神奈川県産科婦人科学会学術講演会. 平成 29 年 3 月. 横浜.

清河駿樹, 千代田達幸, 上野和典, 早乙女啓子, 鈴木毅, 金善恵, 樋口隆幸, 染谷健一, 林保良, 中田さくら. 帝王切開癒痕部妊娠治療中に子宮仮性動脈瘤を合併するも保存的に加療しえた一例. 第 417 回神奈川県産科婦人科学会学術講演会. 平成 29 年 3 月. 横浜.

(11) 眼科

堀内直樹, 清水翔太, 小澤紘子, 鈴木亜鶴, 富田洋平. 乳癌原発の転移性脈絡膜腫瘍に対し、ベバシズマブ硝子体内投与が奏効した 1 例. 第 49 回 神奈川県眼科臨床談話会. 平成 29 年 1 月. 川崎.

(12) 耳鼻咽喉科

Noboru Habu, Yorihiisa Imanishi, Kaori Kameyama, Masayuki Shimoda, Yutaka Tokumaru, Koji Sakamoto, Ryoichi Fujii, Seiji Shigetomi, Kuninori Otsuka, Yoichiro Sato, Yoshihiro Watanabe, Hiroyuki Ozawa, Toshiki Tomita, Masato Fujii, Kaoru Ogawa. Expression of stem cell markers Oct3/4 and Nanog in the head and neck squamous carcinoma cells and its clinical implications for delayed neck metastasis in stage I/II tongue squamous cell carcinoma. AACR (American Association for Cancer Research) 2016 Annual Meeting. 平成 28 年 4 月. New Orleans, USA.

島貫茉莉江, 佐藤陽一郎, 戸塚大輔, 中原奈々, 今西順久, 相馬啓子. 当院における超音波検査と甲状腺穿刺吸引細胞診(FNAC)についての検討. 第 117 回日本耳鼻咽喉科学会学術講演会. 平成 28 年 5 月. 名古屋.

中原奈々, 今西順久, 島貫茉莉江, 戸塚大輔, 佐藤陽一郎. 側頭骨転移により顔面神経麻痺と感音難聴を来した一例. 日本耳鼻咽喉科学会神奈川県地方部会第175回学術講演会. 平成28年6月. 横浜.

斎藤真, 小澤宏之, 猪狩雄一, 伊藤文展, 関水真理子, 富田俊樹, 今西順久, 小川郁. 当院における中・下咽頭癌に対する導入化学療法の効果および有害事象の検討. 第40回日本頭頸部癌学会. 平成28年6月. さいたま市.

渡部佳弘, 今西順久, 小澤宏之, 藤井良一, 羽生昇, 佐藤陽一郎, 関水真理子, 猪狩雄一, 斎藤真, 富田俊樹, 小川郁. 咽頭扁平上皮癌におけるCox2-inhibitionとE-cadherin発現制御に関する検討. 第40回日本頭頸部癌学会. 平成28年6月. さいたま市.

別府慎太郎, 多田雄一郎, 川北大介, 塚原清彰, 加納里志, 清水顕, 今西順久, 小澤宏之, 大上研二, 佐藤雄一郎, 長尾俊孝. 根治手術を施行した唾液腺導管癌における術前採血マーカーの予後への影響. 第40回日本頭頸部癌学会. 平成28年6月. さいたま市.

志村智隆, 多田雄一郎, 川北大介, 塚原清彰, 加納里志, 清水顕, 高瀬聡一郎, 今西順久, 小澤宏之, 大上研二, 佐藤雄一郎, 長尾俊孝. 唾液腺導管癌における標的遺伝子変異と免疫組織化学的発現の検討 その臨床病理学的因子との関連. 第40回日本頭頸部癌学会. 平成28年6月. さいたま市.

戸塚大輔, 佐藤陽一郎, 島貫茉莉江, 中原奈々, 今西順久, 相馬啓子. 耳下腺腫瘍における穿刺吸引細胞診(FNAC)の有用性とその限界. 第78回耳鼻咽喉科臨床学会総会・学術講演会. 平成28年6月. 鹿児島市.

島貫茉莉江, 今西順久, 戸塚大輔, 中原奈々, 佐藤陽一郎. 穿刺吸引細胞診にて鑑別困難な甲状腺腫瘍における悪性予測因子の検討. 日本耳鼻咽喉科学会神奈川県地方部会第176回学術講演会. 平成28年9月. 横浜市.

島貫茉莉江, 戸塚大輔, 中原奈々, 佐藤陽一郎, 今西順久. 甲状腺腫瘍に対するUSG-FNACの術前診断能評価と診断困難例における代替悪性予測因子の検討. 第66回慶浜耳鼻科学研究会. 平成28年9月. 横浜市.

佐藤陽一郎, 今西順久, 島貫茉莉江, 戸塚大輔, 中原奈々, 栗林徹, 小澤宏之, 小川郁. 下咽頭癌N2b以上症例に対するup-front neck dissection + CCRT (UFND) の検討. 第54回日本癌治療学会学術集会. 平成28年10月. 横浜市.

加納里志, 高瀬聡一郎, 多田雄一郎, 川北大介, 塚原清彰, 清水顕, 今西順久, 小澤宏之, 大上研二, 佐藤雄一郎, 佐藤由紀子, 志村智隆, 花澤豊行, 長村義之, 長尾俊孝. 唾液腺導管癌における免疫組織化学的発現解析-多施設共同による152症例の検討. 第54回日本癌治療学会学術集会. 平成28年10月. 横浜市.

島貫茉莉江, 戸塚大輔, 中原奈々, 佐藤陽一郎, 重富征爾, 今西順久. TPF療法の有害事象とその発症予測因子の検討. 日本耳鼻咽喉科学会神奈川県地方部会第177回学術講演会. 平成28年12月. 横浜市.

中原奈々, 今西順久, 島貫茉莉江, 戸塚大輔, 佐藤陽一郎, 重富征爾, 栗林徹, 黒岩信子, 竹中浩二. 下咽頭癌化学放射線療法施行症例における血液学的炎症および栄養指標の予後予測能の比較検討. 日本耳鼻咽喉科学会神奈川県地方部会第177回学術講演会. 平成28年12月. 横浜市.
島貫茉莉江, 戸塚大輔, 中原奈々, 佐藤陽一郎, 今西順久. 手術にて救命し得た鋭的気管外傷の3

例. 第 67 回慶浜耳鼻科研究会. 平成 28 年 12 月. 横浜市.

平井秀明, 多田雄一郎, 川北大介, 志村智隆, 塚原清彰, 加納里志, 小澤宏之, 大上研二, 佐藤雄一郎, 清水顕, 今西順久, 長尾俊孝. 唾液腺導管癌では FOXA1 の発現が予後予測因子となる. 第 61 回日本唾液腺学会学術集会. 平成 28 年 12 月. 東京都.

島貫茉莉江, 佐藤陽一郎, 戸塚大輔, 中原奈々, 今西順久. 原発不明癌治療後に構音障害を認めた 1 例. 第 14 回慶應耳鼻咽喉科臨床懇話会. 平成 29 年 1 月. 東京都.

島貫茉莉江, 戸塚大輔, 中原奈々, 佐藤陽一郎, 重富征爾, 今西順久. TPF 療法における発熱性好中球減少症の治療前予測因子の検討. 第 27 回日本頭頸部外科学会学術講演会. 平成 29 年 2 月. 東京都.

中原奈々, 今西順久, 島貫茉莉江, 戸塚大輔, 佐藤陽一郎. 頭頸部癌放射線治療例における hematological inflammatory and nutritional marker の予後予測能の比較検討. 第 27 回日本頭頸部外科学会学術講演会. 平成 29 年 2 月. 東京都.

戸塚大輔, 佐藤陽一郎, 島貫茉莉江, 中原奈々, 今西順久. 咽後膿瘍から敗血症性肺塞栓および全身性多発膿瘍を認めた Lemierre 症候群の 1 例. 第 27 回日本頭頸部外科学会学術講演会. 平成 29 年 2 月. 東京都.

戸塚大輔, 島貫茉莉江, 中原奈々, 佐藤陽一郎, 今西順久. 診断に苦慮した再発性多発軟骨炎の 1 例. 第 68 回慶浜耳鼻科研究会. 平成 29 年 3 月. 横浜市.

島貫茉莉江, 戸塚大輔, 中原奈々, 佐藤陽一郎, 今西順久. 緊急手術にて閉鎖し得た鋭的気管外傷の 3 例. 日本耳鼻咽喉科学会神奈川県地方部会第 178 回学術講演会. 平成 29 年 3 月. 横浜市.

戸塚大輔, 島貫茉莉江, 中原奈々, 佐藤陽一郎, 今西順久. 呼吸困難を認める再発性多発軟骨炎の 1 例. 日本耳鼻咽喉科学会神奈川県地方部会第 178 回学術講演会. 平成 29 年 3 月. 横浜市.

(13) 放射線診断科

鳥飼秀幸, 佐藤宏朗, 成松芳明, 長谷川市郎, 植松敬子, 鴨志田久美, 原 智, 杉浦仁, 陣崎雅弘. 若年男性に発生した composite renal tumor の 1 例. 第 30 回日本腹部放射線学会. 平成 28 年 6 月. 金沢.

植松敬子, 長谷川市郎, 佐藤宏朗, 成松芳明, 塩島裕樹, 田熊清継, 鳥飼秀幸. 多発外傷患者への IABO 挿入時にガイドワイヤーが断裂した 1 例. 第 26 回日本救急放射線研究会. 平成 28 年 9 月. 東京.

大崎典子, 佐藤宏朗, 富山照子, 倉田忠宜, 成松芳明. 筋層内に発生した低悪性度子宮内膜間質肉腫の 1 例. 神奈川放射線科医会第 57 回例会. 平成 28 年 10 月. 横浜.

富山照子, 倉田忠宜, 佐藤宏朗, 長谷川市郎, 植松敬子, 成松芳明. 吐血で発症し、化学療法中の胃出血に対し TAE を施行した胃悪性リンパ腫の一例. 第 488 回東京アンギオ・IVR 会. 平成 29 年 2 月. 東京.

三宅博之. 2015 年度診療用 X 線装置アンケート調査-撮影装置の現状-. 第 72 回日本放射線技術学会. 平成 28 年 4 月. 横浜.

三宅博之. 学術企画シンポジウム一般撮影における患者情報のフィードバック. 第 44 回日本放射線技術学会. 平成 28 年 10 月. 大宮.

三宅博之. 医療安全の取り組みを研究に出来るか. 平成 28 年度日本放射線技術学会中国・四国支部セミナー. 平成 29 年 1 月. 山口.

(14) 麻酔科

石渡博昭, 逢坂佳宗, 阪本浩平, 柿沼勇太, 平畑枝里子, 石川明子. 気管気管支異物になり得た喉頭鏡の破損. 日本麻酔科学会関東甲信越・東京支部第 56 回合同学会. 平成 28 年 9 月. 東京.

中山堯振, 安藤嘉門, 菅規久子, 小室祥子, 瀬上和貴, 森田慶久. 修正型電気痙攣療法の通電直後に心停止をきたした一例. 日本麻酔科学会関東甲信越・東京支部第 56 回合同学会. 平成 28 年 9 月. 東京.

菅規久子, 瀬上和貴, 安藤嘉門, 石川明子, 森田慶久, 落合亮一. 高齢者の脊髄くも膜下麻酔下経尿道膀胱腫瘍切除術の術後認知機能回復に及ぼす鎮静の影響. 日本麻酔科学会第 63 回学会. 平成 28 年 5 月. 福岡.

安藤嘉門, 柿沼勇太, 菅規久子, 逢坂佳宗. 体外式膜型人工肺 (ECMO) 使用下気管ステント留置術で自発呼吸の温存が有効であった高度気管狭窄の 1 例. 第 44 回日本集中治療医学会学会. 平成 29 年 3 月. 札幌.

安藤嘉門, 柿沼勇太, 菅規久子, 逢坂佳宗. 体外式膜型人工肺 (ECMO) 使用下気管ステント留置術で自発呼吸の温存が有効であった高度気管狭窄の 1 例. 第 44 回日本集中治療医学会学会. 平成 29 年 3 月. 札幌.

(15) 救急科

金尾邦生, 土井賢治, 塩島裕樹, 齋藤豊, 郷内志朗, 田熊清継. 腐食性洗浄剤の大量服薬により長期間に渡り気道管理を要した 1 例. 第 44 回日本集中治療医学会. 平成 29 年 3 月. 札幌.

塩島裕樹, 金尾邦生, 土井賢治, 齋藤豊, 田熊清継. 救急外来での気管挿管後に異物を認め異物除去術を要した 2 例. 第 44 回日本集中治療医学会. 平成 29 年 3 月. 札幌.

上倉英恵, 権守智, 白川和宏, 三吉貴大, 植松敬子, 齋藤豊, 松原祥平, 杉浦仁, 田熊清継. 神経線維腫症 1 型を基礎疾患にもつ心肺停止の二症例. 第 67 回日本救急医学会関東地方会. 平成 29 年 2 月. 宇都宮.

齋藤豊, 宮寫和宏, 塩島裕樹, 権守智, 田熊清継. 軽微な受傷機転で生じた大腿部皮下血腫から診断に至った後天性第 13 因子欠乏症の 1 例. 第 67 回日本救急医学会関東地方会. 平成 29 年 2 月. 宇都宮.

金子翔太郎, 郷内志朗, 齋藤豊, 田熊清継. 膿胸の進展を疑った脾膿瘍破裂の 1 例. 第 67 回日本救急医学会関東地方会. 平成 29 年 2 月. 宇都宮.

白川和宏, 土井賢治, 金尾邦生, 齋藤豊, 田熊清継. 重症メチルアルコール中毒の救命例 浸透圧ギャップによる治療. 第 67 回日本救急医学会関東地方会. 平成 29 年 2 月. 宇都宮.

宮寫和宏, 齋藤豊, 田熊清継. CHDF が奏功した重症エチレングリコール中毒の 1 例. 第 67 回日本救急医学会関東地方会. 平成 29 年 2 月. 宇都宮.

土屋光正, 権守智, 齋藤豊, 清水正幸, 石井壽晴, 田熊清継. 腸管壊死をきたした盲腸捻転の 1 例. 第 67 回日本救急医学会関東地方会. 平成 29 年 2 月. 宇都宮.

田熊清継. 外科領域感染症における MRSA の病原性と治療 CA-MRSA. 第 29 回日本外科感染症学会. 平成 28 年 11 月. 東京都新宿区.

春成学, 金尾邦生, 土井賢治, 権守智, 進藤健, 竹村成秀, 荘司清, 齋藤豊, 大城健一, 郷内志朗, 田熊清継. 老人福祉施設から救急搬送された外傷患者の検討. 第 45 回日本救急医学会. 平成 28 年 10 月. 大阪市.

郷内志朗, 金尾邦生, 土井賢治, 權守智, 竹村成秀, 進藤健, 莊司清, 齋藤豊, 高橋俊介, 大城健一, 田熊清継. 入浴事故における浴槽内溺没症例に関する検討. 第45回日本救急医学会. 平成28年10月. 大阪市.

齋藤豊, 土井賢治, 塩島裕樹, 春成学, 進藤健, 權守智, 竹村成秀, 莊司清, 大城健一, 郷内志朗, 田熊清継. GO-FARスコアを用いた院内心停止の神経予後の検討. 第45回日本救急医学会. 平成28年10月. 大阪市.

大城健一, 高山浩史, 伊藤敏孝, 林洋克. 地域災害医療コーディネートの経験からみる亜急性期災害医療の現状と課題. 第45回日本救急医学会. 平成28年10月. 大阪市.

田熊清継, 伊藤壯一, 權守智. 壊死性軟部組織感染症 意識障害と心不全で救急搬送された壊死性筋膜炎症例. 第78回日本臨床外科学会. 平成28年11月. 東京都港区.

伊藤壯一, 權守智, 田熊清継. 壊死性軟部組織感染症 インフルエンザを疑われたTSLs症例. 第78回日本臨床外科学会. 平成28年11月. 東京都港区.

權守智, 伊藤壯一, 田熊清継. 壊死性軟部組織感染症 ガス壊疽が疑われた膀胱上窩ヘルニア嵌頓穿孔症例. 第78回日本臨床外科学会. 平成28年11月. 東京都港区.

土井賢治, 大城健一, 白川和宏, 三吉貴大, 竹村成秀, 田熊清継. 川崎市内で発生した火災事故による多数傷病者事例のトリアージ重症度と搬送後重症度の検証. 第42回日本熱傷学会. 平成28年6月. 千葉県浦安市.

伊藤壯一, 土井賢治, 近藤秀樹, 大竹聡. 救急救命士におけるヒューマンファクター再教育プログラム 川崎消防チームステップの有用性について. 第19回日本臨床救急医学会. 平成28年5月. 福島県郡山市.

權守智, 伊藤壯一, 田熊清継. 救急救命士により血糖測定を実施された症例の検討. 第19回日本臨床救急医学会. 平成28年5月. 福島県郡山市.

田熊清継. 熱傷感染-JSBIによる熱傷ガイドラインと熱傷レジストリー. 第25回日本熱傷学会講習会. 平成28年6月. 千葉県浦安市.

(16) 歯科口腔外科

安居孝純, 馬淵洋, 森川暁, 鬼澤勝弘, 赤澤智宏, 中川種昭, 岡野栄之, 松崎有未. 純化歯髓幹細胞は高い骨形成能を有する. 第37回日本炎症・再生医学会. 平成28年6月. 京都.

佐藤多美代, 佐藤仁, 安居孝純, 鬼澤勝弘, 有馬太郎. 顎顔面形態と安静時咀嚼筋活動量の関連性. 第29回日本顎関節症学会総会・学術大会. 平成28年7月. 箱根.

矢島祥助, 安居孝純, 佐藤仁, 軽部健史, 蔭山雄基, 鬼澤勝弘. 歯肉および頬部に出現した顆粒球肉腫の1例. 第61回日本口腔外科学会総会・学術大会. 平成28年11月. 千葉.

(17) 検査科

鳥飼秀幸, 佐藤宏朗, 成松芳明, 長谷川市郎, 植松敬子, 鴨志田久美, 原智, 杉浦仁, 陣崎雅弘. 若年男性に発生したcomposite renal tumorの1例. 第30回日本腹部放射線学会. 平成28年6月. 金沢.

谷口早絵, 横屋瀬里香, 坂井瞳, 鈴木玲子, 鍋木友子, 入江理恵, 杉浦仁. 頬部腫瘍穿刺により発見された濾胞性リンパ腫の一例. 第57回日本臨床細胞学会総会. 平成28年5月. 横浜.

横屋瀬里香, 谷口早絵, 坂井瞳, 鈴木玲子, 鍋木友子, 千代田達幸, 中田さくら, 入江理恵, 杉浦仁. 内膜細胞診にて確定診断に苦慮した内膜表層伸展型子宮頸部原発扁平上皮癌の一例. 第55回

日本臨床細胞学会秋期大会. 平成 28 年 11 月. 別府.

(18) 薬剤部

豊田恵子, 飯島尚志. 「妊婦・授乳婦に対する薬物療法」の学生に対する教育の必要性について. 日本病院薬剤師会関東ブロック第 46 回学術大会. 平成 28 年 8 月. 千葉.

坂井義則, 小林綾, 森谷慶史, 早川和宏, 飯島尚志. 川崎病院薬剤部における調剤過誤・調剤エラーの分析. 日本病院薬剤師会関東ブロック第 46 回学術大会. 平成 28 年 8 月. 千葉.

吉富加奈子, 小林綾, 坂井義則, 飯島尚志. (R-) CHOP 施行患者における持続性 G-CSF 製剤の使用状況. 第 26 回日本医療薬学会年会. 平成 28 年 9 月. 京都.

永井沙知, 丸本かおり, 小林岳, 早川和宏, 飯島尚志. 薬剤部における災害に対する意識の現状把握および災害対策浸透への取り組みについて. 第 55 回全国自治体病院学会. 平成 28 年 10 月. 富山.

(19) ME センター

井汲康典, 笹屋賢史・西根啓太・芝真佐樹・山口和哉・中尾一俊, 安藤嘉門・菅規久子・逢坂佳宗・森田慶久. 医薬品注入コントローラ「ドリップ・アイ NE-1」と「フローサイン 2」の比較検討. 第 27 回日本臨床工学会. 平成 28 年 5 月.

西根啓太, 山下絵里, 門馬栄菜, 芝真佐樹, 井汲康典, 山口和哉, 中尾一俊, 森田 慶久. 手術室専任臨床工学技士常駐後の業務内容とその成果についての報告. 第 55 回全国自治体病院学会. 平成 28 年 10 月.

(20) 看護部

鈴木見香. 働きやすい人的環境の構築に向けて～対人関係の意識改革～. 第 30 回年次大会日本手術看護学会. 平成 28 年 10 月. 宮城.

永田修一. 手術室における新人看護師教育支援の取り組み～屋根瓦方式導入後の現状～. 第 30 回年次大会日本手術看護学会. 平成 28 年 10 月. 宮城.

小澤康子. 緊急入院患者が代理意思決定から意思決定に移行できた過程の一考察. 第 55 回自治体病院学会. 平成 28 年 10 月. 富山.

新堀彩美. 小児の点滴刺入部の管理～蜂窩織炎を起こしやすい原因はあるのか～. 第 55 回自治体病院学会. 平成 28 年 10 月. 富山.

山口美咲. 急性期における超低出生体重児の体温変動の実態. 第 26 回日本新生児看護学会学術集会. 平成 28 年 12 月. 大阪.

星野夏樹. 助産師の死産に関する教育指針の一考察～死産分娩を後輩と一緒に挙げる先輩助産師の支援方法～. 第 47 回日本看護学学会看護教育. 平成 28 年 8 月. 滋賀.

佐久間祐樹. 鎮痛・鎮静・せん妄の評価を行う抑制アセスメントフローチャートが看護師に与える影響. 日本集中治療医学会関東甲信越地方会. 平成 28 年 8 月. 東京.

大欠久美子. 外科病棟における手術後の褥瘡発生要因及び予防対策の評価. 第 55 回自治体病院学会. 平成 28 年 10 月. 富山.

井本有美. 手術をうける患者の羞恥心について. 第 18 回神奈川県看護協会フォーラム. 平成 29 年 3 月. 神奈川.

(21) 食養科

亀山亜希夫. 栄養摂取量に配慮したりハビリを実施した重症肺炎の症例. 日本静脈経腸栄養学会

7 講演会等

(1) 外科

実施日	主催者 講演会名	講師	演題	開催場所
平成 29 年 1 月	保険診療懇話会	市東昌也	社保についての話題	川崎
平成 28 年 5 月 17 日	川崎市医師会講演会第 55 回ミー ト・ザ・スペシャ リスト	夏錦言	川崎病院における外 科診療（上部消化管に つき）	川崎市医師 会館講堂
平成 28 年 7 月 24 日	第 8 回関東産婦人 科乳腺医学会学 術集会	萬谷京子	症例からまなぶ	東京医科大 学
平成 28 年 7 月 30 日	第 2 回医師主導に よる医療機器開 発のためのニー ズ創出・事業化支 援セミナー（日本 医師会）	萬谷京子	医師が行う医療機器 開発の実際	川崎フロン ティアビル
平成 28 年 9 月 30 日	第 46 回練馬区医 師会学術部外科 医会	萬谷京子	マンモグラフィの基 礎と読影のコツ	練馬総合病 院
平成 29 年 1 月 23 日	公益財団法人 神奈川科学技術 アカデミー	萬谷京子	平成 28 年度文部科学 省・地域イノベーション事業 人材育成（医 工連携）アドバンスト コース 第 3 回：救急 医療／医療機器開発 事例 医療機器産業 参入のための基礎 医療機器開発に向け た現場の医師の取組 事例紹介	院内

(2) 脳神経外科

実施日	主催者 講演会名	講師	演題	開催場所
平成 29 年 2 月 24 日	川崎市幸区医師 会、川崎市川崎区 医師会、川崎市立 川崎病院	片山真	川崎病院における悪 性脳腫瘍治療につい て	院内

(3) 整形外科

実施日	主催者 講演会名	講師	演題	開催場所
平成 28 年 6 月 30 日	川崎病院治験臨 床研究室	小柳貴裕	臨床研究における統 計学留置術の現状	院内
平成 28 年 7 月 1 日	第 14 回川崎脊椎 脊髓連携の会	小柳貴裕	化膿性脊椎炎の診断 と治療	K S P ホテ ル
平成 28 年 9 月 9 日	11th JSSR Asia Travelling fellowship	船尾陽生	Comparative study of spinopelvic sagittal alignment between patients with and without degenerative spondylolisthesis	韓国
平成 28 年 9 月 18 日	1st ASPAC MIS Expert Panel	船尾陽生	MIS for metastasis and infectious diseases	川崎
平成 28 年 10 月 15 日	Hemostatic Symposium	船尾陽生	Reducing blood loss in degenerative thoracolumar scoliosis surgery	台湾
平成 28 年 11 月 4 日	川崎大田リウマ チ懇話会	小柳貴裕	リウマチ関連疾患に おける体軸の痛み	相鉄フレッ サイン蒲田
平成 28 年 11 月 8 日	11th JSSR Asia Travelling fellowship	船尾陽生	Utilization of a technique of percutaneous S2-alar-iliac fixation in immunocompromised patients with spondylodiscitis.	マレーシア

平成 28 年 11 月 11 日	11th JSSR Asia Travelling fellowship	船尾陽生	Minimally invasive spine stabilization for metastatic spine diseases and infectious diseases	マレーシア
平成 28 年 11 月 14 日	横浜市東部症例 検討会	西脇正夫	手肘の骨折治療	院外
平成 28 年 11 月 16 日	23 回川崎リュウ マチ膠原病診療 懇話会	中道憲明	「肩関節滑膜炎の診 断と治療」	院内
平成 29 年 1 月 19 日	K2 スパイン	船尾陽生	最小侵襲脊椎安定術 (minimally invasive spine stabilization) の最近の知見.	横浜
平成 29 年 2 月 17 日	市民公開講座	小宮浩一郎	ひざの痛みで悩んで おられるかたへ～変 形性膝関節症といわ れたら	院内
平成 29 年 2 月 20 日	川崎南部整形外 科診療セミナー	船尾陽生	脊椎疾患による慢性 疼痛の治療の実際	川崎

(4) 形成外科

実施日	主催者 講演会名	講師	演題	開催場所
平成 28 年 7 月 11 日	褥瘡委員会	加茂川留理	創傷治癒について	院内

(5) 精神科

実施日	主催者 講演会名	講師	演題	開催場所
平成 28 年 3 月 16 日	大日本住友製薬	三浦孝政	統合失調症における 修正型痙攣療法の位 置つけ	川崎日航ホ テル
平成 28 年 5 月 22 日	緩和ケア研修会	齋藤寿昭	精神症状 (せん妄、気 持ちのつらさ)	院内
平成 28 年 9 月 29 日	川崎精神病理研 究会	米森京子	PTSD 発症を契機とし た幻聴の研究	KSP (川崎 溝口)

(6) 新生児内科

実施日	主催者 講演会名	講師	演題	開催場所
平成 28 年 8 月 29 日	市民公開講座	梶原久美子	「母乳と育児」	院内

(7) 泌尿器科

実施日	主催者 講演会名	講師	演題	開催場所
平成 27 年 3 月 16 日	川崎市泌尿器科 医会	服部盛也	Lap-prostatectomy 導 入済施設における da-Vinci®System 導入 の初期経験	K S P ホテ ル
平成 28 年 6 月 24 日	病診連携の会, 症 例検討会	金子剛	当院での膀胱癌治療 について	院内

(8) 眼科

実施日	主催者 講演会名	講師	演題	開催場所
平成 28 年 6 月 9 日	大塚製薬株式会 社	堀内直樹	チン小体脆弱症例～ 大博打のはじまりじ ゃ！？～	横浜ベイホ テル東急

(9) 耳鼻咽喉科

実施日	主催者 講演会名	講師	演題	開催場所
平成 29 年 3 月 10 日	第 5 回南関東頭頸 部腫瘍懇話会	中原奈々	化学放射線療法を施 行した喉頭下咽頭癌 症例の予後予測因子 -Hematological inflammatory/ immune/nutritional marker の予測能比較-	住友不動産 新宿グラン ドタワー

(10) リハビリテーション科

実施日	主催者 講演会名	講師	演題	開催場所
平成 28 年 2 月 21 日	川崎南部摂食嚥 下・栄養研究会	富岡曜平	在宅リハビリテーシ ョンの考え方	川崎幸病院
平成 28 年 5 月	食養科	富岡曜平	糖尿病教室 「糖尿病 運動療法」	院内

平成 28 年 6 月	食養科	富岡曜平	糖尿病教室 「糖尿病運動療法」	院内
平成 28 年 7 月	食養科	富岡曜平	糖尿病教室 「糖尿病運動療法」	院内
平成 28 年 7 月 7 日	NST 部会	阿部玲音	極めよう！摂食嚥下のマネージメント～VF・VE の実際とその後のアプローチ～ 第 1 弾：嚥下障害の考え方とその評価法 (VF・VE を中心に)	院内
平成 28 年 8 月	食養科	富岡曜平	糖尿病教室 「糖尿病運動療法」	院内
平成 28 年 9 月	食養科	富岡曜平	糖尿病教室 「糖尿病運動療法」	院内
平成 28 年 9 月 3 日	食養科	富岡曜平	糖尿病市民公開講座	院内
平成 28 年 10 月	食養科	富岡曜平	糖尿病教室 「糖尿病運動療法」	院内
平成 28 年 11 月	食養科	富岡曜平	糖尿病教室 「糖尿病運動療法」	院内
平成 28 年 12 月	食養科	富岡曜平	糖尿病教室 「糖尿病運動療法」	院内
平成 29 年 1 月	食養科	富岡曜平	糖尿病教室 「糖尿病運動療法」	院内
平成 29 年 2 月	食養科	富岡曜平	糖尿病教室 「糖尿病運動療法」	院内
平成 29 年 3 月	食養科	富岡曜平	糖尿病教室 「糖尿病運動療法」	院内

(11) 放射線診断科

実施日	主催者 講演会名	講師	演題	開催場所
平成 28 年 9 月 3 日	デジタル一般 撮影ミーティン グ	三宅博之	「デジタル一般撮 影の被ばくの管理を 考える」『X線装置の 管理』	聖路加国際 病院

平成 28 年 9 月 16 日	日本放射線時術 学会	佐藤宏朗	小児の画像診断一救 急疾患を中心にー	ミューザ川 崎
平成 28 年 11 月 22 日	関西地区 C R 研 修会	三宅博之	装置管理	大阪府立成 人病センタ ー

(12) 麻酔科

実施日	主催者 講演会名	講師	演題	開催場所
平成 28 年 4 月 16 日	日本区域麻酔学 会	逢坂佳宗	超音波ガイド下神経 ブロックハンズオン セミナー 4	弘前
平成 28 年 7 月 30 日	北里大学	逢坂佳宗	第 2 回相模原地区神 経ブロックハンズオ ンセミナー	北里大学
平成 28 年 9 月 18 日	日本心臓血管麻 酔学会	逢坂佳宗	神経ブロックハンズ オン	横浜ベイホ テル
平成 28 年 10 月 9 日	日本小児麻酔学 会	逢坂佳宗	神経ブロックハンズ オンセミナー	新横浜国際 ホテル
平成 28 年 11 月 4 日	日本臨床麻酔学 会	逢坂佳宗	超音波ガイド下神経 ブロックハンズオン	高知市文化 プラザカル ポート
平成 28 年 2 月 18 日	第 8 回三国街道 PNB 研究会	逢坂佳宗	神経ブロックハンズ オンセミナー	大宮ソニッ クシティ
平成 29 年 3 月 18 日	順天堂大学	逢坂佳宗	お茶の水麻酔フォー ラム	順天堂大学
平成 29 年 3 月 25 日	北里大学	逢坂佳宗	超音波ガイド下神経 ブロック	北里大学

(13) 歯科口腔外科

実施日	主催者 講演会名	講師	演題	開催場所
平成 28 年 4 月 1 日	川崎市歯科医師 会	鬼澤勝弘	日常臨床のヒヤリハ ットに学ぶ医療安全	川崎市
平成 28 年 4 月 1 日	川崎市歯科医師 会	鬼澤勝弘	救急医療	川崎市

平成 28 年 4 月 1 日	川崎市歯科医師 会	鬼澤勝弘	感染症対策	川崎市
平成 28 年 4 月 1 日	川崎市歯科医師 会	鬼澤勝弘	高齢者の注意すべき 疾患	川崎市
平成 28 年 7 月 1 日	川崎市歯科医師 会	鬼澤勝弘	第 24 回川崎病院症例 検討会 かかりつけ 医のための嚢胞の診 つけ方	川崎市歯科 医師会館
平成 28 年 9 月 1 日	NST 部会	安居孝純	口腔ケア 知ってお くべきポイント	院内
平成 28 年 11 月 1 日	川崎市歯科医師 会	鬼澤勝弘	第 25 回川崎病院症例 検討会 上顎洞のあ れこれ	川崎市歯科 医師会館
平成 28 年 12 月 1 日	川崎市歯科医師 会	鬼澤勝弘	口腔がん登録医研修 会 口腔癌検診のポ イント	川崎市

(14) 検査科

実施日	主催者 講演会名	講師	演題	開催場所
平成 28 年 7 月 3 日	一般社団法人神 奈川県臨床検査 技師会	三津田太郎	輸血検査における問 題解決の方法	東海大学
平成 28 年 11 月 9 日	一般社団法人神 奈川県臨床検査 技師会	三津田太郎	臨床検査技師の立場 から見た災害時医療	ミューザ川 崎
平成 28 年 8 月 27・28 日	一般社団法人神 奈川県臨床検査 技師会	殿岡弘敏	チフス菌・パラチフス 菌の検査法	麻布大学

(15) 救急科

実施日	主催者 講演会名	講師	演題	開催場所
平成 29 年 1 月 23 日	(公財) 神奈川科 学技術アカデミ ー	田熊清継	「医療機器産業参入 のための基礎」アドバ ンスコース第 1 回 救 急医療からみた日常 の危険 -回避のため のイノベーション-	院内

(16) 薬剤部

実施日	主催者 講演会名	講師	演題	開催場所
平成 28 年 6 月 16 日	大塚製薬工場	小林岳	在宅に行く前に薬剤師が知っておきたいカテーテル管理の基礎知識	ミュージア川崎
平成 28 年 11 月 8 日	MSD	小林岳	薬剤耐性対策アクションプラン～本当に必要な対策とは何か？～	ホテル精養軒
平成 28 年 12 月 5 日	meiji seika ファルマ	小林岳	知って得する！感染症情報活用術	川崎市教育文化会館
平成 28 年 12 月 12 日	薬剤部	薬剤部職員	検査値の考え方	院内
平成 29 年 3 月 2 日	感染対策室	小林岳	薬剤耐性 (AMR) 対策への取り組み	院内
平成 29 年 3 月 6 日	感染対策室	小林岳	薬剤耐性 (AMR) 対策への取り組み	院内

(17) 食養科

実施日	主催者 講演会名	講師	演題	開催場所
平成 28 年 7 月 ～平成 29 年 1 月	NST 部会	阿部玲音・井上健太郎・安居孝純・井上彰大・古瀬美穂・亀山亜希夫	NST 勉強会	院内
平成 28 年 7 月 9 日	慶應リハ医学教室	亀山亜希夫	川崎病院におけるリハビリテーション科と管理栄養士のかかわり	慶應義塾大学
平成 28 年 7 月 11 日	褥瘡対策委員会	長澤恵梨子	褥瘡における栄養管理	院内
平成 28 年 9 月 3 日	糖尿病診療連携委員会	津村和夫・富岡曜平・土屋千恵子	糖尿病市民公開講座 (講演と体験)	院内
平成 28 年 10 月 21 日	神奈川県栄養士会医療事業部	亀山亜希夫	糖尿病医療学・心に残った栄養指導	神奈川県総合薬事保健センター

平成 29 年 2 月 18 日	川崎市病院栄養 管理部会	亀山亜希夫	嚥下障害のある方の 栄養管理について～ 嚥下造影・嚥下内視鏡 からわかること～	川崎市総合 自治会館
---------------------	-----------------	-------	--	---------------

(18) 看護部

実施日	主催者 講演会名	講師	演題	開催場所
平成 28 年 5 月 12 日	(株) ノボノルデ イスクファーマ	高畑良子	認知症と糖尿病に関 する講演	日本医科大 学武蔵小杉 病院
平成 28 年 5 月 14 日	ホリスター社	牛込志乃	WOC と共に考えるスト マケア	明治安田生 命ラジオ日 本ビル
平成 28 年 6 月 4 日・5 日	川崎市キャリア 開発センター	柳井田恭子	「糖尿病足病変の指 導に従事する方のた めのフットケア研修」 「糖尿病重症化予防 (フットケア) フォロ アップ研修」	院内
平成 28 年 6 月 4 日・5 日	川崎市キャリア 開発センター	加藤理賀子	「糖尿病足病変の指 導に従事する方のた めのフットケア研修」 「糖尿病重症化予防 (フットケア) フォロ アップ研修」	院内
平成 28 年 6 月 4 日・5 日	川崎市キャリア 開発センター	高橋一子	「糖尿病足病変の指 導に従事する方のた めのフットケア研修」 「糖尿病重症化予防 (フットケア) フォロ アップ研修」	院内
平成 28 年 6 月 28 日	健康福祉局地域 包括ケア推進室	高畑良子	看護職員認知症対応 力向上研修の講師を 担う看護師の伝達講 習会	航空会館 大ホール
平成 28 年 8 月 17 日	川崎市看護協会	塚田千代	災害看護研修会	川崎市ナー シングセン ター研修室

平成 28 年 9 月 20 日	社会福祉協議会	牛込志乃	皮膚トラブルに 対しての最新看護 ケアと施設での 対応	介護老人保 健施設「白楊 園」
平成 28 年 9 月 23 日	社会福祉協議会	森田純子	感染症対策	介護老人保 健施設「桜寿 園」
平成 28 年 9 月 27 日	社会福祉協議会	小澤康子	緊急時の対応	ふれあいの 園武蔵中原
平成 28 年 9 月 29 日	神奈川県看護協 会	柳井田恭子	実地指導者研修～共 に支え合う新人教育 ～	キャリア支 援研修セン ター藤沢
平成 28 年 10 月 7 日	社会福祉協議会	加藤理賀子	高齢者のフットケア	川崎市看護 協会
平成 28 年 10 月 7 日	社会福祉協議会	高橋一子	高齢者のフットケア	川崎市看護 協会
平成 28 年 10 月 9 日	川崎市立看護短 期大学学園祭実 行委員会	塚田千代	DMAT の活動と災害に 対する備え	川崎市立看 護短期大学 講堂
平成 28 年 10 月 29 日	(株)ロシュ・ダイ アグノスティッ クス	高畑良子	認知症のある糖尿病 患者さんどうしてい ますか	コンベンシ ョンルー ム・AP 横浜駅 西口
平成 28 年 11 月 9 日	川崎市看護協会	高畑良子	認知症看護	川崎市ナー シングセン ター研修室
平成 28 年 12 月 1 日	川崎市看護協会	高畑良子	認知症看護に必要な 専門的知識技術を有 する看護師を養成す る	川崎市ナー シングセン ター研修室
平成 28 年 12 月 2 日	社会福祉協議会	古瀬美穂	誤嚥性肺炎を防ぐコ ツ～最新の医療知識 とケアの実際～	介護老人保 健施設「葵の 園」
平成 29 年 2 月 18 日	日本手術看護学 会関東甲信越	久野昭子	周術期における看護 記録／鏡視下手術に おける看護	東京都看護 協会
平成 29 年 3 月 4 日	川崎市キャリア 開発センター	吉崎弘之	認知症患者ケア実践 力向上研修「身体拘束 の原因除去とアセス メント」	院内

平成 29 年 3 月 11 日	川崎市キャリア 開発センター	高畑良子	認知症患者ケア実践 力向上研修「認知患 者のアセスメントと ケアの方法」	院内
---------------------	-------------------	------	---	----

8 その他

(1) 整形外科

(マスコミ) 中道憲明. 知っていますか? 腱板断裂. (株) 共同通信社発行発行「暮らしの知恵」. 平成 29 年 3 月.

(マスコミ) 小宮浩一郎. 変形性膝関節症について. FMかわさき. 平成 29 年 2 月.

(2) 新生児内科

(マスコミ) 梶原久美子. 母乳栄養について. FMかわさき. 平成 29 年 3 月.

(3) 歯科口腔外科

(マスコミ) 鬼澤勝弘. むし歯 治療と予防. FMかわさき. 平成 28 年 4 月.

(マスコミ) 鬼澤勝弘. 親知らず (智歯) について. FMかわさき. 平成 28 年 5 月.

(マスコミ) 鬼澤勝弘. 抜歯について. FMかわさき. 平成 28 年 6 月.

(マスコミ) 鬼澤勝弘. 歯根嚢胞の手術. FMかわさき. 平成 28 年 7 月.

(マスコミ) 鬼澤勝弘. 歯科インプラント. FMかわさき. 平成 28 年 8 月.

(マスコミ) 鬼澤勝弘. お口の怪我 1 歯の怪我. FMかわさき. 平成 28 年 9 月.

(マスコミ) 鬼澤勝弘. お口の怪我 2 顎の怪我. FMかわさき. 平成 28 年 10 月.

(マスコミ) 鬼澤勝弘. お口の怪我 3 顎の骨折. FMかわさき. 平成 28 年 11 月.

(マスコミ) 鬼澤勝弘. 歯並びと歯列矯正治療. FMかわさき. 平成 28 年 12 月.

(マスコミ) 安居孝純. 歯を抜く診断、技術と治療. FMかわさき. 平成 29 年 1 月.

(マスコミ) 安居孝純. 歯を残す嚙む機能を維持する. FMかわさき. 平成 29 年 2 月.

(マスコミ) 鬼澤勝弘. 過剰埋伏歯について. FMかわさき. 平成 29 年 3 月.

(5) 薬剤部

(研修会・セミナー) 小林岳. ファシリテーター：ファシリテーター：カンジダ感染症 (ワークショップ). 第 8 回神奈川病院薬剤師感染症フォーラム. 平成 28 年 6 月.

(研修会・セミナー) 小林岳. ファシリテーター：これからの感染症治療を考える (ワークショップ). 第 9 回神奈川病院薬剤師感染症フォーラム. 平成 28 年 11 月.

(研修会・セミナー) 小林岳. ファシリテーター：SWOT 分析、クロス分析 (ワークショップ). 神奈川県病院薬剤師会 バランスト・スコアカードセミナー第 1 部. 平成 28 年 12 月.

(研修会・セミナー) 小林岳. ファシリテーター：グラム陰性桿菌を中心とした感染症治療の検討 (単純性尿路感染症) (症例検討会). 平成 28 年度 第 2 回神奈川県感染制御専門・認定薬剤師講習会. 平成 29 年 1 月.

(研修会・セミナー) 小林岳. ファシリテーター：戦略マップ、スコアカードの作成 (ワークショップ). 神奈川県病院薬剤師会 バランスト・スコアカードセミナー第 2 部. 平成 29 年 1 月.

(研修会・セミナー) 小林岳. ファシリテーター：グラム陰性桿菌を中心とした感染症治療の検討 (複雑性尿路感染症) (症例検討会). 平成 28 年度 第 3 回神奈川県感染制御専門・認定薬剤師講

習会. 平成 29 年 2 月.

(6) 看護部

(映像提供) 久野昭子. NextHands コメント収録. 医療情報サイト Web. 平成 28 年 6 月 2 日.

(映像提供) 達かおり. 根拠と事故防止からみた老年看護技術第 2 版. 医学書院刊行 DVD 動画. 平成 29 年 2 月刊行.

(映像提供) 木村千紗. 根拠と事故防止からみた老年看護技術第 2 版. 医学書院刊行 DVD 動画. 平成 29 年 2 月刊行.

(映像提供) 中村絵美莉. 根拠と事故防止からみた老年看護技術第 2 版. 医学書院刊行 DVD 動画. 平成 29 年 2 月刊行.

9 市民対象イベント (当院主催)

(1) 市民公開講座

実施日	講師	演題	開催場所	参加者数
平成 28 年 6 月 22 日	宮川俊一	こんなに変わった皮膚疾患の治療方法	院内	26 名
平成 28 年 8 月 29 日	梶原久美子	母乳と育児	院内	51 名
平成 28 年 9 月 3 日	津村和大ほか	糖尿病市民公開講座 「自分の身体を知ろう！」	院内	57 名
平成 28 年 10 月 20 日	鬼澤勝弘	知って安心”お口の病気” ～むし歯、歯周病、親知らずからインプラント治療まで～	院内	37 名
平成 28 年 12 月 16 日	坂本光男	冬こそ注意！ 知って防ごう食中毒	院内	37 名
平成 29 年 2 月 17 日	小宮浩一郎	ひざの痛みで悩んでおられる方へ～変形性膝関節症と言われたら～	院内	139 名

(2) 看護の日イベント

実施日	内容	開催場所	参加者数
平成 28 年 5 月 13 日	・ A E D 講習会 ・ 健康相談 ・ 栄養相談	院内	69 名

(3) 第1回キッズセミナー

実施日	プログラム	開催場所	参加者数
平成 28 年 8 月 11 日	<ul style="list-style-type: none">・手術体験（縫合・電気メス）・自動吻合器体験・内視鏡手術操作体験・救急救命体験・ミニプログラム（看護師・助産師体験、人工心肺見学）	院内	29 名

(4) 院内コンサート

実施日	出演者	内容	開催場所
平成 28 年 10 月 13 日	洗足学園音楽大学生	金管五重奏 (オータムコンサート)	院内
平成 29 年 1 月 18 日	洗足学園音楽大学・大学院生	ギターとフルートのデュオ (新春コンサート)	院内

川崎市立川崎病院年報

第52号（平成28年度版）

平成30年1月31日発行

編集・発行 川崎市立川崎病院
〒210-0013 川崎市川崎区新川通12番1号
電話 044（233）5521(代)
FAX 044（245）9600

川崎病院ホームページ

(<http://www.city.kawasaki.jp/32/cmsfiles/contents/0000037/37856/kawasaki/>)

印刷所 株式会社 共栄堂